

c 24
30



* 0015464000 *

0015464-000

624-86

新手形法詳解

新井正三郎自治館・編

新井正三郎自治館

昭和7

ACF

36.11.17

22/15



手形法詳解

新井正三郎自治館



624-86

41

新手形法詳解 條文索引

手形法	第一章 爲替手形ノ振出及方式	第一章 爲替手形ノ振出及方式	第一章 爲替手形ノ振出及方式
第一條	第二條	第三條	第四條
第五條	第六條	第七條	第八條
第九條	第十條	第二章 裏書	第二章 裏書
第十一條	第十二條	第十三條	第十四條
第十五條	第十六條	第十七條	第十八條
第十九條	第二十條	第三章 引受	第三章 引受
第二十一條	第二十二條	第二十三條	第二十四條
第二十五條	第二十六條	第二十七條	第二十八條
第二十九條	第四章 保證	第四章 保證	第四章 保證
第三十條	第三十一條	第三十二條	第五章 満期
第三十三條	第三十四條	第三十五條	第三十六條
第三十七條	第六章 支拂	第六章 支拂	第六章 支拂
第三十八條	第三十九條	第四十條	第四十一條
第四十二條	第七章 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因リ請求	第七章 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因リ請求	第七章 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因リ請求
第四十三條	第四十四條	第四十五條	第四十六條

新手形法詳解條文索引

第四十七條	三三
第四十八條	三三
第四十九條	三四〇
第五十條	三四一
第五十一條	三四二
第五十二條	三四三
第五十三條	三四四
第五十四條	三四五
第八章 參加	
第一節 通則	
第五十五條	三四六
第二節 參加引受	
第五十六條	三四七
第五十七條	三四八
第五十八條	三四九
第三節 參加支拂	
第五十九條	三五〇
第六十條	三五〇
第六十一條	三五〇
第六十二條	三五〇
第六十三條	三五二
第九章 複本及原本	
第一節 複本	
第六十四條	三五五
第六十五條	三五八
第六十六條	三五〇
第二節 原本	
第六十七條	三五三
第六十八條	三五四
第十章 變通	
第六十九條	三五七
第十一章 時效	
第七十條	四〇一
第七十一條	四〇四
第十二章 通則	
第七十二條	四〇九
第七十三條	四一〇
第七十四條	四一二
第二編 約束手形	
第七十五條	四一三
第七十六條	四三二
第七十七條	四三四
第七十八條	四三九
附則	
第七十九條	四三二
第八十條	四三三
第八十一條	四三三
第八十二條	四三四
第八十三條	四三五
第八十四條	四三五
第八十五條	四五六
第八十六條	四五六
第八十七條	四五六
第八十八條	四五六
第八十九條	四五六
第九十條	四五六
第九十一條	四五六
第九十二條	四五六
第九十三條	四五六
第九十四條	四五六

新手形法詳解條文索引

新手形法詳解 總目次

第一章 手形法改正ノ理由	一
第二章 手形法改正ノ要點	四
第一 振出及ヒ方式ニ關スル改正要點	
(1) 利息附ノ手形ヲ認メタルコト	四
(2) 手形金額ノ記載ノ差異ニ付キ其ノ解決方法ヲ改メタルコト	五
(3) 無權代理人及ヒ權限ヲ超エタル代理人ノ手形行爲ニ付キ其ノ責任ヲ規定シタルコト	六
(4) 振出人ノ擔保義務ヲ規定シタルコト	七
(5) 白地手形ニ關スル規定ヲ設ケタルコト	八
(6) 無記名式ノ爲替手形ヲ認メサルコト	〇
(7) 記名持參人拂ノ爲替手形ヲ認メサルコト	二
(8) 支拂擔當者ノ記載ヲ認メサルコト	二
第二 裏書ニ關スル改正要點	三
(1) 振出人カ指圖禁止ヲ記載シタル場合ニ於ケル其ノ證券讓渡	三
新手形法詳解目次	
ノ方式及ヒ效力ヲ規定シタルコト	三
(2) 一部裏書ノ無効ナルコトヲ規定シタルコト	三
(3) 記名式裏書ニ裏書ノ年月日ノ記載ヲ要件ト爲ササルコト	三
(4) 手形ノ裏面又ハ補箋ニノミ爲スヘキ白地式裏書ヲ認メタルコト	三
(5) 裏書ニ依ル手形上ノ權利ノ移轉力ヲ規定シタルコト	四
(6) 裏書人ノ擔保義務ヲ規定シタルコト	四
(7) 人的關係ニ基ク抗辯ノ對抗力ヲ規定シタルコト	六
(8) 取立委任裏書ノ效力ヲ規定シタルコト	七
(9) 實入裏書ヲ認メタルコト	七
(10) 満期後ノ裏書ノ效力ヲ規定シタルコト	八
第三 引受ニ關スル改正要點	九
(1) 振出人ノ引受呈示期間ノ決定、呈示禁止ノ決定及ヒ裏書人ノ呈示期間ノ決定ヲ認メタルコト	九
(2) 振出人ノ一覽後定期拂手形ノ引受呈示期間ノ短縮及ヒ伸長裏書人ノ呈示期間ノ短縮ヲ認メタルコト	〇
(3) 支拂人ノ第二ノ呈示ノ請求ヲ認メタルコト	二
(4) 引受ノ抹消ヲ認メタルコト	三
(5) 手形以外ノ書面ニ依ル引受ヲ認メタルコト	三
第四 保證ニ關スル改正要點	三
(1) 手形金額ノ一部ノ保證ヲ認メタルコト	三
(2) 手形ニ署名シタル者カ保證ヲ爲シ得ルコトヲ規定シタルコト	三
(3) 手形ノ表面ニ爲シタル單純ナル署名ヲ保證ト看做シタルコト	三
(4) 保證セラレタル者ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲メノ保證ト看做シタルコト	三
(5) 保證人カ支拂ヲ爲シタルトキハ獨立ノ權利ヲ取得スルモノト爲シタルコト	三
第五 満期ニ關スル改正要點	三

新手法詳解目次

- (1) 分割拂ノ手形ノ無効ナルコトヲ規定シタルコト……………三六
- (2) 振出人ノ一覽拂手形ノ支拂呈示期間ノ短縮又ハ伸長及ヒ裏書人ノ期間ノ短縮ヲ認メタルコト……………三七
- (3) 振出人ノ一覽拂手形ノ一定ノ期日前ニ於ケル支拂呈示ノ禁止ヲ認メタルコト……………三七
- (4) 曆ヲ異ニスル二地ニ於ケル滿期ニ付特別ノ規定ヲ設ケタルコト……………三七
- 第六 支拂ニ關スル改正要點……………三六
 - (1) 満期前ノ支拂及ヒ満期後ノ支拂ノ效力ヲ規定シタルコト……………三六
 - (2) 手形ノ支拂ノ目的タル運賃ニ付特別ノ規定ヲ設ケタルコト……………三六
- 第七 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル選求權ニ關スル改正要點……………三六
 - (1) 擔保請求ノ制度ヲ廢止直チニ選求權ノ行使ヲ認メタルコト……………三六
 - (2) 選求權ヲ行使スル場合ハ舊手形法ト異ナルコト……………三六
 - (3) 選求權ヲ行使スルニ拒絶證書ノ作成ヲ要セサル場合ヲ認メタルコト……………三六
 - (4) 選求ノ通知ヲ受クヘキ者ヲ裏……………三六

- 書人及ヒ振出人、保證人ト爲シタルコト……………三七
- (5) 選求ノ通知ヲ爲ササル所持人、裏書人ノ責任ノ範圍ヲ規定シタルコト……………三七
- (6) 拒絶證書ノ作成免除者及ヒ效力ヲ規定シタルコト……………三七
- (7) 振出人、引受人、裏書人及ヒ保證人ノ責任ノ懸據ヲ規定シタルコト……………三七
- (8) 不可抗力ニ因ル手形ノ呈示又ハ拒絶證書作成ノ不能ニ關シ期間ノ伸長ヲ認メタルコト……………三七
- 第八 參加ニ關スル改正要點……………三六
 - (1) 保證人モ擔保支拂人ヲ指定シ得ルモノト爲シタルコト……………三六
 - (2) 參加人ト爲ルコトヲ得ル者ノ範圍ヲ規定シタルコト……………三六
 - (3) 參加人ノ被參加人ニ對スル通知ヲ怠リタル場合ノ責任ヲ規定シタルコト……………三六
 - (4) 參加引受アリタル場合ニ於テモ被參加人及ヒ其ノ前者ノ支拂ヲ爲シ得ルコトヲ認メタルコト……………三六
 - (5) 參加支拂ノ金額及ヒ參加支拂ノ時期ヲ規定シタルコト……………三六
 - (6) 被參加人ノ表示ナキトキハ裏……………三六

二

- 加支拂ヲ振出人ノ爲ニ爲シタルモノト看做シタルコト……………三六
- (7) 參加支拂ノ效力及ヒ參加支拂ノ競合ノ效果ヲ規定シタルコト……………三六
- 第九 覆本及ヒ贖本ニ關スル改正要點……………三六
 - (1) 覆本ノ意義及ヒ覆本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ル場合ヲ規定シタルコト……………三六
 - (2) 最後ノ裏書ノ後ノ記載ニ依リ贖本ノ裏書ノミテ有効ト爲シ原本ノ裏書ノ無効ナルコトヲ規定シタルコト……………三六
- 第十 手形ノ偽造、變造ニ關スル改正要點……………三六
 - (1) 手形ノ偽造及ヒ變造ノ意義ヲ規定シタルコト……………三六
 - (2) 變造手形ノ署名ノ時期ニ關シテ推定ノ規定ヲ爲ササルコト……………三六
 - (3) 法定ノ休日ニ關スル規定ヲ設ケタルコト……………三六

- (4) 期間ノ計算ニ關スル規定ヲ設ケタルコト……………三七
- (5) 恩惠日ヲ認メサルコト……………三七
- 第二 署名、手形交換所及拒絶證書ノ作成ニ關スル改正要點……………三六
 - (1) 署名ニ記名捺印ヲ包含セシメタルコト……………三六
 - (2) 手形交換所ニ於ケル手形ノ呈示ヲ規定シタルコト……………三六
 - (3) 拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ヲ勅令ニ譲リタルコト……………三六
- 第三 國際手形ニ關スル改正要點……………三六
 - (1) 國際私法(法例)ノ規定ヲ設ケタル理由……………三六
 - (2) 手形能力ニ關スル準據法ヲ規定シタルコト……………三六
 - (3) 手形行爲ノ方式ニ關スル準據法ヲ規定シタルコト……………三六
 - (4) 手形行爲ノ效力ニ關スル準據法ヲ規定シタルコト……………三六
 - (5) 爲替手形ノ所持人ノ振出ノ原因タル債權ヲ取得スルヤ否ヤノ準據法ヲ規定シタルコト……………三六
 - (6) 引受ノ一部ノ制限ノ能否及ヒ一部支拂ヲ受諾スル義務ノ有無ノ準據法ヲ規定シタルコト……………三六
 - (7) 手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ノ方式ノ準據法ヲ規定シタル……………三六

- 本論……………三七
- 逐條解釋……………三七
- 手形法ノ意義……………三七
- 第一 手形ノ種類……………三七
 - (1) 爲替手形……………三七
 - (2) 約束手形……………三七
- 第一編 爲替手形……………三七
- 第一章 爲替手形ノ振出及方式……………三七
- 第一條……………三七
- 第一 爲替手形ノ振出……………三七
- 第二 爲替手形ノ要件……………三七
- (判例一) 振出人ハ支拂人ヲ記載セサル白地手形ヲ振出スコトヲ得ルモ支拂人ノ補充ナキ限り手形ハ無効ナリ……………三七
- (同二) 支拂地ハ必スシモ手形ニ之ヲ明記スルコトヲ要セス手形ノ記載ニ依リ獨立ノ最小行政區劃タル市町村ヲ推知シ得ルヲ以テ足ル……………三七
- (同三) 共同受取人ハ共同シテ……………三七

- ノミ裏書ヲ爲スコトヲ得……………三七
- (同四) 支拂人ト受取人トハ別人格者タルコトヲ要セス同一人格者タルコトヲ得……………三七
- (同五) 振出ノ日附カ眞ノ振出日附ニ適合セサル一事ヲ以テ之ヲ無効ト爲スコトヲ得……………三七
- (同六) 實際ノ年月日ト相違スル振出年月日ノ記載モ有效ナリ……………三七
- (同七) 振出地ハ手形面ノ何レノ部分ニ記載スルモ妨ケナシ……………三七
- (同八) 振出地ノ記載ハ振出地欄内ニ於テセサルモ亦振出地ノ記載トシテ有效ナリ……………三七
- (同九) 會社ノ手形行爲ニハ取締役自身カ手形ニ署名スルコトヲ要ス……………三七
- (同一〇) 取締役ハ手形ノ振出ニハ會社ノ爲ニスル意思ヲ明ニシ自己ノ名ヲ署スヘシ……………三七
- (同一一) 代理人ハ本人ノ名義ヲ以テ手形ヲ振出スコトヲ得……………三七
- (同一二) 支拂人ハ手形ニ直接主人ノ名ヲ署シ又ハ記名捺印シテ手形ヲ振出スコトヲ得……………三七
- (同一三) 共同振出人ハ其ノ手形ニ付連帶債務ヲ負擔スヘキモ……………三七

新手法詳解目次

三

新手法詳解目次

ノナリ..... 三三

第三 手形要件以外ノ記載事項..... 三三

第四 手形行爲ノ同意、許可、承認..... 三七

○(判例一四) 借財ニハ約束手形ノ振出ヲ含ム..... 三八

○(判例一五) 親族會ノ同意ヲ得サル手形ノ振出行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得..... 三九

○(判例一六) 振出行爲ノ取消ハ手形ノ交付ヲ受ケタル最初ノ取得者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス..... 三九

○(判例一七) 監査役ノ承認ヲ得サル取締役ノ振出行爲ハ無効ナルノミナラス手形債務負擔行爲モ亦無効ナリ..... 三九

○(判例一八) 取締役カ監査役ノ承認ヲ得ス振出シタル手形ノ無効ハ何人ニモ之ヲ對抗スルコトヲ得..... 三九

○(判例一九) 監査役ハ事後ニ於テモ承認ヲ與フルコトヲ得..... 三九

○(判例二〇) 損害賠償ノ請求ハ取引ノ當事者タル取締役ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス..... 三九

○(判例二一) 産業組合ノ理事カ組合ヲ代表シ自己ヲ支拂人ト爲シタル手形ノ振出ハ無効ナリ..... 三九

第五 爲替手形ノ振出ノ效力..... 三九

第二條..... 三六

第一 要件欠缺ノ證券ノ效力及ヒ其ノ例外..... 三六

第二 満期ノ記載ナキ場合..... 三七

第三 支拂地ノ記載ナキ場合..... 三七

第四 振出地ノ記載ナキ場合..... 三六

第三條..... 三九

第一 自己指圖手形ノ振出..... 三九

第二 自己宛手形ノ振出..... 三九

第三 自己指圖及ヒ自己宛手形ノ振出..... 三九

第四 第三者ノ計算ニテ振出スル手形..... 三九

第四條..... 三九

第一 支拂場所ノ意義..... 三九

第二 支拂場所ノ記載..... 三九

○(判例二二) 支拂場所ハ選擇的ニ指定スルヲ妨ケス..... 三九

第五條..... 三九

第一 利息ノ約定ヲ記載スルコトヲ得ル手形..... 三九

第二 利率ノ表示..... 三九

第三 利息ノ發生日..... 三九

第六條..... 三九

第一 金額ヲ文字及ヒ數字ヲ以テ記載シタル場合..... 三九

第二 金額ヲ文字又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合..... 三九

第七條..... 三九

第一 無能力者ノ署名ノ效力..... 三九

○(判例二三) 所謂借財中ニハ手形ノ振出行爲モ包含ス..... 三九

○(判例二四) 借財トハ消費貸借ノミナラス約束手形ノ振出行爲モ亦包含シタルモノト解スルヲ至當トス..... 三九

第二 手形行爲ノ取消力他ノ署名者ノ債務ニ及ボス效果..... 三九

第三 偽造ノ署名(偽造手形)ノ意義..... 三九

○(判例二五) 自己ノ必要上其ノ代表資格ヲ表示シテ手形ニ署名スルハ偽造ニ非ス..... 三九

第四 偽造ノ署名ノ效果..... 三九

○(判例二六) 振出人ハ裏書人ノ署名カ偽造ナルモ手形上ノ責任ヲ負擔スヘキモノトス..... 三九

第五 假設人ノ署名ノ意義及ヒ其ノ效力..... 三九

第六 其ノ他ノ事由ノ意義及ヒ其ノ效力..... 三九

○(判例二七) 雙方代理ノ禁止ニ反スル手形行爲ハ無効ナリト雖モ保護義務ニ何等ノ影響ヲ及ボス..... 三九

第八條..... 三三

第一 代理關係ノ記載ヲ必要トスルカ..... 三三

○(判例二八) 署名者カ本人ノ爲ニ爲シタルコトヲ自ラ認識シ得ルヲ以テ是ル..... 三三

○(判例二九) 代理關係ハ他ノ證據如何ヲ調査シ之ヲ決定スルコトヲ得..... 三三

第二 本人名義ヲ以テ手形行爲ノ代理ヲ爲スコトヲ得ルカ..... 三三

○(判例三〇) 代理人ヲシテ本人ノ名義ヲ以テ手形行爲ヲ爲サンムルコトヲ妨ケス..... 三三

○(判例三一) 支配人ハ主人ノ名ヲ署シ手形ノ裏書ヲ爲スコトヲ得..... 三三

第三 無權代理人ノ手形行爲ノ意義及ヒ其ノ效力..... 三三

(A) 代理權ナキ者ノ手形行爲ノ意義..... 三三

○(判例三二) 株式會社ノ使用人ハ手形行爲ヲ爲ス權限ヲ有セス..... 三三

○(判例三三) 取締役カ其ノ資格ヲ濫用シテ手形行爲ヲ爲スモ會社ノ目的タル事業ヲ遂行スルニ必..... 三三

要ナル行爲タルヲ妨ケス..... 三三

(B) 代理權ナキ者ノ手形行爲ノ效力..... 三三

第四 代理人ノ權限外ノ手形行爲ノ意義及ヒ其ノ效力..... 三三

○(判例三四) 取締役ノ權限外ノ手形行爲ハ内部關係ニ於テ代表權濫用ノ結果ヲ來スニ止マリ外部ニ對シ代表權ナクシテ爲シタルモノト謂フコトヲ得ス..... 三三

○(判例三五) 支配人ノ手形行爲ハ直接主人ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス..... 三三

○(判例三六) 爾後ノ所持人カ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有スルモ振出人ニ責任アリト爲スコトヲ得ス..... 三三

第五 雙方代理ノ手形行爲ノ意義及ヒ其ノ效力..... 三三

○(判例三七) 民法第八八條ハ公益規定ニシテ之ニ違反スルトキハ本人間ニ於テ何等ノ效力ヲ生セス..... 三三

○(判例三八) 民法第八八條ノ規定ハ本人ノ利益保護ノ爲メニ代理權ヲ制限シタルモノナリ..... 三三

○(同三九) 同上..... 三三

○(同四〇) 手形行爲カ當事者間ニ其ノ效力ヲ生セサル場合ト雖モ有效ナル手形トシテ其ノ成立ヲ害セラルルコトナシ..... 三三

第九條..... 三三

第一 引受擔保..... 三三

第二 支拂擔保..... 三三

第十條..... 三三

第一 白地手形(未完成ニテ振出シタル爲替手形)ノ意義..... 三三

○(判例四一) 所謂白地手形ニ引受ノ署名ヲ爲シタルトキハ後日手形ノ要件完備スルトキハ其ノ内容ニ從ヒ引受ヲ爲シタルモノナリ..... 三三

第二 白地手形(未完成ノ手形)ノ成立(有效)時期..... 三三

○(判例四二) 署名者ノ行爲ハ其ノ交付ノ當時既ニ完成シ有效ナルモノトス..... 三三

○(判例四三) 白地手形ノ要件具備シ手形成立スルトキハ引受ヲ爲シタル者ハ手形上ノ責任ヲ負ハサルヘカラス..... 三三

第三 白地手形(未完成ノ手形)ノ補充(完成)..... 三三

新手法詳解目次

新手法詳解目次

(A)補充権ノ性質……………一八八
 (B)補充権ノ變更……………一八八
 (C)補充時期……………一九〇
 (D)補充権ノ濫用(譲メ爲シタル場合)……………一九三
 (E)補充権ノ消滅……………一九三
 (F)補充権ノ行使……………一九三
 (G)補充権ノ消滅……………一九三
 (H)補充権ノ行使……………一九三
 (I)補充権ノ消滅……………一九三
 (J)補充権ノ行使……………一九三
 (K)補充権ノ消滅……………一九三
 (L)補充権ノ行使……………一九三
 (M)補充権ノ消滅……………一九三
 (N)補充権ノ行使……………一九三
 (O)補充権ノ消滅……………一九三
 (P)補充権ノ行使……………一九三
 (Q)補充権ノ消滅……………一九三
 (R)補充権ノ行使……………一九三
 (S)補充権ノ消滅……………一九三
 (T)補充権ノ行使……………一九三
 (U)補充権ノ消滅……………一九三
 (V)補充権ノ行使……………一九三
 (W)補充権ノ消滅……………一九三
 (X)補充権ノ行使……………一九三
 (Y)補充権ノ消滅……………一九三
 (Z)補充権ノ行使……………一九三

完成ニ依リ裏書ハ同時ニ其ノ効力ヲ生ス……………一九六
 第三 指圖禁止……………一九六
 第四 戻裏書(逆裏書)……………一九六
 第十二條……………一九六
 第一 裏書ノ單純……………一九六
 第二 一部裏書ノ無効……………一九六
 第三 持參人拂ノ裏書……………一九六
 第十三條……………一九六
 第一 記名式裏書……………一九六
 (A)被裏書人ノ名稱……………一九六
 (B)裏書人ノ署名……………一九六
 (C)裏書ノ共同受取人ノ一人カ單獨ニ爲シタル裏書ハ法律上無効ナルモノト解セザル可カラス……………一九六
 第十四條……………一九六
 第一 手形上ノ權利ノ移轉……………一九六
 (A)手形上ノ權利……………一九六
 (B)手形上ノ權利ト手形所有權トノ關係……………一九六
 第二 權利行使ノ資格授與……………一九六
 一 白地式裏書ノ補充……………一九六
 二 白地式裏書アル手形ノ裏書……………一九六
 三 引渡(交付)ノミニ依ル手形ノ……………一九六

譲渡……………一九六
 第十五條……………一九六
 第一 引受及ヒ支拂ノ擔保……………一九六
 第二 無擔保ノ裏書……………一九六
 第三 裏書禁止ノ裏書……………一九六
 第十六條……………一九六
 第一 裏書ノ連續……………一九六
 (A)判例五〇 裏書カ偽造ニ係ル場合ト雖モ裏書ノ連續セル所持人ニ對シテハ手形上ノ責任ヲ負擔スヘシ……………一九六
 (B)判例五一 惡意ヲ以テ偽造手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ有セス……………一九六
 第二 記名式裏書ノ連續……………一九六
 (A)判例五二 手形ヲ裏書譲渡スル權利ハ被裏書人ニ專屬スルモノニアラス……………一九六
 (B)判例五三 法律上無効ナル裏書ハ始メヨリ記載ナキト同一ナリ……………一九六
 (C)判例五四 法律上無効ナル裏書ノ記載ハ空白ト異ナルコトナシ……………一九六
 第三 白地式裏書ノ連續……………一九六
 (A)判例五五 〇手形所持人カ正當ナル權利者ニアラサルコトヲ主張スルニハ之カ立證ヲ爲スコ……………一九六

トテ要ス……………一九六
 第四 抹消シタル裏書及ヒ其ノ効力……………一九六
 (A)判例五六 既存ノ署名其ノ他ノ記載ヲ利用スルモ裏書ノ抹消並ニ第三者ニ對スル裏書アリト解スヘシ……………一九六
 (B)判例五七 裏書ノ抹消ハ權利者カ爲シタルト否トテ同ハサルモノト解スルヲ相當トス……………一九六
 第五 手形ノ占有喪失者ト所持人ノ裏書連續ノ證明……………一九六
 (A)占有喪失ノ事由テ同ハサルコト……………一九六
 (B)所持人ハ手形ヲ取得スル意思ヲ以テ占有ヲ始メタルコト……………一九六
 (C)所持人ハ無權利者ヨリ手形ヲ取得シタルコト……………一九六
 (D)所持人ハ惡意又ハ重大ナル過失ヲシテ手形ヲ取得シタルコト……………一九六
 (E)判例五八 所持人ニ返還ヲ請求シ得ルハ盜罪横領等ニ因リ手形ヲ失ヒタル場合ナリ……………一九六
 (F)所持人ハ惡意又ハ重大ナル過失ヲシテ手形ヲ取得シタルコト……………一九六
 (G)判例五九 手形ノ占有者ヲ以テ正當ノ所持人ニアラスト主張スル者ハ其ノ事實ヲ立證スル責任アリ……………一九六

第十七條……………一九六
 第一 人的關係ニ基ク抗辯及ヒ其ノ對抗力……………一九六
 (A)判例六〇 手形授受ノ當事者間ニ在リテハ原因ノ無効ヲ以テ請求ヲ拒絶スルコトヲ得……………一九六
 (B)判例六一 所謂融通手形ハ被融通者ヨリ直接請求シ來レル場合ニ限り支拂ヲ拒絶シ得ルニ過キス……………一九六
 (C)判例六二 法律行為ノ無効ヲ知ラサル所持人ニ對抗スルコトヲ得……………一九六
 第二 惡意ノ抗辯及ヒ其ノ對抗力……………一九六
 (A)判例六三 原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ以テ惡意ノ受取人ニ對抗スルコトヲ得……………一九六
 第三 物的關係ニ基ク抗辯及ヒ其ノ對抗力……………一九六
 第十八條……………一九六
 第一 委任裏書ノ要件……………一九六
 (A)判例六四 信託的讓渡裏書ハ當事者間ニ於テ取立委任ノ効力ヲ生スルト同時ニ第三者ニ對シテハ權利移轉ノ効力ヲ生ス……………一九六
 (B)判例六五 取立委任ノ目的ヲ以テ……………一九六

テ爲サレタル讓渡裏書ノ權利關係ハ當事者間ノ意思ニ依リテ決スヘキ事實問題ニ外ナラス……………一九六
 (A)判例六六 裏書ノ改訂 増減ハ當事者間ニ在リテハ格別第三者ニ對抗スルコトヲ得……………一九六
 第二 委任裏書ノ効力……………一九六
 (A)判例六七 第一ノ被裏書人ハ後日第二ノ被裏書人ヨリ占有ヲ回復シタルトキハ從前ノ手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得……………一九六
 (B)判例六八 裏書人ハ所持人ヲシテ必スシモ戻裏書ヲ爲サシムルコトヲ要セス……………一九六
 第三 所持人ニ對スル抗辯……………一九六
 第四 委任者ノ死亡又ハ無能力ニ因ル委任ノ不終了……………一九六
 第十九條……………一九六
 第一 買入裏書ノ要件……………一九六
 第二 買入裏書ノ効力……………一九六
 第三 抗辯權ノ制限……………一九六
 第二十條……………一九六
 第一 満期後ノ裏書……………一九六
 (A)支拂拒絶證書作成後ノ裏書……………一九六
 (B)支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書……………一九六
 第二 被裏書人ノ取得スヘキ權利……………一九六

新手法詳解目次

新手形法詳解目次

○(判例六九) 支拂拒絶證書作成
期間經過後ノ裏書ノ被裏書人ハ
對抗事由ノ随伴スル債權ヲ取得
スルモノナリ……………三三三

第三 裏書人ノ責任……………三三三

第四 支拂拒絶證書作成期間經過前
ノ推定……………三三三

○(判例七〇) 支拂拒絶證書作成
期間經過後ノ裏書ナリヤ否ヤハ
眞實ニ成立シタル日ニ從ヒテ之
ヲ決セサル可カラズ……………三三三

第三章 引受……………三三四

第二十一條……………三三五

第一 引受ノ爲ノ呈示ノ必要……………三三五

第二 引受ノ爲ノ呈示ノ場所……………三三八

第二十二條……………三三九

第一 振出人ノ引受ノ爲ノ呈示ノ記
載……………三三九

第二 振出人ノ引受ノ爲ノ呈示禁止
ノ記載……………三三九

第三 振出人ノ一定ノ期日前ニ引受
ノ爲ノ呈示禁止ノ記載……………三三九

第四 各裏書人ノ引受ノ爲ノ呈示ノ
記載……………三三九

第二十三條……………三三九

第一 一覽後定期拂手形ノ引受ノ爲
ノ呈示……………三三九

第二 振出人ノ期間ノ短縮又ハ伸長
……………三三九

第三 裏書人ノ期間ノ短縮……………三三九

第四 引受ノ爲ノ呈示ノ效果……………三三九

第二十四條……………三三九

第一 支拂人ノ第二ノ呈示請求……………三三九

第二 利害關係人ノ呈示不應ノ主張……………三三九

第三 所持人ノ手形交付ノ不要……………三三九

第二十五條……………三三九

第一 引受ノ方式……………三三九

○(判例七一) 手形債務ヲ負擔ス
ル意思ヲ以テスルニアラザレハ
手形行爲ハ其ノ效力ヲ生セス……………三三九

○(判例七二) 代理人ハ直接ニ本人
ノ名ヲ署シ手形行爲ヲ爲スコト
ヲ得……………三三九

第二 日附ノ記載……………三三九

第二十六條……………三三九

第一 引受ノ單純……………三三九

第二 單純ナラサル引受……………三三九

第二十七條……………三三九

第一 支拂人ノ第三者ノ記載……………三三九

第二 支拂人ノ支拂場所ノ記載……………三三九

第二十八條……………三三九

第一 引受人ノ支拂義務……………三三九

第二 支拂ナキ場合ニ於ケル請求權
……………三三九

第二十九條……………三三九

第一 引受ノ抹消……………三三九

第二 手形以外ノ書面ニ依ル引受……………三三九

第四章 保證……………三三九

第三十條……………三三九

第一 手形ノ保證金額……………三三九

第二 手形ノ保證人ノ範圍……………三三九

○(判例七三) 會社ノ目的ヲ達ス
ルニ必要ナル事項ハ定款中ニ記
載セサルモ目的ノ範圍内ニ於ケ
ル業務タルノ性質ヲ有ス……………三三九

第三十一條……………三三九

第一 手形保證ノ方式……………三三九

○(判例七四) 電キヲ不動文字ニ
置クコト無クシテ之ヲ有效ナル
保證ト解セシムルニ如カス……………三三九

○(判例七五) 別個ノ書面ニ依リテ
民事上ノ保證ヲ爲スコトヲ禁シ
タルモノニアラス……………三三九

○(判例七六) 債權者ヲ指名セサル
保證ハ手形權利者全員ニ對シテ
保證ノ效力ヲ生ス……………三三九

第二 被保證人(主たる債務者)ノ決
定……………三三九

第三十二條……………三三九

第一 手形保證人ノ責任ノ範圍……………三三九

○(判例七七) 後訴及ヒ檢索ノ利
益ハ手形保證人ノ有セサル所ナ
リ……………三三九

○(判例七八) 保證人ハ主たる債務
者ト連帶シテ各自全額ノ債務ヲ
負擔スヘシ……………三三九

○(判例七九) 各保證人ノ間ニハ連
帶債務ノ關係ヲ生セス……………三三九

○(判例八〇) 讓メ主タル債務者ニ
手形ヲ呈示スル必要ナシ……………三三九

第二 手形債務ノ無効ト保證ノ效力
……………三三九

第三 保證人ノ手形上ノ權利取得……………三三九

○(判例八一) 民法第四百六十五
條第一項ノ場合ニ該當スルトキ
ハ同第四百四十二條ヲ準用スヘ
キモノトス……………三三九

第五章 満期……………三三九

第三十三條……………三三九

第一 満期ノ種類……………三三九

一 一覽拂……………三三九

二 一覽後定期拂……………三三九

三 日附後定期拂……………三三九

四 確定日拂……………三三九

○(判例八二) 期間ノ表示アル故
ヲ以テ其ノ最終ノ日ノミテ満期
……………三三九

○(判例八三) 二十餘年後ヲ確定日
拂トスルモ固ヨリ満期日ノ記載
トシテ有效ナリ……………三三九

第二 法定以外ノ満期又ハ分割拂ノ
無効……………三三九

第三十四條……………三三九

第一 一覽拂爲替手形ノ呈示及ヒ呈
示期間ノ伸縮……………三三九

第二 振出人ノ一定期日前ノ呈示禁
止……………三三九

第三 支拂ノ爲ニスル呈示ノ地及場
所……………三三九

第四 呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セ
サル場合ノ效果……………三三九

第三十五條……………三三九

第一 日附又ハ拒絶證書アル場合ニ
於ケル満期ノ起算點……………三三九

第二 拒絶證書アラサル場合ニ於ケ
ル日附ナキ引受……………三三九

第三十六條……………三三九

第一 日附後又ハ一覽後一月又ハ數
月拂ノ手形ノ満期……………三三九

第二 期間ノ計算……………三三九

第三十七條……………三三九

第一 層ヲ異ニスル地ニ於ケル確定
……………三三九

トスルモノニアラス……………三三九

○(判例八四) 支拂ノ爲ノ呈示免
除ノ特約ハ當事者間ニ於テ效力
ヲ有スルモ第三者ニ對シテ效力
ヲ生スルコトナシ……………三三九

第一 確定日拂、日附後定期拂又ハ
一覽後定期拂手形ノ支拂呈示……………三三九

第二 日拂手形ノ満期……………三三九

第三 後定期拂手形ノ満期……………三三九

第四 層ヲ異ニスル地ニ於ケル手形
ノ呈示期間……………三三九

前項ノ例外……………三三九

第六章 支拂……………三三九

第三十八條……………三三九

第一 確定日拂、日附後定期拂又ハ
一覽後定期拂手形ノ支拂呈示……………三三九

○(判例八四) 支拂ノ爲ノ呈示免
除ノ特約ハ當事者間ニ於テ效力
ヲ有スルモ第三者ニ對シテ效力
ヲ生スルコトナシ……………三三九

第一 全部ノ支拂ト手形ノ交付請求
……………三三九

第二 一部支拂及ヒ其ノ效力……………三三九

第三 一部支拂ト受取證書ノ交付請
求……………三三九

第四 支拂ヲ受クヘキ者……………三三九

第五 支拂ヲ爲スヘキ者……………三三九

新手形法詳解目次

新手法詳解目次

第六 支拂ヲ爲スヘキ時期……………三九七

第七 支拂ヲ爲ス者ノ調査義務……………三九七

第四十條……………三九八

第一 満期前ノ支拂……………三九八

第二 満期前ノ支拂ノ效力……………三九八

第三 満期ニ支拂ヲ爲ス者ノ調査義務……………三九八

第四十一條……………三九八

第一 支拂地ノ通貨ニ非サル通貨ノ支拂方法……………三九八

第二 外國通貨ノ價格ヲ定ムル方法……………三九八

第三 前二項ノ例外……………三九八

第四 同名異價ヲ有スル通貨ト推定……………三九八

第四十二條……………三九八

第一 手形金額ノ供託……………三九八

第二 手形金額供託ノ手續……………三九八

第三 手形金額供託ノ效果……………三九八

第七章 引受拒絶又ハ支拂拒絶……………三九八

第四十三條……………三九八

第一 満期後ノ請求權ノ行使……………三九八

第二 満期前ノ請求權ノ行使……………三九八

第三 引受拒絶アリタルトキ……………三九八

第四 引受人又ハ支拂人ノ破産支拂……………三九八

第四十四條……………三九八

第一 停止等ノ場合……………三九八

第二 引受ノ表示ヲ禁シタル振出人ノ破産ノ場合……………三九八

第三 引受拒絶又ハ支拂拒絶ノ證明……………三九八

第四十一條……………三九八

第一 引受拒絶證書ノ作成期間……………三九八

第二 支拂拒絶證書ノ作成期間……………三九八

第三 支拂ノ爲メノ表示及ヒ支拂拒絶證書ノ不要……………三九八

第四 引受人、支拂人ノ支拂停止又ハ強制執行ト拒絶證書ノ作成……………三九八

第五 引受人、支拂人又ハ振出人ノ破産ト破産決定書ノ提出……………三九八

第六 引受人、支拂人又ハ振出人ノ破産ト破産決定書ノ提出……………三九八

第七 拒絶證書作成後ノ效果……………三九八

第四十五條……………三九八

第一 拒絶ノ通知ヲ爲スヘキ場合……………三九八

第二 所持人ノ拒絶ノ通知……………三九八

第三 裏書人ノ拒絶ノ通知……………三九八

第四 拒絶ノ通知ノ方法……………三九八

第五 拒絶ノ通知ヲ缺キタル效果……………三九八

第四十六條……………三九八

第一 拒絶證書作成免除ノ方式……………三九八

第二 別個ノ書面ニ記載シテ之ヲ爲スコトヲ得……………三九八

第四十七條……………三九八

第一 拒絶證書作成免除ノ所持人ニ對スル效力……………三九八

第二 拒絶證書作成免除ノ署名者ニ對スル效力……………三九八

第四十八條……………三九八

第一 所持人ノ請求金額……………三九八

第二 所持人ノ請求ノ懸様……………三九八

第三 手形ヲ受戻シタル者ノ權利……………三九八

第四 債務者ノ一人ニ對スル請求ノ效果……………三九八

第四十九條……………三九八

第一 所持人ノ請求金額……………三九八

第二 所持人ノ請求ノ懸様……………三九八

第三 手形ヲ受戻シタル者ノ權利……………三九八

第四 債務者ノ一人ニ對スル請求ノ效果……………三九八

第五十條……………三九八

第一 請求ニ依ル支拂ト計算書及ヒ手形ノ交付請求……………三九八

第二 手形ヲ受戻シタル裏書人ノ裏書ノ抹消……………三九八

第五十一條……………三九八

第一 一部引受後ノ支拂ト手形ノ記載及ヒ受取證書ノ交付請求……………三九八

第二 一部引受ノ支拂ト手形ノ證明……………三九八

第三 贈本及ヒ拒絶證書ノ交付……………三九八

第五十二條……………三九八

第一 新手法(戻手形)ノ振出……………三九八

第二 新手法(戻手形)ノ手形金額……………三九八

第三 新手法(戻手形)ノ手形金額ノ決定……………三九八

第五十三條……………三九八

第一 期間ノ經過ト所持人ノ權利喪失……………三九八

第二 一覽拂又ハ一覽後定期拂手形ノ表示期間ノ經過……………三九八

第三 拒絶證書ノ作成期間ノ經過……………三九八

第四 支拂ノ爲メノ表示期間ノ經過……………三九八

第五 振出人ノ記載シタル引受表示期間ノ遵守ノ效果……………三九八

第六 裏書人ノ記載シタル表示期間ノ遵守ノ效果……………三九八

第五十四條……………三九八

第一 不可抗力ニ因ル表示又ハ拒絶證書作成期間ノ伸長……………三九八

第二 所持人ノ不可抗力ノ通知……………三九八

第三 不可抗力ノ終止ト表示又ハ拒絶證書作成……………三九八

第五十五條……………三九八

第一 絶證書ノ作成……………三九八

第二 満期ニ於ケル不可抗力ノ繼續ト表示又ハ拒絶證書作成ノ免除……………三九八

第三 三十日ノ期間ノ進行及ヒ加算……………三九八

第四 單純ナル人の事由ト不可抗力ノ不構成……………三九八

第八章 参加……………三九八

第一節 通則……………三九八

第五十五條……………三九八

第一 準備支拂人ノ記載……………三九八

第二 準備支拂人ノ記載ノ效果……………三九八

第三 参加人ノ引受又ハ支拂……………三九八

第四 参加人タルコトヲ得ヘキ者……………三九八

第五 参加ノ通知及ヒ期間ノ遵守ノ效果……………三九八

第二節 参加引受……………三九八

第五十六條……………三九八

第一 参加引受ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合……………三九八

第二 準備支拂人ノ記載ト請求權行使ノ條件……………三九八

第三 其ノ他ノ場合ニ於ケル参加引受ノ拒否及ヒ受諾ノ效力……………三九八

第五十七條……………三九八

第一 参加引受ノ方式……………三九八

第二 被参加人ノ指定……………三九八

第五十八條……………三九八

第一 参加引受人ノ責任……………三九八

第二 被参加人及其前者ノ支拂……………三九八

第三節 参加支拂……………三九八

第五十九條……………三九八

第一 参加支拂ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合……………三九八

第二 参加支拂ノ金額……………三九八

第三 参加支拂ノ時期……………三九八

第六十條……………三九八

第一 参加引受人又ハ準備支拂人ノ記載ト手形ノ表示……………三九八

第二 拒絶證書ノ作成ナキ場合ノ效果……………三九八

第六十一條……………三九八

第一 参加支拂ノ拒絶……………三九八

第二 参加支拂拒絶ノ效果……………三九八

第六十二條……………三九八

第一 参加支拂ノ方式……………三九八

第二 参加支拂ト手形ノ交付……………三九八

第六十三條……………三九八

第一 参加支拂人ノ手形權利ノ取得……………三九八

第二 被参加人後ノ裏書人ノ免責……………三九八

新手法詳解目次

新手形法詳解目次

第三 參加支拂組合ノ效果…………… 三六四

第九章 複本及贖本…………… 三六五

第一節 複本…………… 三六五

第六十四條…………… 三六五

第一 同一内容ヲ有スル數通ノ手形ノ振出…………… 三六六

第二 複本ニ番號ヲ附セサル效果…………… 三六七

第三 複本ノ交付請求ノ手續…………… 三六八

第六十五條…………… 三六八

第一 複本ノ一通ノ支拂ノ效力…………… 三六九

第二 各別ニ複本讓渡ノ效果…………… 三六九

第六十六條…………… 三六九

第一 複本送付ト保持者ノ記載及所持人ニ對スル複本ノ引渡…………… 三七一

第二 保持者ノ引渡拒絶ト請求權行使ノ條件…………… 三七一

第二節 贖本…………… 三七一

第六十七條…………… 三七一

第一 贖本ノ作成權利者…………… 三七一

第二 贖本ニ再記スヘキ事項…………… 三七一

第三 贖本ノ裏書又ハ保證…………… 三七一

第六十八條…………… 三七一

第一 原本保持者ノ表示ト引渡…………… 三七一

第二 保持者ノ原本引渡ノ拒絶ト請求權行使ノ條件…………… 三七一

第三 最後ノ裏書後ノ特別記載ト原本ノ裏書ノ無効…………… 三六六

第十章 變造…………… 三六七

第六十九條…………… 三六七

第一 變造手形ノ意義…………… 三六七

第二 變造手形署名者ノ責任…………… 三六八

第三 手形ノ變造前後ノ證明…………… 三六九

第四 變造手形ノ取得ノ效果…………… 三六九

第七十條…………… 三六九

第一 引受人ニ對スル請求權ノ時効…………… 三六九

◎(判例八七) 債權ノ時効期間三年ヲ計算スルニ付テハ其初日ヲ滿期日ハ之ヲ算入セス…………… 三六九

第二 所持人ノ其ノ前者ニ對スル請求權ノ時効…………… 三六九

第三 裏書人ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ノ時効…………… 三六九

第四 時効ノ中断、時効完成後ノ效果…………… 三六九

第七十一條…………… 三六九

第一 時効ノ中断…………… 三六九

◎(判例八八) 手形呈示ヲ伴ハサル請求ハ時効中断ノ效ナシ…………… 三六九

◎(判例八九) 裁判上請求ハ手形ヲ

呈示セス時効中断ノ效ヲ生ス…………… 三六九

◎(判例九〇) 承認ヲ爲スニ付テ特ニ手形ノ呈示アルヲ要セス…………… 三六九

◎(判例九一) 利息ノ支拂ハ反證ナキ限り手形債務承認ノ表示ヲ包含ス…………… 三六九

第二 時効中断ノ效力…………… 三六九

第十二章 通則…………… 三六九

第七十二條…………… 三六九

第一 法定休日ト支拂請求ノ不能…………… 三六九

第二 休日ト引受呈示及ヒ拒絶證書作成ノ不能…………… 三六九

第三 末日ヲ休日トスル期間伸長…………… 三六九

第七十三條…………… 三六九

第一 法定期間…………… 三六九

第二 約定期間…………… 三六九

第七十四條…………… 三六九

第二編 約束手形…………… 三六九

第七十五條…………… 三六九

第一 約束手形ノ要件…………… 三六九

◎(判例九二) 組合ハ其名義ヲ以テ手形ノ授受ヲ爲スコトヲ得…………… 三六九

第二 手形要件以外ノ記載事項…………… 三六九

第七十六條…………… 三六九

第一 要件欠缺ノ證券ノ效力及ヒ其

ノ例外…………… 三六九

第二 滿期ノ記載ヲ缺ク場合…………… 三六九

第三 支拂地ノ記載ヲ缺ク場合…………… 三六九

第四 振出地ノ記載ヲ缺ク場合…………… 三六九

第七十七條…………… 三六九

第一 約束手形ニ準用スヘキ爲替手形ノ規定…………… 三六九

第二 約束手形ニ準用セサル爲替手形ノ規定…………… 三六九

第七十八條…………… 三六九

第一 約束手形振出人ノ義務…………… 三六九

第二 一覽後定期拂ノ約束手形ノ一覽ノ爲ノ呈示…………… 三六九

附則…………… 三六九

第七十九條…………… 三六九

第八十條…………… 三六九

第一 削除スヘキ法律ノ規定…………… 三六九

第二 削除規定ノ效力ヲ有ス場合…………… 三六九

第八十一條…………… 三六九

第八十二條…………… 三六九

第八十三條…………… 三六九

第八十四條…………… 三六九

第八十五條…………… 三六九

第一 利得償還請求權ノ性質…………… 三六九

新手形法詳解目次

◎(判例九三) 利得請求權ハ非手形上ノ償還請求權ナリ…………… 三六九

第二 利得償還請求權ノ要件…………… 三六九

◎(判例九四) 利得償還ノ請求ハ總テノ債務者ニ對シ手形權利ノ消滅シタルコトヲ要ス…………… 三六九

◎(判例九五) 其對價ハ消極的ニ既存債務ノ支拂ヲ免レタル場合ヲ包含ス…………… 三六九

◎(判例九六) 既存債務存在スルトキハ利得償還請求權發生セス…………… 三六九

第三 利得償還請求權者及義務者…………… 三六九

◎(判例九七) 利得償還請求權者ハ最後ノ裏書ニ依ル所持人タルト償還義務ヲ履行シタル裏書人タルコトヲ問ハス…………… 三六九

◎(判例九八) 利得償還請求權ハ指名債權讓渡ノ手續ヲ爲サザレハ其讓渡ヲ以テ振出人又ハ引受人ニ對抗スルコトヲ得ス…………… 三六九

第四 利得償還請求權ノ範圍及ヒ時効…………… 三六九

◎(判例九九) 利得償還請求權ハ其ノ權利ヲ行使シ得ル時ヨリ十年ヲ經過スルニ因リ消滅ス…………… 三六九

◎(判例一〇〇) 被告ノ時効援用ナクハ裁判所ハ手形債權ノ時効消滅ヲ認ムルヲ得ス…………… 三六九

第八十六條…………… 三六九

第一 裏書人請求權ノ時効中断法…………… 三六九

第二 前項ノ中断時効ノ進行…………… 三六九

第八十七條…………… 三六九

第一 法定ノ休日…………… 三六九

第二 法定ノ休日ノ種類…………… 三六九

第八十八條…………… 三六九

第一 手形行為能力ノ準據法…………… 三六九

第二 前項ノ例外…………… 三六九

第八十九條…………… 三六九

第一 手形行為ノ方式ノ準據法…………… 三六九

第二 前行為ノ不適式ト後行為ノ適式ノ場合ノ效果…………… 三六九

第三 日本人間ノ外國ニ於ケル手形行為ノ效力…………… 三六九

第九十條…………… 三六九

第一 主タル債務者ノ義務ノ效力ノ準據法…………… 三六九

第二 前項以外債務者債務ノ效力…………… 三六九

第九十一條…………… 三六九

第九十二條…………… 三六九

第九十三條…………… 三六九

第九十四條…………… 三六九

新手形法詳解目次終

◇「新手形法詳解」は緒説に於て改正の要點を細説し、本論に於て逐條に詳細なる解説を施し、過去三十年間の判例の適用し得べきものは悉く之を挿入し、御覽の通りの密植版に依り、普通書籍の二倍量を包容する説明を以てし、新手形法を解するに遺憾なきを期したるものなるも、仍ほ本書の姉妹編たる既刊

◇「新手形法三體正文及書式」(定價一圓五十錢)は新手形法の正文を三様に示し、之に新法に則る精細なる手形書式二百四十二式を加へたるもの、「詳解」を讀みつゝ、「書式」と對照すれば最も能く新法を解し、手形を實際に運用するに眞に遺憾なしと信します、切に兩書を併讀せられて御利用を希望致します

新手形法詳解

新井正三郎自治館編著



緒説
形法改正ノ理由

我邦に於ける手形法ハ舊法ニ依リタル明治十五年太政官布告第五十七號爲替手形條約東手形條例ヲ以テ其ノ嚆矢ト爲ス、第二次ハ明治二十六年法律第九號舊商法第一編第十二章ニシテ佛法及ヒ獨法ヲ折衷シ多少英法ヲ加味シタリ、第三次ハ明治三十二年法律第四十八號現行商法第四編ニシテ全ク獨法系ニ屬ス、而シテ同法ハ明治四十四年法律第七十三號ヲ以テ其一部ヲ改正セラレタルニ過キス、然ルニ各國ニ於ケル通商貿易ノ益々盛ナルニ伴ヒ其ノ用具タル手形ノ國際的流通モ亦頻繁ナルニ至リタルモ、各國ノ手形ニ關スル立法例區々ニシテ其ノ規定ノ同

緒説 手形法改正ノ理由

シカラザル結果、甲國ニ於テ有效ニ振出サレタル手形カ乙國ニ於テ其ノ流通ヲ阻害セラル、コトアリ、亦タ乙國ニ於テ有效ニ裏書セラレタル手形カ丙國ニ於テ其ノ裏書ヲ無効トセラル、コトアリテ、手形ノ國際的流通ヲ阻害スルコト少ナカラス、故ニ國際的通商關係ニ更ニ大ナル安全性ト促進性トヲ與ヘントスルニハ諸國ノ手形ニ關スル立法例ノ差異ヨリ生スル低觸ヲ調和セサル可カラス、即チ甲國ニ於テ適式ニ振出サレ又ハ裏書セラレタル手形ハ世界各國何レノ國ニ於テモ之ヲ有效ト爲ス必要アリ、是ニ於テ各國相異ナレル手形ニ關スル法規ヲ畫一ナラシムル爲メ國際的ニ手形統一法ヲ制定スル必要アルニ至レリ。

如上ノ必要ヨリ手形法ノ統一ハ夙ニ疾ク企畫セラレタルモ、其ノ實行期ニ入りタルハ漸ク十九世紀後半ニシテ屢々國際會議ヲ開キタルモ充分ナル成果ヲ收ムルコト能ハサリシガ、千九百十年及ヒ千九百十二年和蘭政府ノ努力ニ依リテ同國海牙ニ開催セラレタル所謂海牙會議ニ於テ漸ク成功ノ緒ニ就キ「爲替手形及ヒ約束手形ニ關スル法律ノ統一ニ關スル條約」及ヒ「爲替手形、約束手形統一規則」トヲ協定スルニ至レリ、而シテ此ノ條約ノ批准ニ付テハ獨、埃ノ二國ハ熱心ナリシモ英、米ノ兩國ハ條約ノ不参加ヲ聲明シ我邦亦タ殆ンド無關心ノ態度ヲ採リタリ、殊ニ同條約ニ對シテ致命的ノ打撃ヲ與ヘタルハ千九百十四年ノ世界大戰ノ勃發ニシテ、之カ爲メニ手形ノ統一運動ハ一時挫折スルノ止ムナキニ至リタリ。

世界大戰終局ヲ告ケ國際聯盟成立後千九百二十年ニ開催セラレタル國際聯盟ノ財政會議ニ於テハ手形法統一運動ノ必要ヲ認メ、國際經濟委員會ハ其ノ活動ノ中心ト爲リ、國際商業會議所及ヒ羅馬私法統一國際協會ノ援助ヲ得テ千九百二十三年以來諸種ノ準備ヲ繼續シ、千九百二十八年國際聯盟理事會ノ召集ニ係ル法律專門委員會ヲシテ新統一手形法ノ條約案ヲ作成セシメタリ、次テ千九百三十年ニハ國際聯盟ノ召集ノ下ニ「ジュネーヴ」ニ於テ

手形法統一會議ノ開催ヲ見ルニ至リ、參加國ハ日、英、米、佛、獨、伊等ヲ始メ全部三十一箇國ニ及ヒ、同會議ハ頗ル順調ニ進行シ遂ニ左記三條約ノ成立ヲ見ルニ至リタリ。

- (1) 爲替手形及ヒ約束手形ノ統一法ヲ制定スル爲メノ條約(議定書及ヒ附屬書ヲ含ム)。
 - (2) 爲替手形及ヒ約束手形ニ關スル法律ノ低觸ノ解決ヲ目的トスル條約(議定書ヲ含ム)。
 - (3) 爲替手形及ヒ約束手形ニ付テノ印紙稅法ニ關スル條約(議定書ヲ含ム)。
- 右(1)ノ條約ハ統一的手形法ヲ制定スルヲ目的トシ(2)ノ條約ハ國際手形法ヲ定メ(3)ノ條約ハ手形印紙稅法違反ノ制裁ニ付テ國際的協定ヲ爲スコトヲ目的ト爲シタルモノナリ。

前記ノ爲替手形及ヒ約束手形ニ關スル條約ニ對シテ諸國ハ其ノ調印期日ノ最終日タル千九百三十年九月六日迄ニ佛、獨、伊ヲ始メ二十七箇國ニ及ヒ、我邦ニ於テモ該條約ニ對シテハ満足ノ意ヲ表シ既ニ其ノ調印ヲ了シタリ、而シテ(1)ノ條約ノ議定書第四條ニ於テハ該條約ノ批准セラレヘキ旨且ツ批准書ハ之ヲ千九百三十二年九月一日(昭和七年九月一日)迄ニ國際聯盟事務總長ノ許ニ提出スヘキコトヲ議定シタルニ因リ、我邦ニ於テ該條約ヲ批准シ公布スルニハ勢ヒ急速ニ商法第四編手形ノ規定ヲ改正セサル可カラス、茲ニ於テ政府ハ其ノ改正ヲ前ニ商法改正案ヲ審議シツ、アリシ法制審議會ノ商法改正委員會ニ諮問シタルニ、同委員會ハ一致シテ商法第四編手形ヲ該條約ノ内容ノ如クニ改正スヘキ旨可決シタリ、然ルニ今回ノ改正ハ從來ノ夫レト異ナリ、條約ノ結果ニ基ク國際的ノ改正ナルヲ以テ、國內的タル商法ヲ改正シテ之ニ編入スルハ立法上當ヲ得サルノミナラス却テ其ノ運用上煩雜ヲ來ス虞レナシトセサルニ依リ、別個ニ手形法トシテ之ヲ獨立セシムルヲ適當ト認メ、遂ニ其ノ法案ヲ第六十二回帝國議會ニ提出シ其ノ協贊ヲ得テ法律ト爲ルニ至リタルモノナリ、故ニ從來國內的ナリシ商法第

四編ノ爲替手形及ヒ約束手形ニ關スル規定ハ今回ノ改正ニ依リ、手形法ナル別個獨立ノ法律ト爲リタルト同時ニ國際的ニ進展シ其ノ面目ヲ一變スルコト、爲リタリ。

小切手法ノ統一ニ關シテハ千九百三十年ノ國際會議ニ於テ其ノ成功ヲ收ムルコト能ハサリシモ、其ノ翌年二月ノ國際會議ニ於テ手形法統一ニ關スル條約ト同一體系ヲ有スル「小切手法統一ニ關スル國際條約」ノ成立ヲ見ルニ至リタリ、而シテ我國ニ於テハ既ニ其ノ調印ヲ了リタルモ、締盟各國ニ於テ未タ其ノ調印ヲ終ラサルモノアリ其ノ批准期限ハ昭和八年九月一日迄ナルニ依リ、政府ハ該條約ノ批准ノ前提トシテ小切手法ヲ制定スル必要アルヲ以テ、商法第四編第四章小切手ニ關スル改正ヲ商法改正調査委員會ニ附託シ其ノ成案ヲ得タル上、小切手法案トシテ通常議會ニ提出シ其ノ協贊ヲ求ムルニ至ルヘシト信ス。

第二章 手形法改正ノ要點

改正手形法ノ規定ト商法第四編爲替手形及ヒ約束手形ニ關スル規定トヲ對照スルトキハ兩法全ク條文ノ配列ヲ異ニシ、殊ニ引受ノ拒絕ニ因ル擔保ノ請求ヲ認メサルニ依リ、舊手形法第四百七十四條乃至第四百八十一條ニ類似ノ規定ナク、又タ拒絕證書ノ作成ニ關スル事項ハ之ヲ勅令ニ譲リタルヲ以テ、一見全部ニ亙リ立法ノ趣旨ヲ變更セラレタル感アリ、其ノ改正ノ全般ニ付テハ逐條解釋ニ於テ詳細ニ説明シタルヲ以テ、本章ニ於テハ改正セラレタル主要ナル點ノミヲ條文ノ順序ニ從ヒ列舉シテ説明スルニ止ム。

第一 振出及ヒ方式ニ關スル改正要點

(一) 利息附ノ手形ヲ認メタルコト。

改正手形法第五條ニ於テハ「一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形(註一覽拂手形トハ支拂ノ呈示ヲ爲シタル日ニ支拂ヲ爲スヘキ手形ヲ謂ヒ(本館發行「改正手形法書式」(二八)ノ書式參看)一覽後定期拂手形トハ引受ノ呈示ヲ爲シタル日ヨリ一定ノ期間ヲ經過シタル日ニ支拂ヲ爲スヘキ手形ヲ謂フ(同上(三一)ノ書式參看、詳細ノ説明ハ逐條解釋參看)ニ於テハ振出人ハ手形金額ニ付利息ヲ生スベキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得」ト爲シ其ノ利率ハ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要スルモノト規定シタリ、然レトモ其ノ他ノ爲替手形ニ於テハ利息附ヲ認メス。

手形ニ利息ヲ記載スルトキハ手形金額ノ一定ナルヘキコトヲ妨ケ手形ヲ無効ナラシムルヤ否ヤニ關シ各國ノ立法例區々ニ亙リ、我商法手形編ノ解釋ニ付テモ或ハ利息ノ記載ハ手形ヲ無効ナラシムルモノト爲シ、或ハ利息ノ記載ノミヲ無効ト爲スヘキモノト爲シ、又或ハ手形金額ノ表示方法ヲ制限セサル商法ノ下ニ於テハ利息ノ記載ヲ有效ナリト論スル者等アリ、且ツ此ノ點ニ關シ參考ト爲スヘキ大審院ノ判例モ無カリシカ故ニ未タ其ノ解釋ノ一定セザリシ所ナリ、然ルニ改正手形法ニ於テハ前述ノ如ク一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ於テノミ利息ノ約定ノ記載ヲ認メ、其ノ他ノ手形ニ於ケル利息附ヲ認メス、即チ一覽拂又ハ一覽後定期拂以外ノ手形ニ於テハ縱令手形金額ニ利息ヲ生スヘキ旨ヲ記載スルモ、此ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲ササルモノト看做シ、利息ノミヲ無効ト爲シ手形ヲ有效ト爲シタリ。

(2) 手形金額ノ記載ノ差異ニ付キ其ノ解決方法ヲ改メタルコト。

改正手形法第六條第一項ニ於テハ「爲替手形ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トス」又タ其ノ第二項ニ於テ「爲替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス」ト規定シタリ

舊法即チ商法第四百四十六條ニ於テハ手形ノ主タル部分ト否ラサル部分トヲ區別シ、金額ノ記載ニ差異アルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額ト爲シタリ、我國ニ於テハ通例一定シタル手形用紙ヲ使用スルカ故ニ手形ノ主タル部分ト否ラサル部分トヲ判定スルニ苦マサルヘキモ、手形用紙ヲ以テセサル手形又ハ外國ノ手形等ニ在リテハ時ニ其ノ主タル部分ト否ラサル部分トヲ區別スルコト能ハサル場合アリ、斯ル手形ニ金額ノ抵觸アルトキハ一定ノ手形金額ヲ記載セサル不適法ノモノトシテ之ヲ無効ト爲ササル可カラス、然レトモ手形ヲ無効ト爲ストキハ手形授受者ノ意思ニ反スルノミナラス手形ノ流通性ヲ阻害スルコト少ナカラサルヲ以テ改正手形法ハ前述ノ如ク手形ノ主タル部分ト否ラサル部分トノ區別ニ依ルヲ廢シ、文字ト數字トヲ以テ金額ヲ記載シタル場合ニ差異アルトキハ文字ノ金額ヲ以テ手形金額ト爲シ、又文字ノミヲ以テ若ハ數字ノミヲ以テ重複シテ金額ヲ記載シタルトキハ最も小額ナル金額ヲ以テ手形金額ト爲シ、手形ヲ有效ナラシメ其ノ流通ノ圓滑ヲ圖リタリ。

(3) 無權代理人及ヒ權限ヲ超エタル代理人ノ手形行爲ニ付キ其ノ責任ヲ規定シタルコト。

改正手形法第八條ニ於テハ「代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ら其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス、權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同ジ」ト規定シテ、全ク代理人トシテ爲替手形ニ署名スル權限ヲ有セサル者又ハ代理人トシテ爲替手形ニ署名スル權限ヲ有スル者カ其ノ權限ヲ超エタル手形行爲ヲ爲シタル場合ニ於ケル責任ヲ明ニシタリ。

舊法即チ商法第四百三十六條ハ「代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記載セシテ手形ニ署名シタルトキハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ」ト規定シ、此ノ場合ニ本人ニ手形上ノ責任ナキコトヲ明カニシタルニ止マリ、無權代理人及ヒ權限ヲ超エタル代理人ノ責任ニ付キ何等規定スル所ナカリシヲ以テ、代理人トシテ手形行爲ヲ爲

シタル者ノ責任ニ付テハ多少ノ疑義ヲ免カレサリシモ、改正手形法ニ於テハ前述ノ規定ニ依リ其ノ責任ハ明白ト爲リタリ(本條ノ代理ノ方式及ヒ本人ノ署名ヲ用フル代理ニ關スル説明ハ逐條解釋第八條參看)。

(4) 振出人ノ擔保義務ヲ規定シタルコト。

改正手形法第九條ニ於テ「1振出人ハ引受及支拂ヲ擔保ス—2振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支拂ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス」ト規定シテ、振出人ノ擔保義務及ヒ其ノ範圍ヲ明カニシタリ(本館發行「手形法書式」(一九)ノ書式參看)。

舊手形法ハ爲替手形ノ振出人ノ擔保義務ニ關シテ特ニ明言スル所ナシト雖モ、爲替手形ノ振出人ハ振出ナル手形行爲ニ因リ、受取人及ヒ其ノ後者全員ニ對シテ其ノ引受及ヒ支拂アルヘキコトヲ擔保スル手形上ノ責任ヲ負擔スルコトハ振出人カ是等ノ者ニ對シ支拂人ヲシテ手形ヲ引受ケシメ又ハ支拂ハシムルコトヲ約シタル當然ノ歸結ニシテ敢テ、之ヲ明言スル必要ナシト爲シタルニ因ルヘシ、故ニ手形ノ所持人カ支拂人ニ引受ヲ求メタル場合ニ支拂人カ引受ヲ拒絶シ又ハ單純ナル引受ヲ爲ササルトキ若クハ支拂人カ引受後破産ノ宣告ヲ受ケ自ラ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ振出人ニ對シ引受擔保ノ請求ヲ爲シ得ヘキコトハ第四百七十四條、第四百七十五條及ヒ第四百八十條ニ依リテ明カナルカ故ニ、是等條文ノ裏面解釋トシテ爲替手形ノ振出人ニ引受擔保ノ義務アルコトヲ認メ得ヘク、又タ爲替手形ノ所持人カ滿期日ノ到來後支拂人ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メ、其ノ拒絶アリタルトキハ振出人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ第四百八十六條ニ依リテ明瞭ナルヲ以テ、是亦タ其ノ半面解釋トシテ振出人ニ支拂擔保ノ義務アルコトヲ知ルニ足ルヘシ。

前述ノ如ク改正手形法第九條第一項ハ爲替手形ノ振出人ニ引受及ヒ支拂ノ擔保義務アルコトヲ規定スルト共

ニ、其ノ第二項前段ニ於テ振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載シテ其ノ義務ヲ免カレ得ヘキコトヲ認メタリ、然レトモ爲替手形ノ振出人ハ其ノ性質上支拂ノ擔保義務ハ之ヲ免カルコトヲ得サルモノナルヲ以テ、同第二項後段ニ於テ振出人カ支拂ヲ擔保セザル旨ノ文言ヲ記載スルモ之ヲ記載セザルモノト看做シ、振出人ノ支拂ヲ擔保スル責任ハ之ヲ免カレ得サルモノト爲シタリ。

改正手形法第九條第一項ニハ振出人ノ擔保義務ヲ規定シタルモ、別項ニ於テ説明スルカ如ク引受拒絶ニ因ル舊法第四百七十四條乃至第四百八十條ノ規定、即チ引受ノ拒絶ニ因ル擔保ノ請求ヲ認メサルカ故ニ、振出人カ引受ヲ擔保セザル場合ニ於テハ所持人ハ支拂人カ引受拒絶ヲ爲スト雖モ直チニ振出人ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス、然レトモ所持人カ法定ノ期間内ニ引受拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ特別ノ場合ヲ除クノ外、満期ニ至リ支拂人ニ支拂ノ爲ニ手形ノ呈示ヲ爲サス且ツ支拂拒絶證書ヲ作ラシメシテ振出人ニ對シテ直チニ請求權(償還請求權)ヲ行使スルコトヲ得ルモノト爲シタリ。

但シ前述ノ爲替手形ニ關スル規定ハ約束手形ニ準用スルコトヲ得ス、蓋シ爲替手形ハ振出人カ第三者ヲシテ手形金額ヲ支拂ハシムルコトヲ約スルモノナレトモ、約束手形ハ振出人ニ於テ自ラ手形金額ヲ支拂フヘキコトヲ約スルモノナルニ因リ、振出人ノ地位ハ恰モ爲替手形ノ引受人ト同シク手形ノ主タル債務者ナルカ故ニ、爲替手形ノ振出人ノ擔保義務者タルニ過キサルトハ大ナル差異アルヲ以テナリ。

(5) 白地爲替手形ニ關スル規定ヲ設ケタルコト。

改正手形法第十條ニ於テ「未完成ニテ振出シタル爲替手形ニ豫メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ依リ爲替手形ヲ取得

シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ」ト爲シ、所謂「白地手形」ナルモノヲ認メ、同時ニ其ノ補充權ノ濫用ニ關スル規定ヲ設ケタリ。

改正手形法第十條ニ「未完成ニテ振出シタル爲替手形」トハ所謂「白地手形」ヲ指稱ス、而シテ「白地手形」トハ後日他人ヲシテ手形要件(註II手形要件トハ手形ニ記載スヘキ事項、即チ爲替手形ニ在リテハ第一條ニ列舉シタル事項、又タ約束手形ニ在リテハ第七十五條ニ列舉シタル事項ヲ指ス、詳細ノ説明ハ逐條解釋第一條及ヒ第七十五條參看)ノ全部又ハ一部ヲ補充セシムル意思ヲ以テ、故ラニ要件ヲ記載セザル紙片(註II後日手形要件ノ完備スルニ依リ手形ト爲ルヘキ書面)ニ署名シテ之ヲ振出シタルモノヲ謂フ(本館發行「手形法書式」(三六)ノ書式參看)而シテ振出人カ白地手形ヲ發行スルトキハ之ヲ「白地振出」ト謂ヒ、裏書人カ之ニ署名シタルトキハ之ヲ「白地裏書」ト稱シ(註II無記名式裏書ニアラス、又タ白地式裏書ニモアラス)判例(四八)―詳細ノ説明ハ逐條解釋第十條參看)引受人カ之ニ署名シタルトキハ「白地引受」ト謂ヒ(註II判例(四三)參看)保證人カ之ニ署名シタルトキハ「白地保證」ト謂フ。

多數ノ立法例ハ明文ヲ以テ白地手形ヲ認メタルモノナキモ學說及ヒ判例ハ之ヲ認ム、我舊法ノ解釋ニ於テモ多數ノ學者ハ之ヲ認メタルノミナラス、大審院ノ判例モ亦夙ニ之ヲ是認シタリ、唯之ヲ認ムル根據ニ差異アルニ過キス(詳細ノ説明ハ逐條解釋第十條參看)。

白地手形ノ補充權ノ範圍ハ一ニ當事者ノ契約ニ依リテ定メラル、モノナレトモ、補充權ノ濫用アリタル場合ニ其ノ違反ハ之ヲ以テ手形ノ取得者ニ對抗スルコトヲ得ルヤ否ヤ、本條ハ取得者ノ善意又ハ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リ手形ヲ取得シタルト否トニ依リ其ノ對抗力ヲ定メタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第十條參看)。

(6) 無記名式ノ爲替手形ヲ認メサルコト。

無記名式ノ爲替手形トハ受取人ノ氏名又ハ商號ヲ全ク記載セサルモノニシテ、其ノ手形ノ所持人ヲ手形債權者ト爲ス手形ナリ、換言スレハ支拂ヲ受ケ又ハ支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱ヲ記載セサル手形ヲ謂フ、例之ハ手形ニ「右ノ金額此手形持參人ニ御支拂可被下候也」ト記載スルカ如キモノ是ナリ、而シテ舊法第四百四十九條ハ手形金額三十圓以上ノモノニ限リ此ノ手形ヲ認メタルモ、改正手形法ハ無記名式ノ爲替手形ニ關シ舊法ニ於ケルカ如キ規定ナク且ツ特別ノ明文ナキヲ以テ爲替手形ニハ第一條ニ其ノ記載事項ノ一種トシテ擧ケタル第六號ノ「支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱」ヲ記載スルコトヲ要スルモノニシテ、此ノ記載ヲ缺ク所謂無記名式ノ爲替手形ヲ認メサルモノト解セサル可カラズ、蓋シ無記名式手形ハ裏書ヲ要セス手形ノ交付ノミニ依リテ移轉シ、單ニ其ノ所持人ヲ以テ手形債權者ト爲スカ故ニ、其ノ流通甚タ容易ニシテ利便ナルコト勿論ナレトモ、其ノ流通作用ハ殆ント通貨ニ於ケルカ如キヲ以テ、國家ノ通貨發行權ヲ侵害スル虞レナシトセス、故ニ改正手形法ハ斯ノ點ニ留意シ無記名式ノ爲替手形ヲ認メサルモノトセリ。

茲ニ注意ヲ要スルハ振出人カ爲替手形ニ記載スヘキ要件ノ一種タル「支拂ヲ受ケ又ハ支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱」ヲ他人ヲシテ補充(記載)セシムル意思ヲ以テ、故ラニ之ヲ記載セスシテ振出シタル白地爲替手形(未完成ノ爲替手形)ナリ、白地手形ハ第十條ノ規定ニ依リ之ヲ振出シ得ルコトハ前項(5)ニ於テ説明シタルカ如クナルモ、此ノ手形ハ其ノ要件ノ補充(記載)ニ依リテ始メテ爲替手形タル效力ヲ發生スルモ、其ノ要件ノ補充(記載)ヲ爲ササル以前ハ未タ爲替手形タル效力ヲ生セサルヲ以テ、無記名式ノ爲替手形ノ如ク受取人ノ氏名又ハ商號ノ記載ヲ缺クモ爲替手形トシテ效力ヲ有スルモノト異ナル、從テ未完成ノ爲替手形ヲ指シテ無記名式ノ

手形ト謂フコトヲ得サルハ言フヲ俟タス。

(7) 記名持參人拂ノ爲替手形ヲ認メサルコト。

改正手形法ハ第一條ノ爲替手形ノ要件中第六號ニ於テ「支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱」ヲ記載スヘキモノト爲シタルニ因リ、爲替手形ヲ記名式又ハ指圖式ニテ振出スコトヲ得ルハ勿論ナレトモ、舊法第四百四十九條ノ二ノ如キ所謂記名持參人拂ニ關スル規定ヲ設ケサルヲ以テ、改正手形法ニ於テハ記名持參人拂ノ手形ノ振出ヲ認メス、蓋シ記名持參人拂ノ手形ハ無記名式ノ手形ト同一ノ作用ヲ爲スニ因リ、其ノ弊害モ亦タ無記名式ノモノト同様ナリ、從テ改正手形法ハ無記名式ノ手形ヲ認メサル結果トシテ記名持參人拂ノ手形モ亦タ之ヲ認メサルモノト爲シタリ。

(8) 支拂擔當者ノ記載ヲ認メサルコト。

改正手形法ハ舊法ニ於ケルカ如キ支拂擔當者ヲ認メス、故ニ振出人ハ手形ニ支拂擔當者ヲ記載スルコトヲ得ズ從テ之ヲ記載スルモ其ノ記載ハ手形上ノ效力ヲ生セス、改正手形法第四條ニ於テ「爲替手形ハ支拂人ノ住所地在ルト又ハ其ノ他ノ地在ルトヲ問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得」又タ第二十七條ニ於テハ「振出人ガ支拂人ノ住所地下異ル支拂地ヲ爲替手形ニ記載シタル場合ニ於テ第三者方ニテ支拂ヲ爲スベキ旨ヲ定メザリシトキハ支拂人ハ引受ヲ爲スニ當リ其ノ第三者ヲ定ムルコトヲ得之ヲ定メザリシトキハ引受人ハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス義務ヲ負ヒタルモノト看做ス」ト規定シタルニ因リ(本館發行「手形法書式」(一七、一八)ノ書式參看)舊法ノ如ク支拂擔當者ノ記載ヲ認メタルカ如シト雖モ、此ノ規定ヲ以テ支拂擔當者ヲ定メタルモノトスルトキハ所持人カ支拂擔當者ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲サザリシ場合ニ於テ舊手形法第四百七十二條第二

項ノ如キ效果ヲ定ムル規定ヲ必要トス、又タ所持人カ請求權ヲ行使スルニ際シ同第四百九十條ノ如キ支拂擔當者ニ支拂ノ爲ニ呈示スヘキ旨及ヒ其ノ呈示ヲ爲サザリシ效果ヲ規定セサルヘカラス、然ルニ改正手形法ニ於テハ第四條及ヒ第二十七條ノ記載ニ對シ舊法ノ如キ規定ナキヲ以テ、同條ノ記載ハ之ヲ以テ支拂擔當者ヲ認メタルモノト爲スコトヲ得ス、唯タ振出人カ第三者方ニテ支拂ヲ旨ヲ記載セサルトキ支拂人ハ引受ヲ爲スニ當リ其ノ第三者ヲ定ムルコトヲ得ルニ過キス(詳細ノ説明ハ逐條解釋第四條及ヒ第二十七條參看)。

第二 裏書ニ關スル改正要點

(1) 振出人カ指圖禁止ヲ記載シタル場合ニ於ケル證券ノ讓渡ノ方式及ヒ效力ヲ規定シタルコト。

改正手形法第十一條第二項ニ於テ「振出人カ爲替手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ(本館發行「手形法書式」(七、八)ノ書式參看)其ノ證券ハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スコトヲ得」ト規定シ、此ノ場合ニ於ケル證券ノ讓渡ハ民法第四百六十六條乃至第四百六十八條ノ指名債權ノ讓渡ニ關スル規定ニ依リテ之ヲ爲スヘク、且ツ其ノ讓渡ノ效力モ亦タ指名債權ノ讓渡ノ規定ニ依ルヘキコトヲ明ニスルト共ニ、其ノ半面ニ於テ其ノ證券ノ裏書讓渡ヲ否認シ、又其ノ效力モ手形法ニ依ルヘキモノニ非ラサルコトヲ明カニシタリ。

舊法即チ商法第四百五十五條但書ニ於テハ「但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス」ト規定シ、振出人カ裏書禁止ヲ記載シ得ルコトヲ認メタルモ、其ノ手形ノ讓渡ノ方式及ヒ其ノ效力ニ付テハ何等規定スル所ナシ、然レトモ同條ノ裏面解釋トシテ其ノ手形ノ讓渡ノ方式及ヒ效力ハ民法ノ指名債權讓渡ノ規定ニ依ルキハ當然ナリ、故ニ特ニ明文ヲ必要トセサルカ如キモ、此ノ點ニ關スル條約國ノ立法例ニハ我國ニ於ケル解

釋ト異ナル規定ヲ設ケタルモノアリシヲ以テ、改正手形法ハ明文ヲ設ケテ之ヲ統一シタリ。

(2) 一部裏書ノ無効ナルコトヲ規定シタルコト。

改正手形法第十二條第一項ニ於テ「裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス」ト爲シ、第二項ニ於テハ「一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス」ト規定シタリ、蓋シ手形ノ裏書ハ其ノ目的ヨリ區別スルトキハ讓渡裏書、取立裏書及ヒ質入裏書(註ニ質入裏書ハ改正手形法ニ於テ之ヲ認メタリ、別項(8)參看)ノ三種アリト雖モ、何レモ裏書人カ單純ニ被裏書人ニ手形上ノ權利ヲ行使スル資格ヲ與フル意思ヲ以テ爲スヘキモノナルカ故ニ、此ノ意義ヲ阻害スルカ如キ條件ヲ附スルコトヲ許サス、若シ裏書ニ條件ヲ附シタルトキハ之ヲ記載セサルモノト看做シテ條件ノミヲ無効ト爲シ裏書ヲ有效ト爲スヲ相當トス、又タ手形金額ノ一部ヲ讓渡スル裏書即チ一部裏書ハ手形ノ性質及ヒ作用ヲ阻害スルヲ以テ之ヲ無効ト爲シタリ。

舊法即チ商法ニ於テハ條件附裏書及ヒ一部裏書ニ付キ明文ヲ缺キタルニ因リ、條件附裏書ニ關シテハ或ハ條件ノミヲ無効ト爲シ裏書ヲ有效ト爲スヘシト謂ヒ、或ハ條件及ヒ裏書ヲモ無効ト爲スヘシト謂ヒ學說ノ岐レタル所ナリ、一部裏書ニ關シテハ手形ノ性質、作用及ヒ特別ノ明文ナキ點ヨリ學者ハ何レモ其ノ裏書ヲ無効ト爲スニ一致セリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第十二條參看)。

(3) 記名式裏書ニ關スル年月日ノ記載ヲ其ノ要件ト爲ササルコト。

改正手形法第十三條ニ於テハ裏書ノ方式ヲ記名式裏書及ヒ白地式裏書ノ二種ト爲シ(本館發行「手形法書式」參看)記名式裏書ニハ被裏書人ヲ記載シ裏書人之ニ署名スルコトヲ要スルモノト爲シタルモ、舊法即チ商法第四百五十七條第一項ノ如ク「裏書ノ年月日」ヲ記載スヘキモノト爲サス、且ツ第二十條第二項ニ於テ「日附ノ記載ナ

キ裏書ハ……推定ス」ト規定シタルヲ以テ、改正手形法ハ記名式裏書ニ裏書ノ年月日ノ記載ヲ其ノ要件ト爲ササルモノト解セサルヲ得ス、然レトモ裏書ノ年月日ノ記載ハ之ヲ裏書ノ要件ト爲ササルニ止マリ、之ヲ記載スルトキハ手形上ノ効力ヲ生スヘキコトハ第二十条第二項ノ規定ニ依リテ明カナリ、而シテ裏書ノ年月日ハ手形行爲能力ノ有無又ハ支拂停止ノ前後ヲ判定スル資料ト爲ルヘキヲ以テ、之ヲ記載スルニ依リテ利益ヲ受クルコトアルハ言フヲ俟タス（本館發行「手形法書式」ニ於テハ裏書ニ其ノ日附ヲ記載スル書式ヲ示シタリ）。

(4) 手形ノ裏面又ハ補箋ニノミ爲スヘキ白地式裏書ヲ認メタルコト。

裏書ノ記載ハ通例手形ノ裏面ニ爲スト雖モ、法律上必スシモ手形ノ裏面ノミニ之ヲ爲スコトヲ要セス、手形ノ表面ニ爲スモ裏書タルコトヲ認ムルニ足ルトキハ裏書トシテ有效ナリ（本館發行「手形法書式」(三八)ノ書式參看）然レトモ改正手形法ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲ス白地式裏書ハ手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニアラサレハ其ノ効力ヲ有セサルモノト爲シタリ、即チ改正手形法第十三條第二項ニ於テ「裏書ハ……又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得（白地式裏書）此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ爲替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレハ其ノ効力ヲ有セス」ト規定シタリ、故ニ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲ス白地式裏書ハ必ス手形ノ裏面ニ之ヲ爲スカ又ハ補箋ニ之ヲ爲ササルヘカラス（同上(四二)ノ書式參看）蓋シ裏書連續ノ原則上白地式裏書ニ次テ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト看做ス（第十六條第一項後段）ヲ以テ、斯ク看做スニ付テハ手形ノ裏面又ハ其ノ補箋ニ爲シタル裏書ノ記載ヲ以テ正シキモノト爲シタル結果ニ外ナラス。

(5) 裏書ニ依ル手形上ノ權利ノ移轉力ヲ規定シタルコト。

改正手形法第十四條第一項ニ於テ「裏書ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス」ト規定シ、裏書ニ依リテ手形上ノ權利ハ裏書人ヨリ被裏書人ニ移轉スルコトヲ明カニシタリ、舊法即チ商法ニハ斯カル明文ナカリシヲ以テ、所謂裏書ノ移轉力ハ手形上ノ權利ノ移轉ヲ意味スルニ非スシテ、手形ノ所有權ノ移轉ヲ意味スルモノト解シタル爲メ、被裏書人ハ手形ノ所有權ヲ承繼的ニ取得スルト共ニ、手形上ノ權利ヲ原始的ニ取得スルモノト解スル者多カリシモ、改正手形法ニ於テハ前述ノ如ク裏書ニ依リ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ハ裏書人ヨリ被裏書人ニ移轉スルモノト爲シタリ（詳細ノ説明ハ逐條解釋第十四條參照）。

(6) 裏書人ノ擔保義務ヲ規定シタルコト。

改正手形法第十五條第一項ニ於テ「裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り引受及支拂ヲ擔保ス」ト規定シ、裏書人ハ原則トシテ爲替手形ノ引受及支拂ニ付キ擔保義務ヲ負擔スヘキコトヲ明ニシタリ、蓋シ手形ノ裏書ハ反對ノ文言ノ記載ナキ限り裏書人ハ被裏書人及ヒ其ノ後者全員ニ對シ、手形金額ノ支拂アルヘキコトヲ擔保シ、其ノ支拂ナキ場合ニ於テ遡求ニ應スル義務ヲ負擔スル行爲ナルヲ以テナリ、而シテ裏書人カ支拂擔保義務ヲ負擔スル結果トシテ引受擔保義務ヲ負擔スヘキハ當然ナリ、舊法即チ商法ニ於テハ引受及ヒ支拂擔保ニ關スル特別ノ規定ナキヲ以テ、償還請求權ノ規定ニ依リテ間接ニ之ヲ認ムルコトヲ得ルニ過キス。

改正手形法第十五條第一項ハ「裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り引受及支拂ヲ擔保ス」ト規定スルカ故ニ、舊法即チ商法第四百五十九條ノ如キ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ノ裏書、即チ無擔保裏書ヲ認ムヘキヤ否ヤ、改正手形法ニ於テハ商法第四百五十九條ニ類似ノ規定ナク、且ツ第十五條第二項ニ於テ新ナル裏書ヲ禁止スル裏書ヲ認メ此ノ裏書ノ場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ手形ノ爾後ノ被裏書人ニ對シ擔保義務ヲ負ハサル旨ヲ規定スルニ過キササルヲ

以テ、無擔保裏書ヲ認ムヘキヤ否ヤニ關シテ多少ノ疑問アリ、然レトモ第十五條第一項ハ「反對ノ文言ナキ限り云々」ト規定シタル結果、其ノ半面解釋ニ依リ裏書人ハ引受及ヒ支拂ヲ擔保セサル反對ノ文言ヲ以テ引受及ヒ支拂ノ擔保義務ヲ負擔セサルコトヲ得ルモノト解セサル可カラズ、從テ商法第四百五十九條ノ如キ明文ナキモ、第十五條第一項ニ依リ無擔保裏書ヲ認メタルモノト謂フ可シ。

(7) 人的關係ニ基ク抗辯ノ對抗力ヲ規定シタルコト。

改正手形法第十七條ニ於テハ「爲替手形ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ他所持人ノ前者ニ對スル人的關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知りテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ」ト規定シ、人的抗辯ハ手形ノ直接ノ當事者ニ在リテハ之ヲ對抗スルコトヲ得ルモ、間接ノ當事者ニ在リテハ之ヲ對抗シ得サルコトヲ原則ト爲スト共ニ、例外トシテ惡意ノ抗辯即チ所持人カ債務者ヲ害スルコトヲ知りテ手形ヲ取得シタルトキハ之ヲ對抗シ得ヘキコトヲ明ニシタリ。

本條ノ說明ハ逐條解釋ニ於テ詳述シタルヲ以テ、茲ニハ人的抗辯及ヒ惡意ノ抗辯ノ如何ナルモノナリヤ一言スルニ止ム、(一)人的抗辯トハ手形債務者カ其ノ所持人ニ對シテ直接ニ對抗スルコトヲ得ル抗辯ヲ謂フ、例之ハ振出原因ノ欠缺、債務ノ免除、相殺、交互計算等ノ如シ、(二)惡意ノ抗辯トハ前者ニ對スル人的抗辯權ノ存在ヲ知りテ手形ヲ取得シタル所持人ニ對スル抗辯ヲ謂フ、例之ハ債務免除ノ事實ヲ知りテ手形ノ裏書ヲ受ケタル所持人ニ對シ、同一ノ抗辯即チ債務免除ヲ以テ對抗スルコトヲ得ルカ如シ。

舊法即チ商法ハ手形抗辯ニ關シ第四百四十四條及ヒ第四百四十一條ヲ設ケタルモ、所謂人的抗辯及ヒ惡意ノ抗辯ニ付キ明瞭ヲ缺キタルヲ以テ、理論ニ依リ之ヲ判定セサル可カラザリシモ、改正手形法ハ第十七條ヲ以テ斯點ヲ

明確ナラシメタリ。

(8) 取立委任裏書ノ效力ヲ規定シタルコト。

改正手形法第十八條第一項ニ於テ「裏書ニ「回收ノ爲」、「取立ノ爲」、「代理ノ爲」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ爲ノ裏書ノミヲ爲スコトヲ得」ト爲シ、其ノ第二項ニ「前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗スルコトヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ベカリシモノニ限ル」トシ、其ノ第三項ニ「代理ノ爲ノ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ死亡又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ終了セズ」ト規定シ取立委任裏書ノ效力ヲ明ニセリ。(書式(五七、五八)參看)。

舊法即チ商法ハ第四百六十三條ニ於テ取立委任裏書ニ關スル規定ヲ設ケタルモ、取立委任裏書ノ方式及ヒ被裏書人カ更ニ取立ノ目的ヲ以テ裏書スルコトヲ得ル旨ヲ明カニシタルニ止マリ、取立委任裏書ノ效力ニ關スル規定ナキニ因リ、債務者ノ所持人ニ對スル抗辯權ニ付テハ取立委任裏書ノ理論ヨリ判斷スルノ外ナク、又タ委任者ノ死亡シタル場合ニハ委任ノ終了スルヤ否ヤハ商行爲編ノ代理ニ關スル規定ニ依リテ之ヲ判斷シタルモ、改正手形法ハ是等ノ點ニ關シ明文ヲ設ケテ其ノ疑義ヲ避ケタリ(詳細ノ說明ハ逐條解釋第十八條參看)。

(9) 買入裏書ヲ認メタルコト。

改正手形法第十九條ニ於テ「裏書ニ「擔保ノ爲」、「買入ノ爲」其ノ他質權ノ設定ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ノ爲シタル裏書ハ代理ノ爲ノ裏書トシテノ效力ノミヲ有ス」債務者ハ裏書人ニ對スル人的關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知りテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ」ト規定シ、手形ニ買入裏書ヲ爲シ得ル

コトヲ認ムルト同時ニ買入裏書アル手形ノ所持人ノ權利及ヒ人的關係ニ基ク抗辯即チ人的抗辯及ヒ惡意ノ抗辯ニ關スル明文ヲ設ケタリ。

擔保ノ爲ニスル裏書即チ買入裏書トハ手形ニ質權ヲ設定スル目的ヲ以テ其ノ文言ヲ記載シタル裏書ヲ謂フ(本館發行「手形法書式」(五九、六〇)ノ書式參看)我商法手形編(明治三十二年法律第四十八號)ハ買入裏書ヲ認メタルモ明治四十四年法律第七十三號ヲ以テ改正ノ際其ノ規定ヲ削除セリ、然レトモ其ノ後實業界ニ於テ買入裏書制度ノ復活ヲ望ム者多ク、又タ條約國中ニハ買入裏書ノ制度ヲ採用スル國アリ、而シテ之ヲ統一スルニハ該制度ヲ採用スルヲ至當ト爲シ改正手形法ハ之ヲ規定シタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第十九條參看)。

(10) 満期後ノ裏書ノ效力ヲ規定シタルコト。

改正手形法第二十條第一項ニ於テ「満期後ノ裏書ハ満期前ノ裏書ト同一ノ效力ヲ有ス但シ支拂拒絶證書作成後ノ裏書又ハ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書ハ指名債權ノ讓渡ノ效力ノミヲ有ス」ト規定シ、満期後ニ於ケル裏書(本館發行「手形法書式」(六一)ノ書式參看)ノ效力ニ付キ明文ヲ設ケルト共ニ、其ノ第二項ニ於テハ「日附ノ記載ナキ裏書ハ支拂拒絶證書作成期間經過前ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス」ト爲シ、裏書ニ其ノ日附ノ記載ヲ要件トセサル改正手形法ニ於ケル日附ノ記載ナキ裏書ニ付キ裏書時期推定ノ規定ヲ設ケタリ。

舊法即チ商法第四百六十二條ニ於テ満期日後ノ裏書ニ付キ規定シタルモ、同條ハ單ニ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書ニ付テノミ其ノ效力ヲ定メタルニ過キスシテ、支拂拒絶證書作成期間經過前ノ裏書、即チ満期後ノ裏書及ヒ支拂拒絶證書作成後ノ裏書ニ付テノ效力ヲ規定セサルヲ以テ、其ノ被裏書人ハ如何ナル權利ヲ取得スヘキヤニ關シテ疑問ノ存シタル所ナリシモ、改正手形法第二十條ニ依リ是等ノ疑問ヲ解決スルコトヲ得タリ(詳細

ノ説明ハ逐條解釋第二十條參看)。

第三 引受ニ關スル改正要點。

(1) 振出人ノ引受呈示期間ノ決定、呈示禁止ノ決定及ヒ裏書人ノ呈示期間ノ決定ヲ認メタルコト。

(A) 改正手形法第二十二條第一項ニ於テ「振出人ハ爲替手形ニ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ爲之ヲ呈示スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得」ト規定シ、爲替手形ノ引受ニ付キ振出人カ呈示スヘキ旨ヲ記載シ得ルコトヲ認ム(本館發行「手形法書式」(二〇)ノ書式參看)蓋シ振出人ハ手形ノ創造者ニシテ引受及ヒ支拂ヲ擔保スル者ナルカ故ニ、引受ニ付キ前述ノ記載ヲ爲シ得ルモノトスルヲ至當トス、舊法即チ商法第四百六十六條ニ於テハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テノミ振出人ハ單ニ呈示期間ヲ短縮シ得ルコトヲ認メタルニ止マリ、其ノ他ノ爲替手形ニ付テハ何等ノ規定モ無カリシ所ナリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第二十條參看)。

(B) 同條第二項ニ於テ「振出人ハ手形ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ズル旨ヲ記載スルコトヲ得但シ手形ガ第三者方ニテ若ハ支拂人ノ住所地ニ非ザル地ニ於テ支拂フベキモノナルトキ又ハ一覽後定期拂ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ」ト規定シ、特別ノ場合ノ外振出人ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁止スル旨ヲ記載シ得ルコトヲ認メタリ(本館發行「手形法書式」(二二)ノ書式參看)蓋シ改正手形法ハ別項ニ於テ述フルカ如ク引受ノ拒絶ニ依ル擔保ノ請求權ヲ認メサルヲ以テ、振出人ニ引受ノ呈示禁止ノ記載ヲ爲サシムルモ所持人ノ權利ヲ害スルコトナキニ因ル、然レトモ手形カ第三者方ニテ支拂フヘキモノナルトキ若クハ支拂人ノ住所地ニ非サル地ニ於テ支拂フヘキモノナルトキハ支拂人ハ常ニ其ノ場所ニ在ラサルカ故ニ引受ノ爲メニ呈示ヲ爲サシムル必要アリ、又タ手形カ一覽後定期拂ナルトキハ第二十三條ニ依リ一定ノ期間内ニ引受ノ爲メニ呈示スルコトヲ要スルカ故ニ、此等ノ場合ニ

於テハ振出人ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁スル旨ヲ記載スルコトヲ得ス、前述ノ規定ハ舊法即チ商法ニハ全ク存在セズ、改正手形法ニ依リ新ニ認メラレタル規定ナリ。

(C) 同條第三項ニ於テ「振出人ハ一定ノ期日前ニハ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲スベカラザル旨ヲ記載スルコトヲ得」ト規定シ、爲替手形ノ引受ニ付キ振出人カ或ル期日前ノ呈示禁止ノ記載ヲ爲シ得ルコトヲ認ム(本館發行「手形法書式」(二三)ノ書式參看)前項前段ハ引受呈示ノ絶對的禁止ノ規定ナルモ、本項ハ相對的ノ引受呈示禁止ノ規定ナリ、蓋シ振出人ハ支拂人トノ資金關係等ヨリ一定ノ期日前ニハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁止スル必要アリ、然カモ呈示禁止ニ依リ所持人ノ權利ヲ害スル虞レナキヲ以テナリ、本項ノ規定モ亦タ改正手形法ニ依リ初メテ認メラレタル所ナリ。

(D) 同條第四項ニ於テ「各裏書人ハ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ爲手形ヲ呈示スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得但シ振出人ガ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ」ト規定シ、各裏書人ハ振出人カ爲替手形ニ引受呈示ノ禁止ヲ記載シタル場合ノ外、期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受呈示ノ記載ヲ爲シ得ルコトヲ認ム(同上(六二、六三)ノ書式參看)本項ノ規定モ改正手形法ニ於テ初メテ認メラレタルモノナリ。

(2) 振出人ノ一覽後定期拂手形ノ引受呈示期間ノ短縮、伸長及ヒ裏書人ノ期間ノ短縮ヲ認メタルコト。
改正手形法第二十三條ニ於テ「一覽後定期拂ノ爲替手形ハ其ノ日附ヨリ一年內ニ引受ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス」2 振出人ハ前項ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得—3 裏書人ハ前二項ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得—ト規定シ、振出人ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付キ引受呈示ノ期間ヲ自由ニ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得ルノミナラス、裏書人モ其ノ日附ヨリ一年內ノ期間及ヒ振出人ノ短縮シ又ハ伸長シタル期間ヲ短縮シ得ルコトヲ認ム、

(本館發行「手形法書式」(六四)ノ書式參看)舊法即チ商法第四百六十六條ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付キ振出人ニ於テ其ノ引受ノ呈示期間ヲ短縮シ得ルコトヲ認メタルニ過キスシテ其ノ期間ヲ伸長スルコトヲ認メズ、又タ裏書人ノ期間ノ短縮モ認メザリシ所ナリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第二十三條參看)。

(3) 支拂人ノ第二ノ呈示ノ請求ヲ認メタルコト。

改正手形法第二十四條第一項ニ於テ「支拂人ハ第一ノ呈示ノ翌日ニ第二ノ呈示ヲ爲スベキコトヲ請求スルコトヲ得利害關係人ハ此ノ請求ガ拒絕證書ニ記載セラレタルトキニ限り之ニ應ズル呈示ナカリシコトヲ主張スルコトヲ得」ト規定シ、支拂人ニ最初ノ呈示ノ翌日ニ第二ノ呈示ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スル權利ヲ與ヘ、利害關係人ニ於テ所持人カ支拂人ノ請求シタル第二ノ呈示ナカリシコトヲ主張スルニハ支拂人ノ第二ノ呈示ノ請求カ引受拒絕證書ニ記載セラレタル場合ニ限ルモノト爲シタリ、蓋シ支拂人カ最初ニ引受ノ呈示ヲ受ケタル場合ニ引受ヲ爲ササルモ、其ノ翌日ニ引受ヲ爲スニ於テハ所持人ニ不利益ヲ來スコトナカルヘキヲ以テ、支拂人ニ第二ノ呈示ヲ請求シ得ルコトヲ認ム、而シテ利害關係人ニ於テ所持人カ第二ノ呈示ニ應セザリシコトヲ主張シ得ル場合ハ支拂人ノ第二ノ呈示ノ請求カ拒絕證書ニ記載セラレタルトキニ限ルモノト爲セリ(詳細ハ逐條解釋第二十四條參看)。

支拂人ハ第一ノ呈示ノ翌日ニ第二ノ呈示ヲ爲スヘキコトヲ請求シ得ルハ前項ニ規定スルカ如シ、而シテ此ノ場合ニ所持人ハ第二ノ呈示ニ於テ支拂人ヲシテ引受ノ記載ヲ爲サシムル爲メニ第一ノ呈示ノ日ニ手形ヲ支拂人ニ交付スルコトヲ要スルヤ、換言スレハ支拂人ハ第一ノ呈示ノ日ニ呈示セラレタル手形ヲ其ノ翌日ニ爲スヘキ引受ノ記載ノ爲ニ交付スヘキコトヲ請求シ得ルヤ否ヤ、此ノ點ニ關シ同條第二項ハ「所持人ハ引受ノ爲ニ呈示シタル手形ヲ支拂人ニ交付スルコトヲ要セズ」ト規定シタルニ因リ、所持人ハ第一ノ呈示ノ日ニ呈示シタル手形ヲ其ノ翌

日ニ爲スヘキ支拂人ノ引受ノ記載ヲ爲スカ爲ニ交付シ置クコトヲ必要トセス、蓋シ支拂人カ第二ノ呈示ニ於テ果シテ引受ヲ爲スヤ否ヤハ明カナラサルノミナラス、支拂人ニ手形ヲ交付スルトキハ危險ナルヲ以テナリ（詳細ノ説明ハ逐條解釋第二十四條參看）。

(4) 引受ノ抹消ヲ認メタルコト。

改正手形法第二十九條第一項ニ於テ「爲替手形ニ引受ヲ記載シタル支拂人ガ其ノ手形ノ返還前ニ之ヲ抹消シタルトキハ引受ヲ拒ミタルモノト看做ス抹消ハ證券ノ返還前ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス」ト規定シ、支拂人カ一且爲替手形ニ引受ノ記載ヲ爲スモ、手形ヲ所持人ニ返還スル以前ニ其ノ引受ヲ抹消シタルトキハ引受ヲ拒絶シタルモノト看做シ支拂人ノ引受ノ撤回ヲ認ムルト共ニ、引受ノ抹消ハ手形ノ返還前ニ之ヲ爲シタルモノト推定シ、反對ノ證據ニ依リ引受ノ抹消カ手形ノ返還後ニ爲サレタルコトヲ證明スルニ於テハ其ノ抹消ハ引受ノ拒絶ト爲ラサルコトヲ明カニシタリ、舊法即チ商法ニ於テハ此ノ點ニ關スル明文ナカリシヲ以テ學說ノ岐レタル所ナリ（詳細ノ説明ハ逐條解釋第二十九條參看）。

(5) 手形以外ノ書面ニ依リ引受ヲ認メタルコト。

改正手形法第二十九條第二項ニ於テ「前項ノ規定ニ拘ラズ支拂人ガ書面ヲ以テ所持人又ハ手形ニ署名シタル者ニ引受ノ通知ヲ爲シタルトキハ此等ノ者ニ對シ引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ」ト規定シ、支拂人カ引受ヲ抹消シタルニ拘ハラズ更ニ書面ヲ以テ所持人又ハ裏書人、振出人等手形ニ署名シタル者ニ對シ、手形ノ引受ヲ爲スヘキ旨ヲ通知シタルトキハ（本館發行「手形法書式」七六ノ書式參看）其ノ通知ヲ爲シタル者ニ對シテハ其ノ文言ニ從テ手形上ノ責任ヲ負フヘキコト認メタリ、本項ノ規定ハ手形ノ引受ハ之ヲ手形ニ爲スヘキコトヲ原則トスル

第二十五條ニ對スル例外ニシテ、其ノ引受ヨリ生スル責任ハ單ニ支拂人カ書面ヲ以テ引受ノ通知ヲ爲シタル所持人又ハ裏書人ニ對シテノミ其ノ引受ノ文言ニ從テ之ヲ負フニ止マリ、引受ノ通知ヲ爲ササル者ニ對シテハ引受ノ效力ヲ生セス、蓋シ支拂人ハ手形取引ノ關係上手形ニ引受ヲ爲シ所持人及ヒ裏書人全員ニ對シテ主タル債務者タルコトヲ欲セサルモ、單ニ所持人又ハ或ル裏書人ニ對シテノミ主タル債務者タルコトヲ欲スル場合アルヘク、而シテ手形ノ引受ヲ爲スヤ否ヤハ支拂人ノ自由ナルヲ以テ此ノ例外規定ヲ設ケタリ、故ニ舊法即チ商法ノ主義ニ於テ手形ノ引受ハ一切手形面ニ記載シタル事項ニ依リテ之ヲ判定スヘク手形以外ノ書面ヲ以テ引受ノ效力ヲ左右スルコトヲ許ササルモノト爲セル主義トハ其ノ趣旨ヲ異ニスルコトニ注意セサル可カラス（詳細ノ説明ハ逐條解釋第二十九條參看）。

第四 保證ニ關スル改正要點

(1) 手形金額ノ一部ノ保證ヲ認メタルコト。

改正手形法第三十條第一項ニ於テ「爲替手形ノ支拂ハ其ノ金額ノ全部又ハ一部ニ付保證ニ依リ之ヲ擔保スルコトヲ得」ト規定シ、手形ノ保證ハ手形金額ノ全部ニ付テハ勿論、其ノ一部ニ付テモ之ヲ爲シ得ルコトヲ認ム（本館發行「手形法書式」七八ノ書式參看）舊手形法即チ商法モ亦タ手形ノ保證ヲ認メタルモノ一部ノ保證ニ付キ明文ヲ缺キタルカ故ニ、振出人ノ爲ニ保證ヲ爲スト又タ引受人ノ爲ニ保證ヲ爲ストニ拘ラス一部ノ保證ヲ認メサルヲ通説トス、然レトモ一部ノ保證ト雖モ其ノ部分ニ付テハ保證セラレタル者（被保證人）ト同一ノ責任ヲ負ヒ、手形ノ支拂ヲ擔保スルヲ以テ手形ノ流通上一部ノ保證ヲ認ムル必要アリ、茲ニ於テ改正手形法ハ手形取引ノ實際ニ鑑ミテ一部ノ保證ヲ認メタリ（詳細ノ説明ハ逐條解釋第三十條參看）。

(2) 手形ニ署名シタル者力保證ヲ爲シ得ルコトヲ規定シタルコト。

改正手形法第三十條第二項ニ於テ「第三者ハ前項ノ保證ヲ爲スコトヲ得手形ニ署名シタル者ト雖モ亦同ジ」ト規定シ、手形ニ關係ナキ第三者カ手形ノ保證ヲ爲シ得ルハ勿論、手形ニ署名シタル者即チ振出人、裏書人、引受人ト雖モ亦タ保證ヲ爲シ得ルコトヲ明ニシタリ(本館發行「手形法書式」(八〇)ノ書式參看)舊法即チ商法ニ於テハ手形署名者ノ保證ニ關スル特別ノ明文ナカリシモ學說ハ一般ニ之ヲ認メタリ(詳細ハ逐條解釋第三十條參看)。

(3) 手形ノ表面ニ爲シタル單ナル署名ヲ保證ト看做シタルコト。

改正手形法第三十一條第三項ニ於テ「爲替手形ノ表面ニ爲シタル單ナル署名ハ之ヲ保證ト看做ス但シ支拂人又ハ振出人ノ署名ハ此ノ限ニ在ラズ」ト規定シ、支拂人又ハ振出人ノ署名ノ外保證ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載セサル單純ナル署名アルトキハ之ヲ保證ト看做シタリ、蓋シ爲替手形ノ表面ニ保證ト同一ノ意義ヲ有スル文字ノ記載ヲ爲サスト雖モ、單純ナル署名ヲ爲シタル者アルトキハ通例保證ノ目的ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト解シ得ルカ故ニ、其ノ署名ヲ無意味ノモノトシテ無効ト爲スヨリモ、寧ロ其ノ署名ニ保證ノ效力ヲ與フルヲ適當ト認メ前述ノ如ク規定シタリ、故ニ爲替手形ノ裏面ニ單純ナル署名アル場合ニ於テ之ヲ白地式裏書ト認ムヘキヤ否ヤハ格別、其ノ署名ハ爲替手形ノ裏面ニ在リテ表面ニ在ラサルヲ以テ之ヲ保證ト看做スコト能ハサルハ勿論ナリ、舊法即チ商法ニ於テハ上述ノ點ニ關シ何等ノ規定ヲ設ケザリシ所ナリ(詳細ノ說明ハ逐條解釋第三十一條參看)。

(4) 保證セラレタル者ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲メノ保證ト看做シタルコト。

改正手形法第三十一條第四項ニ於テ「保證ニハ何人ノ爲ニ之ヲ爲スカラ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス」ト規定シ、爲替手形ノ保證ヲ爲ス者ハ其ノ保證セララルル被保證人即

チ振出人又ハ裏書人若ハ引受人等ノ何レカヲ表示スヘキモノト爲シ(本館發行「手形法書式」(七七)以下ノ書式參看)タルト共ニ、其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ保證ヲ爲シタルモノト看做シタリ、蓋シ爲替手形ノ振出人ハ支拂人ニ於テ其ノ引受ヲ爲スト否トニ拘ラス、最終ノ支拂擔保義務者ナルヲ以テ保證カ何人ノ爲ニ爲サレタルカ不明ナル場合ニ於テハ之ヲ振出人ノ爲ニ爲シタルモノト看做スヲ至當ト爲シタルニ因ル。

舊法即チ商法第四百九十八條ニ於テハ何人ノ爲ニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ爲替手形ノ引受ノ有無ニ依リテ之ヲ區別シ、引受アリタルトキハ引受人ノ爲メニ、引受アラザリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做スト雖モ、改正手形法ハ前述ノ如ク引受ノ有無ヲ問ハス振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做シタリ(詳細ノ說明ハ逐條解釋第三十一條參看)。

(5) 保證人力支拂ヲ爲シタルトキハ獨立ノ權利ヲ取得スルモノト爲シタルコト。

改正手形法第三十二條第三項ニ於テ「保證人ガ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタルトキハ保證セラレタル者及其ノ者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス」ト規定シタルヲ以テ、保證人ハ舊法即チ商法ニ於ケルカ如ク所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其ノ前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得スルモノニアラスシテ、主タル債務者及ヒ其ノ者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得スルモノナリ、故ニ保證人ノ取得スヘキ權利ハ獨立ノ權利ニシテ主タル債務者ノ權利ヲ承繼取得スルモノニアラスト解セサルヲ得ス、從テ保證セラレタル者(主タル債務者)ハ所持人ニ對シテ有シタル抗辯ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ス、又タ保證セラレタル者ノ手形上ノ債務者ハ保證セラレタル者ニ對シテ有スヘキ抗辯ヲ以テ保證人ニ對抗スルコト能ハサルモノト解スヘシ(詳細ノ說明ハ逐條解釋第三十二條參看)。

第五 満期二開スル改正要點

(1) 分割拂ノ手形ノ無効ナルコトヲ規定シタルコト。

改正手形法第三十三條第一項ニ於テ「爲替手形ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出スコトヲ得、(一)一覽拂、(二)一覽後定期拂、(三)日附後定期拂、(四)確定日拂」ト爲シ、其ノ第二項ニ於テ「前項ト異ル満期又ハ分割拂ノ爲替手形ハ之ヲ無効トス」ト規定シ、手形金額ノ支拂ヲ爲スヘキ期限ヲ前記何レカノ一ト爲スヘク、之ト異ナル満期ヲ記載シ又ハ分割拂ヲ爲スヘキ爲替手形ヲ無効ト爲シタリ、但シ爲替手形ニ満期ノ記載ナキトキハ之ヲ一覽拂ノモノト看做スヘキハ第二條第二項ノ規定スル所ナリ。

改正手形法第三十三條第一項ノ規定ハ舊法即チ商法第四百五十條ノ満期日ヲ掲ケタル規定ト其ノ字句ヲ異ニスルノミニテ其ノ意義ニ於テハ異ナル所ナシト雖モ、第二項ノ規定ハ改正手形法ニ於テ新ニ認メタルモノニシテ舊法即チ商法ニ無カリシ所ナリ、然レトモ舊法即チ商法ノ解釋ニ於テモ手形法ニ満期日ヲ特定シタル趣旨ニ鑑ミ、法定以外ノ満期日ヲ記載シタル手形又ハ分割拂ノ手形ノ無効ナルコトハ學說ノ一致セシ所ナリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第三十三條參看)。

(2) 振出人ノ一覽拂手形ノ支拂呈示期間ノ短縮、伸長及ヒ裏書人ノ期間ノ短縮ヲ認メタルコト

改正手形法第三十四條第一項ニ於テ「一覽拂ノ爲替手形ハ呈示アリタルトキ之ヲ支拂フベキモノトス此ノ手形ハ其ノ日附ヨリ一年内ニ支拂ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス振出人ハ此ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得裏書人ハ此等ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得」ト規定シ、振出人ハ一覽拂ノ爲替手形ニ付キ其ノ日附ヨリ一年内ノ法定ノ支拂ノ爲ノ呈示期間ヲ短縮スルコトヲ得ルハ勿論、之ヲ伸長シ得ルコトヲモ認ム、又タ裏書人ハ振出人ノ如ク此

ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得サルモ、法定期間又ハ振出人カ支拂ノ爲ノ呈示期間ヲ伸縮シタル期間ヲ短縮スルコトヲ得ルモノト爲シタリ(本館發行「手形法書式」(二五、二七、六六ノ書式參看)。

舊法即チ商法第四百八十二條ニ於テ一覽拂ノ爲替手形ニ付振出人カ期間ヲ短縮シ得ルコトヲ認メタルモ之ヲ伸長シ得ルコトヲ認メス、又裏書人ノ期間ノ短縮モ認メサリシ所ナリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第三十四條參看)。

(3) 振出人ノ一覽拂手形ノ一定ノ期日前ニ於ケル支拂呈示ノ禁止ヲ認メタルコト。

改正手形法第三十四條第二項ニ於テ「振出人ハ一定ノ期日前ニハ一覽拂ノ爲替手形ヲ支拂ノ爲呈示スルコトヲ得ザル旨ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ呈示ノ期間ハ其ノ期日ヨリ始マル」ト規定シ、振出人カ一覽拂ノ爲替手形ニ付キ或ル期日前ニハ支拂ノ爲メニ其ノ手形ヲ支拂人ニ呈示スヘカラサル旨ヲ記載シ得ルコトヲ認メ、而シテ此ノ場合ニ於テ呈示ノ期間ハ其ノ期日ヨリ始マルモノト爲シタリ(本館發行「手形法書式」(二六)ノ書式參看)蓋シ一覽拂ノ爲替手形ハ其ノ呈示ヲ受ケタルトキ之ヲ支拂フヘキモノナルヲ以テ、振出人ハ支拂人トノ資金關係ヨリ一定ノ期日後ニ於テ之ヲ支拂ハシムルヲ適當トスル場合モアルカ故ニ、改正手形法ハ此ノ必要ニ基キ前述ノ規定ヲ設ケタリ、而シテ此ノ場合ニハ支拂ノ爲ノ呈示期間ヲ定ムル必要アルヲ以テ、呈示ノ期間ハ其ノ期日ヨリ始マルモノト規定シタリ、本項ノ規定ハ改正手形法ニ依リ初メテ認メラレタル所ナリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第三十四條參看)。

(4) 曆ヲ異ニスルニ於ケル満期ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケタルコト。

改正手形法第三十七條第一項ニ於テ

(A)「振出地ト曆ヲ異ニスル地ニ於テ確定日ニ支拂フベキ爲替手形ニ付テハ満期ノ日ハ支拂地ノ曆ニ依リテ

之ヲ定メタルモノト看做ス」ト爲シ、本條第四項ニ依ラサル場合ニ於ケル満期ノ日ヲ定メ、同條第二項ニ於テ(B)「曆ヲ異ニスル二地ノ間ニ振出シタル爲替手形ガ日附後定期拂ナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ曆ノ應當日ニ換ヘ之ニ依リテ満期ヲ定ム」ト爲シ、是レ亦本條第四項ニ依ラサル場合ニ於ケル満期ノ計算ヲ規定シ、而シテ同條第三項ニ於テハ

(C)「爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ計算ス」ト爲シ、本條第四項ニ依ラサル場合ニ於ケル呈示期間ノ計算ヲ定メタリ、而シテ其ノ第四項ニ至リ

(D)「前三項ノ規定ハ爲替手形ノ文言又ハ證券ノ單ナル記載ニ依リ別段ノ意思ヲ知り得ベキトキハ之ヲ適用セズ」ト爲シ、前三項ノ規定ハ本項ノ適用ナキ場合ニ於テノミ之ヲ適用スルコトヲ明ニシタリ。

改正手形法ハ舊法即チ商法ト異ナリ國際的法律ナルヲ以テ、曆日ヲ異ニスル二國間ニ於テ手形ノ授受アリタルトキハ其ノ満期及ヒ呈示期間ノ計算ニ關スル渉外的ノ規定ヲ必要トス、故ニ改正手形法ハ前述ノ規定ヲ設ケタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第三十七條參看)。

第六 支拂ニ關スル改正要點

(1) 満期前ノ支拂及ヒ満期後ノ支拂ノ效力ヲ規定シタルコト。

改正手形法第四十條第一項ニ於テ「爲替手形ノ所持人ハ満期前ニハ其ノ支拂ヲ受クルコトヲ要セズ」ト爲シ支拂人又ハ引受人ハ満期前ニ支拂ヲ爲シ得ルモ、所持人カ之ニ應セサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス、又タ所持人ハ満期前ニ支拂ヲ強要スルコトヲ得サルモ、之ヲ受クルト否トハ其ノ自由ナルヘキコトヲ示スト共ニ、第二項ニ於テ「満期前ニ支拂ヲ爲ス支拂人ハ自己ノ危險ニ於テ之ヲ爲スモノトス」ト爲シ、満期前ニ支拂人カ所持人ノ同

意ヲ得テ支拂ヲ爲スモ、其ノ支拂ニ付テ生スル危險ハ支拂人ニ於テ之ヲ負擔セサル可カラサルコトヲ規定シタリ同條第三項ニ於テ「満期ニ於テ支拂ヲ爲ス者ハ惡意又ハ重大ナル過失ナキ限り其ノ責ヲ免ル此ノ者ハ裏書ノ連續ノ整否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ」ト規定シ、満期ニ於テハ支拂人ハ有效ニ支拂ヲ爲スコトヲ得ヘク、而シテ支拂人ハ惡意又ハ重大ナル過失ナキ限りハ手形上ノ責任ヲ免ル、唯タ支拂人ハ手形ノ裏書連續ノ整否即チ所持人ハ手形ノ形式の外觀ニ於テ權利者ナリヤ否ヤハ之ヲ調査セサル可カラサルモ、裏書人ノ署名即チ所持人ハ手形ノ形式の資格ヲ有スル以外ニ、惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得セルヤ否ヤヲ調査スル義務ナキコトヲ明ニシタリ。

舊法即チ商法ニ於テハ満期日前ノ支拂及ヒ満期日後ニ於ケル支拂ノ效力ニ關シ特別ノ規定ヲ設ケス、其ノ解釋ハ專ラ學說及ヒ判例ニ委ネタル所ナルモ時ニ異説ナキニアラサルヲ以テ、改正手形法ハ前述ノ規定ヲ爲シ満期前ノ支拂及ヒ満期ニ於ケル支拂ノ效力ヲ明ニシタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第四十條參看)。

(2) 手形ノ支拂ノ目的タル通貨ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケタルコト。

改正手形法第四十一條第一項ニ於テ

(A)「支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル爲替手形ニ付テハ満期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スコトヲ得債務者ガ支拂ヲ遲滞シタルトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ満期ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ爲替手形ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得」ト爲シ、同條第三項ニ依リ振出人カ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フヘキ旨ヲ記載セサル場合ハ前述ノ規定ニ依リ支拂フヘキ通貨ヲ定ムヘキコトヲ規定スルト共ニ、第二項ニ於テ

(B) 「外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ手形ニ定メタル換算率ニ依リ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得」ト爲シ、外國通貨ノ價格及ヒ換算率ヲ定ム、然レトモ第三項ニ依ルヘキ場合ハ本項ニ依ルコトヲ得ス、而シテ同第三項ニ於テ

(C) 「前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現實支拂文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ」ト爲シ、振出人カ爲替手形ニ外國通貨現實支拂文句ヲ記載シタル場合ニハ其ノ記載ニ依リテ支拂フヘキ通貨ヲ定ムヘク、前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ明カニシタリ、尙ホ第四項ニ於テ

(D) 「振出國ト支拂國トニ於テ同名異價ヲ有スル通貨ニ依リ爲替手形ノ金額ヲ定メタルトキハ支拂地ノ通貨ニ依リテ之ヲ定メタルモノト推定ス」ト爲シ、例之ハ米國桑港ニ於テ弗ヲ以テ記載シタル爲替手形ヲ振出し、其ノ支拂地ヲ墨西哥國ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ弗ハ墨西哥國通貨ニ依リ之ヲ定メタルモノト推定シタリ、然レトモ本項ノ規定ハ一ノ推定ニ過キサルヲ以テ、反對ノ證據ニ依リ米國ノ弗ニ依リ之ヲ定メタルコトヲ證明スルコトヲ得。

舊手形法即チ商法ニ於テハ前述ノ如キ規定ナカリシモ、改正手形法ハ國際的ノ規定ナルヲ以テ特ニ明文ヲ設ケタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第四十一條參看)。

第七 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル遡求ニ關スル改正要點。

(一) 擔保請求ノ制度ヲ廢止シ直チニ遡求權ノ行使ヲ認メタルコト。

改正手形法ハ前ニ一言シタル如ク舊手形法即チ商法ニ於テ認メタル支拂人ノ引受拒絶及ヒ引受人ノ破産ニ因ル擔保請求ノ制度ヲ採用セスシテ、滿期ニ手形ノ支拂ナキトキハ所持人ハ直チニ遡求權ヲ行使シ得ルハ勿論、滿期

前ト雖モ引受ノ拒絶、支拂人又ハ引受人ノ破産又ハ支拂停止ノ場合ニ於テ直チニ遡求權ヲ行使スルコトヲ得ルモノト爲シタリ、蓋シ擔保請求ノ制度ハ手形取引ノ實際ニ適合セス、徒ラニ煩雜ナル手續ヲ爲サシメ實益少ナキヲ以テ、舊手形法即チ商法ニ於テ擔保ヲ請求シ得ル場合ニ於テハ寧ロ進ンテ遡求權ヲ行使セシムルニ如カス、故ニ改正手形法ニ於テハ手形取引ノ實際ニ鑑ミ、無用ニシテ且ツ煩雜ナル擔保請求ノ制度ヲ廢止シ、直チニ遡求權ノ行使ヲ爲シ得ルコトヲ認メタリ、以下遡求權ノ行使ニ關スル改正ノ要點ヲ擧グ。

(2) 遡求權ヲ行使シ得ル場合ハ舊手形法即チ商法ト異ナルコト。

改正手形法第四十三條ハ「滿期ニ於テ支拂ナキトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得左ノ場合ニ於テハ滿期前ト雖モ亦同ジ」ト規定シ、支拂拒絶ニ因ル遡求權及ヒ引受拒絶ニ因ル遡求權ノ行使ヲ認ム、是レ前項ニ於テ述ヘタルカ如ク改正手形法ハ引受拒絶ニ因ル擔保請求ノ制度ヲ廢止シ、引受拒絶ニ因ル遡求權ノミヲ認メタル當然ノ結果ナリ、而シテ同條ニ於テ左ノ場合トハ

(A) 引受ノ全部又ハ一部ノ拒絶アリタルトキ 即チ支拂人カ手形金額ノ全部ノ引受ヲ爲ササルトキ、又ハ手形金額ノ一部ノ引受ヲ爲シタルニ止マルトキ若クハ引受ノ抹消ヲ爲シタルカ如キ場合ヲ謂フ、而シテ所持人カ遡求權ヲ行使スルニハ法定ノ期間内ニ引受拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要スルハ勿論ナリ(逐條解釋第四十三條及ヒ同第四十四條ノ説明參看)。

(B) 引受ヲ爲シタル若ハ爲ササル支拂人ノ破産ノ場合、其ノ支拂停止ノ場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行カ效ヲ奏セサル場合 此ノ場合ニ於テ所持人ニ遡求權ヲ行使セシムヘキハ當然ナリ、而シテ引受人又ハ支拂人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ所持人ハ拒絶證書ヲ作ラシムコトヲ要セス、破産決定書ヲ提出スル

ヲ以テ足ルモ、支拂ノ停止又ハ強制執行カ效ヲ奏セサルニ因リ遡求權ヲ行フニハ支拂ノ爲ノ呈示ヲ爲シ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス、然レトモ前ニ引受拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ支拂ノ爲ノ呈示及支拂拒絶證書ヲ要セス（詳細ノ説明ハ逐條解釋第四十三條及ヒ第四十四條參看）。

(C) 引受ノ爲ノ呈示ヲ禁シタル手形ノ振出人ノ破産ノ場合 即チ振出人ハ第二十二條第二項ニ依リ爲替手形ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁止スル旨ヲ記載スルコトヲ得、而シテ此ノ場合ニ振出人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ所持人ニ遡求權ヲ行ハシムルヲ至當トス、此ノ場合ニ於ケル遡求權ノ行使ニハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要セス、破産決定書ヲ提出スルヲ以テ足ル（詳細ノ説明ハ逐條解釋第四十三條及ヒ第四十四條參看）。

(3) 遡求權ヲ行使スルニ支拂ノ爲ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ヲ要セサル場合ヲ認メタルコト。

改正手形法第四十四條第一項ニ於テ「引受又ハ支拂ノ拒絶ハ公正證書（引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書）ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ要ス」ト爲シ、手形ノ引受又ハ支拂ナカリシ事實ハ原則トシテ引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ニ依リ之ヲ證明スヘキコトヲ定メ、其ノ第二項及ヒ第三項ニ拒絶證書ノ作成期間ヲ規定シタリ、而シテ同第一項乃至第三項ノ規定ハ大體ニ於テ舊手形法即チ商法第四百六十六條、第四百八十二條及ヒ第四百八十七條ト同様ナレトモ、第四項ニ於テ「引受拒絶證書アルトキハ支拂ノ爲ノ呈示及支拂拒絶證書ヲ要セス」ト爲シ、引受拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ更ニ支拂ノ爲ノ呈示及ヒ支拂拒絶證書ヲ作ラシメシテ遡求權ヲ行使シ得ルコトヲ認ム、而シテ第五項ニ於テ「引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ支拂ヲ停止シタル場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行ガ效ヲ奏セザル場合ニ於テハ所持人ハ支拂人ニ對シ手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ヲ爲シ且拒絶證書ヲ作ラシメタル後ニ非ザレバ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ」ト爲シタルニ因リ、所持人ハ引受ヲ爲ササル支拂人ニ對シ支拂ノ爲ノ呈示及ヒ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要セス、引受拒絶證書ニ依リ遡求權ヲ行使スルコトヲ得ルモ、引受ヲ爲シタル支拂人即チ引受人若クハ引受ヲ爲サザル支拂人ガ支拂ヲ停止シタル場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行カ效ヲ奏セザル場合ニ於テハ所持人ハ支拂人ニ對シ支拂ノ爲ノ呈示ヲ爲シ且ツ支拂拒絶證書ヲ作ラシメタル後ニ非ザレハ前者ニ對シテ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ、然レトモ最後ノ第六項ニ至リ「引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁シタル手形ノ振出人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人ガ其ノ遡求權ヲ行フニハ破産決定書ヲ提出スルヲ以テ足ル」ト規定シ、此ノ場合ニ於テ遡求權ヲ行使スルニハ例外トシテ引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ヲ要セサルモノト爲ス、即チ破産決定書ヲ以テ拒絶證書ニ代ハリ得ルモノト爲シタリ（詳細ノ説明ハ逐條解釋第四十四條參看）。

(4) 遡求ノ通知ヲ受クヘキ者ヲ裏書人、振出人及ヒ保證人ト爲シタルコト。

改正手形法第四十五條第一項ニ於テ「所持人ハ拒絶證書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シ引受拒絶又ハ支拂拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス云々」ト爲シ（本館發行「手形法書式」(九九)ノ書式參看)所持人ヨリ遡求ノ通知ヲ爲スヘキ者ハ裏書人及ヒ振出人ナルコトヲ明ニスルト共ニ、第二項ニ於テ「前項ノ規定ニ從ヒ爲替手形ノ署名者ニ通知ヲ爲ストキハ同一期間内ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス」ト規定シ、保證人ニ對シテモ遡求ノ通知ヲ爲スヘキモノト爲シタリ（同上(一〇〇)ノ書式參看)蓋シ遡求權ノ性質上是等ノ者ニ對シ其ノ通知ヲ爲スヘキハ當然ナリ。

舊手形法即チ商法第四百八十七條ノ二ニ於テハ所持人ハ其ノ直接ノ前者ニ對シ償還請求（遡求）ノ通知ヲ爲スコトヲ要スト規定シタルヲ以テ、手形ニ全ク裏書人ナキトキハ振出人ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ爲シ得ルモ、

裏書人アルトキハ其ノ裏書人ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ爲スヘク振出人ニ對シテ直チニ通知スルコトヲ得ス、又
ク舊手形法ニ於テハ保證人ニ對スル償還請求ノ通知ハ之ヲ認メザリシモ、改正手形法ハ遡求權ノ性質上ヨリ其ノ
直接ノ前者タル裏書人ノミナラス、振出人及ヒ保證人ニ對スル通知ヲモ必要ト爲シタリ（詳細ノ説明ハ逐條解釋
第四十五條參看）。

(5) 遡求ノ通知ヲ爲ササル所持人、裏書人ノ責任ノ範圍ヲ規定シタルコト。

改正手形法第四十五條第六項ニ於テ「前項ノ期間内ニ通知ヲ爲ササル者ハ其ノ權利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ
因リテ生ジタル損害アルトキハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責任ニ任ズ」ト規定シ、所持人
又ハ裏書人カ第四十五條第一項ノ期間内ニ自己ノ裏書人及ヒ振出人、保證人ニ對シテ遡求ノ通知ヲ爲ササルモ、
其ノ遡求權ハ喪失セス唯タ過失ニ因リテ生セシメタル損害ニ付テハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ
賠償ノ責任ヲ負フヘキモノト爲シ、遡求ノ通知ヲ爲ササル所持人及ヒ裏書人ノ權利並ニ責任ノ範圍ヲ明ニセリ。

舊手形法即チ商法ハ第四百八十八條ノ二ニ於テ償還請求（遡求）ノ通知ヲ發セサル者ハ之ニ因リテ生ジタル損
害ヲ賠償スル責任アルコトヲ規定シ、其ノ所持人カ償還請求權（遡求權）ヲ失ハサルコトヲ示シタルモ、償還請
求ノ通知ヲ發セサルニ因リテ生ジタル損害賠償ノ責任ニ付テハ其ノ範圍ヲ制限セス、亦タ利息及ヒ費用ノ償還ヲ
請求スル權利ヲ失フモノト爲セルモ、改正手形法ニ於テハ前述ノ如ク遡求ヲ通知セサル所持人及ヒ裏書人ハ利息
及ヒ費用ノ遡求權ヲ失ハサルハ勿論、損害賠償ノ責任モ手形金額ノ範圍内ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノト爲シタリ
（詳細ノ説明ハ逐條解釋第四十五條參看）。

(6) 拒絶證書ノ作成免除者及ヒ其ノ效力ヲ規定シタルコト。

改正手形法第四十六條ニ於テ「1 振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」、「拒
絶證書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ遡求權ヲ行フ爲ノ引受拒絶證書
又ハ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得」2 前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示
及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス
3 振出人カ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ裏書人又ハ保證人ガ之ヲ記載
シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人
ガ拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人ノ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ
於テ拒絶證書ノ作成アリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得」ト規定シ拒絶證書ノ
作成免除者及ヒ其ノ效力ヲ明ニシタリ。

即チ(1)引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得ル者ハ振出人、裏書人及ヒ保證人ノ三者ナ
リ、而シテ其ノ免除ノ記載ハ手形ニ之ヲ爲ス（本館發行「手形法書式」(一〇三)ノ書式參看)舊手形法即チ商法モ
第四百八十九條ニ於テ支拂拒絶證書ノ作成免除ヲ認メタルコト明カナルモ、之ヲ免除シ得ル者ヲ明カニセサルカ
故ニ振出人、裏書人、保證人ハ勿論參加引受人及ヒ支拂擔當者ノ記載アル手形ノ引受人等モ亦タ拒絶證書ノ作成
ヲ免除シ得ルモノト解シタリ(2)拒絶證書ノ作成免除ハ所持人カ法定期間内ニ爲スヘキ引受又ハ支拂ノ呈示及
ヒ遡求ノ通知ヲ免除セス、蓋シ拒絶證書ノ作成免除ナルモノハ遡求權ノ行使ニ引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ヲ
作ルコトヲ免除スルニ止マルヲ以テナリ、然レトモ所持人カ法定期間内ニ手形ノ呈示又ハ通知ヲ爲ササルモノト
爲スニハ所持人ニ對シ之ヲ主張スル者ニ於テ之ヲ證明スルコトヲ要ス、故ニ此ノ證明ナキトキハ其ノ反對解釋ト



シテ所持人ハ法定期間内ニ手形ノ呈示又ハ通知ヲ爲シタルモノト看做サルヘシ、舊手形法即チ商法ニ於テハ拒絶證書ノ作成免除ノ效力ニ付キ改正手形法第四十六條第二項前段ノ如キ規定ナカリシモ、拒絶證書ノ作成免除ノ性質及ヒ第四百八十九條ノ二ノ規定ヨリ本項ト同一ノ解釋ヲ爲シタリ(3)振出人カ拒絶證書作成免除ノ記載ヲ爲シタルトキハ一切ノ手形署名者ニ對シ其ノ效力ヲ生スルヲ以テ所持人ハ振出人ハ勿論、裏書人、保證人等手形ノ一切ノ署名者ニ對シ遡求權ヲ行使スルニ付キ拒絶證書ヲ作成セシムルコトヲ要セス、然レトモ裏書人又ハ保證人カ拒絶證書作成免除ノ記載ヲ爲シタル場合ハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生スルカ故ニ、其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シ遡求權ヲ行使スルニ拒絶證書ヲ作成セシムルコトヲ必要トセサルモ、其ノ以外ノ者ニ對シ遡求權ヲ行使スルニハ拒絶證書ヲ作成セシメサル可ラス、而シテ振出人カ拒絶證書ノ作成免除ヲ記載シタルニ拘ハラズ、所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人ニ於テ之ヲ負擔スヘク、裏書人又ハ保證人カ作成免除ノ記載ヲ爲シタル場合ニ拒絶證書ノ作成アリタルトキハ一切ノ手形署名者ニ於テ其ノ費用ヲ償還セサル可ラス、舊手形法即チ商法ニ於テハ振出人、裏書人及ヒ保證人カ拒絶證書ノ作成免除ヲ記載シタル場合ニ於ケル效力ニ付キ特別ノ明文ナク、唯タ拒絶證書ノ作成免除アリタル場合ニ所持人カ拒絶證書ヲ作成セシメタルトキハ其ノ作成ヲ免除シタル者ト雖モ、其ノ費用ヲ償還スル義務アルモノト爲シ拒絶證書ノ作成免除者ヲシテ其ノ費用ヲ負擔セシメタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第四十六條參看)。

(7) 振出人、引受人、裏書人及ヒ保證人ノ責任ノ態樣ヲ規定シタルコト。

改正手形法第四十七條ニ於テ「1爲替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責任ニ任ズ—2所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコト

ヲ得—3爲替手形ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ權利ヲ有ス—4債務者ノ一人ニ對スル請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨ケズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同ジ」ト規定シ、爲替手形ノ振出人、引受人、裏書人又ハ保證人ノ所持人ニ對スル責任ノ態樣ハ連帶債務ニ類似スル合同タルト共ニ選擇ノ性質ヲ有スルモノト爲シタリ、故ニ所持人ハ手形債務者ノ全員ヲ共同被告トシテ請求スルコトヲ得ルハ勿論、各別個ニ請求スルコトモ妨ケズ、舊手形法即チ商法ハ第四百三十五條ニ於テ手形ニ署名シタル者ハ其ノ手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フト規定シタルニ依リ手形署名者ノ責任ノ獨立ナルコトハ明カナレトモ、改正手形法ニ於ケルカ如キ明文ナキヲ以テ其ノ責任ノ合同ナルヤ否ヤハ明カナラサリシ所ナリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第四十七條參看)。

(8) 不可抗力ニ因ル手形ノ呈示又ハ拒絶證書作成不能ノ場合ニ期間ノ伸長ヲ認メタルコト。

改正手形法第五十四條ニ於テ

(A) 「1法定ノ期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ガ避クベカラザル障碍(國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ダラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス—2所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且爲替手形又ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス—3不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス」

ト爲シ即チ所持人カ不可抗力ノ爲メ法定期間内ニ手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ヲ妨ケラレタル場合ニ其ノ呈示又ハ拒絶證書作成ノ期間ノ伸長ヲ認メ、所持人ノ爲スヘキ手續ヲ定ムルト共ニ(本館發行「手形法書式」(一一五)ノ書式參看)不可抗力カ止ミタルトキハ遲滞ナク手形ノ呈示ヲ爲シ尙ホ必要ニ依リ引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證

書ヲ作成セシムヘキコトヲ規定ス、而シテ其ノ第四項及ヒ第五項ニ於テハ

(B)「4 不可抗力ガ満期ヨリ三十日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示又ハ拒絕證書ノ作成ヲ要セスシテ遡求權ヲ行フコトヲ得」5 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ經過前ト雖モ所持人ガ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ進行ス一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ニ爲替手形ニ記載シタル一覽後ノ期間ヲ加フ」。

ト爲シ即チ本號ハ前號(A)ノ不可抗力カ手形金額ノ支拂アルヘキ日ヨリ三十日以上繼續スルトキハ所持人ハ引受又ハ支拂ノ爲ノ呈示ヲ爲サス又ハ引受若ハ支拂ノ拒絕證書ヲ作成セシメスシテ遡求權ヲ行使シ得ルコトヲ認メ且ツ三十日ノ期間ノ計算ヲ定メタリ、而シテ最後ノ第六項ニ至リ

(C)「6 所持人又ハ所持人ガ手形ノ呈示若ハ拒絕證書ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テノ單純ナル人的事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ」。

ト規定シ即チ所持人又ハ所持人ヨリ手形ノ引受又ハ支拂ノ爲ノ呈示若ハ拒絕證書ヲ作成スヘキ委任ヲ受ケタル者ニ付テノ單純ナル一身上ノ障礙ハ不可抗力即チ避クヘラサル障礙ト認メサルモノト爲シタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第五十四條參看)。

第八 参加ニ關スル改正要點

(1) 保證人モ豫備支拂人ヲ指定シ得ルモノト爲シタルコト。

改正手形法第五十五條第一項ニ於テ「振出人、裏書人又ハ保證人ハ豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得」ト規定シ振出人及ヒ裏書人ノ外保證人モ亦タ豫備支拂人ヲ指定シテ参加引受若クハ参加支拂ヲ爲シ得ルコトヲ認ム(本館

發行「手形法書式」(八三)ノ書式參看) 舊手形法即チ商法第四百四十八條及ヒ第四百五十八條ニ於テハ振出人又ハ裏書人ノ豫備支拂人ノ記載ヲ認メタルモ、保證人ニ付テハ特別ノ明文ナキヲ以テ保證人ノ豫備支拂人ノ記載ハ一般ニ之ヲ否定セリ、然レトモ手形保證ノ性質上保證人ニモ亦タ豫備支拂人ヲ記載セシムルヲ適當トス、故ニ改正手形法ハ前述ノ規定ヲ設ケタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第五十五條參看)。

(2) 参加人ト爲ルコトヲ得ル者ノ範圍ヲ規定シタルコト。

改正手形法第五十五條第三項ニ於テ「参加人ハ第三者、支拂人又ハ既ニ爲替手形上ノ債務ヲ負フ者タルコト得但シ引受人ハ此ノ限ニ在ラズ」ト爲シ参加引受人又ハ参加支拂人ト爲ルコトヲ得ル者ノ範圍ヲ明カニセリ(本館發行「手形法書式」(一一七)ノ書式參看) 舊手形法即チ商法ニ於テハ斯ノ如キ明文ナカリシモ、一般ニ第三者ハ勿論、引受人ヲ除ク他ノ手形債務者ハ何レモ参加引受人又ハ参加支拂人ト爲リ得ルコトヲ認メタリ、改正手形法ハ明文ヲ以テ疑義ヲ避ケタルニ過キス(詳細ノ説明ハ逐條解釋第五十五條參看)。

(3) 参加人ノ被参加人ニ對スル通知ヲ怠リタル場合ノ責任ヲ規定シタルコト。

改正手形法第五十五條第四項ニ於テ「参加人ハ其ノ被参加人ニ對シニ取引日内ニ其ノ参加ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス此ノ期間ノ不遵守ノ場合ニ於テ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ参加人ハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ」ト規定シ、参加引受人又ハ参加支拂人カ其ノ被参加人ニ對シニ取引日内ニ参加引受又ハ参加支拂ヲ爲シタル通知(本館發行「手形法書式」(一一二)ノ書式參看)ヲ怠リタル場合ニ於テ、過失ニ因リテ生ジタル損害賠償ノ責任及ヒ其ノ範圍ヲ明カニセリ。

舊手形法即チ商法ハ第五百四條第二項ニ於テハ参加引受人ハ遲滞ナク拒絕證書ヲ被参加人ニ送付スルコトヲ要

スル旨ヲ定ムルモ、之ヲ怠リタル場合ニ於ケル損害賠償ノ責任及ヒ其ノ範圍ヲ規定セサルノミナラス、參加支拂ニ付テハ此ノ點ニ關シ何等ノ規定モ無カリシ所ナリ（詳細ノ説明ハ逐條解釋第五十五條參看）。

(4) 參加引受アリタル場合ニ於テモ被參加人及ヒ其ノ前者ノ支拂ヲ爲シ得ルコトヲ認メタルコト。

改正手形法第五十八條第一項ニ於テ「參加引受人ハ所持人及被參加人ヨリ後ノ裏書人ニ對シ被參加人ト同一ノ義務ヲ負フ」ト爲シ、參加引受ノ性質ヨリ生スル參加引受人ノ當然ノ義務ヲ明ニシタルコトハ舊手形法即チ商法第五百五條ノ規定ト異ナラサルモ、其ノ第二項ニ於テ「被參加人及其ノ前者ハ參加引受ニ拘ラス所持人ニ對シ第四十八條ニ規定スル金額（註ニ手形金額、利息、拒絕證書ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ費用）ノ支拂ト引換ニ爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得拒絕證書及受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書アルトキハ其ノ交付ヲモ請求スルコトヲ得」ト規定シ、爲替手形ニ參加引受アルニ拘ハラス、被參加人及ヒ其ノ前者ハ所持人ニ對シ手形金額及ヒ其ノ他ノ費用ノ支拂ト引換ニ爲替手形、拒絕證書及ヒ受取證書ノ交付ヲ請求シ得ルコトヲ認ム（本館發行「手形法書式」(一一四)ノ書式參看)蓋シ參加引受アリト雖モ被參加人及ヒ其ノ前者ハ之ニ因リテ直チニ支拂ヲ免カルルモノニアラサルヲ以テ、參加引受アリタル場合ニ於テモ被參加人及ヒ其ノ前者ニ支拂ヲ爲シ得ルコトヲ認ムルヲ至當ト爲シタルニ因ル。（詳細ノ説明ハ第五十八條參看）。

(5) 參加支拂ノ金額及ヒ參加支拂ノ時期ヲ規定シタルコト。

改正手形法第五十九條第一項ニ「參加支拂ハ所持人が滿期又ハ滿期前ニ選求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得」ト爲シ、參加支拂ハ所持人ノ選求權ノ行使ヲ阻止スル爲ニスルモノナルコトヲ明ニス、而シテ其ノ第二項ニ「支拂ハ被參加人が支拂ヲ爲スベキ金額ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス」ト爲シ、一部ノ參加支拂ヲ許サザルコトヲ規定スルト共ニ、第三項ニ於テ「支拂ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス」ト爲シ參加支拂ヲ爲スコトヲ得ル時期ヲ規定ス、舊手形法即チ商法ニ於テハ參加支拂ノ意義ヲ規定セサルモ、參加支拂ノ性質ヨリ改正手形法第五十九條第一項ノ如ク解スルコトヲ得、然レトモ參加支拂ヲ爲シ得ル金額及ヒ其ノ時期ニ付テハ疑問ノ存シタル所ナリ、故ニ改正手形法ハ是等ノ疑問ヲ解決シタルモノト謂フコトヲ得（詳細ノ説明ハ逐條解釋第五十九條參看）。

(6) 被參加人ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ參加支拂ヲ爲シタルモノト看做シタルコト。

改正手形法第六十二條第一項ニ於テ「參加支拂ハ被參加人ヲ表示シテ爲替手形ニ爲シタル受取ノ記載ニ依リ之ヲ證スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ支拂ハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス」ト爲シ（同上(一一六、一二七)ノ書式參看)被參加人ノ表示ナキ場合ニ於ケル被參加人ヲ決定セリ、蓋シ此ノ場合ニハ選求義務者ノ一人トシテ最モ多數ノ者ヲシテ其ノ義務ヲ免レシムル振出人ヲ被參加人ト爲スヲ以テ適當ト認メタルニ因ル、舊手形法即チ商法第五百十一條ハ此ノ場合ニ於ケル參加支拂ヲ支拂人ノ爲ニ爲シタルモノト看做セルモ、未ダ手形上ノ債務者ニアラサル支拂人ノ爲ニ參加支拂アリタルモノト認ムルハ失當ナルニ因リ、改正手形法ハ前述ノ如ク振出人ノ爲ニ爲シタルモノト看做シタリ（詳細ノ説明ハ逐條解釋第六十二條參看）。

(7) 參加支拂ノ效力及ヒ參加支拂ノ競合ノ效果ヲ規定シタルコト。

改正手形法第六十三條第一項ニ於テ(一)「參加支拂人ハ被參加人及其ノ者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス但シ更ニ爲替手形ヲ裏書スルコトヲ得ズ」ト爲シ、參加支拂ノ性質ヨリ參加支拂人ニ對シテ生スル當然ノ效力ヲ規定ス、蓋シ參加支拂ハ所持人ノ手形債務者ニ對スル選求權ノ行使ヲ阻止スル目的ヲ

以テ爲スモノナルカ故ニ、其ノ效果トシテ參加支拂人ハ被參加人及ヒ其ノ者ノ爲メ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生スル權利ヲ取得スヘキハ勿論ナレトモ、更ニ其ノ爲替手形ヲ裏書スルコトヲ得サルハ當然ナリ、本項ノ規定ハ舊手形法即チ商法第五百十三條ノ參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人、被參加人及ヒ其ノ前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得スヘキコトヲ定メタル規定ト大體ニ於テ同一ナリト雖モ、改正手形法ハ參加支拂人ハ手形ヨリ生スル獨立ノ權利ヲ取得スルモノト爲セリ、而シテ同條第二項ニ於テハ更ニ(一)「被參加人ヨリ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル」ト爲シ參加支拂ノ性質ヨリ被參加人ノ後ノ裏書人ニ對シテ生スル效力ヲ規定ス、蓋シ參加支拂ニ因リ被參加人ノ前者ハ手形上ノ義務ヲ免ルルコトヲ得サルモ、被參加人ノ後ノ裏書人ハ手形上ノ義務ヲ免ルルハ當然ナルヲ以テナリ、最後ノ同條第三項ニ至リ(三)「參加支拂ノ競合ノ場合ニ於テハ最モ多數ノ義務ヲ免レシムルモノ優先ス事情ヲ知リ此ノ規定ニ反シテ參加シタル者ハ義務ヲ免ルベカリシ者ニ對スル請求權ヲ失フ」ト爲シ、參加支拂ノ競合ノ場合ニ於ケル優先參加及ヒ其ノ違反ニ對スル效果ヲ定ム、舊手形法即チ商法第五百十條ノ規定ハ本項前段ト殆ント同一ニシテ、唯タ改正手形法ハ參加支拂ヲ爲サントスル者ノ方面ヨリ規定シタルモ舊手形法即チ商法ハ之ニ反シ參加支拂ヲ受クル者即チ所持人ノ方面ヨリ規定シタルニ過キス、然レトモ舊手形法ハ最モ多數ノ義務ヲ免レシムル優先參加支拂人アルニ拘ハラス其ノ者ニ參加支拂ヲ爲サシメシテ參加支拂ヲ爲シタル者アル場合ニ於ケル規定ヲ缺キタリ、故ニ改正手形法ハ此ノ場合ニ參加支拂人ハ優先參加支拂人カ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テ手形上ノ義務ヲ免ルヘカリシ者ニ對スル請求權ヲ失フモノト爲シタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第六十三條參看)。

第九 複本及ヒ贖本ニ關スル改正要點

(一) 複本ノ意義及ヒ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ル場合ヲ規定シタルコト。

改正手形法ハ第六十四條第一項ニ於テ「爲替手形ハ同一内容ノ數通ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得」ト爲シ複本ノ意義ヲ明カニシタリ、蓋シ複本ハ一個ノ手形ニ付テ振出サルル數通ノ證券ナルヲ以テ、複本ノ數通カ合シテ一個ノ手形ヲ表現スルモノナルコトヲ原則トス、從テ其ノ數通カ同一ノ内容ヲ有スヘキコトハ複本ノ性質上當然ノ結果ナリ、故ニ同條第二項ニ於テ「此ノ複本ニハ其ノ證券ノ文言中ニ番號ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキハ各通ハ之ヲ各別ノ爲替手形ト看做ス」トセリ(本館發行「手形法書式」(二一九)ノ書式參看)蓋シ此ノ場合ニ於テハ其ノ各通ヲ複本ト見ルコト能ハサルヲ以テナリ、舊手形法即チ商法ニ於テハ明文ニ依リ複本ノ意義ヲ示サザリシモ、其ノ意義ハ改正手形法第六十四條第一項ト同一ニ解スヘク、同條第二項ハ舊手形法即チ商法第五百十九條ト其ノ意義ヲ同フシ唯タ其ノ字句ヲ異ニスルニ過キス、而シテ同條第三項ニハ「一通過ニテ振出ス旨ノ記載ナキ手形ノ所持人ハ自己ノ費用ヲ以テ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得」ト規定シ、手形ニ此ノ特別ノ記載(同上(二二八)ノ書式參看)ナキ場合ニ限り所持人ノ複本請求權ヲ認ム(同上(一三〇)ノ書式參看)舊手形法即チ商法第五百十八條ニ於テモ所持人ノ請求權ヲ認メタルモ、其ノ請求ハ手形ニ一通過ニテ振出ス旨ノ記載ナキ場合ニ限ルヘキヤ否ヤニ付テハ明文ヲ缺ク、故ニ改正手形法ハ此點ニ關シテ規定ヲ設ケタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第六十四條參看)。

(2) 最後ノ裏書ノ後ノ記載ニ依リ贖本ノ裏書ノミヲ有效ト爲シ原本ノ裏書ノ無効ヲ規定シタルコト。

改正手形法第六十八條第三項ニ於テ「贖本作成前ニ爲シタル最後ノ裏書ノ後ニ「爾後裏書ハ贖本ニ爲シタルモノノミ效力ヲ有ス」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ガ原本ニ存スルトキハ原本ニ爲シタル其ノ後ノ裏書ハ之ヲ無効トス」ト規定シ、裏書ハ第十三條第一項ニ依リテ爲替手形又ハ其ノ補箋ニ之ヲ爲スヘキモノナレト

モ、第六十七條第三項ニ依リ原本ト同一ノ方法ニ從ヒ且同一ノ效力ヲ以テ贋本ニ裏書ヲ爲シ得ルコトヲ認メタルニ因リ、贋本作成前ニ手形ニ爲シタル最後ノ裏書ノ後ニ爾後裏書ハ贋本ニ爲シタルモノノミ效力ヲ有スル旨ノ文言アルトキ(同上(一三九)ノ書式參看)ハ其ノ文言ニ效力ヲ與ヘ、贋本ノミニ爲シタル裏書ヲ有效ト爲シ原本ニ爲シタル其ノ後ノ裏書ハ之ヲ無効ト爲シタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第六十八條參看)。

第一〇 手形ノ偽造、變造ニ關スル改正要點

(一) 手形ノ偽造及ヒ變造ノ意義ヲ規定シタルコト。

改正手形法ハ手形ノ偽造ニ付テハ之ヲ第七條中ニ規定シタルモ、手形ノ變造ニ關シテハ特ニ一章ヲ置キ第六十九條ニ之ヲ規定セリ、即チ第七條ニ於テ

(A)「爲替手形……偽造ノ署名、假設人ノ署名……ニ因リ爲替手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ」ト規定スルヲ以テ手形ノ偽造トハ署名ノ偽造ヲ謂フコト明カナリ、即チ他人ノ名義ヲ僞リテ手形行爲ヲ爲スコトヲ稱ス、例之ハ他人ノ署名ヲ僞造シテ手形ノ振出、裏書、引受等ヲ爲スカ如キ又ハ他人ノ印章ヲ濫用シ若ハ僞造シテ記名捺印ヲ爲シ手形ヲ振出スカ如キヲ謂フ、故ニ署名以外ノ事項ニ關スルモノハ或ハ手形ノ變造ト爲ルコトアルヘキモ手形ノ偽造ト爲ラス、舊手形法即チ商法ニ於テハ僞造ノ意義ヲ示ササルカ故ニ、手形ノ偽造ニ付キ異説ヲ唱フル者アリタルモ、通説ハ署名ノ偽造ノミヲ以テ手形ノ偽造ト解シタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第七條參看)。

改正手形法第六十九條ハ手形ノ變造ニ關シ

(B)「爲替手形ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ」ト規定スルニ因リ、手形ノ變造トハ手形ノ内容即チ文言ノ變更ヲ謂フコト明カナリ、即チ權利ヲクシテ署名以外ノ記載事項ヲ變更スルコトヲ指ス、例之ハ手形金額ヲ變更シ又ハ満期ヲ變更スルカ如シ、而シテ其ノ變更セラレタル記載事項カ手形ノ要件タルト否トヲ問ハス、然レトモ署名ノ變更ハ前項ニ説明スルカ如ク手形ノ偽造ト爲ルコトアルモ變造ト爲ルコトナシ、舊手形法即チ商法ニ於テハ變造ニ付テモ其ノ意義ヲ示サリシヲ以テ署名ノ變更ヲ以テ變造ト解スル者アリタルモ、通説ハ署名以外ノ手形文言ノ變更ヲ以テ手形ノ變造ト解シタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第六十九條參看)。

(2) 變造ノ手形ノ署名ノ時期ニ關シテ規定ヲ爲ササルコト。

改正手形法第六十九條「爲替手形ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ」ト規定シ、署名者ノ當然ノ責任ヲ定ムルニ止マリ舊手形法即チ商法第四百三十七條第二項ノ如キ變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定スル旨ノ規定ナキヲ以テ、署名者カ手形ノ變造前ニ署名シタルモノナリヤ又ハ變造後ニ署名シタルモノナリヤハ之ヲ主張スル署名者又ハ手形權利者ニ於テ其ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス、舊手形法即チ商法ハ署名カ手形ノ變造前ナリヤ否ヤヲ判斷スルニ困難ナル點ヨリ、第四百三十七條第二項ノ規定ヲ設ケタルモ、此ノ推定ハ反對ノ證據ニ依リテ之ヲ覆スコトヲ得ヘク、署名者カ變造後ノ署名ナルコトヲ主張スルニハ其ノ事實ヲ證明セサル可カラス、故ニ改正手形法ハ署名ノ時期ニ關スル推定ヲ爲サシテ、署名ハ手形ノ變造前ナリ又ハ變造後ナリト主張スル者ニ於テ之ヲ證明スヘキモノト爲シタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第六十九條參看)。

第一 時効、休日、期間及ヒ恩惠日ニ關スル改正要點

(1) 引受人以外ノ者ニ對スル時効期間ヲ短縮シタルコト。

改正手形法第七十條ニ於テ「1引受人ニ對スル爲替手形上ノ請求權ハ滿期ノ日ヨリ三年ヲ以テ時効ニ罹ル」所持有人ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絕證書ノ日附ヨリ、無費用償還文句アル場合ニ於テハ滿期ノ日ヨリ一年ヲ以テ時効ニ罹ル」裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ其ノ裏書人が手形ノ受戻ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ以テ時効ニ罹ル」ト規定シタルニ因リ、舊手形法即チ商法第四百四十三條ニ引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年、所持有人ノ其ノ前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書作成ノ日ヨリ一年、裏書人ノ其ノ前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過スルニ因リテ時効ニ罹ルモノト比較シ、引受人以外ノ者ニ對スル時効期間ノ短縮セラレタルト明カナリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第七十條參看)。

(2) 時効ノ中斷ニ關スル規定ヲ爲シタルコト。

改正手形法第七十一條ニ於テ「時効ノ中斷ハ其ノ中斷ノ事由カ生ジタル者ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ」ト爲シ時効中斷ノ效力ヲ對抗スルコトヲ得ル者ノ範圍ヲ定ム、此ノ規定ハ民法第四百八條ト殆ト同一ナレトモ、時効ヲ中斷スヘキ事由ヲ規定セサルカ故ニ如何ナル事由ニ因リテ時効力中斷セラルルヤハ民法ノ規定ニ因リテ解セサル可カラス、然レトモ改正手形法第八十六條第一項ニ於テ「裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル爲替手形上及約束手形上ノ請求權ノ消滅時効ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對シ訴訟告知ヲ爲スニ因リテ中斷ス」ト規定シタルニ依リ、此ノ場合ニ於テハ前者ニ對スル訴訟ノ告知ニ因リ時効ノ中斷セララルコト明カナ

リ(告知ノ書式ハ本館發行「手形法書式」(二三九)ノ書式參看)而シテ其ノ第二項ニ於テ「前項ノ規定ニ因リテ中斷シタル時効ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム」ト爲シ、訴訟告知ニ因リ中斷シタル時効ノ進行ニ付キ規定シタリ(時時中斷ニ關スル詳細ノ説明ハ逐條解釋第七十一條及ヒ第八十六條參看)。

(3) 法定ノ休日ニ關スル規定ヲ設ケタルコト。

改正手形法第七十二條第一項ニ於テ「滿期ガ法定ノ休日ニ當ル爲替手形ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ至ル迄其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ズ又爲替手形ニ關スル他ノ行爲殊ニ引受ノ爲ノ呈示及拒絕證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得」ト規定シ、手形ノ支拂ヲ請求、引受ノ爲ノ呈示及ヒ拒絕證書ノ作成等ハ必ス取引日ニ之ヲ爲スヘク法定ノ休日ニ之ヲ爲スコトヲ許ササルコトヲ明ニスルト共ニ、其ノ第二項ニ「末日ヲ法定ノ休日トスル一定ノ期間内ニ前項ノ行爲ヲ爲スベキ場合ニ於テハ期間ハ其ノ滿了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス」ト爲シ、末日ヲ法定ノ休日トスル一定ノ期間内ニ支拂ヲ請求ヲ爲シ又ハ引受ノ呈示及ヒ拒絕證書ヲ作成セシムヘキ場合ニ於ケル期間ノ伸長及ヒ期間中ノ休日ヲ期間ニ算入スヘキコトヲ明ニセリ、而シテ本條ノ所謂法定ノ休日ニ付テハ第八十七條ニ於テ「本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ」ト爲シ、法定ノ休日ノ種類ヲ示シタリ、舊手形法即チ商法ハ休日ニ關スル規定ヲ設ケサルモ、商法第二百八十三條ニ依リ休日ニ支拂ノ爲ニ手形ヲ呈示スルコトヲ得サルハ勿論ナリ、然レトモ引受ノ爲ノ呈示又ハ拒絕證書ノ作成モ同條ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得サルヤ否ヤニ關シテハ疑問ノ存シタル所ナリシモ、改正手形法ノ前述ノ規定ニ依リ其ノ疑問ハ解決セラレタリ(詳細ノ説明ハ逐條解釋第七十二條參看)。

(4) 期間ノ計算ニ關スル規定ヲ設ケタルコト。

改正手形法第七十三條ニ於テ「法定又ハ約定ノ期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ」ト規定シ、期間カ法律ニ依リ定メラレタルモノナルト約定ニ依リ定ムルモノナルトヲ問ハス、其ノ期間ニハ初日ヲ算入セサルモノト爲ス、故ニ本條ハ民法第四百條ノ但書ノ規定ト異ナリ、縱令ヒ期間カ午前零時ヨリ始マルトキト雖モ其ノ初日ヲ算入スルコトヲ得ス（詳細ノ説明ハ逐條解釋第七十三條參看）。

(5) 恩惠日ヲ認メサルコト。

茲ニ恩惠日トハ手形法ニ規定スル一定ノ期間ヲ超エタル多少ノ猶豫期間ヲ謂フ、例之ハ引受拒絶證書ハ引受ノ爲ノ呈示期間内ニ之ヲ作成セシムヘク、又タ支拂拒絶證書ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ又ハ之ニ次ク二取引日内（二日内）ニ之ヲ作成セシムルコトヲ要スルモノト爲スニ拘ハラズ、尙ホ呈示期間ノ經過後何日内ハ引受拒絶證書ヲ作成セシムルコトヲ得ルモノト爲シ又ハ支拂ヲ爲スヘキ日ニ次ク二取引日以後ニテモ何日内ハ支拂拒絶證書ヲ作成セシムルコトヲ得ルモノト爲シタル場合ノ如キハ法律上ニ於テ恩惠日ヲ認メタルモノト謂フコトヲ得ルカ如シ。

恩惠日ハ外國ノ手形法ニ於テ之ヲ認メタルモノアルモ手形統一法ハ之ヲ認メサルコトヲ原則トスルヲ以テ、改正手形法第七十四條ハ「恩惠日ハ法律上ノモノタルト裁判上ノモノタルトヲ問ハズ之ヲ認メズ」ト爲シ所謂恩惠日ナルモノヲ禁止シタリ、舊手形法即チ商法ニ於テハ特別ノ明文ナカリシモ、我國法ニ於テハ恩惠日ナルモノヲ認メサリシコト明カナリ（詳細ノ説明ハ逐條解釋第七十四條參看）。

第二 署名、手形交換所及ヒ拒絶證書ノ作成ニ關スル改正要點

(1) 署名ニ記名捺印ヲ包含セシメタルコト。

改正手形法第八十二條ニ「本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム」ト規定シ記名捺印ヲ署名ニ包含セシム、

舊手形法即チ商法ニ於テハ手形ノ記名捺印ニ關スル明文ナク手形取引上不便少ナカラサリシニ因リ、明治三十三年商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律ヲ制定シ、商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得ルモノト爲シタルモ、改正手形法ハ獨立ノ法律ト爲リ該法律ノ規定ヲ適用スルコト能ハサルカ故ニ本條ノ規定ヲ必要トス。

(2) 手形交換所ニ於ケル手形ノ呈示ヲ規定シタルコト。

改正手形法第三十八條第二項ニ於テ「手形交換所ニ於ケル爲替手形ノ呈示ハ支拂ノ爲ノ呈示タル效力ヲ有ス」ト爲シ、手形交換所ニ於ケル手形ノ呈示ノ效力ヲ明カニス、而シテ第八十三條ニ「第三十八條第二項（第七十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）（註）約束手形ニ準用スル場合ヲ指ス」ノ手形交換所ハ司大臣之ヲ指定ス」ト爲シ、手形ヲ呈示シ得ル手形交換所ハ司法大臣ニ於テ之ヲ指定スヘキモノト爲シタリ、舊手形法即チ商法ハ第五百三十三條ノ三ニ於テ手形交換所ニ提出シタル小切手ノ效力ヲ規定シタルニ止マリ爲替手形又ハ約束手形ヲ手形交換所ニ呈示シタル場合ニ於ケル效力ニ關スル規定ヲ缺キタルニ因リ、改正手形法ハ手形取引ノ實際ニ順應セシムル爲メ上述ノ規定ヲ設ケタリ。

(3) 拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ヲ勅令ニ譲リタルコト。

改正手形法第八十四條ニ於テ「拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト規定シ、引受拒絶證書及ヒ支拂拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノト爲ス、蓋シ改正手形法第九十三條ハ拒絶證書ノ方式ハ拒絶證書ヲ作ルヘキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スヘキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ムヘキモノト爲ス、手形法統一ニ關スル條約中ニ拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ヲ規定セス、其ノ規定ヲ各國ノ自由ニ委ネタルニ

依リ本法ニ於テハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルモノト爲シタリ。

第一三 國際手形ニ關スル改正要點

(1) 國際私法(法例)ノ規定ヲ設ケタル理由。

手形法ノ統一ニ關スル條約ハ各國ノ手形法ノ差異ヨリ生スル抵觸ヲ避ケ、之ヲ統一セシムル目的ヲ以テ締結セラレタル條約ナルコトハ第一章ニ於テ説明シタルカ如シ、故ニ該條約ニ於テハ手形義務者ノ能力ハ何レノ國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ムヘキヤ、又タ手形ニ關スル行爲ノ方式ハ何國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ムヘキカノ涉外的事項ニ關スル準據法ヲ定ム、即チ我法例ニ規定スル所謂國際私法ノ事項ヲ規定セリ、而シテ改正手形法ハ該條約ヲ母法トシテ制定セラレタル法律ナルニ因リ、該條約中ニ規定スル國際私法ノ事項モ亦之ヲ踏襲シテ規定スヘキハ當然ナリ、舊手形法即チ商法ニ在リテハ商法施行法第二百五條及ヒ第二百六條ニ於テ、手形行爲ノ要件、手形上ノ權利ノ行使及ヒ保全ノ方式ニ關スル國際的ノ規定ヲ設ケタルニ止マルヲ以テ其ノ他ノ事項ハ總テ法例ノ規定ニ依リ判斷セシ所ナリ、以下國際的ノ新規定ヲ列舉シテ之ヲ説明ス(詳細ノ説明ハ逐條解釋第八十八條乃至第九十四條參看)。

(2) 手形能力ニ關スル準據法ヲ規定シタルコト。

改正手形法第八十八條ニ於テ「1爲替手形及約束手形ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス」2前項ニ掲グル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベキトキハ責任ヲ負フ」ト規定シ、手形能力ハ本國法ニ依ルヘキコトヲ原則ト爲シ、例外トシテ他ノ國ノ法律又ハ行爲地法ニ依ルヘキモノ

ト爲ス、本條ハ法例第三條及ヒ第二十九條ノ規定ト其ノ趣旨ニ於テ殆ント同一ナリ、例之ハ滿二十二年ヲ以テ成年トスル甲國ノ乙某カ滿二十年ニ達セシ時、日本ニ於テ手形ヲ振出シタルトキハ其ノ手形行爲ヲ爲シ得ル能力ヲ有スルヤ否ヤハ乙某ノ本國法タル甲國ノ法律ニ依リ之ヲ定ムヘク、而シテ乙某ハ未タ滿二十二年ニ達セサルヲ以テ手形ヲ振出シテ義務ヲ負フ能力ナキモ、此ノ場合ニ甲國ノ法律カ乙某ノ能力ハ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ニ依ル、若シ日本ノ法律ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトスルトキハ滿二十二年ナルカ故ニ日本ノ法律ニ依リ單獨ニ手形ヲ振出ス能力アル者ト爲スヘキカ如シ、又タ前例ノ場合ニ於テ甲國ノ法律カ他國ノ法律ニ依リテ能力ヲ定ムヘキコトヲ規定セサルモ、其ノ者カ手形行爲ヲ爲シタル地即チ日本ノ法律(民法)ニ依レバ能力者ナルヲ以テ手形上ノ責任ヲ負フヘキモノト爲スカ如シ。

(3) 手形行爲ノ方式ニ關スル準據法ヲ規定シタルコト。

改正手形法第八十九條ニ於テ「1爲替手形上及約束手形上ノ行爲ノ方式ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム」2爲替手形上及約束手形上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有效ナラザル場合ト雖モ後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適式ナルトキハ後ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ效力ヲ妨ゲラズルコトナシ」3日本人ガ外國ニ於テ爲シタル爲替手形上及約束手形上ノ行爲ハ其ノ行爲ガ日本ノ法律ニ規定スル方式ニ適合スル限り他ノ日本人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス」ト規定セリ、即チ場所ハ行爲ヲ支配スト謂フ原則ニ依リ手形行爲ノ方式ハ行爲地法ニ依リ之ヲ定ムヘキモノト爲ス、然レトモ一個ノ手形ニ二個ノ手形行爲アルトキ又ハ日本人ノ手形行爲ニ關シテハ例外ノ規定ヲ爲シタリ、例之ハ日本人カ英國ニ於テ爲替手形ヲ振出シタル場合ニ於テ、其ノ振出ノ方式カ英國ノ法律ニ適合スルトキハ其ノ方式カ日本ノ法律ニ規定スル方式ニ適合セサルコトア

ルモ其ノ振出行爲ヲ有效ト爲スヘク、之ト反對ニ其ノ方式カ英國ノ法律ニ適合セサル爲メ振出ハ無効ナリトスルモ、其ノ手形ヲ日本人カ佛國ニ於テ裏書讓渡ヲ受ケ然カモ其ノ裏書ノ方式カ佛國ノ法律ニ適合シ、前ノ振出ノ方式モ佛國ノ法律ニ依レハ適式ナルトキハ其ノ裏書ハ有效ニシテ英國ノ法律ニ依リ振出ノ不適式ナルカ爲ニ其ノ裏書ノ效力ヲ妨ケラレサルカ如シ、尙ホ前例ノ場合ニ於テ英國ニ於ケル振出及ヒ佛國ニ於ケル裏書カ各行爲地ノ法律ノ規定ニ適合セサル爲メ無効ナリトスルモ、其ノ行爲カ日本ノ手形法ニ規定スル方式ニ適合スルトキハ他ノ日本人ニ對シテ振出及ヒ裏書ヨリ生スル效力ヲ有スルカ如シ。

(4) 手形行爲ノ效力ニ關スル準據法ヲ規定シタルコト。

改正手形法第九十條ニ於テハ「1爲替手形ノ引受人及約束手形ノ振出人ノ義務ノ效力ハ其ノ證券ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム」2前項ニ掲グル者ヲ除キ爲替手形又ハ約束手形ニ依リ債務ヲ負フ者ノ署名ヨリ生ズル效力ハ其ノ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ遡求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム」ト規定シ、手形行爲ヨリ生スル效力ニ付テノ準據法ヲ示セリ蓋シ「(1)手形ノ主タル債務者ナル爲替手形ノ引受人及ヒ約束手形ノ振出人ノ義務ノ效力ヲ其ノ手形ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ムルモノト爲シタルハ引受人及ヒ振出人ハ支拂地ノ法律ニ依リテ引受又ハ振出カ如何ナル效力ヲ有スルモノナルヤヲ知ルヲ通例トシ、又タ所持人ハ支拂地ノ法律ニ依リ債務ノ履行ヲ受クルヲ以テ満足スルモノト爲シタルニ因ル」(2)爲替手形ノ引受人及ヒ約束手形ノ振出人ヲ除キタル手形上ノ債務者タル裏書人、保證人等ノ義務ノ效力ヲ其ノ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ムルモノト爲セルハ當事者カ裏書又ハ保證ヲ爲スニ當リ其ノ行爲地法ニ依リ裏書又ハ保證カ如何ナル義務ヲ負フヘキカヲ知リテ之ヲ爲シ

タルモノト認メタルニ因ル、然レトモ「(3)所持人又ハ裏書人ノ遡求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ手形債務者ニ付キ手形ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ムヘキモノト爲シタリ、舊手形法即チ商法ノ下ニ在リテハ法例第七條ノ規定ニ依リ手形行爲ノ效力ハ手形行爲者ノ意思ニ從ヒ自由ニ何レノ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ムルヲ原則トス、唯タ手形行爲者ノ意思カ何レノ國ノ法律ニ依リタルカ明カナラサルトキハ手形行爲ヲ爲シタル地ノ法律ニ依リ其ノ效力ヲ定ムヘキモノト爲シタルモ、改正手形法ハ本條ヲ以テ法例第七條ト全ク相容レサル規定ヲ爲シタルニ因リ、手形行爲ノ效力ニ關シテハ本條ヲ適用スヘク法例第七條ノ規定ニ依ルコトヲ得ス。

(5) 爲替手形ノ所持人カ振出ノ原因タル債權ヲ取得スルヤ否ヤノ準據法ヲ規定シタルコト。

改正手形法第九十一條ニ於テ「爲替手形ノ所持人カ證券ノ振出ノ原因タル債權ヲ取得スルヤ否ヤハ證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム」ト規定シ、爲替手形ノ所持人カ手形ノ原因關係即チ爲替手形ヲ振出スニ至リタル基本關係ノ債權ヲ取得スヘキモノナリヤ否ヤハ手形振出地ノ法律ニ依リテ之ヲ決定スヘキモノトセリ、例之ハ振出人カ資金供給ノ義務アリヤ否ヤ所持人カ此ノ資金ノ上ニ特別ノ權利ヲ否スルヤ否ヤハ手形ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ムルカ如シ、蓋シ手形ノ振出地ハ其ノ創造地ナルカ故ニ所持人カ其ノ振出ノ原因タル債權ヲ取得スヘキモノナリヤ否ヤモ、亦其ノ振出地ノ法律ニ依リテ決定スルヲ相當ト爲シタルニ因ル、舊手形法即チ商法ノ下ニ在リテハ本條ノ問題ハ法例第七條ニ依リ當事者ノ意思ヲ探究シ何レノ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ムヘキモ、改正手形法ハ本條ノ規定ヲ設ケタルヲ以テ法例ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス。

(6) 引受ノ一部ノ制限ノ能否及ヒ一部支拂ヲ受諾スル義務ノ有無ノ準據法ヲ規定シタルコト。

改正手形法第九十二條ニ於テ「1爲替手形ノ引受ヲ手形金額ノ一部ニ制限シ得ルヤ否ヤ及所持人ニ一部支拂ヲ

受諾スル義務アリヤ否ヤハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム。2前項ノ規定ハ約束手形ノ支拂ニ之ヲ準用ス。ト規定シ、支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤ及ヒ所持人ハ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ルヤ否ヤハ手形ノ支拂地ノ法律ニ依リテ之ヲ決定スヘキモノトセリ、蓋シ引受及ヒ支拂ニ關スル事項ハ支拂地ノ法律ニ依リ之ヲ決定スルヲ適當ト認メタルニ因ル、舊手形法即チ商法ノ下ニ在リテハ法例第七條ノ規定ニ依リ之ヲ決定スヘキモ、改正手形法ハ本條ヲ設ケタルヲ以テ法例ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス。

(7) 手形ニ關スル權利ノ行使及ヒ保全ノ方式ノ準據法ヲ規定シタルコト。

改正手形法第九十三條ニ於テ「拒絶證書ノ方式及作成期間其ノ他爲替手形上及約束手形上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ拒絶證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム」ト規定シ、拒絶證書ノ方式及ヒ其ノ作成期間其ノ他手形ニ關スル權利ノ行使又ハ保全ニ必要ナル行爲ノ方式ニ關スル準據法ヲ定ム、蓋シ拒絶證書ノ方式及ヒ其ノ作成期間等ハ之ヲ作ルヘキ行爲地法ニ依リ之ヲ定ムヘク又ク遡求權ノ行使、時効ノ中断等ニ關スル方式ハ其ノ行爲地法ニ依リ之ヲ定ムルヲ當然ナリト爲シタルニ因ル。

(8) 手形ノ喪失ノ場合ニ爲スヘキ手續ノ準據法ヲ規定シタルコト。

改正手形法第九十四條ニ「爲替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ盜難ノ場合ニ爲スヘキ手續ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム」ト規定シ、手形ノ喪失ノ場合ニ爲スヘキ手續ノ準據法ヲ定ム、蓋シ手形ノ喪失又ハ盜難ノ場合ニ於テ所持人カ手形上ノ權利ヲ保全シ且ツ之ヲ主張スルニハ如何ナル手續ヲ爲スコトヲ必要トスルヤハ手形債務ノ履行地タル支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ムルヲ適當トスルヲ以テナリ。

本論

逐條解釋

改正手形法ハ第一編爲替手形、第二編約束手形及ヒ附則ノ三大別ヨリ成リ、第一編ニ於テハ爲替手形ニ關スル一切ノ事項ヲ規定シ、第一章爲替手形ノ振出及ヒ方式、第二章裏書、第三章引受、第四章保證、第五章滿期、第六章支拂、第七章引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル遡求、第八章參加、第九章複本及ヒ謄本、第十章變造、第十一章時効、第十二章通則ト爲シタリ、第二編ニ於テハ約束手形ニ關スル事項ヲ規定スルト共ニ、其ノ性質ニ反セサル限り爲替手形ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノト爲シ其ノ事項及ヒ法條ヲ明カニセリ、而シテ最後ノ附則ニ於テハ爲替手形及ヒ約束手形ニ共通スヘキ記名捺印、拒絶證書、利得償還ノ請求、時効中断ノ方法及ヒ國際手形ニ關スル涉外的事項ヲ規定セリ、以上ノ事項ハ條文ノ順序ニ從ヒ逐次説明スル所ニ依リ明カナルヘキヲ以テ、茲ニハ手形法ノ意義及ヒ手形ノ種類ヲ説明スルニ止ム。

第一 手形法ノ意義

茲ニ手形法トハ手形ニ關スル特別ノ法規ナル昭和七年ノ法律タル手形法ヲ謂フ、即チ手形行爲タル振出、裏書、引受、保證等ヲ基本トシテ發生スル法律關係ヲ規定セル法律ヲ指ス、換言スレハ手形ヲ以テ特別ナル制度ト認メ之ニ特有ナル私法上ノ法律關係ヲ規定シ、手形ト離レテ獨立ノ存在ヲ有スルコト能ハサル權利義務ノ關係ヲ其ノ主ナル内容トスル法規ヲ謂フ、故ニ手形法ハ手形ニ關スル固有法ニシテ他ノ私法關係ヲ規定スル法律ニ對シ特殊ノ性質及ヒ地位ヲ有スルモノト謂フコトヲ得、而シテ手形ハ嚴格ナル一定ノ方式ヲ必要

トスル證券ナルヲ以テ、手形ニ關スル行爲ハ要式行爲ナルヲ原則トス、從テ手形法ノ規定ハ民法及ヒ商法ノ規定ト異ナリ、強行的ノ性質ヲ有スルモノ多ク任意的ノ性質ヲ有スルモノ少ナシ。

第二 手形ノ種類、改正手形法ニ於ケル手形ノ種類ハ爲替手形及ヒ約束手形ノ二種ニシテ舊手形法即チ商法中ノ小切手ハ之ヲ包含セス。

(1) 爲替手形 爲替手形トハ振出人カ他人ニ對シ第三者ヲシテ一定ノ金額ヲ或ル期日ニ支拂ハシムルコトヲ約スル證券ニシテ、裏書ニ依リ轉讓渡セラルヘキ性質ヲ有スルモノヲ謂フ、例之ハ甲(振出人)カ乙(支拂人)ニ宛テ丙(支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者)ヲ指圖スル者(受取人)ニ、一定ノ金額ヲ或ル期日ニ支拂ハレ度シト記載シタル證券ヲ指スカ如シ(本館發行「手形法書式」(一)以下書式參看)故ニ爲替手形ニハ其ノ證券上ニ於テ振出人、支拂ヲ受クヘキ者即チ受取人及ヒ支拂人ノ三人格アルコトヲ要ス、此ノ點ハ次項ニ説明スル振出人ト支拂ヲ受クヘキ者即チ受取人トヲ以テ振出ノ方式トスル約束手形ト異ナル所ナリ、然レトモ手形上三人格者ノ記載アルニ於テハ振出人カ支拂人ナルト支拂ヲ受クヘキ者ナルトヲ問ハサルハ勿論、振出人カ支拂人及ヒ支拂ヲ受クヘキ者ノ三人格ヲ兼ヌルコトヲ得、唯テ手形上三人格者ノ記載アルヲ以テ足ル、爲替手形ハ前述ノ如ク振出人カ第三者ヲシテ一定ノ金額ヲ支拂ハシメントスルモノナルニ因リ、手形振出ノ當時ニ在リテハ未タ手形上ノ主タル債務者ハ存在セス、支拂人ハ支拂人トシテハ支拂ノ義務ナク、手形ノ引受ヲ爲シ引受人ト爲リテ始メテ主タル債務者ト爲リ、滿期ニ手形金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フニ至ル。

(2) 約束手形 約束手形トハ振出人カ自ら他人ニ對シ一定ノ金額ヲ或ル期日ニ支拂フヘキコトヲ約スル證券ニシテ、裏書ニ依リ讓渡スコトヲ得ルモノヲ謂フ、例之ハ甲(振出人)カ乙(支拂ヲ受クル者)又ハ其ノ指圖人)ニ對シ、一定ノ金額ヲ或ル期日ニ支拂フヘシト記載シタル證券ヲ指スカ如シ(同上(一四〇)ノ書式參看)故ニ約束手形ハ爲替手形ト異ナリ振出人及ヒ支拂ヲ受クヘキ者ノ二人格者ヲ必要トスルモ、支拂人ナルモノヲ認ムルコト能ハサルハ勿論ナリ、而シテ約束手形ノ振出人ハ自ら手形金額ヲ支拂フヘキコトヲ約スル者ナルヲ以テ、振出ノ當時ヨリ既ニ手形ノ主タル債務者ト爲リ、滿期ニ手形金額ヲ支拂フ義務ヲ負擔ス、故ニ其ノ地位ハ恰モ爲替手形ノ引受人ト同一ナリト謂フコトヲ得。

第一編 爲替手形

本編ニ於テハ爲替手形ノ振出及ヒ方式ヲ起點トシテ其ノ裏書、引受、保證、滿期、支拂、遡求、參加、複本及ヒ謄本、變造、時效及ヒ通則等爲替手形ニ關スル一切ノ事項ヲ規定セシコトハ前項ニ述ヘタルカ如シ、而シテ爲替手形ノ如何ナルモノナリヤハ前項手形ノ種類ノ(一)ニ説明シタルヲ以テ茲ニ其ノ説明ヲ省略ス。

第一章 爲替手形ノ振出及方式

本章ニ於テハ先ツ爲替手形ノ振出及ヒ方式ニ關スル事項ヲ定ム、即チ爲替手形ノ要件、要件ヲ欠缺スル證券ノ效力、要件以外ノ記載事項、無能力者、偽造及ヒ假設人ノ署名ノ效力、手形ノ利息ノ要件、手形行爲ノ代理、振

出人ノ責任及ヒ白地手形ノ補充權等ヲ規定ス、蓋シ是等ノ事項ハ何レモ爲替手形ノ振出ニ關スルモノシテ、而シテ振出ハ手形ノ創造行爲ニシテ之レニ依リ始メテ手形上ノ法律關係ヲ發生セシムルヲ以テナリ。

第一條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 證書ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル爲替手形ナルコトヲ示ス文字
- 二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託
- 三 支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱
- 四 満期ノ表示
- 五 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示
- 六 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱
- 七 手形ヲ振出ス日及地ノ表示
- 八 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

本條ニ於テハ爲替手形ノ要件及ヒ方式ヲ規定セリ、蓋シ手形ハ有價證券中ノ典型的ナルモノニシテ、裏書ニ依リ讓渡セラルヘキカ故ニ法律ニ於テ一定ノ要件及ヒ方式ヲ定メ、一見シテ爲替手形タルコトヲ知り得ル程度ニ之ヲ明確ナラシムル必要アリ、從テ法律ニ定メタル要件ヲ欠缺スル證券ハ爲替手形タル效力ヲ有セス。

第一 爲替手形ノ振出

爲替手形ノ振出トハ振出人カ支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者其ノ他ノ後者全員ニ對シ、手形ノ引受及ヒ支拂アルヘキコトヲ擔保シ其ノ引受及ヒ支拂ナカリシ場合ニ於テ、遡求權ニ應ス

ル債務ヲ負擔セントスル手形行爲ヲ謂フ、爲替手形ノ振出人ハ原則トシテ引受及ヒ支拂ヲ擔保スル義務ヲ負擔スル者ナレトモ、引受ノ擔保義務ハ之ヲ免カルコトヲ得(第九條ノ說明參看)蓋シ振出人ハ支拂ノ擔保義務ハ之ヲ免ルコト能ハサルニ因リ引受ノ擔保義務ヲ免除スルコトヲ認ムルモ手形權利者ノ利益ヲ侵害スルコト無ケレハナリ、而シテ爲替手形ノ振出ハ本條ニ規定スル要件ヲ記載シタル證券ニ署名又ハ記名捺印シテ發行スルニ依リテ成立ス(本館發行「手形法書式」(一)以下ノ書式參看)即チ手形ノ振出ハ振出人カ手形ニ依リ債務ヲ負擔スル意思ヲ以テ之ヲ他人ニ交付スルニ因リテ成立スルモノト解スヘク、從テ爲替手形ノ振出ハ手形ナル證券ヲ作成シ、手形上ノ權利義務ヲ創造スル手形ノ基本的行爲ナリト謂フコトヲ得。

第二 爲替手形ノ要件

爲替手形ノ要件トハ爲替手形ヲ作成スルニ付キ其ノ證券ニ記載スヘキ必要事項ニシテ本條第一號乃至第八號ニ掲クルモノヲ謂フ、故ニ此ノ要件ノ記載ヲ缺ク證券ハ特定ノ事項ヲ除ク外爲替手形タル效力ナシ、以下順次之ヲ説明ス。

一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル爲替手形ナルコトヲ示ス文字 (一)爲替手形

ノ第一ノ要件ハ先ツ爲替手形ナルコトヲ示ス文字ノ記載ナリ、蓋シ手形ノ授受者ヲシテ一見其ノ爲替手形ナルコトヲ知ラシムル必要アルニ因ル、而シテ爲替手形ナルコトヲ示ス文字ノ記載ハ必ラス之ヲ證券ノ文言中ニ爲スコトヲ要ス、即チ其ノ證券中ニ記載セサル可カラス(本館發行「手形法書式」(一)以下ノ書式參看)是レ其ノ證券ノ文言中ニ之ヲ記載セサレハ其ノ證券カ爲替手形ナルヤ否ヤヲ知ルコトヲ得サルカ故ナリ、從テ證券ニ爲替手形ナルコトヲ示ス文字ヲ記載セスシテ、他ノ書面ノ記載ヲ以テ其ノ證券ノ爲替手形ナルコトヲ證明スルコトヲ許サス(二)爲替手形ナルコトヲ示スヘキ文字ハ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス、例之ハ

手形ノ他ノ文言カ日本語ナルトキハ日本文字ヲ以テ之ヲ記載スヘク、手形ノ文言カ英語ナルトキハ英語ヲ以テ之ヲ記載スヘキカ如シ、故ニ證券ノ文言カ日本語ナルニ拘ハラズ英語ヲ以テ爲替手形ナルコトヲ記載シ又ハ證券ノ文言カ英語ナルニ拘ハラズ日本文字ヲ以テ之ヲ記載スルカ如キハ不適法ナリ(3)爲替手形ナルコトヲ示スヘキ文字ノ記載ハ必シモ漢字ヲ以テ「爲替手形」ト記載スルコトヲ要セス、假名ニ依リ「カハセテガタ」又ハ「かはせてがた」ト記載スルモ妨ケナシ、然レトモ本號ニハ「爲替手形ナルコトヲ示ス文字」トアルカ故ニ單ニ「爲替」タルコトヲ示スニ止マラス、併テ「手形」ナルコトヲ示ス文字アルコトヲ要ス、故ニ單ニ「爲替」又ハ「爲替證券」ト記セル如キハ「爲替」タルコトヲ示ス點ニ於テハ充分ナルモ「手形」ナルコトヲ示スニ足ラサルヲ以テ適法ナリト謂フコトヲ得ス、又タ右ノ「爲替手形ナルコトヲ示ス」ニハ文字ヲ以テスルコトヲ要ス、法文ニ「爲替手形ナルコトヲ示ス文字」トアリテ殊ニ「文字」ト謂フカ故ニ他ノ狀況ヨリ見テ爲替手形ト解シ得ヘキ證券ト雖モ、苟モ文字ヲ以テ爲替手形タルコトヲ示ササルモノハ他ノ狀況ヨリ見テ爲替手形ト雖モ亦タ不適法トスベシ(4)爲替手形ナルコトヲ示ス文字ハ證券ノ文言中ニ之ヲ記載スルコトヲ要スルモ、文言ノ如何ナル部分ニ記載スルヲ要スルヤニ付テハ別ニ制限ナキニ因リ、何レノ文言中ニ之ヲ記載スルモ妨ケナシ、唯タ我國ニ於テハ證券ノ標題ニ「爲替手形」ト記載スルヲ慣例ト爲スニ過キス。

二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託 本號ハ手形金額及ヒ支拂ノ單純ナル委託ヲ記載スヘキコトヲ定ム、(一)一定ノ金額(一)手形債權ノ目的ハ金錢ナルコトヲ必要トス、蓋シ手形ヲ授受スル結局ノ目的ハ金錢ノ支拂ニ外ナラサルヲ以テナリ、故ニ物品又ハ有價證券等ヲ手形ノ目的トシテ之ヲ記載スルコトヲ得サルハ勿論ニシテ是レ手形カ商品切手ト異ナル所ナリ、而シテ其ノ金額ハ必ラス之ヲ一定スルコトヲ要ス、一定ノ金額ト

ハ其ノ手形ニ依リテ支拂アルヘク確定シタル金額ヲ謂フ、例之ハ金五千圓又ハ金壹萬貳千五百五拾五圓ト記載スルカ如シ、之ヲ「手形金額」ト稱ス(本館發行「手形法書式」(一)以下ノ書式參看)(2)然ラハ利息ノ約定ノ記載ハ一定ノ金額ノ記載ニアラサルモノトシテ之ヲ無効ト爲スヘキヤ否ヤ、又タ手形ヲモ無効ト爲スヘキヤ否ヤ、舊手形法即チ商法ニ於テハ利息ノ記載ニ付キ特別ノ規定ナカリシヲ以テ此ノ點ニ關スル學說區々ニ岐レタルモ、改正手形法第五條ニ於テハ一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ限リ利息ノ約定ノ記載ヲ有效ナルモノト爲ス、而シテ其ノ利率ハ手形ニ之ヲ表示スヘク、其ノ表示ナキトキハ其ノ約定ハ之ヲ爲ササルモノト看做シ、手形ヲ有效ト爲シ利息ノ記載ノミヲ無効トス、又タ一覽拂又ハ一覽後定期拂ニアラサル他ノ爲替手形ニ利息ノ約定ヲ記載スルモ、其ノ約定ハ之ヲ記載セサルモノトシテ手形ヲ有效ト爲スヘク利息ノ記載ノミヲ無効ト爲セリ(第五條ノ說明參看)(3)爲替手形ニ一定ノ金額ヲ記載スルトキハ其ノ金額カ日本ノ通貨ナルト外國ノ通貨ナルトヲ問ハサルコトハ勿論、日本ニ於ケル特種ノ通貨又ハ外國ノ特種ノ通貨ヲ目的ト爲スモ妨ケナク所謂外國通貨現實支拂文句ヲ記載スルコトヲ得(4)一定ノ金額ノ記載ハ如何ナル方法ニ依リ如何ナル文字ヲ以テ如何ナル部分ニ之ヲ爲スコトヲ要スルヤニ付テハ別ニ制限スル所ナシ、故ニ記載ノ方法ハ印刷ノ方法ニ依ルモ又ハ毛筆若クハ「ペン」ヲ以テ表現スルモ妨ケナシ、然レトモ記載トハ化學的方法即チ色彩ヲ以テ形象ヲ表現スルコトヲ謂フカ故ニ少クモ色彩ヲ以テ金額ヲ表現スルコトヲ要シ、夫ノ連續セル細孔ヲ用紙ニ穿チ以テ文字又ハ數字ヲ表出スルカ如キ若クハ用紙ニ字體ヲ切抜キ又ハ濾出シ以テ文字ヲ表現スルカ如キハ金額ヲ記載セルモノト謂フコトヲ得ス、小切手ニ金額ノ數字ヲ孔ヲ以テ打抜キ、郵便ノ爲替證券ノ上部ノ金高ノ數位ヲ表セル部分ヲ切取ルカ如キ物理的方法ハ金額ヲ記載セルモノニ非ラス、又タ一定ノ金額ノ記載ハ文字ヲ以テスルコト例之ハ「金壹萬貳千參百

五拾圓也」ト記載スルモ、又ハ數字ヲ以テスルコト例之ハ「金壹二三五〇圓也」トスルト若クハ「\$12350」ト記載スルモ其ノ何レタルモ妨ケナシ、然レトモ一定ノ金額ヲ文字ヲ以テ記載スルト共ニ更ニ數字ヲ以テ記載シタル場合ニ兩者ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額ト爲ス、亦タ一定ノ金額ヲ文字ノミヲ以テ重複シテ記載シタル場合又ハ數字ノミヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ、其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額ト爲ス(第六條ノ説明參看) 舊手形法即チ商法ニ於テハ手形ノ主タル部分ト否ラサル部分トニ分チ、前述ノ場合ニ於テハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ手形金額ト爲シタルモ、手形ノ主タル部分ト否ラサル部分トヲ區別スルニ困難ナル場合アルヲ以テ、改正手形法ハ前述ノ法則ニ依リ手形金額ヲ決定シ即チ文字ヲ以テ記載シタル金額又ハ最小金額ヲ手形金額トスヘキモノトセリ、而シテ其ノ記載ノ部位ハ手形ノ如何ナル部分ニ之ヲ爲スモ妨ケナク、唯タ一定ノ金額タルコトヲ表示シタルヲ以テ足ル。(二) 支拂フベキ旨ノ單純ナル委託ニ(一) 爲替手形ハ振出人カ他人ヲシテ一定ノ金額ヲ支拂ハシムルコトヲ以テ其ノ特質ト爲スニ因リ、其ノ支拂フヘキ旨ノ委託ヲ記載スルコトヲ要ス、即チ支拂委託ノ文言ヲ記載セサル可カラス、例之ハ「右ノ金額云々御支拂被下度候也」ト記載スルカ如シ(本館發行「手形法書式」(一)以下ノ書式參看) 此ノ記載ハ爲替手形ノ要件ナルヲ以テ之レヲ缺クトキハ爲替手形タル效力ヲ生セス(二) 約束手形ハ振出人カ自ら手形金額ヲ支拂フヘキコトヲ約スルモノナルニ因リ、一定ノ金額ヲ支拂フヘキ單純ナル約束ヲ記載スルヲ以テ足ルモ、爲替手形ハ他人ニ支拂ヲ委託スルモノナルニ因リ其ノ委託ノ文言ヲ記載シテ約束手形ト區別スル必要アリ(三) 約束手形ハ其ノ振出ニ依リ振出人ハ滿期ニ於テ手形金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フモ、爲替手形ニ依リ一定ノ金額ヲ支拂フヘキ單純ナル委託ヲ受ケタル者即チ支拂人ハ其ノ委託ニ因リテ手形金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔スルモノニアラス、支拂人

手形ノ引受ヲ爲シ引受人ト爲リテ始メテ手形金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ生ス、又タ爲替手形ノ振出人モ振出ニ因リテ支拂人ノ引受及ヒ支拂ヲ擔保スル責任アルモ、振出ニ因リテ直チニ手形金額ヲ支拂フヘキ義務ナキコトハ言フ俟タス(四) 振出人ノ支拂ノ委託ハ振出人ニ眞實ニ支拂ヲ委託スル意思アルト否トニ拘ハラズ、其ノ支拂ノ委託ノ記載ハ必ス單純ナル委託ナルコトヲ要ス、故ニ手形金額ノ支拂ノ委託ニ或ル條件ヲ附シ又ハ所持人ニ或ル義務ヲ負ハシムルカ如キ記載ヲ爲スコトヲ得ス、例之ハ「右金額手形資金到着ノ上御支拂被下度候也」ト記載シ若クハ「右金額何々物品ト引換ニ御支拂被下度候也」ト謂ヘルカ如キ記載ヲ爲スコトヲ得ス、從テ爲替手形ニ一定ノ金額ヲ支拂フヘキ單純ナル委託ヲ記載セサルトキハ其ノ證券ハ無効ニシテ爲替手形タル效力ナシ、之ヲ要スルニ一定ノ金額ヲ支拂フヘキ旨ノ單純ナル委託トハ手形金額ノ支拂ニ付キ或ル條件ヲ附スルコトヲ禁スルト共ニ所持人ニ或ル義務ヲ負ハシムコトヲ得サル旨ヲ明ニシタルモノト解スヘシ、從テ「右金額此手形引換ニ御支拂被下度候也」ト記載スルカ如キハ手形ノ受戻證券ナル性質ヨリ生スル當然ノ事理ヲ記載シタルニ止マリ、條件ヲ附シ又ハ義務ヲ負ハシメタルモノニ非サルコトハ勿論ナリ、但シ「此手形引換」ナル語ハ從來手形ニ慣用シ來レル語ナルモノ一部支拂ノ場合ノ如キハ手形ト引換ニ爲スコト能ハサルヲ以テ結局不要ノ語ニ外ナラサルナリ。

三 支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱 (一) 爲替手形ハ約束手形ト異ナリ振出人カ第三者ニ手形金額ノ支拂ヲ委託スルモノナルニ因リ、其ノ支拂ヲ爲スヘキ者(支拂人)ヲ記載スルコトヲ要ス(本館發行「手形法書式」(一)以下ノ書式參看) 從テ支拂人ノ記載ヲ缺ク證券ハ爲替手形タル效力ナキ無効ノ證券ナリ、振出人ハ支拂人ヲ記載セサル未完成ナル爲替手形即チ白地手形ヲ振出スコトヲ得ルハ大審院判例ノ夙ニ之ヲ認ムル所ナルノミナラス、改正手形法第十條ニ於テ之ヲ認ム(第十條ノ説明參看) 然レトモ白地手形ト雖モ手形上支拂人ノ記載即チ

補充アリテ始メテ爲替手形ノ要件ヲ具備シ其ノ效力ヲ生スルモノニシテ、其ノ記載(補充)ナキトキハ爲替手形タル效力ナキハ言フ俟タス、從テ振出人カ或ル者ヲ支拂人ト爲サントスル意思ヲ表示シ、其ノ者モ亦支拂人ト爲ルコトヲ承諾シタル場合ト雖モ、其ノ者カ支拂人トシテ手形ニ記載セラレサル限り、支拂人ノ記載アリト謂フコトヲ得サルヲ以テ縱令ヒ其ノ者ニ於テ引受ヲ爲スト雖モ、其ノ手形ハ支拂人ノ記載ヲ缺ク無効ノ證券ナリト解セサル可カラス、此ノ點ニ關スル大審院ノ判例亦同主旨ナリ、曰ク。

◎(判例一) 振出人ハ支拂人ヲ記載セザル白地手形ヲ振出スコトヲ得ルモ支拂人ノ補充(記載)ナキ限り手形ハ無効ナリ 支拂人ノ氏名ハ爲替手形ニ記載スヘキ法定ノ要件ニシテ、手形カ法定ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤハ一ニ手形自體ニ依リテ決スヘキモノニシテ手形以外ニ存スル事實ニ基キ其ノ要件ノ欠缺ヲ解釋補充スルコトヲ得サルモノトス故ニ振出人カ手形振出ノ際ニ支拂人ノ氏名ヲ記載シタルカ又ハ白地手形ヲ振出シタル場合ニ於テ、其ノ手形ノ交付ヲ受ケ白地補充權ヲ得タル者カ、之ニ支拂人ノ氏名ヲ補充シタルトキニ非サレハ爲替手形ニ於ケル支拂人ノ記載アルモノト謂フテ得ス、而シテ爲替手形ニ記載セラレタル者ニ非サレハ支拂人ト謂フコトヲ得サルヤ言フ俟タサル所トス從テ振出人ニ於テ或者支拂人ト爲サントスルノ意思ヲ表示シ其ノ者モ支拂人ト爲ルコトヲ承諾シタル場合ト雖モ、支拂人トシテ其ノ氏名ヲ手形ニ記載セザルトキハ之ヲ以テ支拂人ナリト謂フコトヲ得サルモノトス、振出人ヨリ支拂人ノ氏名ヲ手形ニ記載スルコトヲ委託セラレタル者カ未タ之ヲ記載セザル場合ニ於テモ亦然リトス、原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告(控訴人)小池海軍工業株式會社ハ本件第一號證ノ爲替手形ヲ被告(被控訴人)ヲ受取人トシテ振出シタルモ、其ノ手形ニハ引受權ニ支拂人ナル記載アリ其ノ下部ニ藤岡輝俊ノ氏名ノ記載アリテ、他ニ支拂人トシテノ氏名ノ表示トシテ認ムヘキモノナク、而シテ右ノ氏名ハ振出人ノ記載シタルモノニ非ス、又手形ノ交付ヲ受ケタル者ニ於テ白地補充權ニ基キ之ヲ記載シタルモノニ非スシテ、藤岡輝俊ニ於テ引受人トシテ署名シタルニ過キサルモノトス、故ニ原院カ右藤岡輝俊ノ署名ハ其ノ上部ニ支拂人ノ文字ノ記載アルモ之ヲ以テ支拂人ノ氏名ヲ表示シタルモノト謂フテ得サルニ依リ本件手形ハ支拂人ノ記載ナキ白地手形ニシテ未タ手形要件ノ補充セラレサルモノト判斷シタルハ實驗法則ニ反シタルモノニ非ス(大正十二年六月九日、大審院第三民事部判決、一一年(オ)第九八三號)

II(2)本號ニ於テハ「支拂ヲ爲スヘキ者(支拂人)ノ名稱」ト規定ス、而シテ支拂人ノ名稱ハ氏名又ハ商號ニ依リテ表示セララルル通例ト爲スヲ以テ支拂人ノ記載ハ其ノ氏名又ハ商號ヲ表示スキモノナレトモ、必シモ其ノ氏名又ハ商號ニ限ラルルモノニ非ラス、蓋シ氏名又ハ商號ニアラサル表示ト雖モ、支拂人ノ名稱ト爲スニ足ルモノアルヲ以テナリ、故ニ支拂人ノ氏ノミヲ用ヒ又ハ其ノ名ノミヲ用ヒ、或ハ其ノ通稱、雅號ヲ用ユルモ、取引上本人ノ慣用ニ依リ其ノ人ノ稱呼タルコトヲ廣ク世人ニ知ラレタルモノハ支拂人ノ名稱ト謂フコトヲ得ルニ因リ、之ヲ記載スルコトヲ得ルモノト解スヘシ、舊手形法即チ商法ニ於テハ「支拂人ノ氏名又ハ商號」ト規定シアリタルニ拘ラス、大審院ノ判例ハ通稱、雅號ト雖モ、本人ノ慣用ニ依リ廣ク世人ニ知ラレタル稱呼ハ之ヲ支拂人ノ表示ト爲スニ妨ケサルモノト爲ス、從テ本號ノ如ク單ニ「名稱」ト規定シタル場合ニ於テハ前述ノ解釋ヲ至當ト爲ササル可カラスII(3)振出人カ初ヨリ實在セサル假設人又ハ實在セシモ死亡シタル者ヲ支拂人トシテ記載シタルトキハ其ノ手形ヲ有效ト爲スヘキヤ否ヤニ付テハ多少ノ議論アルモ、手形上支拂人ノ記載アリテ其ノ要件ヲ備フルニ於テハ其ノ支拂人ノ存在セサル理由ヲ以テ手形ヲ無効ト爲スコトヲ得ス、蓋シ支拂人ノ實在セサル手形ト雖モ、裏書ニ依リ轉讓渡セラレタルトキハ所持人ハ手形上ノ權利ヲ取得スヘキハ勿論、裏書人モ手形上ノ責任ヲ負フヘキモノナルヲ以テナリ、故ニ其ノ手形ニ署名シタル者ハ手形上ノ責任ヲ負フヘク、善意ノ取得者ハ手形上ノ權利ヲ取得スルモノト爲ササル可カラスII(4)支拂人ハ一人ナルコトヲ得ルハ勿論、又タ數人ナルコトヲ妨ケス、然レトモ數人ヲ支拂人ト爲ス場合ニ在リテハ其ノ數人ヲ同時ニ共同シテ支拂人ト爲スコトヲ要ス、故ニ甲某又ハ乙某ト爲スカ如キ選擇的ニシテ、何レカノ一人ト爲シタルトキハ甲乙何レヲ支拂人ト爲シタルカ確定セサルニ因リ、適法ナル支拂人ノ記載ト謂フコトヲ得ス、從テ其ノ手形ハ無効ナリ、又タ數人ノ支拂人ハ各其ノ住所地

ヲ異ニスルモ支拂地ニ至テハ一ナルコトヲ要ス、故ニ支拂ヲ爲スヘキ地ノ表示ハ同一地タルヘシ、但シ支拂地ヲ記載セサル手形ニ在リテハ其ノ數人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ場合ニ於テハ第二條第三項ニ依リ之ヲ支拂地ニシテ且ツ支拂人ノ住所タルモノト看做ス結果、各附記ノ地カ同一地ナラサルトキハ支拂地二個ト爲ルカ故ニ之ヲ避クルカ爲メニハ數人共ニ同一地ニ在ル者ナラサル可カラサルニ至ル、而シテ支拂人カ數人ナルトキハ一人ノ引受拒絶ニ依リテ直チニ選求ヲ爲スコトヲ得ルモ、支拂拒絶ニ因ル選求ヲ爲スニハ支拂人全員ノ支拂拒絶アルコトヲ要ス(5) 振出人ハ一人又ハ數人ヲ支拂人ト記載シテ單純ナル支拂ノ委託ヲ爲ササル可カラサルモ、支拂人カ引受又ハ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ更ラニ引受又ハ支拂ヲ爲サシムル爲メニ、他ノ一人又ハ數人ヲ支拂人トシテ定ムルコトヲ得、之ヲ「豫備支拂人」ト稱ス(第五十五條ノ說明參看)(6) 振出人ハ自己ヲ支拂ヲ受クヘキ者(受取人)ト爲スコトヲ得ルノミナラス、自己ヲ支拂ヲ爲スヘキ者(支拂人)ト爲スコトヲモ得(第三條ノ說明參看)而シテ振出人カ自己ヲ受取人ト爲シタル手形ヲ「自己指圖爲替手形」ト謂フ、振出人自己カ自己ヲ受取人ト指圖シテ手形ヲ振出スカ爲メナリ、此ノ手形ハ振出人カ受取人トシテ第一裏書ヲ爲ストキハ其ノ裏書ハ通常ノ裏書ト異ナル所ナシ、唯ク手形カ振出人ノ手ヲ離ルルマテハ振出人ト受取人トカ同一ナルニ因リ手形上ノ債權ヲ生セサルニ過キス、蓋シ振出人カ資金又ハ商品ノ供給ヲ受クル爲メ手形ヲ振出シタル場合ニ其ノ當時ニ於テ適當ノ供給者ナキニ因リ、自己ヲ受取人ト記載シテ手形要件ヲ完備セシメ、適當ナル供給者アルヲ俟テ之ニ裏書讓渡ヲ爲ス等ノ場合モアルヲ以テ法律ハ之ヲ認メタルモノナリ、又タ振出人ハ自己ヲ支拂人ト爲スコトヲ得、此ノ場合ニハ其ノ手形ハ之ヲ「自己宛爲替手形」ト謂フ、振出人カ自己ヲ支拂人トシテ自己ニ宛テ手形ヲ振出スカ爲メナリ、蓋シ振出人カ數個ノ營業所ヲ有スル場合ニ一ノ營業所ニ於テ手形ヲ振出シ、

他ノ營業所ニ於テ其ノ支拂ヲ爲シ、又ハ出張先ニ於テ手形ヲ振出シ住所ニ於テ其ノ支拂ヲ爲ス必要アル等ニ因ル(7) 振出人ハ自己ヲ受取人及ヒ支拂人ト爲スコトヲ得ルヤ、即チ振出人ナル一人格者カ受取人及ヒ支拂人ノ三人格者ヲ兼ヌルコトヲ得ルヤ否ヤニ關シテハ議論ノ存スル所ナリシモ、大審院判例ハ之ヲ有效ナリト解セリ(判例四參看)、蓋シ舊手形法即チ商法第四百四十七條ニ於テ振出人ト受取人ト同一ト爲シ得ルコトヲ認ムルト共ニ、振出人ト支拂人ト同一ト爲シ得ルコトヲ認ムル以上ハ此ノ三者ヲ同一ナラシムルモ同條ノ規定ノ主旨ニ反セサルモノト解シタルニ因ル、改正手形法第三條第一項モ亦タ振出人ト受取人ト同一ト爲シ得ルコトヲ認メ其ノ第二項ニ於テ振出人ト支拂人ト同一ト爲シ得ルモノト規定シタルヲ以テ、振出人ハ受取人及ヒ支拂人ノ三人格者ヲ兼ヌルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ舊手形法第四百四十七條ノ規定ニ比シテ更ニ疑問ヲ挾ム餘地アルカ如キモ、同一人格者ヲ三人格者トシテ手形ニ記載スルモ之ヲ裏書讓渡シタルトキハ普通ノ手形ト異ナル所ナク、且ツ手形取引ノ圓滑ヲ害スル虞レナキノミナラス、手形法ノ他ノ規定ニ於テ之ヲ禁止セサルヲ以テ之ヲ積極ニ解スヘキモノト信ス(第三條ノ說明及ヒ(判例四) 竝ニ以上手形ノ書式ニ付テハ本館發行「手形法書式」(九乃至一四)ノ書式參看)(8) 支拂人ノ名稱ニ或ル地ヲ附記スルコトハ振出ノ要件ニアラスト雖モ、手形ニ支拂ヲ爲スヘキ地ノ表示ナキ場合ニ於テハ特別ノ表示ナキ限り、支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ヲ支拂地ニシテ且ツ支拂人ノ住所タルモノト看做ス(第二條ノ說明參看)カ故ニ、支拂地ノ記載ヲ爲サス且ツ支拂人ノ名稱ニ或ル地ヲモ附記セサルトキハ結局其ノ手形ハ支拂地ノ記載ナキモノトシテ之ヲ無効ト爲ササル可カラス。

四 満期ノ表示 (1) 満期トハ手形金額ノ支拂アルヘキ日ナリ、故ニ之ヲ記載スルヲ手形ノ要件トス(本館發行「手形法書式」(一)以下ノ書式參看)然レトモ此ノ要件ハ絕對的ノモノニアラス、即チ法律ハ満期ノ記載ナ

キ爲替手形ヲ一覽拂ノモノト看做スヘキコトヲ定ム(第二條ノ説明參看)Ⅱ(2) 満期ハ手形金額ノ支拂ハル可キ日ナレトモ、手形金額ノ支拂ハ必シモ満期ニ於テノミ爲サルルモノニアラス、満期カ法定ノ休日ニ當ルトキハ之ニ次ク第一ノ取引日(其ノ翌日)ニ非サレハ支拂ヲ求ムルコトヲ得ス(第七十二條ノ説明參看)又ク一覽拂以外ノ手形ノ所持人ハ満期後二日內(二取引日內)ニ支拂ヲ求ムルヲ以テ足ル(第三十八條ノ説明參看)Ⅱ(3) 満期ハ如何ニシテ之ヲ定ムヘキカ、本法第三十三條ハ(一)一覽拂(同上)(二四)ノ書式(二)一覽後定期拂(同上)(二九)ノ書式(三)日附後定期拂(同上)(三二)ノ書式(四)確定日拂(同上)(三三)ノ書式參看)ノ四種ニ限定シ(第三十三條ノ説明參看)満期ハ必ラス其ノ一種ナルコトヲ要スルモノト爲シタリⅡ(3) 満期ハ法律ニ定メタル四種中ノ何レカト爲ササル可カラス、即チ満期ハ一定スルコトヲ要ス、故ニ四種ノ満期ト異ナル満期ヲ記載シタル爲替手形ノ無効ナルコトハ勿論、手形金額ヲ數個ノ満期ニ分割シテ支拂フヘキ所謂分割拂ノ手形モ亦タ無効ナリ(第三十三條ノ説明參看)Ⅱ(4) 満期ハ法定ノ四種ノ何レカノ一ナルコトヲ要ス、故ニ手形ニ二個以上ノ満期ヲ記載スルトキハ一定ノ満期ト謂フコトヲ得サルヲ以テ改正手形法第三十三條第二項前段ノ規定ニ依リ法定ノ満期ト異ナル満期ヲ記載シタルモノトシテ手形ヲ無効ト爲ササル可カラス、從テ此ノ手形ヲ満期ノ記載ナキ一覽拂ノモノト爲スコトヲ得ス、蓋シ二個以上ノ満期ノ記載ヲ認ムルトキハ手形金額ノ支拂アルヘキ日カ選擇的ト爲リ、法律カ満期ヲ一定スル主旨ニ反スルヲ以テナリⅡ(5) 然レトモ數個ノ満期ヲ記載シタル場合ニ於テ、其ノ中ノ一カ法定ノ満期ノ一ニ該當シ、他ノモノハ何レモ法定ノ満期ニ適合セサルトキハ其ノ該當スルモノヲ満期ト爲シ、適合セサルモノハ記載ナキモノト爲シテ手形ヲ有效トスルヲ相當トス、蓋シ此ノ場合ハ6ノ場合ト異ナリ、數個ノ満期ノ記載アルモ、法律上満期ト認メラルルモノハ一個アルニ過キス從テ満期ハ一定スルヲ以テナリ(第三十

三條ノ説明參看)。

五 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

(1) 支拂ヲ爲スヘキ地即チ支拂地ハ手形金額ノ支拂アルヘキ地ナリ、故ニ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要件トス(本館發行「手形法書式」(一)以下ノ書式參看)但シ此ノ要件ハ絶對的ノモノニアラスシテ、支拂地ノ記載ナシト雖モ支拂人ノ名稱ニ附記シタル或ル地アルトキハ其ノ地ヲ以テ支拂地トス(第二條ノ説明參看)Ⅱ(2) 然レトモ支拂地ノ記載ナク又ク支拂人ノ名稱ニ或ル地ヲ附記セサルカ若クハ之ヲ附記スルモ支拂地ト爲ササル特別ノ表示アルトキハ結局其ノ手形ハ支拂地ノ表示ナキヲ以テ無効ト爲ルⅡ(3) 支拂地ノ表示ハ地域ヲ記載スルコトヲ謂フ、茲ニ地域トハ最小行政区劃タル市町村ノ區域ヲ指シタルモノニシテ其ノ地域内ノ區ヲ包含セス、從テ市制第六條ノ市タル東京市、京都市及ヒ大阪市内ノ區ハ法人ト認メラルルモ、其ノ財産及ヒ營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理スル權限ヲ有スルニ止マリ、市町村ニ該當スル行政区劃ト見ルコト能ハサルヲ以テ之ヲ手形ノ支拂地ト爲スコトヲ得ス、故ニ例之ハ支拂地ハ東京市、浦和町、大阪市ト記載スヘキカ如シ、從テ町名番地ヲ記載スルコトヲ必要トセス、若シ町名番地ヲ記載スルトキハ之ヲ支拂場所ト見ラルルニ至ルヘシ、然レトモ支拂地ノ記載ハ必スシモ東京市又ハ横濱市ト明示スルコトヲ要セス、手形ノ記載ニ依リ支拂地ヲ最小行政区劃タル市町村ト爲シタルコトヲ推知シ得ルヲ以テ足ルモノト解スヘシ、例之ハ手形ニ支拂地ノ記載ナキモ、支拂人トシテ「三井銀行日本橋支店」ト記載シアルトキハ此ノ記載ヲ支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ヲ表示スルモノト解スヘク、而シテ日本橋區ハ東京市内ニ存在スルコト明カナルニ因リ、此ノ記載ヲ獨立シタル最小行政区劃タル東京市ヲ表示スルモノト認ムルカ如シ、大審院ハ曾テ支拂地ノ記載ヲ最モ嚴格ニ解シ、必ス手形ニ「東京市」又ハ「浦和町」ト明記スヘク、「芝區」又ハ「小石川區」ト記載スルカ

如キハ之ヲ不適法トシ手形ヲ無効ト爲シタルモ、其ノ後同判例ハ甚ク嚴シク失シ手形ノ流通ヲ阻害スル虞レアルコトヲ知り、大正十五年五月二十二日民事聯合部ニ於テ前判例ヲ變更シ本書ノ解釋ト同一ナル判決ヲ爲シタリ、而シテ同判例ハ小切手ノ支拂地ニ關スルモノナレトモ、改正手形法ノ爲替手形及ヒ約束手形ノ支拂地ノ解釋ニ付テ下級裁判所ヲ羈束スルコト勿論ナルニ依リ左ニ之ヲ掲ク。

◎(判例一) 支拂地ハ必シモ手形ニ之ヲ明記スルコトヲ要セス手形ノ記載ニ依リ獨立ノ最小行政區劃タル市町村ヲ推知シ得ルヲ以テ是ル 所謂支拂地又ハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地トハ市町村ノ如キ獨立シタル最小行政區劃タル區域ヲ指稱スルモノナルコトハ本院カ約束手形ノ振出地ニ屬シタル判例ニ徴シテ疑テ容レズ、然ラハ其支拂地又ハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ヲ小切手面ニ表示スルニハ如何ナル方法ニ依ルヘキヤ、本院從來ノ判例ニ依リハ支拂地又ハ振出地ヲ表示スルニハ單ニ手形面ニ獨立シタル最小行政區劃タル地域ヲ推知シ得ヘキ文字ヲ記載スルヲ以テ是レトセズ、必ス其ノ地域ヲ表示スル文字ヲ記載スヘキモノト爲シタリ(大正二年(オ)第九二號同年十月二日、第二民事部判決)是レ畢竟手形ハ其ノ性質上記載事項ハ手形面ニ於テ明確ナラサル可カラストノ理由ニ基因スルモノニ外ナラス、然レトモ斯ノ如キハ嚴シク失シ却テ手形ノ流通ヲ阻害スルノ虞レアルノミナラス、法律ハ單ニ支拂地又ハ振出地ヲ記載スルコトヲ要求スルニ止マリ、之カ表示方法ニ付テハ特ニ規定スル所ナキヲ以テ、尙モ手形面ノ記載ニ依リ所謂獨立シタル最小行政區劃タル地域ヲ推知スルニ足ル以上ハ支拂地又ハ振出地ノ記載アルモノト爲ステ以テ相當ナリトス、從テ此ノ點ニ關スル前示判例ハ之ヲ變更スルノ必要アリト認ム、本件ニ於テ上告人カ振出シタル甲第一號證ノ小切手ニハ特ニ支拂地ノ記載ナキモ、支拂人トシテ株式會社深川銀行本所支店ナル表示アルコトハ原院ノ認ムル所ニシテ、其ノ所謂本所支店ナル文字ハ本所區内ニ存在スル株式會社深川銀行ヲ指定スルモノニ係リ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ヲ表示スルノ意義ニ外ナラサルモノト解スヘキモノトス、然リ而シテ本所區カ東京市ニ存スルコトハ明瞭ナルヲ以テ、右ノ記載ハ畢竟獨立シタル最小行政區劃タル東京市ヲ表示シタルモノト認メ得ヘキニ依リ、原院カ之ト同趣旨ノ理由ノ下ニ本件小切手ニハ支拂地ノ記載ナシトノ上告人ノ抗辯ヲ排斥シ法定ノ要件ヲ具備シタルモノト判斷シタルハ洵ニ相當ナリ云々(大正十五年五月十二日、大審院民事聯合部判決、一四年(オ))

而シテ(4)支拂地(支拂ヲ爲スヘキ地)ノ表示ハ必ス一個タルヲ要シ二個以上ニ定ムルコトヲ得ス、故ニ支拂地ヲ二個以上ニ定メタルトキハ其ノ手形ハ無効ナリ、即チ支拂地ハ單一ニシテ選擇的ナルコトヲ許サス(5)從テ數人ヲ支拂人ト爲シタルトキ即チ數人カ同時ニ共同シテ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ特ニ一個ノ支拂地ヲ定メサルトキハ其ノ支拂人ノ名稱ニ附記シタル地カ支拂地ト爲ルヲ以テ、其ノ附記シタル地カ同一ナラサルトキハ支拂人ノ名稱ニ附記シタル地アルモ必ラス特ニ支拂地ヲ定ムルコトヲ要ス、蓋シ然ラサルニ於テハ數個ノ支拂地ヲ生シ爲メニ手形ノ無効ヲ來スヘキニ因ル(6)支拂地ハ支拂人ノ住所地ヲ以テ定ムルコトヲ得ルハ勿論、振出地其ノ他ノ地ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得、而シテ支拂人ノ住所地ヲ支拂地ト爲シタルトキハ其ノ手形ヲ「當地拂爲替手形」ト謂ヒ、他ノ地ヲ支拂地ト爲シタルトキハ之ヲ「他地拂爲替手形」ト謂フ(7)振出人ハ支拂人ノ住所地ト異ナル支拂地ヲ手形ニ記載シ其ノ地ニ於ケル第三者ノ住所ニテ支拂フヘキモノト爲スコトヲ得(第四條ノ說明及ヒ本館發行「手形法書式」(一七)ノ書式參看)若シ振出人カ第三者ヲ定メサルトキハ支拂人ハ引受ヲ爲スニ當リ其ノ第三者ヲ定ムルコトヲ得ヘク(同上(七四)ノ書式參看)之ヲ定メサリシトキハ引受人ハ支拂地ニ於テ自ら支拂ヲ爲ス義務ヲ負ヒタルモノト看做ス(第二十七條ノ說明參看)。

六 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱 (一)本號ハ舊手形法即チ商法第四百四十五條第四號「受取人ノ氏名又ハ商號」ニ該當スル規定ニシテ、支拂ヲ受ケ又ハ支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ハ手形ノ第一次ノ債權者ナルヲ以テ之ヲ手形ノ要件ト爲ス、改正手形法ニ於テハ舊手形法即チ商法ノ無記名式爲替手形(第四百四十九條)及ヒ記名持參人拂爲替手形(第四百四十九條ノ二)ニ該當スヘキ規定ヲ設ケサルニ因リ振出人ハ無記名

式爲替手形及ヒ記名持參人拂爲替手形ヲ振出スコトヲ得ス、即チ改正手形法ハ此ノ二種ノ方式ニ依ル爲替手形ヲ認メス(緒說第二章第一「振出及ヒ方式ニ關スル改正要點」(6)及ヒ(7)參看)故ニ爲替手形ノ振出ノ方式ハ本號ノ規定ニ依リテノミ之ヲ定ムヘク、本號ノ要件ヲ缺ク手形ハ無効ナリ(2)本號ハ之ヲ「支拂ヲ受クル者ノ名稱」及ヒ「支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱」ト解スルコトヲ得、而シテ(一)手形ニ支拂ヲ受クル者ノ名稱ヲ記載シタルトキハ之ヲ「記名式手形」ト謂フ、例之ハ「右金額丙殿ニ御支拂被下度候也」ト記スカ如シ(本館發行「手形法書式」(一)以下ノ書式參看)此ノ手形ヲ記名式ト稱スルハ「丙」ヲ手形債權者ト指名スルニ止マリ、指圖式ノ文言ヲ記載セサルニ因ル、然レトモ手形ハ其ノ性質上當然ノ指圖證券ナルヲ以テ、之ヲ記名式ト爲スモ其ノ債權ハ民法上ノ指名債權ト爲ルモノニアラス、故ニ手形ニ指圖禁止即チ裏書禁止ノ記載ナキ限リハ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘク、改正手形法第十一條第一項ニ於テ「爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得」ト規定セルハ此ノ原則ヲ明カニシタルモノニシテ、舊手形法即チ商法第四百五十五條前段ノ「爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得」トセル規定ト同一ノ趣旨ナリ(二)手形ニ支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱ヲ記載スルトキハ之ヲ「指圖式手形」ト謂フ、例之ハ「右金額丙殿ノ指圖人ニ御支拂被下度候也」ト記スカ如シ、(同上(三、四)ノ書式參看)之ヲ指圖式ト稱スルハ或ル者「丙殿」ヲ手形債權者ト爲スト共ニ、其ノ者ノ指圖スル者ヲ手形債權者ト爲スヲ以テナリ(三)然ラハ改正手形法ニ於テ手形ニ支拂ヲ受クル者ヲ指名スルト同時ニ、其ノ指名者ノ指圖スル者ニ支拂フヘキ旨ヲ記載スルモノ即チ從來ノ指圖式手形ト稱スルモノ、例之ハ「右金額丙殿又ハ其ノ指圖人ニ御支拂被下度候也」ト記載セル手形ハ之ヲ認ムヘキカ、本號ハ「支拂ヲ受クル者ノ名稱」ヲ記載スルカ、又ハ「支

拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱」ヲ記載スルカ、二者共ノ一ナルコトヲ要スルカ如シト雖モ、一方ニ於テ「支拂ヲ受クル者ノ名稱」ヲ記載シ得ルコトヲ認メ、他方ニ於テ「支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱」ヲ記載シ得ルコトヲ認ムル以上ハ其ノ當然ノ結果トシテ同時ニ二者ヲ記載シテ「右金額丙殿又ハ其ノ指圖人ニ御支拂被下度候也」ト爲スコトヲ得ルハ勿論ナリ、故ニ本號中ノ「又ハ」ノ字句ニ拘泥スヘキニアラス、蓋シ手形ハ記名式ナルト指圖式ナルトヲ問ハス之ヲ裏書シテ自由ニ讓渡スコトヲ得ルヲ原則ト爲スヲ以テナリ、從テ前述ノ支拂ヲ受クル者ヲ指名スルト共ニ、其ノ指名者ノ指圖スル者ニ支拂フヘキコトヲ記載スル手形ヲ認メサルヲ得ス(本館發行「手形法書式」(五、六)ノ書式參看) (3)改正手形法第十一條第一項ニ於テ「爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得」ト規定スルカ故ニ右ノ指圖式ニテ振出サザルトキ即チ「丙某殿ニ御支拂被下度候也」トノミ記シ「丙殿ノ指圖シタル者云々」ノ記載ヲ爲ササル指名式ノミヲ以テモ自由ニ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓渡スコトヲ得、然レハ實際ニ於テ指圖式ヲ以テ振出スノ必要ナク、單ニ「丙殿ニ御支拂被下度候也」ト記スノミヲ以テモ裏書讓渡ヲ爲スニ何等ノ妨ケナシ、然ラハ改正手形法ノ本號ニ於テ「支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱」ト規定シテ指圖式ヲ認メタルハ何故ナルカ、蓋シ第十一條第一項ヲ置キタルノ結果トシテ本條ニ於テ指圖式ヲ認メタルモノカ、然レトモ指圖式ハ實際ニ於テ其ノ必要ナキニ依リ本館發行「手形法書式」ニ於テハ指圖式手形ノ書式ハ之ヲ示シタルモ(同書(三乃至六)ノ書式參看)多クノ場合ニ於テ指名式ヲ以テ各書式ヲ示シタリ(4)改正手形法ハ前述ノ如ク本號ニ依リ爲替手形ノ方式ヲ指名式及ヒ指圖式ノ二種ニ限定シ、無記名式及ヒ記名持參人拂式ヲ認メサルカ故ニ、振出人カ他日他人ヲシテ支拂ヲ受クル者又ハ支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ヲ補充セシムル意思ヲ以テ、特ニ本號ノ記載ヲ爲ササル所謂白地手形(未完成

ナル爲替手形)ノ外、本號ノ記載ヲ缺クトキハ其ノ手形ハ無効ト爲ルヘシ、無記名式手形及ヒ記名持參人拂式手形ハ前述ノ如ク改正手形法ニ於テ之ヲ認メサルニ依リ其ノ説明ヲ省ク(5)支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ヲ記載スルニハ其ノ氏名又ハ商號ヲ以テスルヲ通例ト爲スヘキモ、其ノ氏名ト商號トヲ併セ之ヲ用ヒ得ルハ勿論、其ノ氏又ハ名ノミヲ用ヒ若ハ雅稱、稱號ヲ用ユルモ、其ノ者カ常ニ之ヲ慣用シ廣ク世人ニ知ラレタルキハ之ヲ用ユルモ妨ケナキコトハ「三、支拂人(支拂ヲ爲スヘキ者)」ノ項ニ於テ説明シタルト同一ナリ(同項ノ説明參看) (6)支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ハ必シモ眞實ノ者タルコトヲ要セス、全ク存在セサル假設者ト雖モ之ヲ記載スルコトヲ得、故ニ其ノ手形ニ署名シタル者ハ手形ノ善意ノ取得者ニ對シ假設者ノ記載ナルコトヲ理由トシテ手形上ノ責任ヲ免カル、コトヲ得ス、是レ手形行爲ハ各々獨立性ヲ有シ一ノ行爲ノ無効ハ他ノ行爲ニ對シテ其ノ影響ヲ及ホサル結果ナリ、而シテ斯カル場合モ固ヨリ想像シ得サルニアラス(7)支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ハ一人ナルコトヲ通例トスルモ亦多數人ナルコトヲ妨ケス、此ノ場合ニ支拂ヲ受ケヘキ數人ノ者ハ共同ノ權利ヲ取得スルニ因リ、各自獨立シテ權利ヲ行使スルコトヲ得ス、從テ裏書モ亦多數人共同シテ之ヲ爲ササル可カラス、大審院判例亦同一趣旨ノ見解ヲ採リテ曰ク。

◎(判例一三) 共同受取人ハ共同シテノ裏書ヲ爲スコトヲ得 手形ノ受取人ハ之ヲ數人ト爲スコトヲ妨ケスト雖

モ、此ノ場合ニ於テ共同受取人ハ共同ノ權利ヲ取得シ各自權利ヲ取得スルモノニ非サルヲ以テ、共同シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ單獨ニ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス、從テ共同受取人ハ共同シテノ裏書ヲ爲スコトヲ得ルモノナルヲ以テ、共同受取人ノ一人カ單獨ニテ爲シタル裏書ハ法律上無効ナルモノト解セサル可カラス、蓋シ民法ハ多數當事者ノ債權關係ニ付分割債權關係ヲ以テ原則トシ、各當事者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有スルモノト爲スト雖モ、手形ノ共同受取人ノ權利關係ニ付民法ノ原則ニ準據シ各受取人カ各自其ノ權利ヲ有シ、各別ニ手形行爲ヲ爲シ得ルモノト爲スカ如キハ流通證券タル手形ノ本質ニ背反スルモノト謂ハサルヘカラサレハナリ、果シテ然ラハ原審カ上告人ハ第一審相被告加藤久之助、八重徑萬次郎ト共ニ被告上告人及訴外宮川雄三ヲ受取人トシテ大正十一年四月七日金額七百圓、振出地盛岡市、支拂期日大正十一年五月二十五日、支拂場所盛岡市本町沼宮内源太郎方ト定メタル約束手形ヲ振出し、被告上告人ハ同年六月七日右雄三ヨリ之カ裏書讓渡ヲ受ケタル事實ヲ確定シタルニ拘ハラス、共同受取人ノ一人カ單獨ニテ爲シタル裏書ヲ以テ有效ナルモノト爲シ、被告上告人ノ請求ヲ認容スルニ至リシハ失當ニシテ本論旨ハ理由アリ(大正十五年十二月十七日、大審院第二民事部判決、一五年(オ)第五六六號)



爲シ得ルモノト爲スカ如キハ流通證券タル手形ノ本質ニ背反スルモノト謂ハサルヘカラサレハナリ、果シテ然ラハ原審カ上告人ハ第一審相被告加藤久之助、八重徑萬次郎ト共ニ被告上告人及訴外宮川雄三ヲ受取人トシテ大正十一年四月七日金額七百圓、振出地盛岡市、支拂期日大正十一年五月二十五日、支拂場所盛岡市本町沼宮内源太郎方ト定メタル約束手形ヲ振出し、被告上告人ハ同年六月七日右雄三ヨリ之カ裏書讓渡ヲ受ケタル事實ヲ確定シタルニ拘ハラス、共同受取人ノ一人カ單獨ニテ爲シタル裏書ヲ以テ有效ナルモノト爲シ、被告上告人ノ請求ヲ認容スルニ至リシハ失當ニシテ本論旨ハ理由アリ(大正十五年十二月十七日、大審院第二民事部判決、一五年(オ)第五六六號)

判例カ手形ノ流通證券タル本質ニ鑑ミ多數當事者ノ債權關係ニ對スル民法ノ原則ニ據ラサリシハ至當ナリ(8)

(8)振出人ハ他人ヲ支拂ヲ受ケ又ハ支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ト爲スヲ常トシ、自己ヲ支拂ヲ受ケ又ハ支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ト爲ササルヲ通例トスルモ、法律ハ二者ヲ同一ト爲シ得ルコトヲ認ム、即チ振出人ハ自己ヲ支拂ヲ受ケ又ハ支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ト爲スコトヲ得、此ノ手形ヲ「自己指圖爲替手形」ト稱ス、改正手形法第三條第一項ニ於テ「爲替手形ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得」ト規定シテ此ノ趣旨ヲ明カニシタリ (9)尙ホ振出人ハ自己ヲ支拂ヲ爲スヘキ者(支拂人)ト爲ス所謂自己宛爲替手形ヲ振出シ得ルハ勿論、自己宛ナルト共ニ自己指圖ナルコトモ亦之ヲ妨ケルモノニアラサルコトハ「三、支拂ヲ爲スヘキ者(支拂人)ノ名稱」ノ項ニ説明シタルカ如シ(同項及ヒ第三條ノ説明參看) (10)振出人(甲)ハ支拂人ヲ(乙)トスルト共ニ支拂ヲ受ケ又ハ支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者ヲモ亦タ(乙)トスルコトヲ得ルカ、即チ同一人ヲ支拂人及ヒ受取人ト爲シ得ルヤ否ヤ、或ハ手形法ニ之ヲ認ムル特別ノ明文ナキト兩者ノ資格ノ兼有ニ依リ債務ノ發生ヲ妨ケルモノナリトノ理由ヲ以テ之ヲ消極ニ決スル學者アルモ、手形法ニ明文ナキノ故ヲ以テ之ヲ禁止シタルモノト解スルヲ得ス、蓋シ債權債務ノ發生ハ實質上ノ關係ニシテ、手形ノ形式要件ニ付テハ其ノ手形ニ支拂人アリヤ亦受取人

(支拂ヲ受クル者又ハ支拂ヲ受クル者ヲ指圖スル者)アリヤ否ヤニ依リテ手形ノ有效ナリヤ否ヤヲ決スヘク其ノキモノニシテ、ノ兩者カ同一人格者ナルト否トハ必シモ之ヲ問ハサルモノト解セサル可カラス、殊ニ爲替手形カ裏書讓渡アリタル場合ニ於テハ支拂人ト受取人トカ同一人格者ナル手形モ此ノ兩者カ別人格者ナル手形ト同一ノ效力ヲ有スヘキモノトナルヲ以テナリ、故ニ之ヲ積極ニ解スルヲ相當トス、左記大審院判例亦同一ノ見解ヲ採ル曰ク。

◎(判例一四) 支拂人ト受取人トハ別人格者(別人)タルコトヲ要セス同一人格者(同一人)タルコトヲ得 商法第四百四十七條ハ振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得ヘキ旨ヲ定ム、之ニ依リテ爲替手形ノ振出人、支拂人及受取人ハ各別異ノ人格者ナラサルヘカラサルモノニ非ラサルコトヲ知ルニ足ル、而シテ商法中爲替手形ノ支拂人ト受取人トカ同一人格者ナルコトヲ得サル旨ヲ定メタル規定ナク、又爲替手形ノ振出人ト支拂人又ハ受取人トカ同一人格者ナルコトヲ得ルニ、其ノ支拂人ト受取人トハ同一人格者ナルコトヲ得サル理由ナシ、蓋シ爲替手形ハ裏書ニヨリ讓渡セラル、モノニシテ、一旦裏書讓渡アリタル場合ニ於テハ支拂人ト受取人トカ同一人格者ナル手形モ、此ノ兩者カ別人格者ナル手形ト同一ノ效力ヲ有スルコトヲ得ヘキモノナレハナリ、然ラハ爲替手形ノ支拂人ト受取人トハ別人格者ナルコトヲ要セス、同一人格者ナルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス(大正十三年十二月二十五日、大審院第二民事部判決、一三年(オ)第五二七號)

七 手形ヲ振出ス日及地ノ表示 本號ニ於テハ(A)振出ノ年月日及ヒ(B)振出地ヲ記載スヘキコトヲ定ム、舊手形法ニ在リテハ手形ノ振出地ヲ約束手形ノ要件ト爲シ之ヲ爲替手形ノ要件ト爲サザリシモ、改正手形法ハ爲替手形ニモ振出地ヲ表示スヘキモノト爲シタリ、蓋シ改正手形法ハ手形ニ關スル國際的ノ規定ナルカ故ニ、振出地ハ振出人ノ能力、振出行爲ノ方式ニ關スル準據法ヲ定ムルニ必要アルヲ以テナリ、以下項ヲ分テテ之ヲ説明スヘシ。

(A) 振出ノ年月日(手形ヲ振出ス日) (一)舊手形法即チ商法第四百四十五條第六號ニ「振出ノ年月日」トアルモ、本號ニハ「手形ヲ振出ス日」トアルニ因リ、手形ヲ振出ス「日」ノミヲ記載スルヲ以テ足ルカ如ク解セラル、モ「日」ノミヲ記載スルトキハ其ノ年月ヲ明カニスルコト能ハサルカ故ニ、本號ノ趣旨モ亦之ヲ手形ヲ振出ス年月日即チ「振出ノ年月日」ト解スヘキハ勿論ナリ(二)振出ノ年月日トハ振出人カ爲替手形ノ振出行爲ヲ爲シタル日附ニシテ手形ノ發行日ヲ謂フ、而シテ振出ノ年月日ハ之ヲ爲替手形ノ要件トス、蓋シ振出ノ年月日ハ振出ノ當時ニ於テ振出人カ能力者ナリヤ、又既ニ支拂ヲ停止シ居リタルヤ否ヤヲ決定スル爲メニ必要アリ、日附後定期拂ノ手形ニ在リテハ振出ノ日附ヨリ確定セル期間ヲ以テ滿期トスルニ因リ(第三十三條ノ說明參看)其ノ滿期ヲ定ムル爲メニ必要アリ、一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ在リテハ振出ノ日附ヨリ一年內ニ引受又ハ支拂ノ爲メニ呈示スルコトヲ要スルカ故ニ(同第二十三條及ヒ第三十四條ノ說明參看)其ノ呈示期間ノ起算點ヲ定ムル必要アルニ因ル、從テ振出ノ年月日ノ記載ヲ缺ク爲替手形ハ無効ナリ(三)手形振出ノ日附ニ虛偽ノ日附ヲ記載シタルトキハ其ノ效力如何、或ハ之ヲ以テ日附ノ記載ナキ手形ト同視シテ之ヲ無効ナリト主張スル者アレトモ、手形ノ要件ハ其ノ手形ニ因リテノミ之ヲ決定スヘキモノナルヲ以テ、實際手形ヲ振出シタル年月日ト異ナル年月日ヲ振出ノ年月日ト爲スモ、手形ノ形式要件ニ缺クル所ナキカ故ニ之ヲ有效ナリト解セサル可カラス、左記大審院判例ハ何レモ之ヲ有效ナリト判示セリ、同判例中ノ一個ハ舊手形法小切手ノ振出ノ年月日ニ關スルモノナレトモ、改正手形法ニ於ケル「手形ヲ振出ス日」ニ付テモ亦タ同一ニ解スヘキハ勿論ナリ。

◎(判例一五) 振出ノ日附カ眞ノ振出日附ニ適合セザル一事ヲ以テ之ヲ無効ト爲スコトヲ得ス 因テ接スルニ小切手ニ振出日附ヲ記載スルコトハ其ノ要件ナリト雖モ、其ノ振出日附ハ必スシモ眞ノ振出年月日ニ適合スルコトヲ要セ

ス、小切手交付後ノ年月日ヲ以テ振出日附ト爲シタルトキハ其ノ小切手ハ振出日附到來ノ時ヨリ振出人トシテ手形ノ文言ニ從ヒ、其ノ義務ヲ負擔スル總旨ナリト解釋セラレ手形ノ形式ニ缺クル所ナキノミナラス、其ノ實質ニ對シテモ瑕疵ヲ生セシムヘキモノニ非サレハ小切手ノ振出日附カ眞ノ振出年月日ニ適合セサルノ一事ヲ以テ之ヲ無効ナリト論スルコトヲ得ス(大正二年四月十七日、大審院第二刑事部判決、二年(九)第四六七號)

◎(判例一六) 實額ノ年月日ト補遺スル振出年月日ノ記載モ有効ナリ 然レトモ實際ノ手形ノ振出又ハ裏書ノ年月日ト其ノ手形ニ記載シタル振出又ハ裏書ノ年月日ト力相一致セサル場合ト雖モ、手形ハ一ニ其ノ記載ニ依リテ要件ノ有無ヲ判定スヘキモノナルヲ以テ、手形ニ記載シタル年月日ハ手形行爲ノ要件トシテ記載ノ效力ヲ有スヘキモノトス(昭和二年二月六日、大審院第一民事部判決、二年(オ)第九五七號)

(B) 振出地(手形ヲ振出ス地) (一)振出地トハ振出人カ爲替手形ノ振出行爲ヲ爲シタル地ヲ謂フ、即チ振出人カ爲替手形ニ法定ノ事項ヲ記載シ且之ニ署名(又ハ記名捺印)ヲ爲シタル地ヲ指ス、改正手形法ハ手形ノ振出ニ關スル準據法ヲ定ムル必要ヨリ之ヲ爲替手形ノ要件トスルモ、此ノ要件ハ絶對的ノモノニアラス、振出地ノ記載ナキ場合ニ於テ振出人ノ名稱ニ或ル地ヲ附記スルトキハ其ノ附記シタル地ヲ以テ振出地ト爲ス(第二條ノ說明參看)然レトモ手形ニ振出地ノ記載ナク且振出人ノ名稱ニ或ル地ノ附記モナキトキハ其ノ手形ハ全ク振出地ヲ缺クカ故ニ無効ナルコト言フ俟タス(二)振出地ノ表示ハ支拂地ノ表示ト同シク地域ヲ記載スルコトヲ要ス、地域トハ獨立シタル最小行政区劃タル市町村ノ區域ヲ謂フ、而シテ市町村ノ表示ハ必シモ其ノ市町村ヲ明記スルコトヲ要セス、手形ノ記載ニ依リ或ル市町村ヲ振出地ト爲シタルコトヲ推知シ得ルヲ以テ充分ナルコトハ支拂地ノ項ニ於テ説明シタルカ如シ(本條「五、支拂ヲ爲スヘキ地ノ表示」ノ項及ヒ(判例二)參看) (三)振出地ノ表示ハ手形ノ如何ナル部分ニ如何ニシテ之ヲ爲スヘキカ、此ノ點ニ關スル大審院判例ニ曰ク。

◎(判例一七) 振出地ハ手形圖ノ何レノ部分ニ於テ之ヲ爲スモ妨ケナシ 然レトモ手形ノ成立ニ要スル振出地ニ付、

キテハ相當ナル文言ヲ以テ、振出地ナルコトヲ認識スルニ足ルヘキ一定ノ場所ヲ手形面ニ記載スルノミテ以テ足リ、振出地タルコトヲ表示シテ之カ記載ヲ爲スコトヲ必要トセサルノミナラス、手形面ノ何レノ部分ニ於テモ之ヲ爲スモ毫モ妨ケナシ、故ニ本件ノ如ク之ヲ振出地ノ欄内ニ記載セスシテ之ヲ住所欄ニ記載シタル場合ト雖モ、其ノ記載ニ依リ振出地ヲ認知スルコトヲ得ル以上ハ其ノ手形ニハ振出地ノ記載アルニ歸スルヲ以テ、手形ノ成立要件ヲ具備スルモノト謂ハサルヘカラス(大正二年六月一日、大審院第二民事部判決、二年(オ)第一七八號)

即チ此ノ判例ハ振出地ノ表示ハ手形ノ如何ナル部分ニ之ヲ爲スモ妨ケナク、相當ナル文言ヲ以テ振出地ナルコトヲ認識スルニ足ルヘキ一定ノ場所ヲ手形面ニ記載スルヲ以テ足ルモノト爲シタリ、左記判例モ亦タ曰ク。

◎(判例一八) 振出地ハ振出地欄内ニ於テセサルモ亦振出地ノ記載トシテ有効ナリ 振出地ト謂フ印刷文字ノ直下ヨリ少シク左偏シタル部位ニ徳島市云々ト記載セラレアルノ故ヲ以テ直ニ之ヲ振出地ノ記載ニ非スト謂ハントスル上告人ノ抗辯ハ徒ニ形式ニ拘泥シ不必要ニ手形取引ヲ煩雜ナラシメントスルモノ、振出地欄内ニ於テセサルモ亦振出地ノ記載トシテ有効ナルヲ妨ケストノコトハ夙ニ當院ノ判例トスルトコロニハ非サルカ(當院大正十二年(オ)第六九〇號、同十三年三月十四日言渡)當該記載ノ振出地ヲ表示スルモノタルハ手形面上一見則チ歴々タリ、筆舌ヲ以テ其ノ爾ル所以ヲ説明スルノ事口却ツテ困難ニシテ而モ無用ナルヲ覺エスンハアラス、況ンヤ之ヲ以テ上告人主張ノ如ク日英興業株式會社ノ營業所所在地ヲ表示セルモノト觀ルモ、亦タ以テ振出地ノ記載ト解センコト何等ノ疑アルヘカラサルニ於テオヤ云々(昭和二年十一月十九日、大審院第四民事部判決、二年(オ)第九五八號)

前掲二個ノ判例ハ舊手形法ノ約束手形ノ振出地ニ關シテ判示セラレタルモノナレトモ、改正手形法ノ爲替手形及ヒ約束手形ノ振出地即チ「手形ヲ振出ス地ノ表示」ノ記載ニ付キ亦タ同一ニ之ヲ解スヘシ。

八 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名 (一)振出人ハ爲替手形ノ振出ニ依リ引受及ヒ支拂ヲ擔保スル責任ヲ負フヘキモノナルカ故ニ其ノ署名ヲ手形ノ要件トス、從テ本號第一號乃至第七號ノ要件ヲ具備スルモ振出人ノ署名ヲ缺クトキハ手形ハ無効ナリ(二)署名トハ振出人カ自己ノ氏名又ハ商號ヲ自ラ記スコトヲ謂フ、故ニ自ラ

記スルニアラサレハ署名ニアラス、然レトモ改正手形法ニ於テハ署名ハ記名捺印ヲ含ム(第八十二條説明參看)モノト爲シタルニ因リ、必スシモ自署スルコトヲ要セス記名捺印ヲ以テ足ル、蓋シ舊手形法即チ商法ニ在リテハ明治三十三年法律第十七號ニ依リ、商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得タルモ、改正手形法ハ之ヲ商法中ニ規定セスシテ別個獨立ノ法律ト爲シタルヲ以テ、同法律ニ依ルコトヲ得サル結果記名捺印ヲ署名ニ包含セシメ實際ノ必要ニ應セシメタリ、而シテ記名捺印ノ場合ニ於テモ振出人ノ意思ニ基クコトヲ要スルハ勿論ナルモ、必スシモ振出人自ラ手ヲ下シテ之ヲ爲スノ必要ナク、他人ヲシテ之ヲ爲サシムルモ妨ケナシ(3)本號ニ於テハ單ニ振出人ノ署名ト謂ヒ、支拂人及ヒ支拂ヲ受クヘキ者ノ如ク名稱ト爲ササルヲ以テ、其ノ氏名ヲ記スヘキカ又ハ商號ヲ記スヘキカ明カナラサルカ如キモ、支拂人及ヒ支拂ヲ受クル者ノ名稱ノ記載ノ如ク、其ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ得ルハ勿論、其ノ氏又ハ名ノミヲ記載シ其ノ他通稱雅號ト雖モ本人カ常ニ之ヲ慣用シ取引上廣ク世人ニ知ラレタルモノハ之ヲ用フルモ妨ケナキコトハ支拂人及ヒ支拂ヲ受クル者ノ名稱ニ付キ説明シタルト同一ナリ(4)會社其ノ他ノ法人カ手形ヲ振出スニハ署名ノ方式ヲ如何ニスヘキカ、或ハ其ノ名稱ヲ記載シ其ノ印章ヲ押捺スルヲ以テ足ルト解スル者アルモ、會社其ノ他ノ法人ノ代表者カ會社其ノ他ノ法人ノ爲メニスル意思ヲ明ニシ、自己ノ署名又ハ記名捺印ヲ要スルモノト解セサル可カラス、左記大審院判例亦タ同一趣旨ナリ、曰ク。

◎(判例一〇) 會社ノ手形行爲ニハ取締役自身カ手形ニ署名スルコトヲ要ス 株式會社ノ取締役カ會社ノ爲メニ手形振出ノ意思ヲ表示スルニ當リテハ其ノ旨ヲ明カニシ、取締役自身該手形ニ署名スルヲ要スルコトハ當院ノ判例トスル所ナリ(明治三十七年(オ)第五三五號事件、明治三十八年二月七日言渡)云々(大正十二年七月十三日、大審院第一民事部判決、一二年(オ)第三三七號)

◎(判例一〇) 取締役ハ手形ノ振出ニハ會社ノ爲ニスル意ヲ明ニシ自己ノ名ヲ署スヘキモノトス 上告論旨ハ會社ハ自然人ノ代表ヲ俟スシテ行動スルコトハ絕對ニ不能ナルモ會社ナル法人カ自身ノ名稱ヲ以テ手形ノ振出人タルコトヲ得サルノ規定ナク又之ヲ禁スルノ必要ナシ、然ルニ原院ハ甲第四號契約束手形振出人ノ印ニ武生商林株式會社福江支店ト記載セラレタルニ止マルヲ以テ振出人ト謂フコトヲ得スト判定シタルハ不法ナリト謂フニ在リ、按スルニ約束手形ニハ振出人ノ署名スルヲ要スルハ商法第五百二十五條ノ規定スル所ニシテ、而シテ振出人ノ署名ナルモノハ振出行爲ヲ爲スヘキ表意者カ自己ノ爲メニスル他人ノ代理人トシテ爲ストテ問ハス表意者自己ノ名ヲ署スヘキモノナルコトハ署名ノ性質上固ヨリ當然ナルカ故ニ、會社ノ代表機關タル取締役ニ於テ會社ノ爲メニスル振出ノ意思ヲ表示スルニ付テハ會社ノ爲メニスルノ意ヲ明カニシテ、取締役自己ノ名ヲ署セサルヘカラサルハ猶ホ後見人カ未成年者ノ爲メニ手形ヲ振出ス場合ニ後見人ノ名ヲ署セサルヘカラサルトモ擇フ所ナキナリ、何トナレハ取締役ハ會社ノ法定代理人ニシテ此ノ點ニ於テハ後見人カ未成年者ノ法定代理人タルト更ニ異ナルコトナケレハナリ(明治三十八年二月七日、大審院第一民事部判決、三十七年(オ)第五三五號)

即チ株式會社ノ取締役カ會社ノ爲メニ手形振出ノ意思ヲ表示スルニ當リテハ會社ノ爲ニスル意思ヲ明カニシ其ノ手形ニ取締役自身ノ名ヲ署スヘキモノト爲シタリ(5)而シテ取締役カ會社ノ爲メニ手形ヲ振出スヘキ意思ノ表示ハ必スシモ手形ニ之ヲ明示スルコトヲ要セス、其ノ手形ニ依リテ取締役カ會社ノ爲メニ手形ヲ振出シタルモノト推知シ得ルヲ以テ足ルモノト解ス、故ニ手形ニ「振出人、何々株式會社、取締役何某」ト記載シテ振出スコトヲ得(6)代理人カ本人ノ爲メニ手形ヲ振出スニハ署名ノ方式ヲ如何ニスヘキカ、改正手形法ニ於テハ舊手形法即チ商法第四百三十六條ト同様ナル規定ナキモ、第八條ノ無權代理人ノ署名ニ關スル規定ヨリ推測シ、代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記載シテ其ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲スコトヲ要ス、然ラハ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記載セス、且其ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲サシテ直接ニ本人ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲シ手形ノ振出ヲ

代理スルコトヲ得ルカ、或ハ代理行爲ハ代理人ノ行爲ニシテ其ノ效力カ本人ニ歸スルニ止マルニ因リ、本人ノ署名又ハ記名捺印ノ代理ヲ認ムルコトヲ得ス、若シ代理人カ直接ニ本人ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲シタルトキハ其ノ行爲ハ代理人トシテノ行爲ニアラスシテ、代理人カ本人ノ意思ヲ傳達スル機關トシテ爲シタルモノナルヲ以テ、振出行爲ハ本人自體ノ行爲トシテ有效ナルヘキモ、代理ニ依リテ振出シタルモノト認ムルコトヲ得スト主張スル者アレトモ、左記大審院判決ハ代理人カ直接本人ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲シ振出行爲ヲ代理スルコトヲ認メタリ、曰ク。

◎(判例一〇一) 代理人ハ本人ノ名義ヲ以テ手形ヲ振出スコトヲ得

然レトモ手形ノ振出行爲ハ一ノ要式行爲ニシテ此行爲ハ一般ノ法律行爲ト同シク之ヲ他人ニ委任シ代理人ノ名義ヲ以テ手形ヲ振出サシムルコトヲ得ヘキハ論ナキノミナラス、手形ノ振出行爲ヲ他人ニ委任シ本人ノ氏名ヲ記載シ及本人ノ印形ヲ捺捺シ即チ本人ノ名義ヲ以テ、手形ヲ振出サシムルコトヲ妨ケサルモノニシテ前者ノ場合ニ於テハ代理人カ本人ノ爲ニスルコトヲ手形ニ記載セザルトキハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フモノニ非サルモ、後者ノ場合ニ於テハ手形ノ形式上代理關係現ハレザルヲ以テ、本人ハ自ラ振出行爲ヲ爲シタルモノト看做サレ手形上ノ責任ヲ負フヘキモノトス、商法第四百三十六條ハ前示ノ如ク手形ノ代理人カ本人ノ爲ニスルコトヲ示サスシテ、手形ニ署名シタル場合ハ本人ニ手形上ノ責任ナキコトヲ規定シタルニ止マリ、代理人チシテ本人名義ヲ以テ手形ヲ振出サシムルコトヲ得サラシムル法意ヲ含蓄スルモノニ非ス(大正四年六月二十八日、大審院第二民事部判決、四年(オ)第三〇七號)

即チ代理人ハ本人ノ爲メニ代理人ノ名義ヲ以テ手形ヲ振出スコトヲ得ヘキハ勿論、代理人カ直接本人ノ氏名ヲ記載シ又ハ本人ノ記名捺印ヲ爲シ手形ヲ振出シ得ルコトヲモ認メタリ、尙ホ大審院ハ支配人カ本人ノ爲メニ手形行爲ヲ爲ス場合ニ於テモ亦之ヲ同一ニ解シ左ノ如ク判示セリ。

◎(判例一〇二) 支配人ハ手形ニ直轄本人ノ名ヲ署シ又ハ記名捺印シテ手形ヲ振出スコトヲ得

按スルニ支配人ハ主人ニ代リテ其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ、其ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルカ故ニ、支配人カ本人ノ爲ニスル營業ニ關シ手形行爲ヲ爲スニ當リ、主人ノ爲ニスルコトヲ記載シテ自己ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲スト將タ又直接ニ主人ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲ストハ當然ニ其ノ權限内ニ屬シ、其ノ行爲ハ直接本人ニ對シ其ノ效力ヲ生スルモノナルコトハ當院ノ判例(大正九年(オ)等一一一號、同年四月二十七日第一民事部判決)トスル所ナルヲ以テ、原判決カ論旨錯誤ノ如ク判示シ小倉海産工業會社ニ付、被上告人チ主人トシテ訴外井上精一チ支配人トセル商業登記ノ存スル事實ヲ確定シタルニ拘ラス、該事實ニ依リテハ被上告人カ右訴外人ニ被上告人個人名義ノ手形ヲ振出スヘキ權限ヲ授受シタルモノト推斷スルコト能ハスト爲シ、右訴外人カ被上告人名義ニテ振出シタル本件手形ニ付、被上告人ニ手形上ノ責任ヲ負ハシメサリシハ失當ニシテ論旨ハ理由アリ(昭和二年三月十八日、大審院第二民事部判決、十五年(オ)第七二二號)

蓋シ代理人ハ本人ノ爲メニ自己ノ名義ヲ以テ手形行爲ヲ爲シ得ヘク、亦タ直接本人ノ署名若ハ記名捺印ヲ爲シテ手形ヲ振出スコトヲ得ルモノト解スルニ於テハ其ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲シ得ル權限ヲ有スル支配人ノ手形振出ニ付キ、一層強キ理由ヲ以テ同一ニ論定シ得ルヲ以テナリ(7)振出人ハ一人タルコトヲ得ヘク又タ二人以上タルコトヲ妨ケス、是レ改正手形法モ舊手形法即チ商法ト同ク二人以上共同シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ禁止セル明文ナキヲ以テナリ、而シテ此ノ場合ニ於テ數人ノ振出人ハ連帶債務者トシテ其ノ責任ヲ負フヘキモノナルヤ否ヤ、大審院判例ニ於テハ約束手形ノ共同振出行爲ハ振出人總員ノ爲メ商行爲ナルヲ以テ、共同振出人ハ其ノ手形ニ付キ連帶債務ヲ負擔スヘキモノナリト理由ニ依リ左ノ如ク判示シタリ。

◎(判例一〇三) 共同振出人ハ其ノ手形ニ付キ連帶債務ヲ負擔スヘキモノナリ

然レトモ手形ノ共同振出行爲ハ振出人總員ノ爲メ商行爲ニシテ約束手形ノ共同振出人カ其ノ手形ニ付キ連帶債務ヲ負擔スヘキコトハ商法第二百七十三條第一項ニ依リテ明カナリ、而シテ共同振出人ノ一人ト受取人トノ間ニ手形ノ書換ニ因リテ更改ノ行ハレタルトキハ其ノ更改ハ民法第四百三十五條ニ依リ連帶債務者ノ利益ノ爲メ效力ヲ生スルヲ以テ、舊手形債務ハ他ノ共同振出人本論 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 (第一條)

ニ對シテモ消滅スヘク、其ノ事由タルヤ共同振出人ノ何人ヨリモ更改ノ當事者ニ對抗シ得ヘキハ勿論、満期日後其ノ當事者ヨリ舊手形ヲ取得シタル所持人ニ直接ニ對抗シ得ヘキモノナレハ舊手形カ其ノ振出人ノ手裡ニ復歸セサル限リハ其ノ手形ヲ有效ナリト論スルコトヲ得ス(大正五年十二月六日、大審院第二民事部判決、五年(オ)第九三五號)

然レトモ改正手形法ニ於ケル爲替手形ノ共同振出人ノ責任ヲ右判例ノ如ク連帶債務ナリト解スルコトヲ得ル乎、蓋シ改正手形法ハ爲替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對シテ其ノ責任ニ任スヘキモノト爲シ(第四十七條第一項ノ說明參看)明ニ連帶債務ト區別シタルト商法第二百七十三條第一項ノ規定ハ當事者ノ意思ヲ推測シタル任意規定ニ過キサルヲ以テ、當事者ハ反對ノ意思ヲ表示シテ該規定ニ依ラサルコトヲ得ルモ、數人カ共同シテ手形ヲ振出シタルトキハ其ノ性質上當然ノ結果トシテ共同者各自ニ於テ全部ノ責任ヲ負フヘキモノニシテ、反對ノ特約ニ依リ其ノ責任ヲ免カルコトヲ許サス、從テ共同振出人ニ對シテハ商法第二百七十三條第一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サルヲ以テナリ、而シテ數人ノ振出人ハ各自振出行爲ヲ爲シタル結果トシテ各自手形金額ノ全部ニ付キ責任ヲ負擔スルト共ニ其ノ數個ノ手形債務ハ結局一個ノ手形ノ振出ニ依ル單一ノ目的ヲ有スルモノナルヲ以テ、改正手形法ハ共同振出人ハ合同シテ責任ヲ負フヘキモノト爲セリ、故ニ所持人ハ共同振出人ニ對シテ各別ニ請求シ又ハ共同ニ請求ヲ爲シ得ルコトヲ認ム(第四十七條第二項ノ說明參看)從テ共同振出人ノ一人カ全部ノ支拂ヲ爲シタルトキハ全員ノ振出人カ其ノ債務ヲ免カルヘキハ當然ナリト謂ハサル可カラス、唯此ノ關係カ連帶債務ニ類似スルニ過キス、是ヲ以テ改正手形法ノ解釋トシテハ連帶債務ナリト解スルコトヲ得ス、故ニ所持人ノ共同振出人ノ一人ニ對スル遡求權ノ行使ハ他ノ共同振出人ニ對シテ其ノ效力ヲ生セス、又タ所持人ト共同振出人ノ一人トノ間ニ更改若ハ相殺等ヲ爲スモ他ノ共同振出人ニ對シ當然其ノ效力ヲ及ホ

ササルモノト解ス(8)振出人ノ住所ハ手形ノ要件ニアラサルヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要セス、然レトモ之ヲ記載スルモ妨ケナシ、殊ニ振出地ノ記載ナキ場合ニ於テ振出人ノ住所地ノ記載アルトキハ其ノ住所地ニ於テ手形ヲ振出シタルモノト看做スニ因リ、振出地ヲ記載セサルトキハ住所地ヲ記載スル必要アリ否ラサレハ手形ハ振出地ノ記載ナキモノトシテ無効ト爲ル。

第三 手形要件以外ノ記載事項

(1)以上説明シタル事項ハ第一條ノ規定スル所ニシテ何レモ爲替手形ノ要件ナリ、故ニ爲替手形ノ振出ヲ爲スニハ必ラス之ヲ具備スルコトヲ要ス、然レトモ手形法ハ本條ノ要件以外ノ事項ニシテ手形ニ記載スルコトヲ得ル事項ヲ認ム、此ノ事項ハ手形ニ記載スルニ依リテ手形上ノ效力ヲ生スルモ手形ニ記載シ得ルコトヲ認メサル事項ハ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セス、改正手形法ニ於テハ舊手形法即チ商法ノ如ク本編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セサル旨(商四三九)ノ明文ナシト雖モ、手形ヲ要式證券ト爲シ一定ノ事項ノ記載ヲ必要トシ其ノ以外ニハ特定ノ事項ニ限り之ヲ記載シ得ルコトヲ認メ、亦タ振出又ハ裏書等ノ性質ニ反スル事項ハ之ヲ記載スルモ其ノ記載ハ之ヲ爲ササルモノト看做シタル等ノ點ヨリ、手形法ニ特ニ記載シ得ルコトヲ認メタル事項ニアラサレハ之ヲ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セサルモノト解スヘシ(2)然ラハ手形法ニ記載ヲ認メタル事項ニアラサルモ、手形ノ性質ニ反セサル事項ノ記載ハ何等ノ效力モ生セサルカ、此ノ事項ノ記載ハ手形上ノ效力ナキコトハ勿論ナレトモ、其ノ事項カ手形當事者ノ契約ニ關スルモノナルトキハ直接ノ當事者間ニ於テ契約トシテ其ノ效力ヲ有シ、其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ人的抗辯ノ原因ト爲スコトヲ得、然レトモ此ノ事項カ手形ニ記載セラレタル理由ヲ以テ總テノ手形ノ署名者及ヒ所持人ニ對シテ契約ヲ爲シタルモノトシテ對抗スルコトヲ得サルハ勿論ナリ、然レトモ所持人カ債務者ヲ害スルコトヲ

知リテ手形ヲ取得シタルトキハ對抗スルコトヲ得(第十七條ノ說明參看)。(3)改正手形法ニ於テ爲替手形ノ要件以外ノ事項ニシテ其ノ記載ヲ認メタルモノハ次ノ如シ(一)支拂人ノ名稱ニ附記スル地 支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且支拂人ノ住所タルモノト看做ス(第二條第三項ノ說明參看)(二)振出人ノ名稱ニ附記スル地 振出地ノ記載ナキ爲替手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス(第二條第四項ノ說明參看)(三)支拂場所 支拂場所トハ支拂人ノ支拂ヲ爲スヘキモノトシテ特ニ指定セラレタル場所ヲ謂フ、爲替手形ハ支拂人ノ住所地ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトヲ問ハス第三者ノ住所ニ於テ支拂フヘキモノト爲スコトヲ得(第四條ノ說明參看)トノ規定ハ振出人カ爲替手形ニ支拂ノ場所ヲ記載シ得ルコトヲ認メタルモノナリ(四)利息ノ約定 振出人ハ一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ手形金額ニ付キ利息ヲ生スヘキ約定ヲ記載スルコトヲ得(第五條ノ說明參看)(五)引受擔保義務ノ免脱 振出人ハ引受及ヒ支拂ヲ擔保スヘキモノナレトモ引受ノ擔保義務ニ限り其ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得(第九條ノ說明參看)(六)指圖禁止 手形ハ當然ノ指圖證券ナルヲ以テ自由ニ裏書讓渡スコトヲ得、然レトモ振出人ハ指圖禁止即チ裏書禁止ノ記載ヲ爲シ指圖債權ヲ指名債權ト爲スコトヲ得(第十一條ノ說明參看)(七)引受ノ爲メノ呈示及ヒ其ノ禁止 振出人ハ爲替手形ニ期間ヲ定メ又ハ定メスシテ引受ノ爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得、又タ振出人ハ手形ニ引受ノ爲メノ呈示ヲ禁スル旨ヲ記載スルコトヲ得ルハ勿論、一定ノ期日前ニハ引受ノ爲メノ呈示ヲ爲スヘカラサル旨ヲ記載スルコトヲ得(第二十二條ノ說明參看)(八)引受ノ爲メノ呈示期間ノ伸縮 一覽後定期拂ノ爲替手形ハ其ノ日附ヨリ一年內ニ引受ノ爲メ之ヲ呈示スルコトヲ要スルモノナレトモ振出人ハ此ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得(第二十三條ノ說明參看)(九)支拂ノ爲メノ呈示期間ノ伸縮

一覽拂ノ爲替手形ハ其ノ日附ヨリ一年內ニ支拂ノ爲メ之ヲ呈示スルコトヲ要スルモノナレトモ、振出人ハ此ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得ルハ勿論、一定ノ期日前ニハ支拂ノ爲メ呈示スルコトヲ得サル旨ヲ記載スルコトヲ得(第三十四條ノ說明參看)(一〇)拒絶證書ノ作成免除 振出人ハ手形ニ無費用償還又ハ拒絶證書不要ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シテ引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得(第四十六條ノ說明參看)(一一)豫備支拂人 振出人ハ爲替手形ニ豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得(第五十五條ノ說明參看)豫備支拂人トハ支拂人カ引受又ハ支拂ヲ拒絶シタル場合ニ於テ參加引受又ハ參加支拂ヲ爲サシムル爲メ特ニ手形ニ指定セラレタル者ヲ謂フ(第五十六條乃至第六十三條ノ說明參看)(一二)複本交付請求ノ制限 振出人ハ爲替手形ニ一通限りニテ振出ス旨ヲ記載ヲ爲シテ所持人ノ複本ノ交付ノ請求ヲ制限スルコトヲ得(第六十四條ノ說明參看)。

第四 手形行爲ノ同意、許可、承認 (一)振出人カ手形ノ振出ヲ爲スニハ或者ノ同意、許可、承認ヲ必要トスルコトアリ、故ニ此ノ場合ニハ其ノ同意、許可、承認ヲ得ルコトヲ要ス、從テ振出人カ其ノ同意、許可ヲ得スシテ手形ヲ振出シタルトキハ其ノ振出行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘク、又タ承認ヲ得サルトキハ其ノ手形行爲ヲ無効トス、例之ハ未成年者、禁治産者、準禁治産者及ヒ妻カ其ノ法定代理人ノ同意、許可ヲ得スシテ手形ヲ振出シタル場合ノ如キ、取締役カ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ニ對シ手形ノ振出ヲ爲スニ監査役ノ承認ヲ得サルカ如シ(二)未成年者又ハ禁治産者カ手形ノ振出行爲ヲ爲スニハ其ノ法定代理人タル親權者又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス、蓋シ手形ノ振出一種ノ法律行爲ニシテ振出人ハ振出ニ依リテ引受及ヒ支拂ノ擔保義務ヲ負フヘキモノナルヲ以テナリ、故ニ其ノ同意ヲ得サル振出行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得、然レトモ一種又ハ數種ノ營業ヲ許

本論 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 (第一條)

サレ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ其ノ營業又ハ會社ノ業務ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有スルモノト看做サルルカ故ニ(商六)其ノ營業又ハ會社ノ業務ノ範圍内ニ於テ手形ノ振出行爲ヲ爲スニハ法定代理人ノ同意ヲ要セサルコト勿論ナリ(3)準禁治産者又ハ妻カ手形ノ振出行爲ヲ爲ス場合ニ於テモ亦タ保佐人ノ同意又ハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス、蓋シ民法第十二條第一項第二號ニ「借財」トハ單ニ金錢ヲ借入ルル場合ニ限ラルルノ趣旨ニアラスシテ、債務ヲ負擔スル總テノ場合ヲ包含スルモノト解スヘキヲ以テ、手形ノ振出ノ如キ手形金額ノ支拂義務又ハ其ノ請求義務ヲ負擔スル行爲ハ借財ニ該當ス、左記大審院判例モ約束手形ノ振出行爲ニ付キ同一趣旨ノ見解ヲ採リテ曰ク。

◎(判例一四) 借財ニハ約束手形ノ振出ヲモ包含ス

民法第十二條第一項第二號ニ所謂借財トハ獨リ消費貸借ノ

ミテ指稱シタルニ非スシテ約束手形ヲ振出ス行爲ノ如キモ亦之ニ包含セルモノトス(明治三十九年五月十七日、大審院第一民事部判決、三十九年(オ)第一二一號)

此ノ判例ハ約束手形ノ振出行爲ニ關シテ判示セラレタルモノナレトモ、爲替手形ノ支拂人カ支拂ヲ拒絶シタルトキハ振出人ハ所持人ノ請求ニ應ジテ手形金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔スルニ因リ、爲替手形ノ振出行爲モ亦約束手形ノ振出行爲ノ場合ト同一ニ解スヘシ、從テ準禁治産者又ハ妻カ保佐人ノ同意又ハ夫ノ許可ヲ得スシテ爲シタル振出行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得、然レトモ一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル妻ハ其ノ營業又ハ會社ノ業務ニ關シテハ能力者ト看做スヲ以テ(商六)其ノ營業又ハ業務ノ範圍内ニ於テ手形ノ振出行爲ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ必要トセス(4)親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リ借財ヲ爲シ又ハ子ノ借財ヲ爲スコトニ同意スルニハ民法第八百八十六條ノ規定ニ依リ、親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルカ故ニ、親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リテ手形ノ振出行爲ヲ爲ストキ又ハ子ノ手形ノ振出行爲ヲ爲スニ同意ヲ與フ

ルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ必要トス、後見人モ上述ノ場合ニ於テハ亦タ親族會ノ同意ヲ得サル可カラス、從テ親族會ノ同意ヲ得サル手形ノ振出行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ルハ言ヲ俟タス、左記大審院判例モ亦タ同一ナリ、曰ク。

◎(判例一五) 親族會ノ同意ヲ得サル手形ノ振出行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

上告人ハ大正九年七月十日訴外清

水常彦宛金額四千圓ノ約束手形ヲ振出シ之ト同時ニ右債務ノ擔保トシテ自己名義ノ日東製氷株式會社株式百株ニ付白紙委任狀ヲ添ヘ之ヲ同人ニ交付シタリ、而モ上告人ハ當時未成年者ナリシテ以テ右ノ行爲ヲ爲スニ付、親權者タル母大島カトノ同意ヲ得タルモ、母カ同意ヲ爲スニ付親族會ノ同意ヲ得サリシニヨリ、大島カトハ大正十年一月十八日清水常彦ニ對シ上告人ノ前記行爲ヲ取消スヘキ旨ノ意思表示ヲ爲シタリ、然ルニ常彦ハ右株式ヲ柏木繁太郎ニ讓渡シ、同人ハ自己ノ名義ニ書換テ爲シタル上更ニ之ヲ被上告人ニ讓渡シ、同人モ亦タ自己ノ名義ニ書換ヘ現ニ株券ヲ占有スルニヨリ、被上告人ニ對シ右株式ニ對スル自己名義ノ抹消並株券ノ引渡シテ請求スト謂フニ在ルコトハ原判決ニ引用シタル第一審判決ノ事實摘示ニ依リ明瞭ナリ、而シテ右上告人ノ約束手形ノ振出並自己所有ノ記名株式ニ白紙委任狀ヲ添附シテ株券ト共ニ清水常彦ニ交付シタル行爲カ民法第八百八十六條第二號及ヒ第三號ニ該當シ、而モ親權者タル上告人ノ母カ上告人ノ右行爲ヲ爲スコトニ同意スルニ當リ、親族會ノ同意ヲ得サリシモノトセンカ親權者タル母ハ同第八百八十七條ニヨリ上告人ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ヘク、而モ其ノ取消ノ效果ハ何人ニモ對抗シ得ヘキヲ以テ、前記記名株式ノ流通ニ關スル商慣習法ハ此ノ場合ニ適用ヲ觀ルコトナク、從テ縱令被上告人カ善意無過失ニテ係争株券並附屬書類ノ交付ヲ受ケタリトスルモ、右株式ニ付何等ノ權利ヲモ取得セサルモノト謂ハサルヘカラス(大正十三年十二月二十三日、大審院第一民事部判決、一三年(オ)第五八九號)

前述ノ無能力者、親權者タル母又ハ後見人ノ爲シタル振出行爲ノ取消ノ效果ハ絶對的ナルヲ以テ何人ニモ之ヲ對抗スルコトヲ得、從テ所持人カ縱令ヒ善意ニシテ過失ナク手形ヲ取得シタル場合ト雖モ取消權者ハ其ノ所持人ニ對シ振出行爲ヲ取消スコトヲ得、然レトモ其ノ取消ノ效果ハ手形ニ署名シタル他ノ債務者ノ權利義務ニ何等ノ

影響ヲ及ホスモノニアラス、是レ手形行爲ノ獨立性ヨリ生スル當然ノ結果ナリ(第七條ノ說明參看)。(5)手形ノ振出行爲ノ取消ハ何人ニ對シテ之ヲ爲スヘキカ、即チ取消ノ意思表示ハ手形ノ最初ノ取得者ニ對シテ之ヲ爲スヘキカ、又ハ現在ノ所持人ニ對シテ之ヲ爲スヘキカ、此ノ問題ニ對シ左記判例ハ手形ノ最初ノ取得者ニ對シ之ヲ爲スヘキモノト判示セリ、曰ク。

◎(判例一六) 振出行爲ノ取消ハ手形ノ交付ヲ受ケタル最初ノ取得者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス 手形ノ振出行爲ハ振出人カ手形ニ依リ債務ヲ負擔スル意思ヲ以テ、之ヲ他人ニ交付スルニ因リテ成立スルモノナレハ其ノ振出ニ因ル債務負擔行爲ノ相手方ハ振出人ヨリ手形ノ交付ヲ受ケタル最初ノ取得者ニシテ常ニ確定セルモノト謂フヘク、從テ振出行爲ノ取消シ得ヘキ場合ニ於ケル取消ノ意思表示ハ民法第百二十三條ノ規定ニ從ヒ、確定セル如上ノ相手方ニ對シ之ヲ爲スコトヲ要スルモノト謂フヘシ、而シテ右ノ原則ハ爲替手形、約束手形及小切手ニ適用アルモノニシテ、此ノ事ニ關シテハ三者ノ間ニ差異ノ存スルコトナシ(大正十一年九月二十九日、大審院第一民事部判決、一二年(オ)第五三二號)

即チ判例ニ於テハ取消ノ相手方ハ手形ノ交付ヲ受ケタル最初ノ取得者ニシテ常ニ確定セルヲ以テ、其ノ者ニ對シテノミ取消ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要スルモノト解シタリ(6)株式會社ノ取締役ハ監査役ノ承認ヲ得ルニアラサレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得ス(商法第百七十六條)故ニ取締役ト會社トカ手形取引ヲ爲スニハ監査役ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス、從テ監査役ノ承認ヲ得サリシ場合ニ於テハ手形行爲ヲ無効ト爲スヘキカ又ハ之ヲ取消シ得ヘキモノト爲スヘキカ、或ハ當然無効ニアラスシテ之ヲ取消スコトヲ得ルモノト謂フ者アルモ、大審院判例ハ手形行爲ノミナラス手形債務ノ負擔行爲モ亦タ無効ナリト判示シテ曰ク。

◎(判例一七) 監査役ノ承認ヲ得サル取締役ノ振出ハ無効ナルノミナラス手形債務負擔行爲モ亦タ無効ナリ 株式會社ノ取締役カ會社ヲ代表シテ他ノ取締役ニ宛テ手形ヲ振出シタル場合ニ於テハ商法第百七十六條ノ規定ニ依リ監査役ノ承認ヲ得ルコトヲ要シ其ノ承認ヲ得サルトキハ振出ハ無効ニシテ、從テ手形交付行爲ノミナラス手形債務負擔行爲モ亦無効ナリト謂フハサレハ(明治四十二年(オ)第二七九號、同年十二月二日、大正九年(オ)第四三五號、同年七月十日當院判決參照) 上告人ハ手形債務負擔行爲ハ商法第百七十六條ノ取引ニ該當セスト論スレトモ、同條ノ趣旨ハ株式會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ得シテ其ノ會社ト取引ヲ爲スハ會社ノ利益ヲ生スルノ虞アリト爲シ其ノ取引ヲ無効ト爲スニアルヲ以テ、株式會社カ其ノ取締役ニ對シテ手形ノ振出ニ依リ、手形債務ヲ負擔スル行爲モ亦同條ノ取引ニ包含スルモノト解スヘキコト疑フ容レサルヲ以テ其ノ所論ハ當テ得ス、故ニ右手形債務ヲ負擔スル行爲ノ有效ナルコトヲ前提トスル所論モ亦當テ得ス(大正十二年七月十一日、大審院第三民事部判決、一二年(オ)第一八六號)

此ノ判例ニ於テハ監査役ノ承認ヲ得サル取締役ノ手形ノ振出ハ無効ナルカ故ニ、手形ノ交付行爲ノミナラス手形債務ノ負擔行爲モ亦無効ト爲シタリ(7)然ラハ其ノ無効ハ何人ニモ之ヲ對抗スルコトヲ得ルカ、換言スレハ善意無過失ノ取得者ニ對シテモ其ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ルカ、斯ノ點ニ關スル大審院判例ニ曰ク。

◎(判例一八) 取締役カ監査役ノ承認ヲ得サル手形ノ振出ハ何人ニモ之ヲ對抗スルコトヲ得 手形ノ振出力無効ナル以上ハ監査役ノ事後承認ニ依リ有效ト爲リタル場合ニアラサル限リ其ノ手形ノ所持人カ受取人ナルト被裏書人ナルトト問ハス、又被裏書人カ善意ナルト惡意ナルトト問ハス之ニ對シ其ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ヘキコトハ當院ノ判例トスル所ニシテ(明治四十二年(オ)第四二九號判決參照) 手形ノ引受カ無効ナル場合ニ於テモ之ト論結テ異ニスヘキ理由ナキヲ以テ原院カ被上告會社ハ其ノ取締役尾城滿三ニ對シ本件爲替手形ヲ自己宛ニ振出し、又滿三ノ求メニ依リ之カ引受ヲ爲シタルモ執レモ監査役ノ承認ヲ得サリシ事實ヲ認メ、其ノ無効ハ善意ノ被裏書人ニ對シテモ之ヲ主張スルコトヲ得ルヲ以テ、該手形ノ裏書受取人タル上告人ニモ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘシト判示シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ(大正十二年七月十一日、大審院第三民事部判決、一二年(オ)第一八六號)

即チ取締役ノ手形振出ノ無効ハ其ノ手形ノ所持人カ受取人ナルト被裏書人ナルトト問ハス、又又被裏書人カ善意ナルト惡意ナルトト拘ラス之ニ對シテ其ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ルモノト爲セリ、然レトモ取締役カ手形ノ

振出ニ監査役ノ承認ヲ得タルモノナリヤ否ヤハ會社ノ内部ニ於ケル關係ニシテ第三者ハ之ヲ知ラサルコトヲ通例トスルニ因リ、手形取得者ノ善意又ハ惡意ヲ問ハス其ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ルモノト爲ストキハ手形取引ノ安全ヲ害スル虞ナキカ疑ヒナキ能ハス(8)取締役ノ手形ノ振出行爲ニ對スル監査役ノ承認ハ振出前ニ限ルカ、又ハ振出後ニ於テモ之ヲ與フルコトヲ得ルカ、大審院判例ハ監査役力事前ニ承認ヲ與フルトキハ取締役ノ取引行爲ハ初メヨリ有效ナルモ、事前ノ承認ナキトキハ取締役ノ取引行爲ハ無効ナレトモ、其ノ無効ハ確定的ニアラスシテ監査役力承認ヲ爲シ又ハ承認ノ拒絶ヲ爲ス迄ハ浮動ノ状態ニ在ルモノニシテ、之ヲ無權代理ノ場合ニ準スヘキモノト解スルヲ相當トス、然レキモノト解スルヲ相當ト爲シ左ノ如ク判示セリ。

◎(判例一九)

監査役ハ事後ニ於テ承認ヲ與フルコトヲ得、商法第七十六條ニ所謂監査役ノ承認ハ事前ニ於テモ事後ニ於テモ之ヲ與フルコトヲ得ルモノニシテ、事前ニ於テ之ヲ與フルトキハ取締役ノ取引行爲ハ初メヨリ有效ナリ、若シ事前ノ承認ナキトキハ取締役ノ取引行爲ハ無効ナルモ、確定的ノ無効ニアラスシテ監査役力承認ヲ爲シ又ハ承認ノ拒絶ヲ爲ス迄ハ浮動ノ状態ニ在ルモノニシテ、之ヲ無權代理ノ場合ニ準スヘキモノト解スルヲ相當トス、然レニ原裁判所カ被上告會社ノ取締役森尾新八他ノ取締役大木仙太郎代表者トシタル被上告會社ヨリ本件約束手形ノ振出ヲ受ケタリトスルモ、其ノ當時監査役ノ承認ナク後日ニ至リ其ノ承認アリタルモノナレハ其ノ振出ハ無効ナル旨判示シタルハ商法第七十六條ノ規定ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノニシテ上告論旨ハ其ノ理由アリ(大正八年四月二十一日、大審院第二民事部判決、七年(オ)第一〇二七號)

II(9)然ラハ取締役力監査役ノ承認ヲ得スシテ手形ヲ振出シタルニ因リ手形取引ハ無効ト爲リ爲メニ損害ヲ被リタル第三者ハ何人ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルカ、此ノ問題ニ對スル大審院判例ニ曰ク。

◎(判例二〇)

損害賠償ノ請求ハ取引ノ當事者タル取締役ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス、然レトモ商法第七十六條ハ取締役ニ對シテ監査役ノ承認ヲ得スシテ會社ト取引ヲ爲スコトヲ禁シタル規定ナレハ監査役ノ承認ヲ得ルハ會社ト取引ヲ爲ス取締役ノ法律上ノ義務ニ屬シ、相手方タル會社ト代表スル他ノ取締役又ハ支配人ノ義務ニ屬セサルハ法文ノ解釋上疑ヲ容レサル所ナリ、故ニ監査役ノ承認ヲ得サルニ因ル取引無効ノ結果第三者ノ被リタル損害ハ取引當事者タル取締役力法律上ノ義務ニ違反シテ監査役ノ承認ヲ得サルニ原因スルモノト謂フヘク、之ヲ會社ト代表シタル他ノ取締役又ハ支配人カ監査役ノ承認ヲ得サルニ原因スルモノトシテ之ニ損害賠償ノ責任ヲ歸スルヲ得ス、何トナレハ不作爲ト損害トノ間ニ因果關係アリト爲スニハ不作爲カ法律上ノ義務タル行爲ヲ爲ササル場合ナルコトヲ要スレハナリ、然レハ被上告會社支配人岩井彌平カ取締役眞砂傳次郎ニ對シ本件約束手形ヲ振出スニ付、監査役ノ承認ヲ得サリシコトト監査役ノ承認ナキ爲メ手形行爲力無効ナルノ結果、手形所持人タル上告人ノ被ムル損害トノ間ニ因果關係存セサルヲ以テ、原判決カ岩井彌平ニ不法行爲者トシテノ責任ナシト爲シタルハ結局正當ニシテ論旨ハ理由ナシ(大正七年七月十二日、大審院第一民事部判決、七年(オ)第五〇八號)

即チ監査役ノ承認ヲ得ルコトハ會社ト取引ヲ爲ス取締役ノ法律上ノ義務ニシテ、相手方タル會社ト代表スル取締役又ハ支配人ノ義務ニ屬セサルヲ以テ、監査役ノ承認ヲ得サルニ因リ手形取引力無効ト爲リ、其ノ結果第三者カ損害ヲ被リタルトキハ其ノ損害賠償ノ請求ハ取引ノ當事者タル取締役ニ對シテ請求スヘキモノニシテ、他ノ相手方タル會社代表取締役又ハ支配人ニ對シテ請求スルコトヲ得サルモノト爲シタリ(10)産業組合ノ理事カ組合ヲ代表シ自己ヲ支拂人トセル爲替手形ハ無効ナルカ、産業組合法第三十五條ニ「組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス云々」トアリテ、商法第七十六條ト其ノ規定ノ趣旨ヲ異ニスルカ如キモ兩法條ノ眞意ハ共ニ法人ノ危険ヲ避ケ、其ノ利益ヲ保護セントスルモノナルニ因リ、組合カ理事ヲ支拂人トシテ爲替手形ヲ振出スニハ監事ニ於テ組合ヲ代表スヘク、理事ハ組合ヲ代表シテ手形ヲ振出スコトヲ得サルモノト解ス、從テ理事カ組合ヲ代表シ自己ヲ支拂人トシテ振出シタル爲替手形ハ同條ノ趣旨ニ反スルカ故ニ之ヲ無効ト爲ササル可カラス、左記判例亦同一趣旨ノ判示ヲ爲シテ曰ク。

◎(判例一三一) 産業組合ノ理事カ組合ヲ代表シ自己ヲ支拂人ト爲シタル手形ノ振出ハ無効ナリ 按スルニ法人ノ代表者カ法人ト代表者自身トノ間ニ於ケル權利義務ノ發生、變更、消滅ヲ惹起スヘキ行爲ヲ爲スニ當リテハ或ハ代表者カ其ノ法人ノ爲メ誠實ニ事ヲ謀ルヘキ本來ノ職責ヲ裏切り、却テ法人ノ利益ヲ犧牲ニ供シ自己ノ利益ヲ計ルノ危険アリテ、法人ノ種類ニヨリテハ其ノ利益ヲ保護スルノ必要上、此ノ如キ行爲ヲ輕々ニ許容シ難キモノアルハ敢テ多言ヲ要セサル所ニシテ、商法百七十六條、産業組合法第三十五條ノ如キ畢竟此ノ趣旨ニ出テタル規定ニ外ナラス、從テ其ノ取引ト謂ヒ或ハ契約ト謂フハ專ラ之ヲ實際的ノ方面ヨリ考察シテ其ノ意ノ在ル所ヲ推究スヘク、徒ニ文字ノ末ニ拘泥シテ是等ノ字句ヲ解釋セントスルハ蓋當該法條ノ眞意ヲ没却セントスルモノト謂ハサルヘカラス、而シテ産業組合ノ理事カ組合ヲ代表シ自己ヲ支拂人トセル爲替手形ヲ振出シ、自ラ其ノ支拂ノ引受ヲ爲シタル場合ノ如キハ理事ハ個人トシテ手形上ノ主債務者ト爲リ、其ノ從タル義務者ナル組合トノ間ニ手形上ノ權利義務ヲ發生セシムルコトトナリ、之カ爲メ組合ニ對シテ甚ダ危險ナル結果ヲ惹起スヘキ虞ナシトセサルカ故ニ、此ノ如キ振出行爲又ハ引受行爲ハ共ニ前掲法條ノ有效ト認メサル所ニシテ、這般ノ行爲カ産業組合法第三十五條ニ所謂契約ニ當ルコトハ上來既示シタル所ニ照シ疑テ容ルルノ餘地ナキモノト謂フヘシ、然レハ如上ノ場合ニ於テ是等行爲カ有效ナルカ爲ニハ右法條所定ニ從ヒ該手形カ組合ノ理事カ代表者トシテ振出サレ居ルコトヲ前提トスルモノニシテ、反之産業組合ノ理事カ上告人カ組合ヲ代表シテ上告人ヲ支拂人トシ振出シタル爲替手形ノ如キハ既ニ其ノ振出行爲ノ無効ナルト共ニ、上告人カ自ラ組合ヲ代表シテ振出シタル手形ニ支拂人トシテ引受ヲ爲シタル行爲モ、亦タ同條ニ依リ無効ナルヘキ契約ニ外ナラサルモノトス、故ニ原裁判所カ本件ノ手形振出ヲ無効ナリト認メタルコトハ誠ニ相當ナリト雖モ、該手形ノ引受モ亦タ其ノ效力ナキコト前叙ノ如ク、而モ無効ノ引受行爲ニ依リテハ引受人ハ其ノ手形ノ所持人又ハ被裏書人ニ對シ、是等ノ者カ善意ナルト懸念ナルトテ問ハス、手形上ノ義務ヲ負擔スヘキ理由ナキモノナレハ上告人ハ本件手形ノ被裏書人タル被上告人ノ請求ニ應スヘキ義務ナキモノトス、然ルニ原判決ハ本件手形ノ引受行爲ノ效力ヲ列示スルコトナク、上告人ハ手形ノ署名者トシテ手形ノ正當ノ所持人タル被上告人ニ對シ、手形ノ文言ニ從ヒ其ノ責ヲ負フヘキモノナリトシ被上告人ノ請求ヲ認容シタルハ正ニ理由不備ノ不法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノナリ(大正十五年三月三日、大審院第三民事部判決、一四年(オ)第八一一號)

第五 爲替手形ノ振出ノ效力

(一)爲替手形ノ振出人ハ振出ナル手形行爲ニ因リ受取人其ノ他ノ後者全員ニ對シ、手形ノ引受及ヒ支拂アルヘキコトヲ擔保スル責任ヲ負フヘキコトハ第九條ノ規定ニ依リテ明カナリ、即チ振出人ハ所持人カ支拂人ニ對シ手形ノ呈示ヲ爲シタル場合ニ支拂人カ其ノ引受ヲ拒絕シタルトキ又ハ支拂ヲ拒絕シタルトキハ所持人ハ振出人ニ對シテ遡求權ヲ行使スルコトヲ得ヘク、振出人ハ其ノ遡求ニ應シ手形金額ヲ支拂フヘキ責任アリ、而シテ振出人ハ引受擔保ノ義務ハ之ヲ免カルルコトヲ得ルモ支拂擔保ノ義務ハ之ヲ免カルルコトヲ得ス、蓋シ支拂ノ擔保ハ手形振出ノ效果トシテ必ス振出人ノ負擔スヘキ義務ナルヲ以テナリ(詳細ハ第九條ノ說明參看) (二)債務ナキニ拘ハラズ債務アリト誤信シ其ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ振出シタル場合ニ於テ、其ノ手形ヲ取得シタル第三者ハ手形上ノ權利ヲ取得スルカ、此ノ場合ハ法律行爲ノ要素ノ錯誤トシテ手形ノ振出行爲ヲ無効ト爲スヘキカ如シト雖モ、振出行爲カ無効ナリヤ又手形ヲ取得スル原因如何ハ手形行爲夫レ自身ニ依リテ之ヲ決スヘキモノナルヲ以テ、債務ナキニ拘ハラズ債務アリトスル錯誤ハ意思ヲ決定スルニ至リタル緣由ニ過キス、之ニ依リテ振出行爲夫レ自體カ要素ノ錯誤ニ陥リタルモノト爲スコト能ハサルハ勿論ナリ、故ニ此ノ場合ニ於ケル錯誤ハ更改契約ニ在リトスルモ、錯誤ハ振出行爲ニ付キ存在スルモノニアラス、振出行爲ヨリスルトキハ緣由ノ錯誤ニ外ナラサルヲ以テ手形ノ振出行爲ノ效力ニ影響ヲ及ボササルモノト謂ハサル可カラス、而シテ債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ發行スルトキハ民法第五百十三條ニ依リ更改トナルコトハ明カナルモ、更改ハ有因契約ニシテ債務ノ存在ヲ前提トスルニ因リ、其ノ債務ナキニ拘ハラズ債務アリトシテ爲替手形ヲ振出スト雖モ、債務ナキヲ以テ更改契約ハ要素ノ錯誤ニ依リ無効ナルコトハ言フ俟タス、然レトモ手形行爲ハ無因ニシテ更改契約カ有效ニ成立シタル場合ト雖モ、更改ニ因リテ發生スヘキ民法上ノ效果ハ振出行爲ノ無因ヲ害スヘキモノ

ニアラス、故ニ爲替手形ノ振出行爲ヨリ當然發生スル效力ヲ妨クルコトヲ得ス、從テ假令ヒ更改契約ハ無効ナリトスルモ振出行爲ノ效力ニ何等ノ影響ナキモノト解セサルヘカラス、前述ノ場合ニ於テ振出人(債務者)ハ債權者(受取人)ニ對シテハ更改契約ノ無効ナルコトノ人的關係ニ基ク抗辯ヲ以テ對抗シ其ノ手形上ノ債務ヲ免カルルコト得ルモ、善意ニテ手形ヲ取得シタル第三者ニ對シテハ受取人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ人的抗辯ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス(詳細ハ第十七條ノ説明參看)。

第二條 前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ爲替手形タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 2 満期ノ記載ナキ爲替手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス
- 3 支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且支拂人ノ住所地タルモノト看做ス
- 4 振出地ノ記載ナキ爲替手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

本條ニ於テハ前條ニ規定スル爲替手形ノ要件ノ何レカヲ缺ク證券ハ爲替手形タル效力ナキコトヲ定ムルト共ニ、第二項以下ニ規定スル事項ニ該當スルモノハ其ノ有效ナルコトヲ規定セリ、左ニ項ヲ分チテ説明スヘシ。

第一 要件欠缺ノ證券ノ效力及ヒ其ノ例外(第一項) (1)爲替手形ハ前條ニ於テ説明セル如ク前條ニ列記セル一乃至八ノ要件ヲ備フルコトヲ必要トス、故ニ其ノ要件ノ何レカヲ缺クトキハ其ノ證券ヲ爲替手形ト謂フコトヲ得ス、從テ其ノ證券ハ爲替手形トシテ效力ナキヲ原則トス、蓋シ法律カ爲替手形ヲ要式證券ト爲シ一定ノ事項

ヲ記載スヘキモノト爲シタル當然ノ結果ナリ(2)而シテ此ノ原則ヲ貫徹スルトキハ爲替手形ニ満期ノ記載ナキトキ、支拂地ノ記載ナキトキ、振出地ノ記載ナキトキト雖モ、前條ノ規定スル要件ヲ欠缺スルニ依リ之ヲ無効ト爲ササルヘカラス、然レトモ満期ノ記載ナキ場合ニ於テハ一覽拂ノモノト爲スヲ適當トスヘク、支拂地ノ表示ナキ場合ハ支拂人ノ名稱ニ附記シタル或ル地ヲ支拂地ト見ルコトヲ得ヘク、振出地ノ表示ナキモ振出人ノ名稱ニ附記シタル或ル地ヲ振出地ト見ルコトヲ得ヘシ、故ニ本條ニ於テハ満期、支拂地及ヒ振出地ノ表示ナキモ必スシモ其ノ證券ハ爲替手形タル效力ヲ失ハサルモノト爲シタリ。

第二 満期ノ記載ナキ場合(第二項) (1)満期ハ手形金額ノ支拂アルヘキ期限ナルヲ以テ手形ノ重要ナル事項ナリ、故ニ第一條ニ於テハ之ヲ爲替手形ノ要件ト爲セリ、然レトモ之カ記載ヲ缺ク爲ニ其ノ手形ヲ無効トスルハ嚴格ニ失スルノミナラス、振出人ハ之ヲ記載セザリシハ一覽拂トシテ振出シタルモノト推測シ得ルニ因リ、手形ヲ無効ト爲サンヨリ之ヲ一覽拂ノモノト爲シ以テ其ノ手形ヲ有効ト爲スヲ至當ト爲シ、満期ノ記載ナキ爲替手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做シタル所以ナリ(2)從テ満期ハ爲替手形ノ要件ナリト雖モ之カ記載ヲ缺クモ手形ハ無効ト爲ラス、一覽拂ノモノト看做サルニ過キス、是レ既ニ第一條第四號ニ於テ説明セシ所ナリ(満期ニ關スル詳細ノ説明ハ第一條、第三十三條乃至第三十七條ノ説明參看)。

第三 支拂地ノ記載ナキ場合(第三項) (1)支拂地ハ手形金額ノ支拂アルヘキ地ナルヲ以テ手形ノ支拂ノ爲メノ呈示等ハ必ス其ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス、故ニ第一條ニ於テハ之カ記載ヲ爲替手形ノ要件トセリ、然レトモ支拂地ノ記載ナキ爲メニ手形ヲ無効ト爲スハ妥當ト謂フコトヲ得ス、振出人カ之ヲ記載セザリシハ支拂人ノ住所地ニ於テ支拂ヲ爲サシムル意思ナリト推測スルモ不當ニアラサルカ故ニ、之カ記載ヲ缺クモ支拂人ノ名稱ニ

或ル地ヲ附記シタルトキハ反對ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且ツ支拂人ノ住所地下爲シ手形ヲ有效トセリ
 (2) 支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ多ク支拂人ノ住所地下タルコトヲ通例トスルモ、時ニハ然ラサル場合モアルヘ
 キニ因リ、實際ニ於ケル支拂人ノ住所地下ノ如何ヲ問ハス支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ヲ支拂地ト爲スト同時ニ支
 拂人ノ住所地下トセリ、振出人ハ支拂人ノ住所地下ニアラサル地ニ於テ支拂ヲ爲スヘキコトヲ記載スルコトヲ得(第
 四條ノ説明參看) 此ノ場合ニ振出人カ第三者方ニテ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ定メサリシトキハ支拂人ハ引受ヲ爲スニ
 當リ其ノ第三者ヲ定ムルコトヲ得(第二十七條ノ説明參看) 又爲替手形ノ所持人又ハ單ナル占有者ハ滿期ニ至ル
 迄引受ノ爲メ支拂人ノ住所ニ於テ手形ヲ呈示スルコトヲ得(第二十一條ノ説明參看) ルヲ以テ、支拂地ノ記載ヲ
 缺ク場合ニ附記ノ記載アルトキハ支拂地ト爲スト共ニ支拂人ノ住所地下ト看做ス、故ニ支拂地ノ記載アル場合ニ在
 リテハ支拂地ト支拂人ノ住所地下トカ同一ナルカ否カヲ知ルニ足ル(3) 然レトモ支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ヲ
 支拂地且ツ支拂人ノ住所地下ト看做スニハ其ノ附記ニ特別ノ表示ナキ場合ニ限ル、從テ其ノ附記ニ反對ノ表示アル
 トキハ之ヲ支拂地且ツ住所地下ト看做スコトヲ得ス、例之ハ支拂人ノ名稱ニ「旅行先何市何町」又ハ「滞在地何町
 何番地」ト附記セシ場合ノ如キハ特別ノ表示ト認ムヘキヲ以テ、之ヲ支拂地且ツ支拂人ノ住所地下ト看做スコトヲ
 得サルハ言ヲ俟タス(4) 振出人カ爲替手形ニ支拂ヲ爲スヘキ地ヲ記載セス又タ支拂人ノ名稱ニ或ル地ヲモ附記
 セサルカ、又ハ之ヲ附記スルモ支拂地ト看做スコト能ハサルトキハ結局手形ニ支拂地ノ記載ナキニ因リ其ノ手形
 ハ無効ナリ。

第四 振出地ノ記載ナキ場合(第四項) (1) 振出地ハ振出人カ手形ノ振出行爲ヲ爲シタル地ニシテ振出人ノ
 能力、振出ノ方式等ハ何レノ國ノ法律ニ依リ之ヲ定ムヘキカヲ決スルニ付キ之ヲ知ル必要アリ、故ニ第一條ニ於

テハ振出地ノ記載ヲ爲替手形ノ要件トセリ、然レトモ振出地ノ記載ナキ一事ヲ以テ直チニ手形ヲ無効ト爲スハ酷
 ナルノミナラス、振出人カ之ヲ記載セサリシトキハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ振出シタルモノト推測ス
 ルコトヲ得ルカ故ニ振出地ノ記載ナキモ振出人ノ名稱ニ或ル地ノ記載アルトキハ其ノ地ニ於テ手形ヲ振出シタル
 モノト看做シ手形ヲ有效ト爲セリ(2) 爲替手形ニ振出地ノ記載ナク又振出人ノ名稱ニ或ル地ノ附記モナキ場合ニ
 於テハ結局振出地ノ記載ヲ缺クヲ以テ其ノ手形ハ無効ナリ、(振出地ニ關シテハ第一條第五號ノ説明一滿期、支拂
 地、振出地ノ記載及名稱ノ附記ニ付テハ本館發行手形法書式(一)以下ノ書式參看)。

第三條 爲替手形ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得

- 2 爲替手形ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得
- 3 爲替手形ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

本條ニ於テハ爲替手形ノ振出人ハ自己ヲ支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者(受取人)ト爲シ、又ハ支
 拂ヲ爲スヘキ者(支拂人)ト爲スコトヲ認ムルト共ニ、爲替手形ハ第三者タル他人ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコト
 ヲ得ル旨ヲ規定セリ、左ニ項ヲ分チテ説明スヘシ。

第一 自己指圖手形ノ振出(第一項) 振出人カ自己ヲ支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者(受取人)

ト爲ス場合ナリ、爲替手形ニハ振出人、受取人及ヒ支拂人ノ三者ヲ必要トス(第一條ノ説明參看) 而シテ此ノ三
 者ハ何レモ別人格者ニシテ同一人格者ニ非サルヲ通例トスルニ因リ、振出人カ自己ヲ受取人トシテ二人格者ヲ兼
 スルトキハ其ノ觀念ニ反スルカ如キモ、法律ハ經濟上又ハ商取引上ノ必要ヨリ同一人格者カ振出人及ヒ受取人ト
 爲リ得ルコトヲ認ム、振出人カ自己ヲ受取人トスル手形ヲ「自己指圖爲替手形」ト謂フ、此ノ手形ノ必要ナル例

本論 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 (第三條)

ハ甲カ乙ニ千圓ノ商品ヲ發送スルト共ニ、甲ハ自己ヲ受取人トシ乙ヲ支拂人トスル手形ヲ振出シ、之ヲ取引銀行ニ持参シテ裏書割引ヲ求メ銀行ヨリ現金ヲ受取り、銀行ハ裏書ニ依リ所持人トシテ乙ヨリ手形金額ノ支拂ヲ受クルカ如ク、又甲ハ自己ヲ受取人トシテ乙ニ宛テ爲替手形ヲ振出シ、乙地ニ於ケル自己ノ支店ヲシテ乙ヨリ其ノ金額ヲ受取ラシムルカ如ク、或ハ甲乙二箇所ニ營業所ヲ有スル者カ甲地ニ於テ自己ヲ受取人トシテ手形ヲ振出シ、乙地ニ於ケル自己ノ支店ヲシテ手形金額ヲ受取ラシムルカ如シ(本館發行「手形法書式」九、十)ノ書式參看)。

第二 自己宛手形ノ振出(第二項) 振出人カ自己ヲ支拂人ト爲ス場合ナリ、爲替手形ハ振出人カ第三者ニ對シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキ旨ノ單純ナル委託ヲ爲スコトヲ其ノ本質トシ約束手形ノ如ク振出人カ自ラ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約束スルモノニアラス(第一條及ヒ第七十五條ノ說明參看)故ニ爲替手形ノ振出人カ自己ヲ支拂人トスル場合、即チ振出人ト支拂人トカ同一人格者ナルトキハ此ノ觀念ト相容レサルカ如シ、然レトモ前項ニ於ケルト同シク商取引上又ハ經濟上ノ必要ヨリ法律ハ振出人カ自己ヲ支拂人トシテ手形ヲ振出シ得ルコトヲ認ム、此ノ手形ヲ「自己宛爲替手形」ト謂フ、而シテ此ノ手形ノ必要ナル例ハ前項ノ如ク甲乙ノ兩地ニ營業所ヲ有スル者カ甲地ニ於テ自己ヲ支拂人トシ丙ヲ受取人トスル手形ヲ振出シ、乙地ノ自己ノ支店ヲシテ其ノ支拂ヲ爲サシムルカ如ク、又振出人カ出張先ニ於テ自己ヲ支拂人トシ丙銀行ヲ受取人トスル手形ヲ振出シ之ヲ丙銀行ニ裏書讓渡シテ現金ヲ受取り、丙銀行ニ對シテハ自己ノ住所地ニ於テ手形金額ヲ支拂フカ如シ(同上(一一、一二)參看)。

第三 自己指圖及ヒ自己宛手形ノ振出 振出人カ自己ヲ受取人且ツ支拂人ト爲ス場合ナリ、第一項ノ場合ハ振出人カ自己ヲ受取人トスル自己指圖ニシテ第二項ノ場合ハ自己ヲ支拂人トスル自己宛ナリ、然ラハ更ニ一步ヲ進メテ振出人ハ自己ヲ受取人ト爲シ且ツ支拂人トスルコトヲ得ルカ、即チ振出人、受取人及ヒ支拂人ハ同一人格

者タルモ妨ケサルカ、換言スレハ自己宛ノ爲替手形ヲ自己指圖ニテ振出スコトヲ得ルカ、此ノ問題ニ對シ舊手形法即チ商法第四百四十七條ノ解釋トシテ消極說ヲ採ル者アレトモ、大審院ノ判例ニ於テハ積極說ヲ採リタルコトハ(判例四)ニ依リテモ之ヲ窺知スルコトヲ得、本條第一項ハ振出人カ自己ヲ受取人ト爲シ得ルコトヲ認メ、第二項ハ振出人カ自己ヲ支拂人ト爲シ得ルコトヲ認メタルニ因リ、振出人カ自己ヲ受取人及ヒ支拂人ト爲スコトモ亦タ當然認メラルモノト解ス、之ヲ「自己指圖自己宛爲替手形」ト謂フ、蓋シ同一人ヲ三人格者トシテ手形ニ記載スルモ、之ヲ裏書讓渡スルトキハ三者ノ別人格者ナル爲替手形ト異ナル所ナキノミナラス、手形取引上ノ圓滑ヲ阻害スル虞レナク又タ改正手形法ノ他ノ規定ニ於テ之ヲ禁止スルカ如キ法條ナキヲ以テナリ、尙ホ此ノ手形ノ必要ハ銀行ニ預金ヲ有スル者カ其ノ預金中ノ或部分ヲ別口預金ニ振向ケル爲メ爲替手形ヲ發行スル場合ノ如シ例之ハ甲ハ手形ヲ振出シ自己ヲ支拂人トシテ自己ノ預金中ヨリ或部分ヲ支拂ハシムルコトトシ、而シテ自己ヲ受取人トシ之ニ裏書シテ銀行ニ渡シ其ノ金額ヲ自己ノ別口預金ニ振入ルルカ如シ。(同上(一三、一四)參看)。

第四 第三者ノ計算ニテ振出ス手形(第三項) (一)本條第三項ニ「爲替手形ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得」トハ如何ナル意義ナルカ、屢々述ヘタルカ如ク爲替手形ハ振出人カ第三者タル支拂人ニ手形金額ノ單純ナル支拂ヲ委託スル證券ニシテ、約束手形ノ如ク振出人ニ於テ自ラ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約束スル證券ニアラサルヲ以テ、其ノ支拂ハ常ニ第三者タル支拂人ノ計算ニ於テ之ヲ爲サシムルモノニシテ、支拂人ト振出人トノ間ニ於ケル實際上ノ法律關係トハ全ク關聯スルコトナシ、故ニ特ニ本項ノ規定ヲ設ケル必要ナキカ如キモ、改正手形法ハ所謂資金關係タル振出人ト支拂人トノ間ニ於ケル法律關係其ノモノト振出人ト支拂人ニ對スル支拂ノ委託トノ間ニ何等ノ關係ヲモ必要ト爲ササルコトヲ明カニスル爲メ、特ニ第三者(支拂人)ノ計算ニ於テ爲替手形

ヲ振出スコトヲ得ト規定シタルモノト解セラル、即チ振出人ハ支拂人ヲシテ支拂ヲ爲サシムル何等ノ債權ヲ有セサルモ、又ハ支拂ヲ爲サシムル資金ノ寄託ナキモ振出人ハ第三者ヲ支拂人トシテ有效ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得ル趣旨ヲ明確ニシタルモノナリ、從テ支拂人モ引受ヲ爲スト否トハ其ノ自由ニシテ、振出人ニ對スル債務アルカ爲メ又ハ資金ヲ受取リタルノ故ヲ以テ手形金額ヲ支拂フヘキ義務アリト爲スコトヲ得ス(2)或ハ本項ニ「第三者」トアルヲ以テ振出人、受取人及ヒ支拂人以外ノ者ナリトノ見地ヨリ舊手形法ノ支拂擔當者ヲ規定シタルモノニアラスヤトノ疑ヲ懷ク者アランモ、改正手形法ハ舊手形法即チ商法第四百五十三條ニ規定セル支拂擔當者ヲ認メス、支拂人ハ支拂人トシテ手形ニ記載セラルルモ、何等ノ義務ヲ負ハサルニ因リ未タ手形ノ關係者ニアラス引受ヲ爲スニ依リ初メテ手形債務者ト爲ルモノナレトモ、其ノ引受ヲ爲スト否トハ全ク支拂人ノ自由ナリ、故ニ振出人カ手形ヲ受取人ニ交付スル當時ニ於テハ振出人及ヒ受取人ハ手形ノ當事者ナルヘキモ、支拂人ハ第三者ナルヲ以テ本項ノ第三者トハ振出人ニ依リテ支拂人トシテ記載セラルヘキ者ヲ指シ支拂擔當者ニ非スト解スヘシ(3)然レトモ本項ニ「第三者」トハ全ク手形ニ關係ナキ者ヲ指シタルモノト解シ得ラレサルニアラス、即チ振出人ハ自己ノ計算ニ於テ手形ヲ振出サス第三者(他人)ノ委託ニ依リ其ノ者ノ計算ニ於テ手形ヲ振出シ得ルコトヲ認メタルモノト解スルコトヲ得、換言スレハ本項ハ單ニ手形ノ資金關係ヲ定メタルニ過キサルモノニシテ手形上ノ效力ヲ定メタルモノニアラス、從テ振出人ハ第三者ノ計算ニ於テ手形ヲ振出スト雖モ手形上ノ責任ヲ免カルルコトヲ得サルハ勿論ナリ、唯手形上ノ義務ヲ履行シタルトキハ其ノ第三者ニ對シ償還ヲ請求シ得ルニ過キス。

第四條 爲替手形ハ支拂人ノ住所地在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトヲ問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得

本條ニ於テハ振出人カ爲替手形ニ其ノ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ、左ニ之ヲ分説スヘシ。

第一 支拂場所ノ意義

(1)支拂場所トハ支拂人ノ手形金額ヲ支拂フヘキ所トシテ特ニ指定シタル場所ニシテ支拂地内ニ於ケル或特定セル地點ヲ謂フ、例之ハ「東京市」ト謂フハ支拂地ニシテ「東京市何區何町何番地」又ハ「東京市何區何町何々銀行」ト謂フハ支拂場所ナルカ如シ(2)本條ハ爲替手形ノ支拂地カ支拂人ノ住所タルト否トヲ問ハズ第三者ノ住所ヲ以テ支拂場所ト爲スコトヲ得ル旨ヲ規定スルモ、舊手形法即チ商法第四百五十四條ニ於ケルカ如ク「其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所」ト爲ササルニ因リ、支拂地以外ノ第三者ノ住所ヲモ支拂場所ト爲スコトヲ得ルカ如キモ改正手形法第二十七條第二項ニ「手形ガ支拂人ノ住所地ニ於テ支拂フベキモノナルトキハ支拂人ハ引受ニ於テ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ定ムルコトヲ得」トアルカ故ニ、支拂地カ支拂人ノ住所地ニ在ルト否トニ拘ハラズ、支拂ノ場所ハ支拂地内ニ於ケル第三者ノ住所タルコトヲ要ス(3)爲替手形ノ支拂ハ支拂人ノ營業所又ハ住所ニ於テ之ヲ爲スヲ通例トスレトモ、時トシテハ是等以外ノ場所ニ於テ支拂ヲ爲スコトヲ便宜トスルコトアリ、例之ハ支拂人ハ營業所又ハ住所ヲ有スルモ、自己ト商取引ヲ爲ス第三者ノ住所又ハ取引銀行ヲ支拂ノ場所トシテ手形金額ヲ支拂フカ如シ(4)支拂ノ場所ハ第三者ノ住所タルコトヲ要ス、民法上住所トハ各人ノ生活ノ中心點ニシテ平生居住スヘキ場所ヲ謂フ、而シテ民法上ノ法人ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニシテ(民五〇)會社ノ住所ハ其ノ本店ノ所在地ナリ(商四三)、故ニ本條ノ規定ニ依ルトキハ個人ノ營業所又ハ會社ノ支店ヲ支拂場所ト爲スコトヲ得サルカ如シ、蓋シ營業所ハ商業其ノ他ノ營業ヲ爲ス場所ニシテ住所ト同一ナルコトアリ亦タ然ラサル場合モアルヘク、支店ノ所在地ハ其ノ會社ノ所在地ニアラサルヲ以テナリ、然レトモ

振出人カ支拂場所ヲ定メザリシ場合ニ於テ、支拂人カ引受ヲ爲スニ當リ支拂場所ヲ定ムルコトヲ得ヘキ第二十七條第一項ニハ「………第三者方ニ於テ支拂ヲ爲スベキ旨ヲ定メザリシトキハ………其ノ第三者ヲ定ムルコトヲ得」ト爲シ、又タ第二項ニ於テ「………支拂人ハ引受ニ於テ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ定ムルコトヲ得」ト規定シ、本條ノ如ク「住所」ノ字句ナキカ故ニ、本條ノ「住所」ノ文字モ之ヲ廣義ニ解シ第三者ノ生活ノ本據タルヘキ場所ハ勿論、特定ノ場所ト認メラルル營業所及ヒ支店ノ所在地等モ亦タ包含スルモノト解スルヲ相當トス、何トナレハ振出人ニ於テ支拂場所ヲ定ムルニハ第三者ノ住所タルコトヲ必要トスルモ支拂人ニ於テ之ヲ定ムルニハ第三者ノ住所タルコトヲ要セスト二者異別ニ解スルコトヲ能ハス、從テ兩者ノ場合ヲ同一ニ解スヘキモノトスルトキハ之ヲ廣義ニ解スヘク、殊ニ手形ハ商取引ノ爲メニ授受セラルルコト多キカ故ニ營業上ノ住所トモ認メラルヘキ營業所又ハ支店ノ所在地ヲ支拂場所ト爲スモ何等妨ケナケレハナリ(手形法書式(一七)參看)

第二 支拂場所ノ記載 (一)支拂場所ヲ「何市何銀行」又ハ「何市何町何銀行支店」ト記載シタルトキハ之ヲ第三者ノ住所ト認ムルコトヲ得ルカ、此ノ記載ハ一方ニ於テ銀行又ハ支店ノ名稱ヲ表示シタルモノト認メ得ルト共ニ、他方ニ於テハ其ノ銀行又ハ支店ノ所在地ヲ表示シタルモノト認ムルコトヲ得ルヲ以テ、住所ノ記載トシテ適法ナルモノト解スヘシ(二)支拂場所ハ第三者ノ住所又ハ營業所等一定ノ場所タルコトヲ要スルハ勿論ナルモ、唯一ナルコトヲ要スルカ又ハ二個以上ヲ選擇的ニ指定スルコトヲ得ルカ、此ノ點ニ關シテ舊手形法即チ商法及ヒ改正手形法共ニ特別ノ規定ナキ以テ疑問ヲ狭ム餘地ナシトセス、然レトモ大審院判例ハ選擇的ニ指定スルモ妨ケサルモノト判示セリ、曰ク。

◎(判例一三二) 支拂場所ハ選擇的ニ指定スルヲ妨ケス 手形ノ支拂場所トシテハ支拂地ニ在ル場所ヲ掲クヘキモ

ノナレハ支拂地ヲ東京市ト爲シタル本件爲替手形ニ支拂場所トシテ株式会社大野銀行トアルハ其ノ本店タルト支店タルト同ハス、銀行ノ東京市ニ於ケル營業所ヲ表示シタルモノナルコトハ支拂地東京市ナル記載ト株式会社大野銀行ナル文字カ必スシモ同銀行本店ヲ意味スルモノト限ラサルコトヨリ推知シ得ヘキ所ニシテ、手形ノ記載以外ノ事實證據ヲ待ツテ始メテ知リ得ヘキニ非ス(中略)支拂場所トシテハ一定ノ場所ヲ掲グルコトヲ要スルハ勿論ナレトモ、一定ハ唯一ヲ意味スルモノニ非サレハ選擇的ニ指定スルモ妨ケス、要ハ唯其ノ不明ナラサルコトヲ期スルニ在リ、故ニ本件爲替手形ニ於ケルカ如ク支拂場所ヲ指定シタル引受人ノ意思ハ各營業所ヲ支拂場所ト爲シ、債權者ノ選擇ニ從ヒ執レノ營業所ニ於テモ支拂ヲ爲スノ義務ヲ負フニ在ルモノト解スヘキハ當然ノ事理ナリ、而シテ此ノ場合ニ於テハ支拂場所ハ東京市ニ在ル大野銀行營業所ト謂フコトニ依リ、一定セラレタルカ故ニ不定ナリトハ謂フヘカラス、然レハ二箇ノ支店ノ執レカ一ヲ指定セサルカ故ニ支拂場所ノ一定ヲ缺キ支拂場所ノ記載トシテ其ノ效力ナク、結局支拂場所ノ記載ナキニ歸ストノ見解ニ立脚スル論旨ハ既ニ其ノ根柢ニ於テ誤謬ニ陷レルヲ以テ其ノ理由ナキヤ論ナシ(大正十二年六月二十九日、大審院第一民事部判決、一二年(オ)第二九八號)

即チ判例ニ於テハ支拂ノ場所トシテハ一定ノ場所ヲ掲グルコトヲ要スルハ勿論ナレトモ、一定ハ唯一ヲ意味スルモノニ非サレハ選擇的ニ指定スルヲ妨ケス、要ハ唯其ノ不明ナラサルコトヲ期スルニ在リトノ理由ヲ以テ、二個以上ノ支拂場所ヲ選擇的ニ記載スルコトヲ得ルモノト爲シタリ、本條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス(第七十七條第二項ノ説明參看)。

第五條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ於テハ振出人ハ手形金額ニ付利息ヲ生ズベキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得其ノ他ノ爲替手形ニ於テハ此ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス
2 利率ハ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

本論 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 (第五編)

3 利息ハ別段ノ日附ノ表示ナキトキハ手形振出ノ日ヨリ發生ス

本條ハ振出人カ或ル爲替手形ニ限り利息ノ約定ヲ記載シ得ルコトヲ定ムルト共ニ、利息ノ利率ヲ示ササルトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サルモノト看做スト爲シ、又タ利息ノ發生スヘキ時期ヲ定メタリ、舊手形法即チ商法ニ於テハ利息ノ約定ニ付キ特別ノ明文ナカリシヲ以テ或ハ利息ノ約定ノ記載ハ手形ヲ無効ナラシムルモノト爲シ、或ハ利息ノ約定ノ記載ノミヲ無効ト爲スヘシト爲シ、又タ或ハ手形法ハ手形金額ヲ表示スル方法ヲ制限セサルカ故ニ利息ノ約定ノ記載ハ有效ナリト謂フ者アリテ議論ノ一定セサル所ナリシニ因リ、改正手形法ハ本條ヲ設ケテ其ノ疑問ヲ解決セリ、以下項ヲ分チテ説明スヘシ。

第一 利息ノ約定ヲ記載スルコトヲ得ル爲替手形(第一項) (一)振出人カ利息ノ約定ヲ記載スルコトヲ得ル手形ハ一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ限ル、一覽拂ノ爲替手形トハ所持人カ支拂人ニ手形ノ呈示ヲ爲シタル日ニ手形金額ヲ支拂フヘキ手形ヲ謂フ、此ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ一年內ニ支拂ノ爲メ之ヲ呈示スルコトヲ要ス、但シ振出人ハ此ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得(第三十四條ノ説明參看) 一覽後定期拂ノ爲替手形トハ一覽後即チ支拂人カ引受ノ爲メ呈示ヲ受ケタル日ヨリ一定ノ期間ヲ經過シタル日ニ手形金額ヲ支拂フヘキ手形ヲ謂フ、此ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ一年內ニ引受ノ爲メ呈示スルコトヲ要ス、但シ振出人ハ此ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得(第二十三條ノ説明參看) 此ノ手形ノ滿期ハ引受ノ日附又ハ引受拒絶證書ノ日附ニ依リ之ヲ定ム(第三十五條ノ説明參看) 一覽後定期拂ノ爲替手形ハ支拂ヲ爲スヘキ日又ハ之ニ次ク二取引日內ニ支拂ノ爲メ手形ヲ呈示スルコトヲ要ス(第三十八條ノ説明參看) 〓(2)振出人カ利息ノ約定ヲ記載スルコトヲ得ル手形ハ前述ノ如ク一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ限ララルヲ以テ、確定日拂又ハ日附後定期拂ノ爲替手形ニ

付テハ利息ノ約定ヲ記載スルコトヲ得ス、故ニ振出人カ確定日拂又ハ日附後定期拂ノ爲替手形ニ利息ノ約定ヲ記載シタルトキハ本來ヨリ謂ヘハ其ノ手形ヲ無効ト爲スヘキモノナレトモ、本條第一項後段ハ可成手形取引ヲ圓滑ナラシムル爲メ其ノ手形ヲ有効ト爲シ、利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲ササルモノト看做シ利息ノ約定ノミヲ無効ト爲シタリ、尙ホ第二項ニ述フルカ如ク手形ニ利率ノ記載ナキトキモ亦タ同一ナリ、改正手形法カ一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ利息ノ約定ヲ記載スルコトヲ認メタルニ拘ラス、確定日拂又ハ日附後定期拂ノ手形ニ之ヲ認メサルハ此ノ二種ノ手形ハ其ノ滿期ハ確定スルニ依リ豫メ滿期迄ノ利息ヲ計算シ之ヲ手形金額ニ合算スルコトヲ得ルニ因ル〓(3)手形ニ利息ノ約定ヲ記載スルコトヲ得ル者ハ振出人ナリ、故ニ裏書人、引受人又ハ保證人等ハ利息ノ約定ヲ記載スルコトヲ得ス、蓋シ振出人ハ手形ノ創造者ナルカ故ニ手形金額ニ利息ヲ生スルモノト爲スヘキヤ否ヤヲ決定セシムル必要アルモ、振出人以外ノ者ニハ之ヲ許ス必要ナク之ヲ許ストキハ却テ振出人ノ意思ニ反スルコトアルヲ以テナリ。

第二 利率ノ表示(第二項) (一)利息トハ手形金額ノ使用ノ對價トシテ手形金額ニ應ジテ支拂フヘキ金錢ヲ謂フ、當事者ハ手形ヲ授受スルニ依リテ現金ヲ授受シタルト同一ノ效果アラシムルモノナルニ依リ其ノ手形金額ニ付キ利息ノ發生スヘキコトヲ認ムルハ當然ナリ、而シテ利息ハ必ス金錢ナルコトヲ要スルヲ以テ物品又ハ有價證券ヲ以テ利息ト爲スコトヲ得サルハ勿論ナリ〓(2)振出人カ一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形金額ニ付キ利息ヲ生スヘキ旨ヲ記載スルニハ必ス其ノ利率ヲ手形ニ表示スルコトヲ要ス、利率トハ手形金額ト一定ノ日數トニ對スル利息ノ割合ヲ謂フ、例之ハ年六分又ハ日歩何錢ト謂フカ如シ、振出人カ手形ニ利息ヲ生スヘキ旨ヲ記載スルモ其ノ利率ヲ示ササルトキハ之ヲ如何ニ決スヘキカ、民法又ハ商法ニ於テハ利率ニ付キ特別ノ意思表示ナキトキハ

法定利率ニ依ルヘキコトヲ定ムルモ手形ニ利率ノ表示ナキトキハ法定利率ニ依ルヘキモノト爲サンヨリハ卑口利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲ササルモノト爲スヲ至當トスルニ因リ、本條第二項後段ニ於テハ利率ノ表示ナキトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲ササルモノト看做シ利息ノ約定ヲ認メス(3)手形金額ノ利息モ亦タ利息制限法ノ適用ヲ受クヘキモノナルカ故ニ其ノ利率ハ同法ノ規定ニ反セサルコトヲ要ス、即チ百圓未満ノ手形金額ハ一ケ年ニ付一割五分(百分ノ十五)、百圓以上千圓未満ノ手形金額ハ一ケ年ニ付一割二分(百分ノ十二)、千圓以上ノ手形金額ハ一ケ年ニ付一割(百分ノ十)以下トス(利息制限法第二條參看)然ラハ振出人カ手形ニ利息制限法ニ超過シタル利率ヲ記載シタルトキハ之ヲ如何ニ決定スヘキカ、或ハ利息制限法第二條後段ニ依リ其ノ制限ヲ超過シタル部分ハ裁判上之ヲ無効ノモノト爲シ其ノ制限マテニ之ヲ引直シムヘキカ、或ハ利息ノ約定ハ之ヲ記載セサルモノト看做シテ利息ノ約定ヲ無効ト爲スヘキカ、此ノ場合ハ本條第二項後段ト異ナリ利率ノ表示アルモ其ノ利率ノ表示カ利息制限法ニ反スルニ過キス、故ニ利率ノ表示ナキ場合ニ適用スヘキ本條第二項後段ノ規定ニ依ルコトヲ得ス、從テ利息制限法第二條後段ノ規定ニ依リ、其ノ制限ヲ超過スル部分ハ裁判上無効ノモノト爲シ其ノ制限ニマテ引直シムルヲ相當トス、然レトモ手形ノ當事者カ利息制限法ニ超過シタル手形金額ノ利息ヲ任意ニ依リ既ニ其ノ支拂ヲ爲シタルトキハ之ヲ制限内ニ引直シ計算スヘキモノニアラス、從テ既ニ支拂ヒタル超過部分ノ利息ハ不當利得ノ理由ヲ以テ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス。

第三 利息ノ發生日(第三項) 本條第一項ニ於テ述ヘタル如ク振出人ハ一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ノ手形金額ニ付利息ヲ生スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得ルヲ以テ、其ノ利息ヲ發生スヘキ時期ハ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルハ當然ナリ、故ニ振出人ハ手形振出ノ日ヨリ利息ヲ生スヘキモノト爲シ又ハ振出後何日ヨリ利息ヲ發生スヘキモノト爲スコトヲ得、然レトモ利息ヲ生スヘキ日附ノ表示ナキトキハ利息ノ發生時期ヲ知ルコト能ハス、從テ利息ノ計算ヲ爲スコトヲ得サルカ故ニ、本條第三項ニ於テハ利息ハ別段ノ日附ノ表示ナキトキハ手形振出ノ日ヨリ發生スルモノト爲セリ、蓋シ振出人カ利息ニ付キ特ニ其ノ發生スヘキ別段ノ日附ヲ記載セサリシハ手形振出ノ日ヨリ之ヲ發生セシムル意思ナリト推測スルコトヲ得ヘキヲ以テナリ。

第六條 爲替手形ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トス

2 爲替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス

本條ニ於テハ爲替手形ニ數個ノ金額ヲ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ何レノ金額ヲ以テ手形金額ト爲スヘキカヲ決スル方法ヲ規定セリ、而シテ其ノ方法トシテ文字及數字ヲ以テ金額ヲ記載シタル場合ト、文字ノミヲ以テ又ハ數字ノミヲ以テ金額ヲ記載シタル場合トニ區別シ、前者ノ場合ニ於テハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額ト爲シ、後者ノ場合ニ於テハ最小金額ヲ手形金額ト爲セリ、舊手形法即チ商法ニ於テハ手形ノ主従ノ部分ニ依リ區別スヘキモノト爲シ、手形金額ニ差異アルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額ト爲シタルモ、手形ノ主従ノ部分ヲ區別スルコト能ハサル場合ハ結局手形ヲ無効ト爲ササル可カラサルニ因リ、改正手形法ハ特別ノ決定方法ヲ設ケタリ、左ニ項ヲ分チテ説明スヘシ、本條ノ規定ハ之ヲ約束手形ニ準用ス(第七十七條第二項ノ説明參看)

第一 金額ヲ文字及ヒ數字ヲ以テ記載シタル場合 (1)我國ニ於テ一定ノ金額ヲ記載スルニハ「金千圓也」又

本論 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 (第六條)

ハ「金千五百五拾圓也」ト謂フカ如ク文字ヲ以テ記載スルコトヲ通例トシ、「金一〇〇〇圓」又ハ「150圓」ト數字ヲ以テ記載スルコトハ稀ナレトモ、最近ニ於テハ亞刺比亞數字ヲ以テ金額ヲ記載スルコト少ナカラス、殊ニ外國ニ在リテハ手形金額ヲ文字ヲ以テ記載シ尙ホ數字ヲ以テ更ニ記載スルモノアリ、故ニ文字ヲ以テ「金貳千圓也」ト記載シ同時ニ數字ヲ以テ「二〇〇〇圓」ト記載シタルトキハ其ノ金額ニ差異ナキヲ以テ、何レノ記載ニ依ルモ手形金額ノ貳千圓ナルコトハ勿論ナレトモ、文字ヲ以テ「金貳千五百圓也」ト記載スルト共ニ數字ヲ以テ「二〇〇〇圓」又ハ「300圓」ト記載シタルトキハ何レノ金額ヲ以テ手形金額ト爲スヘキカヲ決定スル必要アリ、此ノ場合ニ於テハ文字ヲ以テ記載シタル「金貳千五百圓也」ノ金額ヲ以テ手形金額ト爲スヘク、最小金額タル「二〇〇〇圓」ノ金額ヲ手形金額ト爲サス、蓋シ文字ヲ記載スルニハ數字ヲ記載スルニ比シ注意ヲ拂フコト深カルヘキカ故ニ、數字ヨリモ文字ヲ正確ナルモノト認メタルニ因ルニ(2)然ラハ文字ヲ以テ「金參千圓也」及ヒ「金貳千五百圓也」ト重複シテ記載シ、別ニ數字ヲ以テ「二、〇〇〇圓」ト記載シタルトキ即チ金額カ三様ナル場合ニハ何レノ金額ヲ手形金額ト爲スヘキカ、此ノ場合ニ於テハ本條第一項ニ依リ先ツ數字ノ金額ヲ拾テテ文字ノ金額タル「金參千圓也」ト「金貳千五百圓也」ノ金額ヲ採リ、而シテ本條第二項ニ依リ最小金額タル「金貳千五百圓也」ノ金額ヲ手形金額ト爲スヘシ、蓋シ金額ヲ文字及ヒ數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其金額ニ差異アルトキハ、文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トスルト共ニ、金額ヲ文字ノミヲ以テ又ハ數字ノミヲ以テ二重ニ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ、最小金額ヲ手形金額ト爲スヲ以テナリ。尙ホ次項ノ説明ヲ參看スベシ。

第二 金額ヲ文字又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合 (一)金額ヲ文字及ヒ數字ヲ以テ記載シタル場合

ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額ト爲スヘキコトハ第一項ニ於テ説明シタル如クナルモ、金額ヲ文字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ、其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額ト爲スコトハ本項ノ規定スル所ナリ(2)即チ手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ「金參千圓也」ト記載シ別ニ「金貳千八百圓也」ト重複シテ記載シタル場合ニ於テハ其ノ金額ニ差異アルヲ以テ、最少金額タル「金貳千八百圓也」ノ金額ヲ手形金額ト爲スカ如シ、又チ手形ノ金額ヲ數字ヲ以テ「二、五〇〇圓」ト記載シ更ニ「3000圓」ト重複シテ記載シタル場合ニ於テモ其ノ金額ニ差異アルニ因リ、最小金額タル「3000圓」ヲ手形金額ト爲スヘキカ如シ(3)手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ重複シテ記載シ尙ホ數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ、其ノ金額ニ差異アルトキハ先ツ第一項ヲ適用シ、次ニ第二項ヲ適用シテ手形金額ヲ定ムヘキコトハ前項ニ説明シタルカ如シ。

第七條 爲替手形ニ債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ爲替手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ

本條ニ於テハ無能力者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名其ノ他ノ事由ニ因リ、手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得サル署名アル場合ト雖モ、他ノ署名者ノ債務ハ之カ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナキ旨ヲ規定シタリ、以下之ヲ分説スヘシ、本條ノ規定ハ之ヲ約束手形ニ準用ス(第七十七條第二項ノ説明參看)。

第一 無能力者ノ署名ノ效力 (一)手形債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名トハ未成年者、禁治產者、準禁治

産者及ヒ妻等カ手形行爲ヲ爲シタル場合ヲ謂フ、蓋シ手形行爲モ一種ノ法律行爲ニシテ手形ニ署名スルニ依リテ手形上ノ義務ヲ負擔スヘキモノナルニ因リ、是等ノ無能力者カ手形行爲ヲ爲スニハ其ノ法定代理人ノ同意又ハ許可ヲ得ルコトヲ要ス、故ニ其ノ同意又ハ許可ナクシテ爲シタル手形行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ルヲ以テナリ

(2) 未成年者カ手形ノ振出、裏書、保證、引受等ヲ爲スニハ其ノ法定代理人タル親權ヲ行フ父、母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス、故ニ其ノ同意ヲ得スシテ之ヲ爲シタルトキハ其ノ振出、裏書、保證、引受等ノ手形行爲ハ總テ之ヲ取消スコトヲ得、然レトモ一種又ハ數種ノ營業ヲ許可サレ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ其ノ營業又ハ會社ノ業務ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有スルモノト爲スカ故ニ、其ノ營業又ハ會社ノ業務ノ範圍内ニ於テ手形行爲ヲ爲スニハ其ノ法定代理人ノ同意ヲ必要トセス

(3) 禁治産者モ亦手形ノ振出、裏書、保證、引受等ヲ爲スニハ其ノ法定代理人タル後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ必要トス、其ノ同意ヲ得スシテ爲シタルトキハ振出、裏書、保證、引受等ノ手形行爲ヲ取消スコトヲ得

(4) 準禁治産者ハ民法第十二條ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス、裁判所カ保佐人ノ同意ヲ要スル旨ヲ宣告シタル行爲ニ付テモ亦保佐人ノ同意ヲ要スルコトハ勿論ナリ、故ニ其ノ同意ヲ得スシテ手形行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ行爲ヲ取消スコトヲ得、然レトモ準禁治産者カ保佐人ノ同意ヲ必要トスル行爲ハ前述ノ如ク民法第十二條ニ掲ケル行爲及ヒ裁判所ニ於テ保佐人ノ同意ヲ要スルモノト宣告シタル行爲ニ限ル、然ラハ準禁治産者カ手形ノ振出、裏書、引受、保證等ヲ爲ス場合ニ於テモ亦保佐人ノ同意ヲ必要トスルカ、民法第十二條第一項第二號中ニ「保證ヲ爲スコト」ト規定スルヲ以テ準禁治産者カ手形債務者ノ爲メニ保證ヲ爲スニハ保佐人ノ同意ヲ要スルコトハ明カナリ、從テ其ノ同意ナクシテ保證ヲ爲シタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得ヘキハ勿論ナレトモ、保證以外ノ手

形ノ振出、裏書、引受等ハ民法第十二條第一項第二號ノ「借財ヲ爲スコト」ニ該當スルヤ否ヤ、此ノ點ニ對スル大審院判例ニ曰ク。

◎(判例一三三) 所謂借財中ニハ手形ノ振出行爲モ包含ス 然レトモ民法第十二條第一項第二號ニ所謂借財中ニハ約束手形ヲ振出ス如キ行爲モ包含スルモノニシテ、後見人カ被後見人ニ代ハリテ約束手形ヲ振出スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノナルコトハ本院判例ノ認ムル所ナリ(明治三十九年(オ)第一二一號、同年五月十七日判決參照) 原判決ノ説明スル所ハ該判例ト少シク異ナル所アルモ、繼母カ約束手形ヲ振出スニハ民法第八百七十八條、第九百二十九條、第十二條ニ依リ親族會ノ同意ヲ要スルモノト爲ス點ハ全然同一ニ歸著スルヲ以テ原判決ハ結局正當ニシテ本論旨ハ其ノ理由ナキモノトス(大正三年十一月二十日、大審院第二民事部判決、三年(オ)第四五八號)

而シテ明治三十九年五月十七日ノ判決ニ於テハ

◎(判例一二四) 借財トハ消費貸借ノミナラス約束手形ノ振出行爲モ亦包含シタルモノト解スヘキヲ認ムトス 按スルニ民法第十二條第一項第二號ニ謂フ借財トハ獨リ消費貸借ノミヲ指稱シタルモノニ非ス、約束手形ヲ振出行爲ノ如キモ亦右借財ナル文詞中ニ包含シタルモノト解スヘキヲ至當トス、何トナレハ約束手形ノ振出人ハ其ノ振出行爲ニ因リ一定ノ金額ヲ支拂フヘキ債務ヲ負擔スルモノニシテ、其ノ行爲者カ金錢支拂ノ債務ヲ負擔スル點ニ於テハ金錢ノ消費貸借ト異ナル所ナク共ニ重大ナル行爲ナレハ同意ヲ得ヘキ點ニ於テ二者ノ間規定ヲ異ニスヘキ理由存セザレハナリ、而シテ後見人カ被後見人ニ代ハリテ如上ノ行爲ヲ爲スニ方リ、親族會ノ同意ヲ得ザリシトキハ被後見人其ノ代理人又ハ承繼人ニ於テ之ヲ取消シ得ヘキコトハ民法第九百二十九條、同第九百三十六條並ニ同第八百八十七條ノ規定ニ依リ明カナリ(明治三十九年五月十七日、大審院第二民事部判決、同三十九年(オ)第一二一號)

即チ準禁治産者ノ手形ノ振出ニ付テモ保佐人ノ同意ヲ必要トス、又引受、參加引受ノ如キモ振出ト同ク債務ヲ負擔スルモノナルニ依リ是亦保佐人ノ同意ナカル可ラス、手形ノ裏書モ縱令ヒ裏書人カ裏書禁止ノ裏書ヲ爲シタル場合ト雖モ其ノ被裏書人ニ對シテハ遡求ニ應スヘキ債務ヲ負擔スルヲ以テ、準禁治産者カ裏書ヲ爲スニ

ハ保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス、從テ結局準禁治產者モ保佐人ノ同意ナクシテ手形ノ振出、裏書、保證、引受等ヲ爲シタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノト解スルヲ至當トス(5)前掲二個ノ判例ハ何レモ約束手形ノ振出ニ關スルモノナレトモ、爲替手形ノ振出モ其ノ振出行爲ニ依リ振出人ハ引受及ヒ支拂ノ擔保義務ヲ負フモノニシテ、支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササルトキハ手形金額、利息其ノ他ノ費用ヲ支拂フヘキ債務ヲ負擔スルヲ以テ、約束手形ノ振出ノ場合ト同一ニ解スヘキハ勿論ナリ(6)妻ハ民法第十四條ニ掲クル行爲ニ付テハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス、故ニ其ノ許可ナクシテ爲シタル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得、而シテ同第十四條第一號ニ於テハ「第十二條第一項第一號乃至第六號ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコト」ト規定スルヲ以テ、妻モ亦準禁治產者ト同シク手形ノ振出、裏書、引受、保證、參加引受等ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ要ス、其ノ許可ナクシテ爲シタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得、然レトモ妻カ一種又ハ數種ノ營業ヲ爲スコトヲ許サレ若ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許可セラレタル場合ニ於テハ其ノ營業又ハ會社ノ業務ニ關シテハ能力者ト看做スニ因リ、其ノ營業又ハ業務ノ範圍内ニ於テ手形行爲ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ要セス(7)手形行爲ハ振出、裏書、引受、參加引受、保證等總テノ行爲ニ署名(記名捺印ヲ含ム)ヲ必要トスルモノニシテ、手形ニ署名ナキトキハ手形行爲ヲ爲シタルモノト爲スコト能ハス、故ニ本條ニ署名トハ手形行爲ヲ指スコトハ言フヲ俟タス。

第二 手形行爲ノ取消力他ノ署名者ノ債務ニ及ボス效果 (1)前項ニ説明シタルカ如ク無能力者ハ一旦手形行爲ヲ爲シタルニ拘ラス其ノ後ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得、故ニ無能力者其ノ他取消權ヲ有スル者カ其ノ手形行爲ヲ取消シタルトキハ其ノ無能力者カ手形債務ヲ負擔セサルコトハ勿論ナリ、此ノ場合ニ他人ノ爲シタル手形行爲即チ他ノ署名者ノ權利義務ニ如何ナル效果ヲ及ボスヘキカ、是レ當サニ本條ノ解決セント欲スル所ニシテ「爲

替手形ニ手形債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名……アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ」ト規定セリ、即チ無能力者カ手形行爲ヲ取消スト雖モ他ノ署名者タル手形行爲者ノ債務ニハ何等ノ影響ヲ及ボサザルモノト爲シタリ(2)本條ハ舊手形法即チ商法第四百三十八條ノ如ク「他ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサス」ト爲サスシテ「他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ」ト規定シタルニ因リ、兩者其ノ意義ヲ異ニシ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲メニ其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ、他ノ手形債務者ノ債權ハ之ガ爲メニ其ノ效力ヲ妨ケラルルカ如キモ決シテ然ラス、何トナレハ他ノ手形署名者ノ債務カ其ノ效力ヲ妨ケラレサル當然ノ結果トシテ手形債務者ノ他ノ債務者ニ對スル債權モ亦タ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナケレハナリ、本條ハ手形行爲者又ハ其ノ本人ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコト能ハサル場合ノ效果ヲ規定スルモノナルニ依リ、手形債務者ノ方面ヨリ其ノ效力ヲ規定シタルニ過キス(3)故ニ例之ハ未成年者甲カ其ノ法定代理人ノ同意ヲ得スシテ乙ニ對シ丙ヲ支拂ヲ受クル者(受取人)トシテ爲替手形ヲ振出し、乙ハ其ノ支拂ノ引受ヲ爲シ丙ハ之ヲ裏書シテ丁ニ讓渡シタル場合ニ於テ、甲ハ其ノ法定代理人ノ同意ヲ得サリシ爲メ其ノ手形ノ振出行爲ヲ取消シタルトキト雖モ、他ノ署名者即チ手形行爲者ノ債務ハ之ガ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナキヲ以テ、丙ハ依然トシテ裏書人タル義務ヲ有シ、丁ハ手形ノ所持人トシテ滿期ニ支拂ヲ受クヘキ權利ヲ有シ、乙ハ手形ノ主タル債務者トシテ滿期ニ手形金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔スルカ如シ、蓋シ手形行爲タル振出、裏書、保證、引受等ハ各々獨立性ヲ有シ、一ノ手形行爲ノ無効又ハ取消ハ其ノ效力ヲ他ノ手形行爲ニ及ボサザルヲ原則トスルノミナラス、無能力者ノ手形行爲ナリヤ否ヤハ手形上ニ現ハレサルニ因リ、完全無缺ナル手形トシテ流通シタルニ拘ラス無能力者ノ取消ヲ爲メニ他ノ手形行爲者即チ署名者ニ對シテモ其ノ效力ヲ及ボスモノト爲ストキ

ハ何人モ安シテ手形ノ授受ヲ爲スコトナカルヘク、延ヒテ手形取引ノ圓滑ヲ阻害スルニ至ルヘキヲ以テナリ
(4)本條ニ「他ノ署名者ノ債務」トハ手形行爲ヲ取消シタル無能力者以外ノ手形行爲者ノ債務ヲ指稱スルモノナ
ルコトハ説明ヲ要セスシテ明カナルヘシ。

第三 偽造ノ署名(偽造ノ手形)ノ意義

(1)偽造ノ署名トハ手形ノ偽造ヲ謂フ、即チ他人ノ名義ヲ僞リテ
手形行爲ヲ爲スコトヲ指ス、例之ハ他人ノ署名ヲ偽造シテ手形ノ振出、裏書、保證、引受、参加引受等ノ行爲ヲ
爲シ又ハ他人ノ印章ヲ盗用シ若ハ偽造シ他人ノ記名捺印ヲ爲シテ手形ノ振出、裏書、保證、引受、参加引受等ノ
行爲ヲ爲シ、又ハ他人カ他ノ目的ヲ以テ署名シタル紙片ヲ盗取シテ之ニ手形要件ヲ記載シ手形ヲ作成セルカ如シ
|| (2)故ニ偽造ノ署名即チ手形ノ偽造ハ手形ノ變造ト異ナリ、手形ノ變造ハ手形ノ内容ヲ變更スルコトヲ謂フ、
即チ權利ナクシテ手形ノ署名以外ノ文言ヲ變更スルコトヲ指ス、而シテ其ノ變更セラレタル部分カ手形要件ナル
ト否トヲ問ハス、然レトモ署名ノ變更ハ前述シタルカ如ク手形ノ偽造ニシテ手形ノ變造ニアラス、舊手形法即チ
商法ニ於テハ偽造ノ署名即チ手形ノ偽造ト文言ヲ變更スル手形ノ變造ト同一法條ニ規定シタルモ、兩者ハ前述
ノ如ク其ノ觀念ヲ異ニスルヲ以テ改正手形法ニ於テハ偽造ノ署名ハ他ノ署名ト同一法條ニ規定シ、變造ニ付テハ
別ニ一章ヲ設ケテ之ヲ規定シタリ(變造ニ關シテハ第六十九條ノ説明參看) || (3)代理權ナキ者カ他人ノ代理
人トシテ手形ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲シタルトキハ偽造ノ署名ナルカ、舊手形法即チ商法ニ在リテハ此ノ場合ニ
署名者モ本人モ共ニ手形上ノ責任ヲ負フコトナキヲ以テ一般ニ偽造ノ署名ナリト解セシモ、改正手形法第八條ニ
於テ「代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ら其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フ云々」ト
規定シタルニ因リ本條ノ偽造ノ署名ニ包含セサルモノト解セサル可カラズ、蓋シ本條ハ署名者又ハ其ノ本人ニ手

形上ノ義務ヲ負ハシムルコト能ハサル署名アル場合ノ規定ニシテ、手形ノ署名者ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコ
トヲ得ル場合ヲ含マサルカ故ナリ || (4)然ラハ代理權ヲ有セサル者カ代理人トシテ本人ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲
シ手形行爲ヲ爲シタル場合モ亦タ偽造ノ署名ト謂フコトヲ得サルカ、此ノ場合ハ前述ノ場合ト異ナリ、手形ニ無
權代理人ノ署名ナキヲ以テ其ノ者ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコト能ハス、又タ本人ニモ手形上ノ義務ヲ負ハ
シムルコトヲ得サルハ勿論ナリ、從テ此ノ場合ハ本條ノ偽造ノ署名ニ包含スルモノト解セサル可カラズ、無權代
理人ノ手形行爲カ本人ノ署名ノ有無ニ依リ一ハ偽造ノ署名ト爲リ、一ハ偽造ノ署名ト爲ラサルハ要スルニ手形ニ
署名シタル者ニ非レハ手形上ノ義務ヲ負ハサルノミナラス、本條ハ手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ手形上ノ義務ヲ
負ハシムルコトヲ得ル場合ノ規定ニアラスシテ、署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハサル署名アル
場合ニ關スル規定ナルヲ以テナリ || (5)取締役カ自己ノ必要上ヨリ其ノ資格ヲ濫用シテ手形行爲ヲ爲シタルトキ
ハ之ヲ偽造ノ署名ト爲スコトヲ得サルカ、此ノ場合ニ在リテハ取締役ハ他人ノ署名ヲ僞リタルニアラス亦タ他人
ノ印章ヲ濫用シテ捺印シタルニモアラス、唯其ノ資格ヲ濫用シ其ノ代表資格ヲ表示シテ手形ニ署名シタルモノ
ナルニ因リ之ヲ以テ偽造ノ署名ナリト爲スコトヲ得ス、而シテ取締役カ其ノ資格ヲ濫用シテ手形行爲ヲ爲シタ
ル場合ニ於テモ、其ノ權限内ノ事項ニ付キ本人ノ爲ニスルコトヲ示シテ意思表示ヲ爲シタル以上ハ會社ノ爲メニ
其ノ效力ヲ生ス、是レ代理行爲タルニハ代理人ノ眞意カ本人ノ利益ヲ圖ルニ在リヤ又ハ其ノ資格ヲ利用シテ不正
ニ自己ノ利益ヲ圖ラントスルニ在リヤハ之ヲ問ハサルヲ以テナリ、大審院判例亦タ之ヲ偽造ノ署名ニアラスト爲
シテ曰ク。

◎(判例一二五) 自己ノ必要上其ノ代表資格ヲ表示シテ手形ニ署名スルハ偽造ニ非ス

本論

爲替手形 爲替手形ノ振出及方式

(第七條)

然レトモ原判決ノ認メタル

一一七

事實ニ依レハ長島弘ハ上告會社ノ取締役ニシテ其ノ代表權限ヲ有シ、會社ノ爲ニスルコトヲ示シテ本件手形ヲ振出シ引受ケタルモノニシテ支配人ノ保管セル會社及ヒ社長印ヲ使用セスト雖モ、他人ノ印章ヲ盜用シテ捺印シタルニ非ス又他人ノ署名ヲ偽リタルニ非サルヲ以テ手形ヲ偽造シタルモノト謂フヲ得ス、而シテ弘カ自己ノ必要上其ノ代表資格ヲ表示シテ手形ニ署名スルハ手形ノ偽造ニ非サルヲ以テ、原院カ本件手形ヲ偽造手形ト認メサリシハ相當ナリ、弘カ印鑑ヲ偽造シ又ハ不正ニ使用シタリトノ事實ハ原判決ノ認定セサル所ナレハ此事實ヲ前提トスル所論ハ原判旨ニ副ハサルモノニシテ採用スルニ足ラス(昭和三年七月十九日、大審院第一民事部判決、三年(オ)第五六號)

第四 偽造ノ署名ノ效果

(一)偽造ノ署名ヲ爲シタル者ハ手形ニ他人ノ署名ヲ爲スモ自己ノ署名ヲ爲ササルニ因リ手形上ノ義務ヲ負ハス、例之ハ甲カ乙ノ署名ヲ偽造シテ手形ヲ振出シタル場合ニ於テ、手形ニ乙ノ偽造署名アルモ甲ノ署名ナキヲ以テ甲ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコト能ハス、然レトモ甲ハ手形ノ偽造者トシテ刑事上又ハ民事上ノ責ヲ負フコトアルハ勿論ナリ(二)又タ手形ニ被偽造者タル乙ノ署名アリト雖モ、其ノ署名ハ偽造ニシテ乙ハ手形行爲ヲ爲ササルモノナルニ依リ、乙ニ對シ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコト能ハサルハ言ヲ俟タス(三)然レトモ其ノ偽造ノ署名ヲ爲シタル手形ニ他ノ署名(手形行爲)アルトキハ手形力偽造ナルノ故ヲ以テ、偽造者及ヒ被偽造者カ手形上ノ義務ヲ負ハサル場合ニ於テモ、他ノ署名者ノ債務ハ其ノ效力ヲ妨ケララルコトナシ、例之ハ前例ノ場合ニ於テ丙カ丁ニ手形ヲ裏書譲渡シ丁ハ更ニ戊ニ裏書譲渡スルトキハ手形ノ振出力偽造ノ署名ナリトスルモ、丙ハ其ノ裏書人トシテ引受及ヒ支拂ノ義務ヲ擔保スル責任ヲ負フヘキカ如シ、蓋シ手形行爲ハ各々獨立性ヲ有シ其ノ振出ハ偽造ノ署名ナリトスルモ、丙ハ眞實ニ之ヲ裏書シタルトキハ其ノ文言ニ從ヒテ手形上ノ責任ヲ負フコトヲ豫期スヘキハ其ノ手形力眞正ニ振出サレタル場合ト異ナラサルヲ以テナリ、而シテ偽造ノ署名ハ手形ノ振出ノ場合ノミナラス、裏書、保證、引受、參加引受等總テノ手形行爲ニ之ヲ認メ得ルコト

トハ前ニ一言シタルカ如シ、前述ノ説明ニ付テハ特ニ大審院判例ヲ引用スル必要ナキモ、參考ノ爲メ左ニ判例ヲ掲ク。

◎(判例一六六)

振出人ハ裏書人ノ署名カ偽造ナルモ手形上ノ責任ヲ負擔スヘキモノトス 眞正ノ署名ヲ爲シタル約束手形ノ振出人ハ其ノ手形ニ爲シタル裏書人ノ署名カ偽造ニ係ル場合ト雖モ、裏書ノ連續セル正當ノ所持人ニ對シテハ手形上ノ責任ヲ負擔スヘキ、其ノ他人ノ爲シタル裏書カ偽造タルノ一事ニ因リ、手形上ノ責任ヲ免ルヘキモノニ非サルモノナレハ所持人カ約束手形ノ振出人ニ對シ手形上ノ請求ヲ爲スニハ自己カ裏書ノ連續セル手形ノ所持人タルコト及ヒ其ノ振出人カ眞正ニ手形ニ署名シタルモノナルコトヲ立證スルヲ以テ足り、其ノ他ノ裏書カ眞正ニ成立シタルコトヲ立證スルヲ要スルモノニアラス、本件ニ於テ原審ハ本件手形ノ振出署名ノ眞正ナルコト並被上告人等カ裏書ノ連續セル手形ノ所持人タルコトヲ立證シタルコト原判決ノ判文上明ナルヲ以テ、其ノ手形ノ振出人タル上告人ノ責任ノ有無ヲ判定スルカ爲ニハ毫モ所謂渡邊徹道ノ裏書署名ノ眞否ヲ確定スル必要ナキモノトス(大正十三年九月二日、大審院第一民事部判決、一三年(オ)第四三六號)

即チ此ノ判例ハ裏書ニ偽造ノ署名アリト雖モ、振出人ハ裏書ノ連續セル正當ノ手形所持人ニ對シテハ手形上ノ責任ヲ負フヘキモノナルヲ以テ、所持人カ振出人ニ對シ手形上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルカ否カハ裏書ノ連續ト振出人ノ署名ノ眞正ナルコトヲ確定スルヲ以テ足り、他ノ裏書カ眞正ニ成立シタルコトヲ立證スルヲ要セサルモノト爲シタリ(四)手形カ偽造ナルニ因リ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハサル場合ト雖モ、他ノ手形署名者ノ債務ハ之カ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラレサルコトハ前述シタルカ如シ、故ニ其ノ署名者ニ對シ手形上ノ權利ヲ有スル者ノ手形債權モ亦タ其ノ效力ヲ妨ケララルコトナキハ當然ナリ、然ラハ偽造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ偽造手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ取得セサルカ、換言スレハ偽造手形ノ權利ヲ取得スル者ハ偽造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失アル者以外ノ善意ノ取得者ニ限ラルルカ、此ノ點ニ關シ舊手形法即チ商法第

四百三十七條第三項ハ偽造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ偽造手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ取得セサル旨ヲ規定セルヲ以テ、偽造手形ノ權利ヲ取得スル者ハ善意ノ手形取得者ニ限ラルルコト明カナリシモ、改正手形法ニ於テハ斯クノ如キ明文ナキニ因リ疑問ノ餘地ナシトセス、然レトモ第十七條ニ於テハ爲替手形ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ所持人ノ前者ニ對スル人的關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得サルヲ原則ト爲シタリト雖モ、手形ノ偽造(偽造ノ署名)ノ如キ何人ニモ對抗スルコトヲ得ヘキ物的關係ニ基ク抗辯ニ付テハ何等ノ制限ヲ爲ササルニ因リ、手形ノ請求ヲ受ケタル者ハ偽造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ手形ヲ取得シタル者ニ對シ、其ノ偽造ノ署名ナルコトヲ以テ對抗スルコトヲ得ルニ因リ、偽造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ取得スルコト能ハサルモノト解セサルヘカラス、蓋シ偽造ノ署名者ニ手形上ノ權利ヲ與フヘカラサルハ勿論、惡意ノ取得者ハ自ら手形ニ偽造ノ署名ヲ爲シタルモノニアラサルモ、手形ノ署名カ偽造ナル事實ヲ知リテ之ヲ取得シタルモノナルカ故ニ手形ノ偽造者ト軒輊ナク、又タ重大ナル過失ニ因リ手形ノ取得者ハ自ら手形ヲ偽造セス又ハ偽造ナルコトヲ知ラサルモ少シク注意ヲ拂フカ又ハ當然其ノ偽造ナルコトヲ知り得ルニ拘ハラズ、重大ナル過失ニ因リ之ヲ知ラスシテ取得シタルモノナルヲ以テ、殆ント惡意ノ取得者ト同視スルコトヲ得、故ニ偽造手形ノ權利ヲ取得スルコトヲ得ル者ハ善意ノ取得者ニ限ラルルモノト解スルヲ至當ト爲スヘシ。

第五 假設人ノ署名ノ意義及ヒ其ノ效力

(一)假設人ノ署名トハ其ノ署名セラレタル者カ死亡者ナルカ又ハ

全然存在セサル者ナル場合ヲ謂フ、例之ハ甲カ全ク存在セサル虛無者ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲シ手形行爲ヲ爲シタルカ如シ、故ニ偽造ノ署名ヲ廣ク解スルトキハ假設人ノ署名モ之ニ包含セラレルカ如シト雖モ、偽造ノ署名ノ

場合ハ其ノ署名又ハ記名捺印セラレタル者カ實在スルモ、其ノ署名又ハ記名捺印カ偽造ナルヲ以テ本人ハ手形上ノ義務ヲ負ハス、又タ偽造ノ署名ヲ爲シタル者モ自己ノ署名カ手形ニ現ハレサルカ故ニ手形上ノ義務ヲ負ハサルモノナレトモ、假設人ノ署名ノ場合ハ其ノ署名又ハ記名捺印セラレタル者ハ虛無ノ人ニシテ全ク實在セス、即チ署名セラレタル本人ナル者ヲ認ムルコト能ハサル場合ヲ謂フ、故ニ本條ニ於テハ偽造ノ署名ト假設人ノ署名トヲ區別シテ規定セリ(2)假設人ノ署名ハ手形ニ署名セラレタル者ハ全ク存在セス又タ假設人ノ署名ヲ爲シタル者ハ其ノ者ノ署名カ手形ニ現ハサルニ依リ、結局手形上ノ義務ヲ負フヘキ者無キコトハ偽造ノ署名ト異ナラス、然レトモ其ノ手形ニ他ニ署名シタル者アルトキハ其ノ署名者ノ債務ハ手形カ假設人ノ署名ナルカ爲メニ其ノ效力ヲ妨ケラレサルコトモ亦タ偽造ノ署名ノ場合ト同一ナリ、例之ハ甲カ乙ニ宛テ丙ヲ支拂ヲ受クル者(受取人)ト爲シ、虛無者ノ署名ヲ以テ手形ヲ振出シタル場合ニ、丙ハ之ヲ丁ニ裏書讓渡シ丁又之ヲ戊ニ裏書讓渡スルトキハ其ノ手形ノ振出力縱令ヒ假設人ノ署名ニシテ振出人ト認ムヘキ者ナク、從テ引受及ヒ支拂ヲ擔保スヘキ義務ヲ負フ者ナキ場合ト雖モ、裏書ヲ爲シタル丙及ヒ丁ハ裏書人トシテ手形上ノ債務ヲ負フヘキコトハ眞正ナル振出人アル手形ニ裏書ヲ爲シタル場合ト異ナラサルカ如シ、是レ手形行爲ハ各々獨立性ヲ有シ一ノ行爲ノ無効ハ他ノ行爲ニ其ノ影響ヲ及ホササルコトヲ原則ト爲ス結果ナリ(3)假設人ノ署名ヲ爲シタル者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ取得スルコトヲ得サルカ、此ノ點ニ關シテハ偽造ノ署名ノ場合ニ於ケルト同シク手形上ノ權利ヲ取得スルコトヲ得ル者ハ善意ノ取得者ニ限ラルルモノト解スヘシ(詳細ノ説明ハ前項ノ(4)ノ説明參看)。

第六 其ノ他ノ事由ノ意義及ヒ其ノ效果

(一)本條ニ「其ノ他ノ事由ニ因リ爲替手形ノ署名者若ハ其ノ本人

ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合」トハ前各項ニ於テ説明シタル無能力者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名以外ノ事由ニ因リ、手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコト能ハサル署名アル場合ヲ總稱ス。即チ手形行爲モ亦タ法律行爲ノ一種ニ屬スルカ故ニ法律行爲ノ成立ニ必要ナル條件ヲ備ヘサル手形行爲ハ無効ナリ、從テ其ノ署名者ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコト能ハサルハ言フ俟タス。(2)手形行爲ノ成立ヲ阻害スル爲ニ署名者若ハ其ノ本人ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコト能ハサル場合ハ種々アルヘシト雖モ其ノ主ナルモノヲ舉クレハ(一)意思能力ヲ欠缺セル者ノ署名、心神喪失中ニ爲シタル署名其ノ他手形行爲ヲ爲ス意思ナクシテ爲シタル署名ノ無効ナルコトハ法律行爲ニ於ケル原則ナルヲ以テ其ノ署名者若ハ其ノ本人ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得ス(二)心裡留保ノ署名即チ手形行爲ヲ爲ス意思ナクシテ爲シタル手形行爲ハ相手方カ手形行爲者ノ眞意ヲ知り、又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ無効ナレトモ、然ラサルトキハ有效ナリ(民第九十三條)(三)相手方ト通シテ爲シタル虚偽ノ手形行爲ハ無効ナリト雖モ、其ノ無効ハ之ヲ以テ善意ノ取得者ニ對抗スルコトヲ得ス(民第九十四條)(四)詐欺ニ因リ爲シタル手形行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモ、善意ノ相手方ニ對シテハ取消スコトヲ得サルノミナラス其ノ取消ハ善意ノ取得者ニ對抗スルコトヲ得ス(民第九十六條)(五)強迫ニ因リ爲シタル手形行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ相手方又ハ第三者ノ善意ナルト惡意ナルトヲ問ハス(民第九十三條第一項)。(3)然レトモ意思ノ欠缺ニ基ク手形行爲ノ無効又ハ瑕疵ニ因ル手形行爲ヲ取消シ得ル場合ハ其ノ意思ノ欠缺又ハ瑕疵ハ手形行爲ヲ爲シタルコト即チ署名自體ニ付テ存セサル可カラス、故ニ手形ノ内容又ハ手形行爲ヲ爲スニ至リタル緣由等ニ關スル意思ノ欠缺又ハ瑕疵ハ手形行爲ノ無効又ハ取消ヲ以テ手形ノ善意ノ取得者ニ對抗スルコト能ハサルモノト解スヘシ、何トナレハ手形ハ形式的設權證券ニシテ手形ノ

内容又ハ緣由等ノ如何ヲ問ハス、法定ノ事項ヲ記載シ署名スルニ依リ有效ニ成立スル有價證券ナレハナリ(4)民法第八條ニ規定スル雙方代理ノ禁止ニ反シテ爲シタル手形行爲ハ當然無効ナルカ又ハ之ヲ取消スコトヲ得ルカ、大審院ハ會テ同條ハ公益規定ナリトノ理由ニ依リ絕對無効説ヲ採リタルコトアレトモ(判例三七參照)、其ノ後ニ至リ同條ハ相手方ヲ保護スルカ爲メニ代理權ヲ制限シタル趣旨ナリト解シ、其ノ行爲ハ絕對ノ無効ニアラスシテ本人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ルモノト爲シ判例ヲ變更シタリ(判例三八參照)雙方代理ノ禁止ニ反スル手形行爲ヲ無効ナリトスルモ、亦之ヲ取消スコトヲ得ルモノナリト爲スモ、此ノ無効又ハ取消ハ手形ニ署名シタル他ノ債務者ニ對シ何等ノ影響ヲ及ホササルコトハ左記判例ニ依リテモ明カナリ。

◎(判例一二七)

雙方代理ノ禁止ニ反スル手形行爲ハ無効ナリト雖モ保護義務ニハ何等ノ影響ヲ及ホサス

モ高橋孫太郎カ上告會社風早銀行ノ取締役トシテ上告會社ヲ代表シテ締結シタル保證義務ハ他ノ一方ニ於テ本件手形

ノ受取人タル個人トシテ同人ニ對シ同行爲ノ相手方ノ代理人ト爲リタル結果、民法第八條ニ依リ無効ナリト雖モ

此ノ無効ハ右個人トシテノ同人ニ對シテノミ存在スルニ過キサレハ其ノ他ノ手形權利者ニ對スル上告會社ノ保證義務ニ何等ノ影響ヲ及ホサスモノニ非ス(大正三年七月三日、大審院第二民事部判決、二年(オ)第四〇四號)

II(5)前述シタル各場合ニ於テ手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコト能ハサル署名アリトスルモ、其ノ手形ニ他ノ署名ヲ爲シタル者アルトキハ其ノ署名者ノ債務ハ他ノ手形行爲ノ無効又ハ取消アリタルカ爲メニ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナキハ無能力者ノ署名、偽造ノ署名及ヒ假設人ノ署名アリタル場合ト異ナラサルコトハ勿論ナリ、(第三乃至第五ノ説明參看)。

第八條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ手形

本論

爲替手形

爲替手形ノ振出及方式

(第八條)

ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同ジ

本條ニ於テハ權限ナクシテ又ハ權限ヲ超エテ爲シタル手形行爲ノ署名ノ效果ヲ規定セリ、即チ無權代理人又ハ權限ヲ超越シタル代理人ノ爲シタル手形行爲ニ付キ何人カ其ノ責任ヲ負フヘキカヲ定ムルト共ニ、其ノ責任ヲ負フヘキ者カ支拂ヲ爲シタルトキハ如何ナル權利ヲ取得スヘキカヲ定メタリ、故ニ本條ニ於テハ代理ニ關スル事項ヲ説明スル必要アリ、以下項ヲ分チテ之ヲ説述スヘシ、本條ノ規定ハ之ヲ約束手形ニ準用ス(第七十七條ノ説明參看)。

第一 代理關係ノ記載ヲ必要トスルカ (1) 代理人カ本人ノ爲ニ手形行爲ヲ爲スニハ手形ニ代理關係ヲ記載スルコトヲ要スルヤ、舊手形法即チ商法第四百三十六條ニ於テハ代理人カ本人ノ爲メニ手形行爲ヲ爲スニハ本人ノ爲ニスルコトヲ記載スヘキモノト爲セリ、即チ代理關係ノ表示ヲ必要ト爲シタリ、故ニ同條ノ規定ハ商法第二百六十六條ノ商行爲ノ代理人カ本人ノ爲ニスルコトヲ示ササルトキト雖モ其ノ行爲ハ本人ニ對シ其ノ效力ヲ生スヘキモノト爲セル通則ノ例外ナルコト勿論ナリ(2) 然レニ改正手形法ニ於テハ手形行爲ノ代理關係ニ付キ特別ノ規定ナキニ因リ之ヲ商行爲ノ代理ニ關スル通則ニ從ヒ代理人カ手形ニ代理關係ヲ記載セサルモ本人ニ對シテ其ノ效力ヲ生スヘキモノト爲スヘキカ、又タ舊手形法即チ商法ノ如ク代理人カ手形ニ代理關係ヲ記載セサルトキハ本人ニ對シ其ノ效力ヲ生セサルカ、代理關係ノ表示ニ付キ特別ノ明文ナキ改正手形法ノ解釋トシテ代理人カ本人ノ爲ニ手形行爲ヲ爲スコトヲ得ル權限ヲ有スル者ナルトキハ手形ニ其ノ代理關係ヲ表示セスシテ手形行爲ヲ爲シタリトスルモ本人ニ對シ其ノ效力ヲ生スルモノト解スルヲ至當ト爲ササルカ、蓋シ本條ハ無權代理人又ハ權限ヲ

超越シタル代理人ノ手形行爲ニ付テハ無權代理人又ハ權限ヲ超エタル代理人ニ於テ其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フヘキモノト爲シタルニ因リ、代理關係ヲ表示セサル手形行爲ノ效力カ本人ニ對シテ其ノ效力ヲ生スルモノト爲スモ、本人ニ於テ其ノ手形行爲カ無權代理人ニ依リテ爲サレタルコト又ハ代理人カ權限ヲ超エテ爲シタルモノナルコトヲ本人ニ於テ其ノ事實ヲ證明シ其ノ手形上ノ義務ヲ負ハサルコトヲ得ヘク、而シテ此ノ場合ニハ無權代理人又ハ權限ヲ超エタル代理人ニ於テ其ノ手形ニ因リ義務ヲ負擔スルカ故ニ、他ノ手形權利者ノ權利ヲ侵害スル虞レナク從テ手形取引ノ圓滑ヲ害スルコトナカルヘシ(3) 然レトモ手形ハ形式的證券ニシテ其ノ文言ヲ信賴シテ之ヲ授受スルモノナルヲ以テ、手形行爲カ代理人ニ依リテ爲サレ其ノ本人カ何人ナルカハ手形ニ因リテノミ之ヲ判定スルコトヲ得ルモノニシテ、手形ニ代理關係ノ表示ナキトキハ手形行爲者即チ署名者ヲ以テ本人ト爲スヘク、手形ニ現ハレサル者ヲ以テ其ノ本人ト爲スコト能ハサル可シ、例之ハ甲カ乙ノ代理人トシテ丙ヲ受取人、丁ヲ支拂人ト爲シ爲替手形ノ振出行爲ヲ爲スニ當リ振出人ヲ單ニ甲ト爲シタルノミニテ、乙ノ代理人ナルコトヲ表示セサルトキハ受取人其ノ他ノ者ハ甲ヲ振出人本人ト信シテ手形ヲ授受スヘキモ、特別ノ事情ナキ限り乙ヲ振出人本人ト信シテ手形ヲ授受スルコトナカルヘシ、而シテ手形カ丁ノ引受又ハ支拂拒絶アリタルカ爲ニ所持人ハ振出人タル甲ニ對シテ遡求權ヲ行使シタルニ振出人本人ハ乙ニシテ甲ハ其ノ代理人ニ過キスト爲サンカ、手形授受者ノ豫期ニ反スルコト甚シカル可シ、故ニ改正手形法ニ於テ代理關係ノ表示ニ關シ舊手形法即チ商法ノ如キ規定ヲ爲ササリシハ、特ニ之ヲ規定セサルモ手形ノ文言證券タル性質ヨリ當然之カ表示ヲ爲スヘキモノト爲シ、唯其ノ代理關係ヲ知ルニ足ルトキハ其ノ表示方法ノ如何ヲ問ハサルモノト爲シタルニ因ルト解スルヲ相當トス(4) 然ラハ代理人カ本人トノ代理關係ヲ表示スルニハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘキカ、改正手形法ニ於テハ特別ノ

明文ナキニ依リ、代理人カ本人ノ爲シタル手形行爲ヲ爲スコトヲ認識シ得ル程度ニ於テ之ヲ記載スルヲ以テ足ルモノト解ス、判例亦タ代理關係ノ表示ニ付キ同一ノ見解ヲ採リテ曰ク。

◎(判例一七八) 代理ノ表示ハ署名者カ本人ノ爲ニシタルコトヲ認識シ得ルヲ以テ足ル 原判決ノ確定スル所ニ依レハ本件爲替手形ハ其ノ一通ニハ(甲第一號證ニ該ルモノ)振出人及引受欄ニ「住所神戸市出在家町九六ノ四、三共合名會社杉村米一」ト記載セラレ他ノ一通ニハ其振出人欄ニ「住所神戸市船大工町八九ノ一三共合名會社杉村米一」ト引受欄ニハ「三共合名會社杉村米一」ト記載アリ、其ノ各名下ニハ杉村米一名義ノ印章ノ押捺アリト謂フニ在リテ、原判決ハ右手形ノ文言ニ依リテハ未タ以テ本件手形行爲ハ署名者杉村米一カ自己ノ爲ニ爲シタルニ非スシテ、本人タル被上告會社ノ爲ニシタルモノナルコトヲ認識スルニ足ラサルノミナラス、其ノ署名ノ印章モ單ニ杉村米一名義ノ印章ニ過キサルヲ以テ「結局本件手形ノ文言ハ被上告會社ノ代理關係ノ記載トシテ不適式タルヲ免レス」ト判定シタリ、然レトモ商法第四百三十六條ニ從ヒ代理人トシテ手形ニ署名スル者カ、本人トノ代理關係ヲ表示スルニ當リテハ特ニ代理關係ヲ示スヘキ一定ノ文字ヲ記載スヘキ格別ノ方式アルニアラス、又會社或ハ會社ヲ代表シタル旨ヲ表示スル印章ノ押捺ヲ必要トスルモノニアラス、其ノ記載ニ依リ署名者カ本人ノ爲ニ爲シタルコトヲ自ラ認識シ得ルヲ以テ足ルモノニシテ、而シテ今本件ニ付テ見ルニ手形ノ署名者タル杉村米一カ其ノ肩書ニ使用シタル三共合名會社ナル記載ハ單ニ無意義ニ之ヲ記入セラレタルモノト認メ得サルハ論ヲ俟タサル所ニシテ、或ハ之ヲ同人ノ住所トシテ記入シタルモノトシ或ハ之ヲ同人カ肩書會社ノ従業員タルコトヲ表示シタルモノトスル等諸種ノ意義ニ解スルヲ得サルニアラサルヘシト雖モ、同人ノ署名ニ冠スルニ被上告會社ヲ以テシタル記載ハ又之ヲ解シテ同人カ右會社ヲ代表シテ署名者ヲ爲シタルモノト認定シ得ラレサルニアラス、果シテ然ラハ原審ニシテ右記載カ代理關係ヲ表示シタルモノニアラスシテ何等カノ他ノ意味ヲ表示シタルモノタルコトヲ確定セサル以上、曠ク其ノ其ノ代理關係ヲ表示シタルモノナルコトヲ否定シ得サル筋合ナルヲ以テ、原判決カ此ノ理ヲ闕却シ前示手形ノ記載ノ意義ヲ確定スルコトナク、直ニ本件手形ノ文言ハ被上告會社ノ代理關係ノ記載トシテ不適式ナルモノナルヲ免レスト判示シタルハ理由不備又ハ審理不盡ノ違法アルヲ免レサルモノニシテ之ヲ破棄スヘキモノトス(大正十五年十二月十五日、大審院第三民事部判決、一五年(オ)第五九七號)

代理關係ノ表示ニ付キ特別ノ規定ナキ改正手形法ノ解釋トシテハ更ニ強キ理由ヲ以テ判例ノ如ク解スルコトヲ得(5)會社其ノ他ノ法人ノ代表者カ會社又ハ法人ノ爲メニ手形行爲ヲ爲スニハ如何ナル方式ニ依リ之ヲ爲スヘキカ、取締役又ハ法人ノ代表者ハ會社又ハ法人ノ爲ニスル意思ヲ明ニシ、取締役又ハ代表者ノ署名若ハ記名捺印ヲ要スルコトハ第一條ニ於テ詳説シタル所ナリ、第一條「八手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名」ノ項及ヒ(判例九、一〇參看) (6)手形ニ記載シタル事項ニ依リ代理關係ヲ認定スルコト能ハサルトキハ他ノ證據ヲ以テ手形行爲者ノ何人ナルカラ認定スルコトヲ得ルカ、左記判例ニ於テハ他ノ證據ニ依リテ之ヲ認定スルモ不法ニアラサルモノト爲セリ、曰ク。

◎(判例一二九) 代理關係ハ他ノ證據力如何ヲ調査シ之ヲ決定スルコトヲ得 案スルニ手形上ノ債務ハ手形ニ署名セル者ノミ之ヲ負擔スルカ故ニ、手形面ノ記載ヲ離レテ其ノ振出人ノ何人ナルヤヲ判定スルコトヲ得サルハ論ナキ所ナリト雖モ、本件ニ於ケル約束手形ノ振出人ハ野路井教海ノ肩書ニ寶嚴寺住職トアルハ必スシモ教海カ同寺ヲ代表シテ手形ヲ振出シタルコトヲ示シタル記載ナリト認ムルコトヲ要スルモノニ非スシテ、單ニ教海ノ職業ヲ記載シタルニ過キサルモノト解シ得ル餘地アルモノナレハ他ノ證據ヲ參酌シテ其ノ振出人ハ個人タル教海ナリト認ムルモ、手形面ノ記載ヲ離レテ其ノ振出人ノ何人ナリヤヲ決シタル不法アルモノニ非ス、然レハ原審ハ宜シク上告人ノ提出又ハ援用シタル他ノ證據ノ證據力如何ヲ調査シ、其ノ措信ノ價值アル場合ニ於テハ之ヲ參酌シ教海ハ寶嚴寺ヲ代表シテ本件ノ約束手形ヲ振出シタルモノナリヤ、將又同人カ個人タル資格ニ於テ振出シタルモノナリヤヲ判斷シ以テ上告人請求ノ當否ヲ決スヘキモノトス(昭和二年十二月二十四日、大審院第二民事部判決、二年(オ)第一〇七〇號)

判例ノ示スカ如キ事案ノ場合ニ於テハ手形行爲カ代理人ニ依リテ爲サレタルカ否カラ決スルコト能ハサルヲ以テ、手形以外ノ他ノ證據ニ因リテ其ノ記載ヲ判斷シ、手形行爲カ代理人ニ依ルモノナリヤ否ヤヲ決定スヘキモノトスル判例ノ解釋ハ蓋シ相當ナリ。

第二 本人名義ヲ以テ手形行爲ノ代理ヲ爲スコトヲ得ルカ (一) 代理人カ手形行爲ヲ爲スニハ手形ニ代理關係ヲ表示スヘキモノナルコトハ前項ニ於テ説明シタルカ如シ、然ラハ代理人カ代理權ニ基キ直接ニ本人ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲スニ依リテ手形行爲ノ代理ヲ爲スコトヲ得ルカ、代理ハ代理人ノ行爲ニシテ其ノ效力カ本人ニ歸屬スルニ過キサルカ故ニ、代理人カ手形行爲ヲ爲スニハ代理人ノ署名又ハ記名捺印ヲ要スルモノト爲シ消極說ヲ主張スル者アレトモ、大審院判例ハ積極說ヲ採リ其ノ有效ナルコトヲ認ム、即チ

◎(判例一三〇) 代理人ヲシテ本人ノ名義ヲ以テ手形行爲ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス 然レトモ手形振出行爲ハ一ノ要式行爲ニシテ此行爲ハ一般ノ法律行爲ト同シク之ヲ他人ニ委任シ、代理人ノ名義ヲ以テ手形振出サシムルコトヲ得ヘキハ論ナキノミナラス、手形振出行爲ヲ他人ニ委任シ本人ノ氏名ヲ記載シ及ヒ本人ノ印形ヲ捺捺シ即チ本人名義ヲ以テ手形振出サシムルコトヲ妨ケサルモノニシテ、前者ノ場合ニ於テハ代理人カ本人ノ爲ニスルコトヲ手形ニ記載セサルトキハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フモノニ非サルモ、後者ノ場合ニ於テハ手形ノ形式上代理關係現ハレサルヲ以テ、本人ハ自ら振出行爲ヲ爲シタルモノト看做サレ手形上ノ責任ヲ負フヘキモノトス、商法第四百三十六條ハ前示ノ如ク手形ノ代理人カ本人ノ爲ニスルコトヲ示サシテ手形ニ署名シタル場合ハ本人ニ手形上ノ責任ヲキコトヲ規定シタルニ止マリ、代理人ヲシテ本人名義ヲ以テ手形振出サシムルコトヲ得サラシムル法意ヲ含蓄スルモノニ非ス (大正四年六月二十八日、大審院第二民事部判決、四年(オ)第三〇七號)

II(2) 右判例ノ理由ニ依リ大審院ハ支配人カ主人ノ爲ニ手形行爲ヲ爲ス場合ニ於テモ亦タ直接主人ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノト判示シテ曰ク。

◎(判例一三一) 支配人ハ主人ノ名ヲ署シ手形ノ裏書ヲ爲スコトヲ得 然レトモ代理人カ其ノ權限内ニ於テ本人ノ爲メニ手形ノ振出又ハ引受ヲ爲スニ當リ、自己ノ名ヲ署セス又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲サシテ、直接ニ本人ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲サシテ、其ノ行爲ハ手形行爲トシテ有效ニシテ本人ニ對シ效力ヲ生スルモノトス、唯代理ノ權限カ單ニ委任ノ趣旨ノミニ依リテ定マルヘキ場合ニ於テハ代理人カ直接ニ本人ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル

記名捺印ヲ爲スニ付テ特ニ授權アルコトヲ必要トスルノミ、是本院從來ノ判例ニ於テ是認スル所ナリ(大正三年(オ)第九百二十二號、同四年十月三十日判決參照) 商人ノ選任シタル支配人ハ主人ニ代ハリテ其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ、其ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルコトハ商法第三十條ノ規定スル所ナリ、故ニ支配人カ如上廣汎ナル權限ヲ有スルコトハ法律ノ定ムル所ニシテ、善意ノ第三者ニ對スル關係ニ於テハ委任ノ趣旨如何ニ拘ラサルヲ以テ、其ノ權限ニ付特ニ授權ノ有無ノ問題ヲ生スルコトナシ、而シテ支配人カ主人ノ爲メニ其ノ營業ニ關シ手形ノ裏書ヲ爲スカ如キハ前示商法ノ規定ニ依リ、當然其ノ權限内ニ屬スルコト論テ俟タサル所ニシテ、且其ノ裏書ヲ爲スニ當リ主人ノ爲メニスルコトヲ記載シテ自己ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲スト直接ニ主人ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲ストハ何レモ主人ノ爲メニ手形ノ裏書ヲ爲スノ方法ニシテ、手形上ノ法律行爲タルニ外ナラサレハ支配人カ主人ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲シテ、主人ニ對シ其ノ效力ヲ生スルモノト解スルヲ相當トス (大正九年四月二十七日、大審院第一民事部判決、九年(オ)第一二一號)

第三 無權代理人ノ手形行爲ノ意義及ヒ其ノ效力

本條前段ニ於テ「代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ら其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス」ト規定セリ、即チ本條前段ハ代理權ナクシテ手形行爲ヲ爲シタル者ニ對スル效果ヲ定メタルモノナリ、左ニ

(A) 代理權ナキ者ノ手形行爲ノ意義及ヒ(B) 代理權ナキ者ノ手形行爲ノ效力トニ分チテ説明スヘシ。

(A) 代理權ナキ者ノ手形行爲ノ意義 (一) 代理權ナキ者ノ爲シタル手形行爲即チ無權代理人ノ手形ノ署名トハ代理人ト稱スル者カ代理權ナキニ拘ラス本人ノ代理人トシテ本人ノ爲ニ手形ニ自己ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲スコトヲ謂フ、例之ハ甲カ乙ヲ代理シテ手形行爲ヲ爲ス權限ヲ有セサルニ拘ラス乙ノ爲ニ手形ヲ振出シ之ニ代理人トシテ自己ノ署名又ハ記名捺印ヲ爲シ手形ヲ受取人ニ交付スルカ如シII(2) 故ニ代理權ナキ者カ手形ニ他人ノ

本論 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 (第八編)

署名ヲ爲シタルトキハ無權代理人ノ手形行爲ト謂フコトヲ得ス、蓋シ此ノ場合ハ手形ニ代理權ナキ者カ署名ヲ爲サスシテ他人ノ署名ヲ爲シタルニ依リ、或ハ偽造ノ署名トナルコトアルヘキモ本條ノ代理權ナキ者ノ手形行爲ト爲ラス、又タ代理權ヲ有セサル者カ直接手形ニ本人ノ記名捺印ヲ爲シタル場合モ同一ナルコトハ勿論ナレトモ、代理權ヲ有スル者カ手形ニ代理關係ヲ表示セサルトキハ無權代理人ノ手形行爲ト爲スヘキカ、此ノ場合ニ於テハ代理權ヲ有スルヲ以テ無權代理人ノ手形行爲ト爲スコトヲ得ス(3)而シテ手形行爲カ無權代理人ニ依リテ爲サレタルモノナリヤ、即チ代理人トシテ手形行爲ヲ爲シタル者カ之ヲ爲スコトヲ得ル權限ヲ有スルカ否カハ各事案ニ於テ民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ決スヘキ問題ナリ、然ラハ株式會社ノ使用人ハ手形行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルカ此ノ問題ニ對スル大審院判例ニ曰ク。

◎(判例一三二)

株式會社ノ使用人ハ手形行爲ヲ爲ス權限ヲ有セス

株式會社ノ使用人ハ法律上一定セル權限ヲ有

スルモノニ非スシテ、取締役又ハ支配人等ノ委託又ハ承諾セル範圍内ニ於テノミ會社ノ爲メ法律行爲ヲ爲シ、又ハ會社若ハ取締役名義ノ文書ヲ作成スル權限ヲ有スルニ止ルモノナルカ故ニ、使用人カ取締役ヨリ叙上ノ事項ニ關シ包括的ノ委託ヲ受ケタル場合ト雖モ、取締役ハ右權限ヲ制限シ特ニ或事項ヲ爲スコトヲ禁スルコトヲ得ルモノニシテ、其ノ制限ハ對内的ニモ對外的ニモ有效ナリト謂フヘク、從テ使用人ハ右禁止事項ヲ爲ス權限ヲ有セサルモノトス、原判示第三ノ事實ハ論旨第一點ニ對スル説明中ニ掲タル所ノ如クニシテ、之ニ依レハ株式會社近江銀行聖田支店ノ使用人タル被告令太郎ハ同支店主任取締役馬場某ヨリ同人ニ代リ同支店ノ業務取扱ヲ爲スコトヲ委託セラレタルモ、同人及他ノ取締役ヨリ特ニ被告久三郎ニ對スル新規貸付及同人ノ金融ヲ圖ル爲メ同人振出ノ手形ニ同銀行取締役名義ヲ以テ引受又ハ裏書ヲ爲スコト等ヲ禁セラレタルモノナルカ故ニ、其ノ禁止即チ制限ハ對内的ニモ對外的ニモ有效ナルコト前顯ノ説明ニ照シ明ナレハ原判決カ被告令太郎ニ對シ、被告久三郎ノ金融ヲ圖ル爲メ取締役馬場某名義ヲ以テ、久三郎ノ振出ニ係ル判例第三ノ手形ニ引受又ハ裏書ヲ爲ス權限ナキモノト判定シタルハ正當ナリ(大正十三年五月十五日、大審院第二刑事部判決、一三年(九)第三六一號)

即チ判例ニ於テハ株式會社ノ使用人ハ法律上一定ノ權限ヲ有スルモノニ非ス、取締役又ハ支配人等ノ委託又ハ承諾セル範圍内ニ於テノミ會社ノ爲メ法律行爲ヲ爲シ得ル權限ヲ有スルニ過キス、而シテ其ノ權限モ取締役又ハ支配人ニ於テ自由ニ之ヲ制限シ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ依リ、特ニ委託又ハ承諾ナキトキハ手形行爲ヲ爲ス權限ナキモノト判示シタリ(4)株式會社ノ取締役カ其ノ資格ヲ濫用シテ手形行爲ヲ爲シタルトキハ會社ヲ代表スル權限ナキモノト爲スヘキカ、左記判例ニ於テハ取締役ハ株式會社ノ法定代理人トシテ手形行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス、而シテ取締役カ自己ノ必要上ヨリ其ノ資格ヲ濫用シテ手形行爲ヲ爲ス場合ニ於テモ、其ノ權限内ノ事項ニ付キ本人ノ爲ニスルコトヲ示シテ意思表示ヲ爲シタル以上ハ會社ノ爲ニ效力ヲ生スルモノト爲シ、資格濫用ノ取締役モ代理權アルコトヲ認メタリ、即チ

◎(判例一三三)

取締役カ其ノ資格ヲ濫用シテ手形行爲ヲ爲スモ會社ノ目的タル事業ヲ進行スルニ必要ナル行爲タル

ヲ妨ケス 然レトモ會社ハ其ノ目的タル事業ヲ進行スルニ必要ナル行爲ヲ爲スノ能力ヲ有スルモノニシテ、會社カ其ノ金融ノ必要上手形ノ振出、引受ノ行爲ヲ爲スハ通常ノ事例ナレハ手形ノ振出、引受等ノ行爲ヲ爲スハ會社ノ目的タル事業ヲ進行スルニ必要ナル行爲ニ屬スルモノト解スルテ相當トス、故ニ取締役ハ株式會社ノ法定代理人トシテ手形ノ振出、引受等ヲ爲ス權限ヲ有スルモノト謂フヘシ、而シテ取締役カ自己ノ必要上ヨリ其ノ資格ヲ濫用シテ手形ヲ振出シ引受ケタル場合ニ於テモ、其ノ權限内ノ事項ニ付本人ノ爲ニスルコトヲ示シテ意思表示ヲ爲シタル以上ハ會社ノ爲ニ效力ヲ生スルモノトス、何トナレハ代理行爲タルニハ代理人ノ真意カ本人ノ利益ヲ圖ルニ在リヤ又ハ其ノ資格ヲ利用シテ不正ニ自己ノ利益ヲ圖ラントスルニ在リヤハ問ハサルコト當院判例ノ認ムル所ナレハナリ(大正四年三月十五日、大正六年七月二十一日、大正九年七月三日當院判決參照)故ニ原院カ訴外長島弘ハ上告會社(控訴會社)ノ社長取締役トシテ大正十二年五月二十九日金額一萬五千圓、受取人訴外東京興業信託株式會社、支拂人上告會社、支拂地東京市、満期日同年七月二十七日ト定メタル爲替手形ヲ振出シ即日之ヲ引受ケタルモノナル處、右手形ノ振出、引受ハ弘個人ノ必要上其ノ取締役タル資格ヲ濫用シテ爲サレタルモノナルモ、尙會社ノ目的タル事業ヲ進行スルニ必要ナル

本論 爲替手形

爲替手形ノ振出及方式 (第八條)

行爲タルヲ妨ケスト判斷シ、上告會社ハ手形所持人タル被上告人ニ對シ右手形上ノ責任ヲ負擔スヘキ旨判示シタルハ不法ニ非ス(昭和三年七月十九日、大審院第一民事部判決、三年(オ)第五六五號)

(B) 代理權ナキ者ノ手形行爲ノ效力 (1) 代理權ヲ有セサル者カ代理人トシテ手形ニ署名即チ手形行爲ヲ爲シタル場合ト雖モ本人ハ民法第百十三條ノ規定ニ依リ其ノ手形行爲ヲ追認スルコトヲ得、故ニ本人カ手形行爲ノ相手方ニ對シ追認ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ手形行爲ハ其ノ行爲ノ當時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生シ、本人ニ於テ手形上ノ義務ヲ負擔スルヲ以テ他ニ問題ヲ發生スル餘地ナカルヘキモ、本人カ追認ヲ爲ササルトキハ無權代理人トシテ手形上ノ義務ヲ負ハシムヘキカ、又タ民事上ノ義務ヲ負ハシムヘキカノ問題ヲ惹起スヘシ、是レ當ニ本條ノ解決セントスル所ニシテ、無權代理人ハ自ら其ノ手形ニ因リ手形上ノ義務ヲ負擔スヘキモノト爲ス、即チ爲替手形ノ振出人又ハ裏書人トシテ署名ヲ爲シタルトキハ引受及ヒ支拂ヲ擔保スル義務ヲ負擔スヘク、引受人、參加引受人又ハ保證人トシテ署名シタルトキハ手形金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔ス、蓋シ本人カ無權代理人ノ手形行爲ヲ追認セサルトキハ手形上ノ義務ヲ負フコトナク、又タ無權代理人モ他人ノ爲ニ手形行爲ヲ爲シタルモノナルヲ以テ、純理上之ニ手形上ノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得ス、然レトモ無權代理人ハ民法上不法行爲ニ因ル責任ヲ負フコトアルヘキヲ以テ、改正手形法ハ手形取引ヲ圓滑ナラシメンカ爲メ無權代理人ニ手形上ノ義務ヲ負ハシメタリ(2) 無權代理人即チ代理權ヲ有セサル者カ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタル場合ニ於テ、本人カ其ノ手形行爲ヲ追認セサルトキハ無權代理人ハ自ら其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フヘキコトハ前述シタルカ如シ、而シテ無權代理人カ支拂ヲ爲シタルトキ即チ手形上ノ義務ヲ履行シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス、此ノ權利ハ無權代理人カ支拂ヲ爲スニ依リテ法律上當然有スル權利ナリ、即チ裏書人ノ代理人トシテ署名シ後者ノ遡求ニ應ジ

其ノ支拂ヲ爲シタルトキハ自己ノ前者ニ對シテ更ニ遡求權ヲ行使スルコトヲ得ヘク、保證人トシテ署名シ其ノ支拂ヲ爲シタルトキハ保證セラレタル者及ヒ其ノ者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生スル權利ヲ取得スヘク、又タ參加引受人トシテ署名シ其ノ支拂ヲ爲シタルトキハ被參加人及ヒ其ノ者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生スル權利ヲ取得スルカ如シ(3) 無權代理人カ爲替手形ノ振出人又ハ引受人ノ代理人トシテ署名シ其ノ支拂ヲ爲シタルトキハ如何ナル權利ヲ有スヘキカ、振出人ハ振出ニ依リ引受及ヒ支拂ヲ擔保スル義務ヲ負ヒ、引受人ハ引受ニ依リ爲替手形ノ主タル債務者トシテ手形金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フ、故ニ振出人又ハ引受人カ其ノ支拂ヲ爲スト雖モ振出人又ハ引受人トシテ手形上何等ノ權利ヲ有セサルコトハ勿論ナリ、從テ無權代理人カ振出人又ハ引受人ノ代理人トシテ署名ヲ爲シ其ノ支拂ヲ爲スモ其ノ本人タル振出人又ハ引受人カ手形上何等ノ權利ヲ有セサルカ故ニ無權代理人モ亦タ何等手形上ノ權利ヲ有スルコト無シ、本條ニ「本人ト同一ノ權利ヲ有ス」トハ無權代理人カ支拂ヲ爲シタルトキハ手形上ノ權利ヲ有スル者即チ裏書人、參加人又ハ保證人等ト同一ノ手形上ノ權利ヲ有スヘキコトヲ定メタルモノニシテ、支拂ヲ爲スモ手形上ノ權利ヲ有セサル振出人又ハ引受人カ有スルコトアルヘキ民事上ノ資金關係等ニ依ル權利ヲ有スルコトヲ定メタルモノニアラス、蓋シ手形法ニ於テハ手形上ノ權利關係ヲ確定スル必要アレトモ、手形ノ基本關係タルヘキ民事上ノ權利關係ヲ決定スル必要ナケレハナリ。

第四 代理人ノ權限外ノ手形行爲ノ意義及ヒ其ノ效力 代理人カ權限ヲ超エテ手形行爲ヲ爲シタルトキハ如何ナル效力ヲ生スヘキカ、是レ本條後段ノ規定スル所ニシテ「權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同ジ」ト規定シ權限外ノ代理人ノ手形行爲ニ付テモ亦タ無權代理人ノ手形行爲ト同シク代理人自ら其ノ手形ニ依リテ義務ヲ負フヘク

而シテ代理人カ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有スルモノト爲シタリ、以下其ノ意義及ヒ效力ヲ説明スヘシ。

(A) 權限外ノ手形行爲

(1) 權限ヲ超エタル代理人ノ手形行爲即チ權限外ノ手形行爲トハ代理權ヲ有スル者カ其ノ權限ノ範圍ヲ超越シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ謂フ、故ニ全然代理權ヲ有セサル者カ代理人トシテ手形行爲ヲ爲シタルトキハ無權代理人ノ手形行爲ト爲ルモ代理人ノ權限外ノ手形行爲ト謂フコトヲ得ス、例之ハ或ル營業ノ支配人甲カ主人乙ノ營業ニ全ク關係ヲ有セサル自己ノ遊興費ヲ支拂フ目的ヲ以テ支配人トシテ手形ノ振出又ハ引受ヲ爲スカ如キハ權限外ノ手形行爲ナレトモ、其ノ營業ニ關スル事項ニ付テ爲シタル支配人ノ手形行爲ハ縱令ヒ主人ヨリ其ノ金額ヲ制限セラルルコトアリトスルモ權限内ノ手形行爲ナルカ如シ(2) 代理人ノ手形行爲カ權限外ナリヤ否ヤハ各場合ニ於テ民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ決定スヘキ問題ナリ、然ラハ株式會社ノ取締役カ代表權ヲ濫用シテ手形行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ取締役ノ手形行爲ハ權限内ナリヤ否ヤ、大審院判例ハ之ヲ權限アリト判示セシコトハ(判例三三三)ノ如クナルヲ以テ此ノ場合ニ於ケル取締役ノ手形行爲ハ權限内ノ行爲ト解セサル可カラス、左記判例亦タ同一趣旨ナリ。

◎(判例一三四)

取締役ノ權限外ノ手形行爲ハ内部關係ニ於テ代表權濫用ノ結果ヲ來スニ止マリ外部ニ對シテ代表權ヲ濫用シタルモノト謂フコトヲ得ス 株式會社ノ取締役ハ會社ノ目的タル事業ニ關スル行爲及其ノ目的タル事業ヲ遂行スル爲メ必要ナル行爲ニ付テハ會社ヲ代表スル權限アルコト勿論ニシテ、原判決ノ確定セル所ニ依レハ被告會社ハ有價證券ノ制販賣ヲ營業トスルモノナレハ經濟上一種ノ金融業ニ關スル商會社ト謂フヘク、斯ル會社ハ其ノ營業ヲ遂行スル必要上一般ニ手形行爲ヲ爲ス能力アルコト謂フテ俟タス、然ラハ被告會社ノ取締役タル某カ會社ヲ代表シテ手形ノ裏書ヲ爲スハ其ノ實某個人ノ利益ノ爲ニ爲シタルモノトスルモ、其ハ會社ノ代表者タル不正ノ意思

ヲ包藏セル爲ニ會社ニ對スル内部關係ニ於テ代表權濫用ノ結果ヲ來スニ止マリ、之カ爲メ外部ニ對シ直ニ代表權ナクシテ爲シタルモノト謂フテ得ス(大正十四年十二月二日、大審院第三民事部判決、一四年(オ)第四百〇號)

判例ノ趣旨ヲ更ニ解説スレハ取締役ハ會社ノ目的タル事業ヲ遂行スル必要上手形行爲ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ取締役カ自己ノ必要ヨリ其ノ資格ヲ濫用シテ手形行爲ヲ爲シタル場合ニ於テモ、其ノ權限内ノ事項ニ付キ會社ノ爲ニスルコトヲ示シテ意思表示ヲ爲シタル以上ハ取締役ノ意思カ會社ノ利益ヲ圖ルニ在ルト亦タ自己ノ利益ヲ圖ルニ在ルトヲ問ハス、會社ニ對シテ其ノ效力ヲ生スルモノト爲セリ(3) 支配人カ主人ノ個人名義ヲ以テ手形ヲ振出シタル場合ニ於テ支配人ニ其ノ權限アリト爲スヘキヤ否ヤ、大審院判例ハ支配人ニ其ノ權限アリト爲シ左ノ如ク判示シタリ。

◎(判例一三五)

支配人ノ手形行爲ハ直接主人ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス 按スルニ支配人ハ主人ニ代リテ其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ、其ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルヲ得サルカ故ニ、支配人カ主人ノ爲ニ其ノ營業ニ關シテ手形行爲ヲ爲スニ當リ、主人ノ爲ニスルコトヲ記載シテ自己ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲スト將又直接ニ主人ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲ストハ當然其ノ權限内ニ屬シ、其ノ行爲ハ直接主人ニ對シ其ノ效力ヲ生スルモノナルコトハ當院判例(大正九年(オ)第一二一條、同年四月二十七日第一民事部判決參照)トスル所ナルヲ以テ、原判決カ論旨摘錄ノ如ク判示シ小倉海產工業會社ニ付、被告主人トシテ訴外井上精一ヲ支配人トセル商業登記ノ存スル事實ヲ確定シタルニ拘ラス、該事實ニ依リテハ被告主人カ右訴外人ニ被告個人名義ノ手形ヲ振出スヘキ權限ヲ授受シタルモノト推斷スルコト能ハスト爲シ、右訴外人カ被告人名義ニテ振出シタル本件手形ニ付、被告主人ニ手形上ノ責任ヲ負ハシメサリシハ失當ニシテ論旨ハ理由アリ(昭和二年三月十八日、大審院第二民事部判決、一五年(オ)第七二二號)

即チ支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルカ故ニ、支配人ハ自己ノ名義ヲ以

テスルト又タ主人ノ名義ヲ以テ爲ストニ拘ラス、其ノ營業ニ付キ手形行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルコトハ當然ニシテ判例ヲ俟テ知ルヘキニアラス(4)代理人カ權限ヲ超越シテ手形行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ、其ノ相手方カ代理人ニ手形行爲ヲ爲スヘキ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有シタルトキハ其ノ手形行爲ハ民法第百十條ノ規定ニ依リテ有效ナルヘク、從テ爾後ノ手形所持人モ亦タ其ノ手形行爲ノ有效ナルコトヲ主張シ振出人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ、此ノ場合ニ在リテハ權限外ノ手形行爲トシテ代理人カ手形上ノ義務ヲ負擔スルコトナシト雖モ、若シ其ノ相手方カ代理人ニ手形行爲ヲ爲スヘキ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セザリシトキハ爾後ノ手形所持人カ斯ル權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有シタリトスルモ、民法第百十條ニ依リ振出人ニ手形上ノ責任アルモノト爲スコトヲ得サルヲ以テ、代理人ニ於テ自ラ其ノ手形ニ因ル義務ヲ負擔セサル可ラス、蓋シ民法第百十條ニ「第三者」トアルハ代理人ト手形行爲ヲ爲シタル直接ノ相手方ヲ指スモノニシテ、爾後ノ手形取得者タル間接ノ相手方ヲ指シタルモノニアラサルヲ以テナリ、大審院判例亦タ同一趣旨ヲ採リテ曰ク。

◎(判例一三六)。爾後ノ所持人カ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有スルモ振出人ニ責任アリト爲スコトヲ得ス。約束手形カ代理人ニ依テ振出サレタルモ、其ノ代理人カ權限ヲ超越シテ之ヲ爲シタルモノナル場合ニ於テ、該手形ノ受取人カ右代理人ニ振出ヲ爲スヘキ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有シタルトキハ其ノ振出ハ民法第百十條ノ規定ニ依リテ有效ナリト謂フヘク、振出ニシテ有效ナル以上ハ爾後ノ手形所持人モ亦振出ノ有效ナルコトヲ主張シテ、本人タル振出人ニ對シテ手形債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシ、然レトモ若シ手形ノ受取人ニシテ右代理人ニ振出ヲ爲スヘキ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セザランカ、縱令爾後ノ手形所持人カ斯ル權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有シタリトスルモ民法第百十條ヲ適用シテ振出人ニ手形上ノ責任アルモノト論スルコトヲ得サルモノトス、何トナレハ民法第百十條ニ「第三者」トアルハ代理人ト法律行爲ヲ爲シタル直接ノ相手方ヲ謂フモノニシテ、爾後ノ手形所持人

ハ該手形振出行爲ノ直接ノ相手方ニ非サレハナリ、是當院判例ノ趣旨ニ於テ是認スル所ナリ(大正十二年(オ)第百九十五號、同年六月三十日、大正四年(オ)第三百五十五號、同年十二月二十八日當院判例參照)原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ被告會社(被控訴人)ノ雇人奈倉保ハ同會社取締役松尾廣吉ヨリ其ノ名義ヲ以テ、同會社ノ爲金一萬圓ヲ限度トシテ其ノ融通ヲ受クル爲約束手形ヲ振出シ又ハ裏書ヲ爲スノ權限ヲ與ヘラレタルニ依リ、其ノ目的ヲ以テ約束手形ヲ振出シ又ハ裏書ニ依リ金融ヲ爲シタル額一萬圓ニ達シタルヲ以テ、奈倉保ニ於テ是以上ノ手形ヲ振出スノ權限ヲ有セサルニ拘ハララス、松尾廣吉ノ代理人トシテ本件ノ約束手形ヲ服部泰吾ニ宛テ振出シタルモノニシテ、服部泰吾ノ雇人村上清之ハ泰吾ノ代理トシテ手形ノ振出又ハ裏書ヲ爲スニ付、奈倉保ト同様制限セラレタル權限ヲ與ヘラレタルモノニシテ、既ニ手形ノ振出又ハ裏書ニ依リ金融ヲ爲シタル額一萬圓ニ達シタルヲ以テ、本件ノ各手形ニ裏書ヲ爲スノ權限ヲ有セサルニ拘ラス、該手形ニ服部泰吾ノ代理人トシテ其ノ名義ヲ以テ白地裏書ヲ爲シ之ヲ各上告人ニ交付シタルモノニテ上告人ハ村上清之ニ代理權アルコトヲ信スヘキ正當ノ理由ヲ有シタルトキハ本件手形ノ振出ハ有效ニシテ被告上告人ハ手形上ノ責任ヲ負擔スヘク、村上清之ニ於テ斯ル正當ノ理由ヲ有セザルトキハ被告上告人ハ手形上ノ責任ヲ負フヘキモノニ非ス(大正十四年三月十二日、大審院第一民事部判決、一三年(オ)第六〇一號)

II(5)而シテ第三者即チ代理人ノ直接ノ相手方カ代理人ニ手形行爲ヲ爲ス權限アリト信スヘキ正當ノ事由ヲ有セシヤ否ヤハ第三者ニ於テ代理人カ本人ノ爲ニ手形行爲ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノナリトノ觀念ヲ惹起スルニ足ルヘキ客觀的事情ノ存在スルヤ否ヤ及ヒ其ノ事情カ本人ノ作爲若ハ不作爲ニ出テタルモノナルコトヲ要ス、例之ハ本人カ代理人ニ何等ノ制限ヲ付セス或種ノ行爲ヲ爲ス代理權ヲ與ヘテ第三者ト取引ヲ爲サシメ來リタル後、其ノ代理權ニ手形行爲ヲ爲スヘカラサル制限ヲ加ヘタルニ拘ハララス、其ノ旨ヲ第三者ニ通知セサル爲メ第三者ハ從來ノ如ク代理人ニ手形行爲ヲ爲ス權限アリト信シテ手形取引ヲ爲シタルトキハ其ノ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシモノト謂フコトヲ得ルモ、第三者カ代理權ヲ制限スル通知ヲ受ケ代理人ニ手形行爲ヲ爲ス權限ナキコトヲ知ルニ拘ハララス、代理人ト手形取引ヲ爲シタル場合ハ其ノ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシモノト謂

フコトヲ得サルカ如シ。
(B) 權限外ノ手形行爲ノ效力 (1) 代理人カ權限ヲ超エテ手形行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ、其ノ相手方カ代理人ニ手形行爲ヲ爲スヘキ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ本人ニ於テ手形上ノ義務ヲ負擔スヘク、代理人ハ手形上ノ義務ヲ負フコトナキハ前項ニ説明シタル如クナルモ、然ラサル場合ニ於テハ代理人ハ責任ヲ負ハサル可カラス(2) 而シテ其ノ責任ハ無權代理人ノ手形行爲ノ效力ト同一ニシテ、權限ヲ超越シタル手形行爲ニ付キ代理人ハ自ら其ノ手形ニ因リ義務ヲ負擔スヘク、代理人カ手形上ノ義務ヲ履行シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有スルコトモ、亦タ無權代理人ノ手形行爲ノ效力ト異ナルコトナシ、故ニ重複ヲ避クル爲メ其ノ説明ヲ省略ス、詳細ハ本條「第三(B)代理權ナキ者ノ手形行爲ノ效力」ノ説明ヲ參看スヘシ。

第五 雙方代理ノ手形行爲ノ意義及ヒ其ノ效力 (1) 茲ニ雙方代理ノ手形行爲トハ代理人カ手形行爲ヲ爲スニ當リ其ノ相手方ヲ代理シ又ハ手形取引ノ當事者雙方ヲ代理シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ謂フ、換言スレハ同一ノ手形行爲ニ付キ其ノ相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者雙方ノ代理人ト爲ルコトヲ指ス、例之ハ合名會社ノ代表社員甲カ會社ヲ振出人ト爲シ自己ヲ受取人トシテ爲替手形ヲ振出シ又タ甲カ振出人乙ノ代理人トシテ振出行爲ヲ爲スト共ニ受取人丙ノ代理人トシテ手形ノ交付ヲ受クルカ如シ(2) 而シテ前述ノ手形行爲ハ何レモ民法第百八條ノ規定ニ反スルカ故ニ其ノ手形行爲ヲ當然無効ト爲スヘキカ、又ハ手形行爲ハ當然無効ニ非スシテ本人ニ於テ之ヲ追認スルコト得ヲ得ルモノト爲スヘキカ、民法第百八條ノ規定ヲ公益規定ト解スルトキハ當然無効說ヲ採ル可ク、同條ノ規定ヲ相手方ノ利益ヲ保護スル爲ニ代理權ヲ制限シタルモノト解スルトキハ追認說ヲ採ラサル可ラス、大審院判例ハ明治三十七年五月十二日ノ判決以來大正七年ニ至ル迄久シク民法第百八條ヲ公益規定ト解シ、

同條ニ反スル行爲ハ全然無効ニシテ取消シ得ヘキモノニ非スト爲セルコトハ左記手形ニ關スル判例ニ徴シテ之ヲ窺ヒ知ルコトヲ得。

◎(判例一三七) 民法第百八條ハ公益規定ニシテ之ニ違反スルトキハ本人間ニ於テ何等ノ效力ヲ生セス 仍テ按スルニ竹岡善三郎ノ振出ニ係ル二通ノ約束手形ニ付キ本多竹次郎カ一面ニ於テハ手形所持人トシテ西ヶ谷深ニ對スル第一裏書ヲ爲シ、他面ニ於テハ被裏書人タル西ヶ谷深ノ代理人ト爲リテ手形ヲ取得シタルコト原院ニ確定セル事實ナリ果シテ然ラハ竹次郎ハ同一法律行爲ニ付テ相手方ノ代理人ト爲リタルモノニシテ民法第百八條ノ規定ニ違背スルモノナルヲ以テ、竹次郎ト深トノ間ハ何等ノ效力ナキモノト爲ササル可ラス、蓋シ民法第百八條ハ公益規定ニシテ之ニ違背スルトキハ本人間ニ何等ノ效力ヲ生セサルコト本院ノ判例(明治四十三年(オ)第一三號、同年二月十日言渡)トスル所ナレハナリ、然ルニ原院カ民法第百八條ハ推定的意思ニ根據スル代理權ノ制限ニ過キサルカ故ニ、特ニ委任アル場合ハ同條ノ適用ナキ旨判示シ、右ノ第一裏書ヲ有效ト判示シタルハ法則ヲ適用セサル不法アルモノト謂ハサルヲ得ス云々(大正四年十二月二十八日、大審院第二民事部判決、四年(オ)第三五五號)

然ルニ大正八年十二月二十六日ノ判決ニ於テハ從來採リ來リタル無効說ヲ捨テ判例ヲ變更シテ曰ク。

◎(判例一三八) 民法第百八條ノ規定ハ本人ノ利益保護ノ爲メニ代理權ヲ制限シタルモノナリ 民法第百八條ハ代理人カ代理行爲ニ付キ自ら相手方ト爲リ、又ハ相手方ノ代理人ト爲ルコトニ依リ害セラルヘキ虞アル本人ノ利益保護ノ爲メニ代理權ヲ制限シタルモノナレハ本人ノ許諾シタル場合ニ於テハ代理人ハ自ら相手方ト爲リ、又ハ相手方ノ代理人ト爲リテ爲シタル行爲モ有權代理行爲トシテ有效ナルハ勿論、本人ノ許諾ナクシテ爲シタル場合ト雖モ、其ノ行爲ハ絕對ニ無効ナルモノニアラス、無權代理行爲トシテ本人ノ追認ニ因リ其ノ效力ヲ生スルモノトス(大正八年十二月二十六日、大審院判決)

ト爲シ更ニ大正十二年五月二十四日ノ判決ニ於テハ

◎(判例一三九) 同上 民法第百八條ハ何人ト雖モ同一ノ法律行爲ニ付キ其ノ相手方ノ代理人ト爲ルコトヲ得サル旨ヲ規定スレトモ、其ノ規定ハ一方ノ當事者カ相手方ノ代理人ト爲ルコトニ因リテ、相手方ニ損害ヲ及ボサンコトヲ虞

本論 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 (第八條)

レ相手方ノ利益ヲ保護スルカ爲メニ代理權ヲ制限シタル趣旨ナリト解シ得ルヲ以テ、其ノ代理人ノ爲シタル法律行爲ハ無權代理人ノ行爲ニ外ナラス、從テ其ノ行爲ハ當然無効ナルニ非スシテ本人ノ追認ニ因リ效力ヲ生シ得ヘキモノトス (大正十二年五月二十四日、大審院判決)

爾來該判例ヲ維持シツツアリ、民法第八條ノ規定ハ推定的意思ニ根據スル代理權ノ制限ニ過キサルモノニシテ、公益規定ニアラスト解スルヲ以テ變更後ノ判例ヲ相當トス (3) 雙方代理ニ依ル手形行爲ヲ無効ナリトスルモ亦之ヲ取消シ得ヘキモノト解スルモ、其ノ無効又ハ取消ハ他ノ手形權利者又ハ義務者ニ對シテ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス、蓋シ手形行爲ハ各々獨立性ヲ有シ或ル手形行爲ノ無効又ハ取消ハ他ノ手形行爲ニ影響セサルヲ原則トス、而シテ其ノ無効又ハ取消ハ代理人ト本人又ハ當事者雙方ニ對シテノミ存在スルモノナルヲ以テ、其ノ以外ノ手形權利者又ハ義務者ニ對シテハ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス (判例二七參照) 左記判例亦同ナリ。

◎ (判例一四〇) 手形行爲力當事者間ニ其ノ效力ヲ生セサル場合ト雖モ有效ナル手形トシテ其ノ成立ヲ書セラルルコトナシ 依テ按スルニ爲替手形ハ商法第四百四十五條所定ノ要件ヲ具備スルトキハ該手形ノ振出行爲力意思ノ欠缺又ハ代理權欠缺等ノ事由ニ因リ、當事者間ニ其ノ效力ヲ生セサル場合ト雖モ有效ナル手形トシテ其ノ成立ヲ書セラルルコトナク、引受、裏書等ノ所謂從屬的手形行爲ノ行ハレ得ヘキ基本手形アリ得ルモノニシテ商法第四百三十三條第一項ノ規定ハ右原則ヲ示シテ餘リアルモノトス、原審ノ確定シタル事實ニ依レハ本件甲第一號置ノ手形ニハ爲替手形タル要件ニ缺クル所ナク、唯受取人保弁登久カ振出人ノ代理人トシテ之ヲ署名シタルニ因リ、民法第八條ノ規定ニ違反シタルニ過キサルモノトス、從テ本件手形ノ振出ニ因リ振出人カ手形上ノ責任ヲ負ハス、又受取人トシテ手形上ノ權利ヲ取得セストスルモ、其ノ振出ニ係ル爲替手形ハ有效ナル手形トシテ其ノ成立ヲ保ツテ以テ、該手形ニ裏書署名ヲ爲シタル被上告人先代登久ハ裏書人トシテノ手形上ノ責任ヲ負擔スヘキモノトス、然ルニ原審カ本件手形ヲ形式上無効ナリト判定シ、之レニ基キ上告人ノ請求ヲ棄却スル旨ノ判決ヲ爲シタルハ、手形ノ成立ト手形行爲ノ效力トナ

混同視シタル誤解アルモノニシテ論旨ハ其ノ理由アリ (昭和三年二月九日、大審院第一民事部判決、二年(オ)第一〇四八號)

第九條 振出人ハ引受及支拂ヲ擔保ス

2 振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支拂ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

本條ニ於テハ爲替手形ノ振出ニ依リテ生スヘキ當然ノ效力ヲ規定セリ、即チ振出人ハ引受及ヒ支拂ヲ擔保スヘキコトヲ原則ト爲シ、引受ノ擔保ノミハ之ヲ免カルルコトヲ得ルモ、支拂ノ擔保ハ之ヲ免カルルコトヲ得サル旨ヲ定メタリ。

第一 引受擔保

(1) 引受擔保トハ振出人カ所持人ニ對シ支拂人ノ爲替手形ノ引受アルヘキコトヲ擔保スルト共ニ支拂人ノ引受拒絶アリタルトキハ所持人ノ請求ニ應ジ手形金額、利息及費用ヲ支拂フヘキ義務ヲ謂フ (第四十三條及ヒ第四十八條ノ說明參看) 而シテ振出人ノ引受擔保ハ振出人カ爲替手形ヲ振出スニ依リテ當然發生スヘキ義務ナルニ因リ特ニ之ヲ規定スル必要ナキカ如シト雖モ、改正手形法ニ於テハ振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載シ得ルコトヲ認メタルニ因リ之カ規定ヲ必要ト爲ス、舊手形法即チ商法ニ於テハ引受拒絶アリタルトキハ所持人ハ自己ノ前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲セシモ、改正手形法ハ擔保請求ノ制度ヲ認メスシテ引受ノ拒絶アリタルトキハ滿期前ト雖モ、所持人ハ直チニ手形金額、利息及ヒ費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲シタリ、蓋シ支拂人カ引受ヲ拒絶シタルトキハ滿期迄ニ單純ナル引受ヲ爲スコト無カルヘク、又滿期ニ至リ支拂ヲ爲スコトモ無カルヘキニ依リ、引受拒絶アリタルトキハ所持人ヲ

シテ直ニ遡求權ヲ行使セシムルヲ至當ト爲シタルニ因ル(2)爲替手形ノ所持人又ハ單ナル占有者ハ滿期ニ至ル迄引受ノ爲メ支拂人ニ其ノ住所ニ於テ手形ヲ呈示スルコトヲ得ルヲ原則トス(第二十一條ノ說明參看)振出人カ爲替手形ニ引受ノ爲メ呈示スヘキ時期ヲ記載シタルトキハ其ノ時期ニ於テ呈示ヲ爲スコトヲ要ス(第二十二條ノ說明參看)又タ一覽後定期拂ノ爲替手形ハ其ノ日附ヨリ一年內又ハ振出人若ハ裏書人ノ定メタル期間內ニ呈示スルコトヲ要ス(第二十三條ノ說明參看)而シテ支拂人カ手形金額ノ全部又ハ一部ノ引受ヲ拒絕シタルトキハ所持人ハ法定ノ期間內ニ引受拒絕證書ヲ作成セシメ(拒絕證書作成ノ免除アリタルトキハ之ヲ要セス)一定ノ期間內ニ裏書人及ヒ振出人ニ對シ引受拒絕アリタルコトヲ通知スルト共ニ、手形金額、利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得(第四十三條乃至第四十八條ノ說明參看)而シテ此ノ請求ヲ受ケタル振出人ハ所持人ノ遡求權ノ行使ニ應ジテ支拂ヲ爲スヘキ責任ヲ有ス、是レ即チ振出人ノ引受擔保ナリ(3)振出人ハ爲替手形ノ振出ニ因リテ其ノ引受ヲ擔保スヘキコトハ前述ノ如クナレトモ、此ノ義務ハ振出人ノ支拂擔保ト異ナリ絕對的ノモノニ非サルヲ以テ、振出人ハ引受ヲ擔保セサルコトヲ得、然レトモ之ヲ免カルルニハ手形ニ引受ヲ擔保セサル旨ヲ記載スヘク、此ノ記載ヲ爲サスハ引受ヲ擔保ヲ免カルルコトヲ得ス、蓋シ爲替手形ノ振出人ハ支拂擔保ハ絕對ニ之ヲ免カルルコト能ハサルニ因リ、引受擔保ヲ免カルシムルモ所持人及ヒ其ノ裏書人ノ手形上ノ權利ヲ害スルコトナキカ故ニ手形ニ其ノ免脱ノ文言ヲ記載シテ引受ヲ擔保セサルコトヲ得ルモノト爲シタリ(4)振出人ノ引受擔保ハ振出人カ所持人及ヒ其ノ裏書人ノ遡求權ニ應スヘキ義務ナルヲ以テ振出行爲ノ有效ナルコトヲ前提トスル義務ナリ、從テ振出行爲カ無効ナルカ又ハ取消アリタルトキハ引受ヲ擔保セサルコトハ言ヲ俟タス、然レトモ振出行爲ノ無効又ハ取消ハ他ノ手形權利者及ヒ義務者ニ對シテ何等ノ影響ヲ及ボササルコトハ前ニ屢々説明シタルカ如シ(5)

(5)所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付キ其ノ引受ヲ呈示ヲ爲サスシテ引受呈示期間ヲ經過シタルトキハ所持人ハ振出人ニ對シ手形上ノ權利ヲ失フヘキヲ以テ、此ノ場合ニ於テハ振出人ハ引受及ヒ支拂ヲ擔保セス(第五十三條ノ說明參看)又タ所持人カ支拂人ノ引受拒絕アリタルニ拘ハラズ、法定ノ期間內ニ引受拒絕證書ヲ作ラシメ引受ノ拒絕アリタルコトヲ證明セサルトキハ振出人ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フカ故ニ、此ノ場合ニ於テモ振出人ハ引受及ヒ支拂ヲ擔保セサルニ至ルヘシ(第四十四條及ヒ第五十三條ノ說明參看)。

第二 支拂擔保 (1)支拂擔保トハ振出人カ所持人ニ對シ滿期ニ支拂人ノ手形金額ノ支拂アルヘキコトヲ擔保スルト同時ニ其ノ支拂拒絕アリタルトキ又ハ滿期前ト雖モ(一)引受拒絕アリタル場合(二)支拂人又ハ引受人ノ破産ノ場合、其ノ支拂停止ノ場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行力効ヲ奏セザル場合(三)引受ノ爲メ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ノ破産ノ場合(第四十三條ノ說明參看)ニ於テ所持人ノ遡求ニ應ジテ手形金額、利息及ヒ費用ヲ支拂フヘキ義務ヲ謂フ(2)振出人ノ支拂擔保ハ爲替手形ノ振出ニ依リテ當然發生スヘキ義務ナルコトハ引受擔保ト同一ナレトモ、支拂擔保ハ引受擔保ノ如ク相對的ノ義務ニアラスシテ絕對的ノ義務ナリ、故ニ振出人ハ引受ヲ擔保セサルコトヲ得ルモ、支拂ノ擔保ハ之ヲ免カルルコトヲ得ス、即チ引受ヲ擔保セサルコトハ爲替手形ノ振出ノ性質ニ反セサルモ、支拂ヲ擔保セサルコトハ振出ノ性質ト相容レサル所ナリ、從テ振出人カ手形ニ支拂ヲ擔保セサル旨ヲ記載シタルトキハ其ノ手形ハ振出ノ性質ニ反スルヲ以テ純理上無効ト爲ササル可カラス、然レトモ改正手形法ニ於テハ手形取引ノ安全ヲ圖ル爲メ其ノ手形ヲ有效ナルモノト爲シ、支拂ヲ擔保セサル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セサルモノト看做セリ(3)所持人ハ一覽拂ノ爲替手形ニ付テハ其ノ日附ヨリ一年內又ハ振出人若ハ裏書人ノ指定シタル期間內ニ支拂ノ爲メニ支拂人ニ呈示スルコトヲ要ス(第三十四條ノ說明參看)又タ確定

日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ支拂ヲ爲スヘキ日又ハ之ニ次ク二取引日内ニ手形ヲ支拂ノ爲メ支拂人ニ呈示スルコトヲ要ス(第三十八條ノ說明參看)而シテ此ノ場合ニ支拂人カ支拂ヲ拒絕シタルトキハ法定ノ期間内ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ、一定ノ期間内ニ振出人ニ對シ支拂拒絕アリタル旨ヲ通知スルト共ニ、手形金額、利息及ヒ費用ヲ支拂フヘキコトヲ請求スルコトヲ得ルハ勿論、滿期前ト雖モ本項(一)(二)乃至(三)ノ場合ニ於テハ振出人ニ對シ遡求權ヲ行使スル爲スコトヲ得(第四十三條乃至第四十八條ノ說明參看)此ノ遡求權ノ行使ヲ受ケタル振出人ハ手形ノ支拂ヲ爲スヘキ責任ヲ負フ、是レ即チ振出人ノ支拂擔保義務ナリ(4)支拂ノ擔保モ亦タ引受ノ擔保ト同シク手形ノ振出行爲カ有效ナル場合ニ於テノミ發生スヘキ義務ナリ、故ニ振出行爲カ無効ナルトキ又ハ取消アリタルトキハ振出人ハ此ノ義務ヲ負フコトナシ、然レトモ振出行爲ノ無効又ハ取消ハ他ノ手形權利者及ヒ義務者ニ對シ何等ノ影響ヲ及ボササルコトモ亦タ引受ノ擔保ト同一ナリ(5)所持人カ一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ノ呈示期間内ニ其ノ呈示ヲ爲ササリシトキハ振出人ニ對シ手形上ノ權利ヲ失フヲ以テ、此ノ場合ニ於テハ振出人ハ支拂ノ擔保ヲ免カル(第五十三條ノ說明參看)又タ所持人ハ支拂人カ支拂ヲ拒絕シタルニ拘ハラズ、適法ノ期間内ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ之ヲ證明セサルトキハ振出人ニ對スル遡求權ヲ失フヘキニ因リ、振出人ハ此ノ場合ニ於テモ支拂ノ擔保ヲ免カル(第四十四條及ヒ第五十三條ノ說明參看)所持人ノ振出人ニ對スル請求權ハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絕證書ノ日附ヨリ、又タ無費用償還文句アル場合ニ於テハ滿期ノ日ヨリ一年ヲ以テ時効ニ罹リ何レモ其ノ請求權消滅スルカ故ニ、振出人ハ時効ノ完成ニ因リテ支拂擔保ヲ免カルコトヲ得ルハ勿論ナリ(第七十條ノ說明參看)。

第十條 未完成ニテ振出シタル爲替手形ニ豫メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合

ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ爲替手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

本條ニ於テハ所謂白地手形ナルモノヲ認ムルト同時ニ當事者ノ合意ト異ナル補充權ノ濫用ハ之ヲ以テ善意ノ所持人ニ對抗スルコトヲ得サル旨ヲ定メタリ、本條ノ規定ハ之ヲ約束手形ニ準用ス(第七十七條ノ說明參看)左ニ項ヲ分チテ説明ス。

第一 白地手形(未完成ニテ振出シタル爲替手形)ノ意義

(1)白地手形トハ振出人カ後日他人ヲシテ手形要件即チ第一條ニ規定スル爲替手形ニ記載スヘキ事項ノ全部又ハ一部ヲ補充セシムル意思ヲ以テ故ラニ之ヲ記載セサル紙片ニ署名シテ振出シタルモノヲ謂フ、例之ハ振出人カ他人ヲシテ補充セシムル意思ヲ以テ故ラニ手形金額又ハ支拂人等ヲ記載セシテ手形ヲ振出スカ如シ、而シテ振出人カ白地手形ヲ振出ストキハ之ヲ「白地振出」ト謂ヒ、裏書人カ之ニ署名シタルトキハ之ヲ「白地裏書」(註ニ裏書人ノ白地署名ヲ指シ無記名式裏書(白地式裏書)ニアラス)ト謂ヒ、引受人カ之ニ署名スルトキハ之ヲ「白地引受」ト謂ヒ、保證人カ之ニ署名シタルトキハ之ヲ「白地保證」ト謂フ(2)改正手形法ハ白地手形即チ未完成ニテ振出シタル爲替手形ニ付キ本條ノ規定ヲ設ケタルニ因リ、之ヲ認ムヘキヤ否ヤ又タ之ヲ認ムル根據如何ニ關シテハ議論ノ餘地ナシト雖モ、舊手形法即チ商法ニ於テハ明文ヲ以テ之ヲ認メサリシヲ以テ多少疑問ノ存シタル所ニシテ、學說及ヒ判例ハ之ヲ認メ唯タ之ヲ認ムル根據ニ於テ議論アリシニ過キス、大審院判例亦タ之ヲ積極ニ解シテ曰ク。

◎(判例一四二) 所謂白地手形ニ引受ノ署名ヲ爲シタルトキハ後日手形ノ要件完備スルトキハ其ノ内容ニ從ヒ引受ヲ爲シタルモノナリ 爲替手形ノ支拂人カ受取人ノ氏名又ハ商號ノ記載ナキ所謂白地手形ニ引受署名ヲ爲シテ手形所

本論 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 (第十條)

持人ニ交付シタル場合ニハ、該引受人ハ後日該受取人ノ氏名又ハ商號カ記入セラレテ手形ノ要件完備シタルトキ、該手形記載ノ内容ニ從ヒ手形債務ヲ負擔スル意思ヲ以テ引受テ爲シタルモノナレハ斯ル手形ノ所持人ハ後日引受人ヲシテ手形債務ヲ負擔セシムルニ必要ナル手形要件ヲ補充シ得ヘキ權利ヲ引受人ニ對シテモ之ヲ有スルモノト解スルヲ妥當トスヘク、而シテ斯ル白地手形ノ引受人ノ手形債務ハ要件補充セラレタルトキ初メテ成立スルニ至ルヘキハ勿論ナリト雖モ、該手形債務ノ内容ハ手形ノ記載ニ依リテ定マルモノナルヲ以テ、其ノ要件ノ補充カ滿期日經過後ニ爲サレタリトスルモ、猶ホ該手形記載ノ滿期日ニ於テ支拂ヲ爲スヘキ内容ヲ有スル手形債務ヲ負擔スルコト振出年月日及滿期日ヲ手形授受ノ年月日以前ニ週記シテ振出シタル約束手形振出人又ハ滿期日經過後ニ爲替手形ニ引受テ爲シタル引受人ノ手形債務ト異ナル所ナキモノナレハ該要件ヲ補充シテ手形ノ支拂ヲ求メタル場合ニハ引受人ハ手形債務ノ時効ニ因リテ消滅セサル間ハ何時ニテモ其ノ支拂請求ニ應ゼサルヘカラサルモノニシテ、引受人ノ債務ハ滿期日後三年ヲ經過シタルトキ時効ニ因リ消滅スルモノナルヲ以テ、滿期日後三年ヲ經過セサル間ニ爲シタル白地手形ノ補充ハ有效ナリト爲ササルヘカラス(大正九年十二月二十七日、大審院第二民事部判決、九年(オ)第六一號)

第二 白地手形(未完成ノ手形)ノ成立(有效)時期

(一)白地手形ハ前項ニ説明シタルカ如ク後日他人ヲシテ

手形要件ノ全部又ハ一部ヲ補充セシムル意思ヲ以テ、特ニ手形要件ヲ記載セサル紙片ニ署名シテ之ヲ交付スルモノナリ、然ラハ白地手形ノ署名者ノ行爲ハ何時成立スルカ、即チ其ノ手形行爲ハ何時有效ト爲ルカ、白地手形行爲ハ其ノ行爲ノ時ニ成立スルモノト解ス、何トナレハ署名者ハ手形行爲ヲ爲ス意思ヲ以テ將來手形ト爲ルヘキ紙面ニ署名シタルモノナレハナリ、故ニ手形行爲者ニ手形行爲ノ能力アリヤ否ヤ、又タ手形行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルヤ否ヤハ何レモ手形行爲ノ時期ニ依リテ之ヲ決スヘシ、左記判例亦タ同一ノ見解ヲ採リテ曰ク。

◎(判例一四二) 署名者ノ行爲ハ其ノ交付ノ當時既ニ完成シ有數ナルモノトス 手形上ノ債務ヲ負擔スル爲メニ紙面ニ署名シ他人ニ手形ノ要件ヲ補充セシムル意思ヲ以テ交付シタルトキハ、署名者ノ行爲ハ其ノ交付當時既ニ完成シ手形行爲トシテ有效ナルモノトス、從テ書面交付ノ後要件補充ノ當時ニ至ルマテノ間ニ於テ、署名者死亡シ又ハ無能

カト爲ル等ノ事故生スルモ原則トシテ其ノ署名ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ(明治四十年五月三十一日、大審院第二民事部判決、四〇年(オ)第七六號)

II(2)白地手形ハ前述ノ如ク手形行爲ノ當時ニ於テ成立スルモノナルヲ以テ、其ノ要件ノ補充ニ依リテ手形カ完成セサル以前ト雖モ、之ニ引受、裏書又ハ保證等ヲ爲スコトヲ得ヘク、而シテ手形要件ノ補充セラレタルトキハ其ノ補充ノ文言ニ從ヒ責任ヲ負フヘキコトハ白地手形ノ性質上當然ナリト爲ササル可カラス、此ノ點ニ關スル大審院判例ニ曰ク。

◎(判例一四三) 白地手形ノ振出要件具備シ手形成立スルトキハ引受ヲ爲シタル者ハ手形上ノ責任ヲ負ハサルヘカラス 依テ按スルニ、原審ハ被上告人ニ於テ訴外加藤清八ノ依頼ニ因リ、同人ノ金融ヲ圖ルカ爲メ同人ニ對シ手形金額ヲ最高限度五萬圓ト定メ、且右金額ノ記入並手形ノ使用ニ關シテハ豫メ被上告人ノ承諾ヲ受クヘキコトヲ約シ、引受テ爲ス意思ヲ以テ金額其ノ他ノ手形要件ヲ具備セサル本件爲替手形ノ引受欄ニ引受ノ署名ヲ爲シテ之ヲ交付シタル事實ヲ確定シタルモノナレハ被上告人ハ白地爲替手形ノ引受ヲ爲シタルモノト謂ハサルヘラス、從テ後日手形ノ振出要件具備シタル手形ノ成立スルニ至リタルトキ、該手形ノ所持人ニ對シ引受人トシテ手形上ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルモノニシテ、縱令其ノ交付ヲ受ケタル加藤清八ニ於テ振出人トシテ之ニ五萬圓以上ノ金額ヲ記入シ且之ヲ使用スルコトヲ許諾シタル目的以外ニ使用シタルトスルモ、爲ニ手形上所謂手形ノ偽造ナルモノ生スルコトナキモノナレハ(本院昭和二年(オ)第九五七號、同年二月六日判決參照)該手形ノ善意ノ取得者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ免ルヘキモノニ非サルニ、原審ハ前示被上告人ノ引受署名シタル手形ハ大正十二年二月限リ受米資金ノ調達以外ニ之ヲ使用セサルヘク、若シ他ニ於テ該金ヲ調達シ得タルトキハ全然之ヲ使用スルヲ得スシテ、引受ハ其ノ效力ヲ失フヘキ旨解除條件ヲ附シタルモノナルニ訴外加藤清八ハ他ヨリ右受米資金ノ調達ヲ得タルモノナルヲ以テ、之ニ依リ解除條件成就シ引受ハ其ノ效力ヲ失ヒ、清八ハ手形トシテ之ヲ使用スル權限ナキニ之ヲ利用シテ金額ヲ十五萬圓ト記入シ、他ノ要件ヲ具備セシメテ之ヲ上告人ニ交付シタルモノナレハ清八ニ於テ被上告人ノ手形ノ引受ヲ偽造シタルモノト說示シテ被上告人ハ本件手形ノ引受ニ付手形上ノ責任ヲ負フヘキニ非スト列示シ、以テ上告人ノ請求ヲ棄却シタルハ手形法上本論 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 (第十條) 一四七

偽造ナラサル本件手形ヲ偽造手形ナリト前提シ、之ニ基キ被上告人ノ手形上ノ責任ヲ否定シタル不法アルモノナルト共ニ、前記確定シタル事項關係ノ下ニハ宜シク上告人カ手形ノ取得ニ際シ、白地手形ノ補充並ニ手形ノ使用カ訴外加藤清八ニ依リテ不法ニ爲サレタルコトヲ知リタルヤ否ヤヲ判定スルコトヲ要スルニ事茲ニ出テサリシ原判決ハ審理不盡ノ不法アルモノトス(昭和三年七月十六日、大審院第一民事部判決、三年(オ)第三九七號)

第三 白地手形(未完成ノ手形)ノ補充(完成)

白地手形ハ手形要件ノ何レカラ缺ク證券ナルニ因リ、之ヲ

手形トシテ成立セシムルニハ其ノ要件ヲ補充スルコトヲ要ス、即チ要件ノ完成ニ依リテ始メテ手形上ノ權利ヲ成立セシム、而シテ補充ニ關シ説明ヲ必要トスル事項ハ(A)補充權ノ性質、(B)補充權ノ變更、(C)補充ノ時期、(D)補充權ノ濫用(豫メ爲シタル合意ト異ナル補充)ノ四點ナリ、左ニ項ヲ分チテ説明スヘシ。

(A) 補充權ノ性質

(1)本條ニ於テ「豫メ爲シタル合意ト異ナル補充云々」ト規定スルヲ以テ補充權ハ振出人ト受取人トノ間ニ於ケル一種ノ契約ニ因リテ發生スルモノニシテ、其ノ權利ノ内容ハ手形ノ振出ニ必要ナル

事項ヲ振出人ノ指定又ハ其ノ通常有スヘキ意思ニ從ヒ補充スヘク、受取人ハ契約ニ因リテ最初ニ補充權ヲ取得シ、以後ノ所持人ハ手形ヲ取得スルト同時ニ之ヲ取得スルモノト解スルコトヲ得、故ニ白地手形ノ裏書ヲ爲スニ當リ裏書人カ被裏書人タルヘキ者ニ對シ、補充事項ニ付何等ノ指定ヲ爲ササルトキハ其ノ補充權ハ振出人指定ノ内容ヲ有スル状態ニ於テ被裏書人カ取得スルモノト解ス(2)從テ白地手形ノ補充權ハ手形ニ附隨シテ轉讓セラレ、白地手形ヲ取得シタル者カ同時ニ之ヲ取得シ、其ノ内容ハ白地手形ニ要件ヲ記載シテ完全ナル手形ト爲シテ手形上ノ權利義務ヲ發生セシムル權利ナリト謂フコトヲ得。

(B) 補充權ノ變更

所持人カ白地手形ニ要件ヲ補充シテ完全ナル手形ト爲シ之ヲ裏書讓渡シタル後ニ於テハ裏書人ハ其ノ補充ヲ變更スルコトヲ得ルヤ否ヤ、此ノ問題ニ對シテハ其ノ場合ノ如何ニ依リテ之ヲ否定シ或ハ

之ヲ肯定スヘク一概ニ論斷スルコトヲ得ス、即チ(一)所持人甲ハ白地手形ヲ補充シ之ヲ乙ニ裏書スルニ當リ、以後其ノ手形ノ記載ヲ變更セサルコトヲ特約シタルトキ、又ハ乙カ其ノ手形ニ引受又ハ保證等ヲ爲サシメ手形上ノ權利ヲ取得シタルトキ、又ハ乙カ手形ヲ丙ニ裏書シ丙カ引受又ハ保證等ヲ受ケ手形上ノ權利ヲ取得シタルトキハ最早甲ハ其ノ手形ノ記載ヲ變更スルコトヲ得サルモノト解ス、蓋シ此ノ場合ニ於テ甲ノ補充權ノ變更ヲ認メ手形ノ記載ヲ變更スルコトヲ得ルモノトスルトキハ乙又ハ丙ノ意思ニ反シ其ノ權利ヲ侵害スルヲ以テナリ、(二)然レトモ前例ノ場合ト反對ナルトキ即チ乙又ハ丙カ其ノ手形上ノ權利ヲ取得セサル間ニ於テハ甲ハ補充權ヲ變更セサル特約ヲ爲ササル限り、手形ノ記載ヲ變更スルコトヲ得ルモノト解ス、何トナレハ此ノ場合ニ於テ甲カ手形ノ記載ヲ變更スルモ乙又ハ丙ノ手形上ノ權利ヲ侵害スル虞レナケレハナリ、大審院亦タ同一趣旨ノ判決ヲ爲シテ曰ク。

◎(判例一四四)

手形ヲ相手方ニ交付後ト雖モ相手方カ權利ヲ取得セサルトキハ其ノ補充ヲ變更スルコトヲ得

テ按スルニ凡ソ金額ノミテ記載シタル白地手形ニ裏書ヲ得テ、他ノ手形要件全部ヲ補充スル權利ヲ有スル者カ一旦其ノ全部ヲ補充シタル後ト雖モ、殊ニ確定的ニ其ノ手形ノ割引ヲ受クル意思ヲ以テ之ヲ其ノ割引ヲ爲サントスル相手方ニ交付シタル後ト雖モ、未タ相手方其ノ他ノ者カ其ノ手形ノ權利ヲ取得セサル間ニ於テハ裏書人カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ノ外、右補充權者ニ於テ其ノ補充ヲ變更シ得ルモノト解スル相當トス、然ルニ原判決ノ說示スル所ニ依レハ金額ノミテ記載シテ他ハ空白ナル本件手形ニ被上告人ノ裏書ヲ得タル訴外有澤寅市ハ他ノ手形要件全部ヲ補充スル權利ヲ有シ、大正十四年三月二十五日頃マテ一旦其ノ全部ノ補充ヲ爲シ、支拂期日ヲ大正十四年五月十日ト記載シ割引ヲ受クル爲メ、同年五月四日以後ニ於テ仲介人ノ手ヲ經テ該手形ヲ控訴人(上告人)ニ交付シ置キタル處、其ノ後同月十三日右仲介人カ之ヲ有澤寅市方ニ持参シタル際、有澤寅市ハ右支拂期日ノ記載ヲ大正十四年五月三十一日ト變更シタルコト明ナリト雖モ、右變更以前ニ於テ上告人其ノ他ノ者カ本件手形上ノ權利ヲ取得シタリヤ否ヤ明ナラ

本論 爲替手形

爲替手形ノ振出及方式

(第十條)

ス、殊ニ原判示ニ所謂確定のニ手形割引ノ爲メ行使スル意思ヲ以テ、有深實市カ本件手形ヲ仲介人ノ手ヲ經テ上告人ニ交付シタル時期ハ右變更以前同月四日以後ナルモ其ノ間何レノ日ナルヤ明ナラス、若シ同月十日以後ニシテ而モ支拂期日ノ記載ヲ變更シ得サルモノトセハ支拂期日ノ既ニ到來セル手形ノ割引ヲ受クル爲メ交付シタルコトトナリテ異常ノ事ニ屬スルノミナラス、原判決ノ既示ニハ控訴人ニ交付シ置キタル處ナル文詞ヲ用ヒタルヲ見レハ原判決ハ寧ろ右變更以前ニ於テハ上告人其ノ他ノ者カ未ダ本件手形上ノ權利ヲ取得セサルコトヲ認メタルモノノ如シ、然ルニ補充權者ハ他人カ未ダ手形上ノ權利ヲ取得セサル間ニ於テハ裏書人カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ノ外、既ニ爲シタル補充權ヲ變更シ得ルコト前既示ノ如クナルカ故ニ、若シ果シテ本件手形ノ支拂期日ノ記載變更前上告人其ノ他ノ者カ未ダ手形上ノ權利ヲ取得セス、又裏書人カ反對ノ意思ヲ表示セザリシモノナリトセハ右ノ變更ハ變更ニ非スシテ訴外有深實市カ正當ニ爲シタルモノト謂ハサルヘカラス、サレハ原判決カ右ノ變更前既ニ上告人其ノ他ノ者カ手形上ノ權利ヲ取得シタルモノナルヤ否ヤ及ヒ裏書人カ反對ノ意思ヲ表示シタルモノナリヤ否ヤヲ確定スルコトナクシテ、右ノ變更ヲ以テ變更ナリトシ變更前ノ支拂期日又ハ其ノ後ノ二月内ニ手形ノ呈示及ヒ支拂拒絕證書作成ノ事實ナキノ故ヲ以テ、本件手形金ノ償還請求權ハ既ニ消滅シタルモノト斷シ、其ノ償還及ヒ利息ノ支拂ヲ求メタル上告人ノ本訴請求權ヲ排斥シタルハ理由不備ノ違法アルモノニシテ論旨理由アリ(昭和三年十月十九日、大審院第二民事部判決、三年(オ)第四五〇號)

(C) 補充ノ時期 (1) 白地手形ハ要件ヲ缺ク證券ナルニ因リ之ヲ補充シテ完全ナル手形ト爲スニアラサレハ手形上ノ權利義務ノ發生セサルコト勿論ナリ、然ラハ白地手形ノ所持人ハ何時マテ之ヲ補充スルコトヲ得ルカ、即チ何時マテ之ヲ補充スルトキハ手形上ノ權利ヲ失ハサルカ、換言スレハ白地手形ノ補充ノ時期如何トノ問題ヲ生スヘシ、此ノ問題ハ引受人ニ對スル場合ト振出人又ハ裏書人ニ對スル場合トニ區別シテ説明スルコトヲ要ス、蓋シ引受人ハ手形上ノ主タル債務者ナレトモ振出人及ヒ裏書人ハ手形ノ擔保義務者ナレハナリ(2) 引受人ハ爲替手形ノ主タル債務者トシテ手形上ノ義務ヲ負フモノナルニ因リ、手形債務カ時効ニ罹リ消滅セサル限り、

何時ニテモ所持人ノ請求ニ應ジテ手形金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フ、而シテ引受人ニ對スル手形上ノ請求權ハ滿期ノ日ヨリ三年ヲ經過スルトキハ時効ニ罹リ消滅スルカ故ニ(第七十條ノ說明參看) 所持人ハ滿期ノ日ヨリ三年内ハ何時ニテモ之ヲ補充シ以テ手形上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノト解セサル可カラス、判例亦タ同一ノ見解ヲ採ル(判例四一參看) 尙其ノ要旨ヲ示シタル判例ヲ舉ケレハ左ノ如シ。

◎(判例一四五) 白地手形ハ時効ノ期間内何時ニテモ之ヲ補充スルコトヲ得 然レトモ所謂白地手形ノ補充ハ主タル義務者タル引受人トノ關係ニ於テハ時効期間内(滿期日以後三年)ハ何時ニテモ之ヲ爲シ得ルモノナルコト既ニ當院ノ判例トスル所ナリ(大正九年(オ)第六百一十一號、同年十二月二十七日判決參照) (註一判例四一ナリ)(昭和二年七月六日、大審院第三民事部判決、二年(オ)第一號)

II (3) 白地手形ノ所持人カ裏書人又ハ振出人ニ對シ手形上ノ權利ヲ行使スルニハ何時マテ其ノ補充ヲ爲スコトヲ要スルカ、爲替手形法ノ解釋トシテハ滿期日以前又ハ遅クモ滿期日後二日ノ期間内ニ爲スヘキモノト解セシコトハ左記判例ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得。

◎(判例一四六) 補充ハ滿期日以前又ハ遅クモ其ノ後二日ノ期間内ニ爲サルヘキモノトスルヲ當然トス 按スルニ本訴爲替手形ハ大正八年二月八日ヲ滿期日トシ受取人ノ氏名ヲ記入セサル儘振出サレタルモノニシテ、振出人タル上告人ニ於テ受取人又ハ其ノ後ノ所持人カ支拂ヲ請求スル迄ニ補充スルトキハ初メヨリ補充アリタル手形ニ署名シタルト同様ノ責任ヲ負擔スヘキ意思ヲ以テ振出シタルコト原院ノ確定スル所ナリ、果シテ然ラハ其ノ補充ハ滿期日以前又ハ遅クモ其ノ後二日ノ期間内ニ爲サルヘキモノトスルヲ當然トス、蓋シ斯カル手形ハ其ノ補充ヲ爲シテ始メテ權利關係ヲ發生セシムルモノナルヲ以テ、若シ滿期日後ニ於テ補充スルヲ得ルモノトセハ未ダ權利關係ノ發生セサルニ先ダテ辨濟期ノ到來スルカ如キ不條理ニ陷ルノミナラス、手形所持人ハ滿期日又ハ其ノ後二日ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲ノ呈示ヲ爲ササルトキハ振出人ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フモノナレハ其ノ期間經過後ニ於テ補充ノ上呈示ヲ爲スモ手形上ノ權利ヲ得ヘキ謂レナク、從テ振出人ニ手形上ノ責任アルヘキニ非サルカ故ニ、振出人カ手形上ノ責任ヲ負擔本論 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 (第十條) 一五一

スル意思ヲ以テ振出シタル以上ハ滿期日以前又ハ遅クモ其ノ後二日ノ期間内ニ補充ノ上支拂ヲ求ムル爲メノ呈示アルヘキコトヲ豫期シタルモノト爲ササル可カラサレハナリ、然ルニ原院カ前示ノ如ク振出人タル上告人カ受取人又ハ其ノ後ノ所持人ニ於テ補充スルトキハ手形上ノ責任ヲ負擔スル意思ヲ以テ振出シタルコトヲ認メナカラ、何時ニテモ其ノ補充ヲ爲スコトヲ得ルモノトシ、所持人タル被上告人カ大正八年五月二十五日ニ至リ受取人ノ氏名ヲ補充シ、同年六月六日支拂ヲ求ムル爲メノ呈示ヲ爲シタルニヨリ、振出人ニ手形上ノ責任アル旨判定シタルハ條理ニ反スルノミナラス、商法第四百八十七條ニ違背セル不法アルモノトス、尤モ被上告人ハ償還請求ヲ爲スニ非スシテ手形金ノ支拂ヲ請求スルモノナレハ原院カ被上告人ノ請求ヲ正當ナリトシ、上告人ニ對シ手形金額及ヒ呈示ノ翌日ヨリ支拂濟ニ至ル迄年六分ノ損害金支拂ヲ命ジタルハ上告人カ引受人タルニ由ルモノナルヘケンモ、振出人ニ責任アル旨判定シタルニ止マリ、上告人ニ引受人トシテ其ノ責任アル所以ニ基キ何等列示スル所ナキテ以テ、原判決ハ理由不備ノ不法アルモノニシテ破毀ヲ免レス(大正九年四月五日、大審院第二民事部判決、九年(オ)第五六號)

改正手形法ニ於ケル白地手形ノ所持人ノ裏書人又ハ振出人ニ對スル手形上ノ權利行使ニモ前判例ニ說示スルカ如ク滿期以前又ハ遅クモ其ノ後二日ノ期間内ニ之ヲ補充スルヲ以テ足ル乎、改正手形法第五十三條ニ於テハ次ノ期間カ經過シタルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ手形上ノ權利ヲ失フヘキコトヲ定ム、即チ(一)一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ呈示期間ヲ經過シタルトキ、(二)引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成期間ヲ經過シタルトキ、(三)無費用償還文句アル場合ニ於ケル支拂ノ爲ノ呈示期間ヲ經過シタルトキ、(四)振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲ササルトキ(但シ此ノ場合ハ其ノ記載ノ文言ニ依リ振出人カ引受ノ擔保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知り得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス)ハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス、故ニ改正手形法ノ解釋トシテハ前述ノ期間内ニ其ノ補充ヲ爲スコトヲ要スルモノト解セサル可カラス。

(D) 補充權ノ濫用(豫メ爲シタル合意ト異ナル補充ヲ爲シタル場合) (一)白地手形ハ之ヲ如何ニシテ補充

シ完全ナル手形ト爲スヘキカ、換言スレハ白地手形ノ補充權ノ範圍如何ハ豫メ手形授受者ノ契約ニ依リ定メラルルモノナリ、然ラハ其ノ合意ト異ナル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ルカ、本條ハ善意ノ所持人ニ對シテハ其ノ違反ヲ對抗スルコトヲ得サルモ、惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ手形ヲ取得シタル者ニ對シテハ其ノ違反ヲ對抗シ得ルコトヲ認ム、蓋シ善意ノ手形取得者ハ之ヲ保護スル必要アレトモ、惡意ノ手形取得者又ハ重大ナル過失ニ因リ手形取得者ハ之ヲ保護スル必要ナキヲ以テナリ、例之ハ甲カ乙ノ依頼ニ依リ其ノ融通ヲ計ル爲メニ振出人甲、受取人乙、支拂人(引受人)丙ト爲シ、手形金額ハ後日乙ヲシテ金參萬圓ト補充スヘキ合意ヲ爲シ白地爲替手形ヲ振出シタル場合ニ於テ、乙ハ甲ト豫メ爲シタル合意ニ違反シ手形金額ヲ金五萬圓ト補充シタル上之ヲ丁ニ裏書讓渡シタルトキ、丁ハ甲ト乙トノ合意ヲ知ラス乙ニ金五萬圓ノ補充權アルモノト信シテ手形ヲ取得スルカ又ハ甲ト乙トノ合意ヲ知ラサルコトニ付重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得シタルトキハ甲ハ丁ニ對シテ手形金額カ合意ニ違反スルコトヲ主張シテ金五萬圓ヲ支拂ハス金參萬圓ノ支拂ヲ爲スコトヲトノ合意ヲ知リタルトキ又ハ其ノ合意ハ之ヲ知ラサリシモ丁カ當然之ヲ知り得ヘカリシトキ若クハ少シク注意スレハ其ノ合意ヲ知り得ヘカリシニ、其ノ注意ヲ爲サスシテ手形ヲ取得シタル場合ニ於テハ丁ニ惡意又ハ重大ナル過失アルニ因リ、甲ハ丁ニ對シ合意ノ違反ナルコトヲ主張シテ金五萬圓ヲ支拂ハス金參萬圓ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ルカ如シ(二)本條ノ善意ノ手形ノ取得者ナルカ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ手形ノ取得者ナルカハ何人ニ於テ之ヲ證明スヘキカ、即チ其ノ證明ノ責任ハ手形ノ支拂ヲ爲ス者ニ在ルカ又ハ所持人ニ在ルカ、本條ニ於テハ「……其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ爲替手形ヲ取得シタ

ルトキハ此ノ限ニ在ラズト規定シタルニ因リ、所持人ハ善意ノ取得者ナルコトヲ證明セスシテ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク、而シテ其ノ請求ヲ受ケタル者ニ於テ其ノ違反ヲ以テ所持人ニ對抗セント欲セハ所持人カ善意又ハ重大ナル過失ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノナルコトヲ證明スヘキ責任アルモノト解スルヲ至當トス、左記判例ハ補充權ノ濫用ニ關シ參考ト爲スニ足ルヲ以テ之ヲ掲ク。

◎(判例一四七) 手形上ノ請求ヲ拒否セントスルニハ不法ノ要件補充ヲ知リタルコトヲ確定スルヲ要ス 本件ニ於テ原告ノ確定シタル事實ニ依レバ被告上告人ハ爲替手形用紙ニ手形金額ヲ記載シ支拂期日等ノ他ノ要件ハ之ヲ記入セシ、振出人並引受人トシテ署名シ該手形ニ因リテ金融ヲ試ムル目的ヲ以テ之ヲ中村萬之助ニ交付シ、其ノ金融即チ割引可能ナル場合ニ被告上告人自ラ他ノ手形要件ヲ記入スヘキコトヲ約シタルモノトス、故ニ被告上告人ハ自己宛爲替手形ノ支拂人トシテ手形要件ノ完備セサル振出署名アル爲替手形用紙ニ引受署名ヲ爲シタルモノニ外ナラサルモノナレハ該引受ハ白地手形ノ引受トシテ其ノ効力ヲ生スヘキモノトス、殊ニ其ノ署名ハ該手形ニ依リテ割引ノ可能ナルヤヲ試ムル目的ノ上ニ爲サレタルコトノ當然ノ結果トシテ、後日振出要件完備シタル場合其ノ文言ニ從ヒ引受人トシテ手形上ノ責任ヲ負擔スル意思ヲ以テ振出人ヲシテ要件ヲ記入セシムル趣旨ノ下ニ之ヲ爲シタルモノナレハ其ノ引受署名ヲ以テ、手形ノ引受ヲ爲ス意思ナカリシモノト謂フヘカラス、果シテ然ラハ原告認定ノ如ク被告上告人カ中村萬之助ニ對シ該手形要件ノ補充權ヲ與ヘタルモノニ非ストスルモ、既ニ被告上告人ニ於テ叙上ノ如キ手形金額ヲ記載シ振出人並引受人トシテ自己ノ署名セル白地手形ヲ同人ニ交付シタル以上ハ中村萬之助ニ於テ被告上告人トノ間ニ於ケル委託ノ趣旨ニ反シ自ラ期日、支拂場所等ヲ記入シ之ヲ流通セシムルヤモ計ラレサル危険ヲ豫想シ居リタルモノト認ムルヲ妥當トスヘキニ因リ、中村萬之助ニ依リテ要件ヲ補充セラレタリトスルモ、被告上告人ハ引受人トシテ善意取得者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルモノトス、蓋シ手形所持人ニシテ要件ノ補充力不法ニ爲サレタルコトヲ知リテ手形ヲ取得シタルモノナル場合ニハ白地手形ノ署名者ハ斯ル惡意ノ手形取得者ニ對シテ之ヲ對抗シ得ヘシト雖モ、善意取得者ニ對シテ之ヲ對抗シ得サルヘケレハナリ、是レ手形ノ流通證券ニシテ轉讓性ヲ有スルヲ以テ、其ノ機能ヲ發揮セシムル爲ニ善意取得者ヲ保護スル必要アレハナリ、本件ニ於テハ上告人ハ既ニ要件補充セラレタル後、本件手形ヲ裏書

ニ依リテ讓渡ヲ受ケタル第三者トシテ引受人タル被告上告人ニ對シ手形上ノ請求ヲ爲スモノナレハ上告人ノ本件手形上ノ請求ヲ拒否セントスルニハ上告人ノ本件手形ノ取得ニ際シ、中村萬之助ニ於テ不法ニ要件ヲ補充シタルモノナルコトヲ知リタルコトヲ確定スルヲ要ス、然ルニ原告ハ此ノ點ニ付何等審究ヲ爲スコトナク、漫然中村萬之助カ被告上告人ノ委託ノ趣旨ニ反シ自ラ支拂期日及支拂場所等ヲ記入シタル事由トシテ、被告上告人ニ於テ手形債務負擔ノ意思ナカリシトノ理由ノ下ニ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ不法ニシシ本論旨ハ結局其ノ理由アリ(大正十五年十二月十六日、大審院第一民事部判決、一五年(オ)第二三三號)

第二章 裏書

前章ニ於テハ手形ノ振出及ヒ其ノ効力ヲ規定シタルヲ以テ、本章ニ於テハ裏書及ヒ其ノ効力ヲ規定セリ、裏書ハ手形ノ受取人又ハ其ノ後者カ其ノ手形、補筆又ハ謄本ニ署名(記名捺印)ヲ爲シ、他人ニ手形上ノ權利ヲ移轉シ又ハ質入シ若ハ權利ノ行使ヲ委任スル行爲ニシテ、手形ヲ轉讓流通セシメ其ノ機能ヲ發揮セシムル方法ナリ、是レ前章ノ手形ノ振出ニ次キ本章ニ於テ裏書及ヒ其ノ効力ヲ規定シタル所以ナリ、而シテ本章ニ於テハ手形裏書讓渡ノ原則(讓渡裏書)、裏書禁止ノ裏書及ヒ其ノ讓渡、逆裏書(戻裏書)、裏書ノ單純、裏書ノ方式、裏書ヨリ生スル權利ノ移轉、裏書人ノ責任、裏書ノ連續、人的抗辯ノ不對抗、取立裏書、質入裏書及ヒ滿期後ノ裏書ニ關スル事項ヲ規定セリ、本章ノ規定ハ總テ之ヲ約束手形ニ準用ス(第七十七條ノ說明參看)。

第十一條 爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

2 振出人ガ爲替手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ證券ハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スコトヲ得

3 裏書ハ引受ヲ爲シタル又ハ爲サザル支拂人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

本條第一項ニ於テハ爲替手形ハ特ニ指圖式ニテ振出サレサル場合ニ於テモ之ヲ裏書讓渡スコトヲ認ムルト共ニ第二項ニ於テハ振出人カ指圖禁止又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキニ限り之ヲ裏書讓渡スコトヲ得サルモ、其ノ證券ヲ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ依リ且ツ其ノ效力ヲ以テ之ヲ讓渡スコトヲ得ルモノト爲シ、第三項ニ於テハ引受人、支拂人、振出人、保證人及ヒ參加人等モ被裏書人トシテ手形ヲ取得シ、更ニ其ノ手形ヲ裏書スルコトヲ得ル所謂逆裏書(戻裏書)ヲ認メタリ、左ニ項ヲ分チテ説明スヘシ。

第一 裏書ノ種類及ヒ意義 (一)裏書ハ其ノ目的ニ依リ之ヲ分類スルトキハ讓渡裏書、取立裏書及ヒ質入裏書ノ三種ト爲スコトヲ得(一)讓渡裏書トハ裏書人カ反對ノ文言ヲ記載セサル限り被裏書人及ヒ其ノ後者全員ニ對シ手形ノ引受及ヒ支拂ヲ擔保シ、其ノ引受又ハ支拂ナキ場合ニ於テ其ノ遡求ニ應スル債務ヲ負擔セントスル附屬的ノ手形行爲ニシテ本條第一項ニ規定スル裏書即チ是レナリ(二)取立裏書トハ裏書人カ被裏書人ヲシテ手形金額ヲ回收セシムル目的ヲ以テ、手形ニ其ノ文言ヲ記載シ手形上ノ權利ヲ行使スル資格ヲ與フル爲メ、被裏書人ノ名稱ヲ記載シ又ハ之ヲ記載セスシテ裏書人カ自己ノ署名ヲ爲ス裏書ヲ謂フ(第十八條ノ說明參看)(三)質入裏書トハ裏書人カ被裏書人ニ手形ヲ債務ノ擔保トスル目的ヲ以テ、手形ニ其ノ文言ヲ記載シ手形上ノ權利ヲ行使ス

ル資格ヲ與フル爲メ被裏書人ノ名稱ヲ記載シ又ハ記載セスシテ裏書人カ署名ヲ爲ス裏書ヲ謂フ(第十九條ノ說明參看) (2)裏書ハ其ノ方式ニ依リ之ヲ分類スルトキハ記名式裏書、指圖式裏書、持參人拂式裏書及ヒ白地式裏書ト爲スコトヲ得(一)記名式裏書トハ裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ被裏書人ヲ指名スル裏書ヲ謂フ、例之ハ「表書ノ金額甲殿ニ御支拂被下度候也」ト記載スルカ如シ、即チ「甲殿」トアルハ被裏書人ヲ指スモノニシテ、此ノ指名アルカ故ニ之ヲ記名式裏書ト稱ス(二)指圖式裏書トハ裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ被裏書人ヲ記載スルト共ニ其ノ被裏書人ノ指圖スル者ニ支拂フヘキ旨ヲ記載スルヲ謂フ、例之ハ「表書ノ金額甲殿又ハ其ノ指圖人ニ御支拂被下度候也」ト記載スルカ如シ、即チ「指圖人云々」トアルヲ以テ之ヲ指圖式裏書ト稱ス(三)持參人拂式裏書トハ裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ被裏書人ヲ指定セス、其ノ手形ノ所持人ニ支拂フヘキコトヲ記載スルヲ謂フ例之ハ「表記ノ金額此ノ手形持參人ニ御支拂被下度候也」ト記載セルモノナリ、持參人拂ノ裏書ハ被裏書人ヲ指定セサル點ニ於テハ次ニ説明スル白地式裏書ト同一ナレトモ、特ニ「持參人云々」ノ記載アルヲ以テ之ヲ白地式裏書ト謂フコトヲ得ス、然レトモ何人カ手形ノ所持人ト爲ルヤ不明ナル點ハ兩者同一ナリ、故ニ持參人拂ノ裏書アル手形ハ白地式裏書アル手形ト同一ノ效力ヲ有スルモノト爲セリ(第十二條第三項ノ說明參看)(四)白地式裏書トハ裏書ヲ爲スニ當リ手形ノ表面又ハ裏面又ハ補箋ニ裏書ノ文言ヲ記載シ被裏書人ヲ指定セス裏書人署名ヲ爲シ、又ハ手形ノ裏面若クハ補箋ニ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲ス裏書ヲ謂フ、例之ハ手形ノ裏面ニ「表記ノ金額 殿又ハ其ノ指圖人ヘ御支拂被下度候也」ト記載スルカ如ク、又ハ裏書人カ手形ノ裏面若クハ補箋ニ何等ノ文言ヲモ記載セス單ニ裏書人カ「何某」ト署名スルカ如シ、此ノ裏書ニハ何レモ被裏書人タル「甲殿」ノ名稱ナク、手形ノ債權者ヲ指定スヘキ部分カ白地(空白)ナルヲ以テ之ヲ白地式裏書ト謂フ(第十三條ノ說明參看) (3)

以上ハ裏書ヲ其ノ目的及ヒ方式ニ依リ分類シタルモノナレトモ、尙裏書ニハ裏書禁止ノ裏書(新ナル裏書ノ禁止)満期後ノ裏書、支拂拒絶證書作成後ノ裏書及ヒ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書等アリ、裏書禁止ノ裏書トハ裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ、新ナル裏書ヲ禁スルコトヲ手形ニ記載スルコトヲ謂フ、故ニ此ノ裏書ニ依リ裏書人ハ其ノ被裏書人ニ對シテハ擔保ノ責ヲ負フヘキモ、被裏書人以後ノ被裏書人ニ對シテ擔保ノ責ヲ負ハス(第十五條ノ說明參看)満期後ノ裏書トハ満期ノ日以後支拂拒絶證書作成前又ハ支拂拒絶證書作成期間經過前ニ爲シタル裏書ヲ謂フ、此ノ裏書ハ満期後ニ爲サレタルモノナレトモ未タ支拂拒絶證書ヲ作成セサル以前又ハ支拂拒絶證書作成期間ヲ經過セサル以前ニ爲シタルヲ以テ、満期前ノ裏書ト異ナル所ナク満期前ノ裏書ト同一ノ效力ヲ有ス(第二十條前段ノ說明參看)支拂拒絶證書作成後ノ裏書又ハ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書トハ満期後一定ノ期間ヲ經過シ、手形ヲ裏書讓渡スルモ被裏書人カ手形上ノ權利ヲ取得スルコト能ハサル時期ニ爲シタル裏書ヲ謂フ、從テ此ノ裏書ハ指名債權ノ讓渡ノ效力ノミヲ有スルニ過キス(第二十條ノ說明參看)。

第二 讓渡裏書(本條第一項) (一)讓渡裏書トハ裏書人カ反對ノ文言ヲ記載セサル限り被裏書人及ヒ其ノ後者全員ニ對シ、手形ノ引受及ヒ支拂アルヘキコトヲ擔保スルト共ニ、其ノ引受又ハ支拂ナカリシ場合ニ於テハ後者ノ請求ニ應ジテ手形上ノ義務ヲ負擔セントスル附屬的ノ手形行爲ヲ謂フ、故ニ裏書ニハ既存ノ形式ヲ完備セル手形ナカルヘカラス、從テ其ノ既存ノ手形カ手形要件ヲ備ヘサルカ又ハ裏書ノ連續ヲ缺クトキハ裏書ヲ爲スト雖モ、其ノ裏書ハ無効ニシテ手形上ノ效力ヲ生セサルコト勿論ナリ、然レトモ既存ノ手形カ其ノ形式ヲ備フルトキハ振出行爲又ハ前ノ裏書行爲カ無効ナルカ又ハ取消サルルト雖モ、形式上裏書ノ連續アルトキハ其ノ手形ニ爲シタル裏書ハ有効ニシテ、裏書人ハ振出行爲又ハ前ノ裏書行爲ノ無効又ハ取消サレタルコトヲ以テ手形上ノ責任ヲ

免カルルコトヲ得サルハ前數條ニ於テ屢々説明シタルカ如シ(二)手形ハ典型的ノ有價證券ニシテ且ツ流通證券ナルニ因リ、手形ノ受取人ハ之ヲ裏書シテ其ノ手形上ノ權利ヲ他人ニ移轉スルコトヲ得、其ノ讓渡人即チ裏書ヲ爲ス者ヲ「裏書人」ト謂ヒ、其ノ裏書ニ依リ手形ヲ讓受ケ之ヲ取得スル者ヲ「被裏書人」ト謂フ、而シテ其ノ被裏書人ハ更ニ裏書シテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ヘク、此ノ場合ニ於テモ其ノ讓渡人ヲ「裏書人」ト謂ヒ、其ノ讓受人ヲ「被裏書人」ト謂フコトハ最初ノ讓渡人又ハ讓受人ト異ナル所ナシ、斯ノ如クシテ手形ハ甲ヨリ乙ヘ、乙ヨリ丙ト轉讓流通セラレテ其ノ本來ノ機能ヲ發揮シ各種ノ取引ニ貢獻スルモノナリ(三)故ニ手形ハ指圖式ニテ振出サレ記名式ニテ振出サレサルトキト雖モ振出人ニ於テ指圖禁止ノ文言ヲ記載セサル限り、所持人ハ裏書ニ依リテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得、即チ所持人ハ其ノ手形カ指圖式ナルト否トニ拘ラス、裏書ニ依リテ他人ニ讓渡スコトヲ得ルヲ原則トス、是レ本條第一項ノ規定ニ依リテ明カナリ、然レトモ本條第二項ニ於テハ例外トシテ振出人カ手形ニ指圖禁止ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載スルトキハ其ノ證券ハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ、且ツ其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スコトヲ得ルモノト爲シタル結果、所持人ハ裏書ニ依リテ他人ニ讓渡スコトヲ得ス(本條第三項ノ說明參看)而シテ裏書ニ依リ手形ヲ取得スル者即チ被裏書人ハ其ノ手形ノ署名者以外ノ者ナルヘキヲ通例トスルモ、其ノ手形ノ引受人、支拂人又ハ振出人其ノ他ノ手形債務者モ亦タ被裏書人トシテ手形ヲ取得スルコトヲ得ルノミナラス、更ニ其ノ手形ヲ裏書讓渡スコトヲ得(本條第三項ノ說明參看) (4)手形ニハ指圖式ノモノト記名式ノモノトアリ、指圖式トハ支拂ヲ受クル者即チ受取人ヲ指名スルト共ニ其ノ指圖人ニ支拂フヘキ旨ヲ記載セルモノニシテ、例之ハ「右金額甲殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也」ト爲シ「其ノ指圖人」ナル文言ヲ用キルモノヲ謂フ、記名式トハ單ニ支拂ヲ受クル者即チ

受取人ノ名稱ノミヲ記載セルモノニシテ、例之ハ「右金額甲殿へ御支拂被下度候也」ト記シ「又ハ其ノ指圖人」ナル文言ヲ記載セサルモノ謂フ、而シテ手形ハ前ニ説明シタルカ如ク其ノ性質上裏書ニ依リ自由ニ讓渡スコトヲ得ルヲ原則ト爲スニ於テハ其ノ指圖式ニアラサル記名式ノモノト雖モ、振出人カ指圖禁止ノ文言ヲ記載セサル限リ所持人ハ裏書ニ依リ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ルモノト爲ササル可カラス、是レ本條第一項ニ於テ「爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リ之ヲ讓渡スコトヲ得」ト爲シタル所以ナリ、故ニ手形カ指圖式ナルトキ即チ「甲殿又ハ其ノ指圖人云々」ト記載シタルトキハ勿論、縦令記名式ナルトキ即チ「右金額甲殿へ御支拂被下度候也」ト記シ「又ハ其ノ指圖人云々」ナル文言ヲ記載セサルトキト雖モ、所持人ハ裏書ニ依リ之ヲ讓渡スコトヲ得、唯タ本條第二項ニ依リ振出人ノ反對ノ意思表示アルトキニ限り裏書ニ依リ之ヲ讓渡スコトヲ得サルニ過キス(5)讓渡裏書ハ裏書人カ裏書ニ依リ手形ノ所有權及ヒ手形上ノ債權ヲ被裏書人ニ移轉スルモノナルニ因リ裏書ハ單純ナルコトヲ必要トス、故ニ裏書ニ條件ヲ附スルコトヲ得ス、若シ裏書ニ條件ヲ附シタルトキハ其ノ條件ハ之ヲ記載セサルモノト看做ス(第十二條第一項ノ説明參看)又タ手形金額ノ一部ヲ讓渡ス所謂一部裏書ヲ爲スコトヲ得ス、從テ一部ノ裏書ヲ爲シタルトキハ其ノ裏書ヲ無効ト爲ス(第十二條第二項ノ説明參看)(6)然レトモ(一)裏書人ハ無擔保文言ヲ記載シ手形ノ引受及ヒ支拂ヲ擔保セサルコトヲ得(第十五條第一項ノ説明參照)――(二)裏書人ハ裏書禁止ノ文言ヲ記載シ其ノ被裏書人以後ノ被裏書人ニ對シ擔保義務ヲ免カルコトヲ得(第十五條第二項ノ説明參看)――(三)裏書人ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ引受ノ呈示期間ヲ短縮スルコトヲ得(第二十三條第三項ノ説明參看)――(四)裏書人ハ一覽拂ノ爲替手形ノ呈示期間ヲ短縮スルコトヲ得(第三十四條第一項ノ説明參看)――(五)裏書人ハ無費用償還又ハ拒絕證書不要ナル文言ヲ記載シ被裏書人及ヒ其ノ後者ニ對シ引受

拒絕證書又ハ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得(第四十六條ノ説明及ヒ本館發行「手形法書式」五六、六四乃至六七)ノ書式參看)――(7)裏書人カ記名式又ハ指圖式ノ手形ニ讓渡裏書ヲ爲スニハ手形又ハ補箋ニ被裏書人ノ名稱ヲ記載シ、裏書人之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス、之ヲ「記名式裏書」ト謂フ(同上三八)又タ被裏書人ヲ指定セスシテ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得、之ヲ「白地式裏書」ト謂フ、(同上四一)此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ有セス(第十三條ノ説明參看)――(8)裏書ハ支拂ヲ受クル者即チ受取人又ハ其ノ後ノ所持人カ之ヲ爲スモノナルカ故ニ、裏書ノ附屬の手形行爲ナルコトハ前ニ一言シタルカ如シト雖モ、裏書人カ手形ノ要件ヲ完備セサル所謂白地手形ニ豫メ裏書ヲ爲シタルトキハ其ノ後手形ノ要件カ補充セラレ完全ナル手形ト爲リタル場合ニ於テハ裏書モ亦タ其ノ時ヨリ效力ヲ生スヘキヲ以テ裏書人ハ手形上ノ義務ヲ負ハサル可カラス、是レ改正手形法ニ於テ白地手形ヲ認メタル當然ノ結果ナリ、舊手形法即チ商法ニ於テモ判例ハ白地手形ニ爲シタル裏書ノ有效ナルコトヲ認メテ曰ク。

◎(判例一四八) 手形成立前裏書ヲ爲シタル場合ト雖モ振出行爲ノ完成ニ依リ裏書ハ同時ニ其ノ效力ヲ生ス

トモ手形ノ成立前豫メ手紙用紙ニ裏書ヲ爲シタル場合ト雖モ後日振出ノ要件ヲ記載スル所ニ從ヒ手形上ノ債務ヲ負擔スル意思ヲ以テ其ノ手形用紙ヲ振出人ニ交付シタルトキハ、爾後振出人ニ於テ該手形成立ニ必要ナル事項ヲ記入及ヒ手形ノ交付ヲ爲シ、振出行爲完成スルトキハ其ノ裏書ハ之ト同時ニ其ノ效力ヲ生スヘキモノナルコトハ本院從來ノ判例ノ認ムル所ナリ、然レニ原院ノ認定スル所ニ依レハ上告人橋本嘉助中村福市田代惣次郎等ハ手形金額ノ記載ナキ本件爲替手形ニ豫メ裏書シタルモノナルモ、孰モ本件手形ニ裏書ヲ爲ス意思ヲ以テ裏書ヲ爲シタルモノナレハ後日振出人カ手形振出ノ要件ヲ記載スル所ニ從ヒ、手形上ノ債務ヲ負擔スル意思ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト解スヘク、而シテ爾後手形金額カ適法ニ記入セラレタルモノナルヲ以テ、原院ニ於テ右裏書カ手形振出行爲完成ト同時ニ其ノ效力ヲ生スルモノト列示シタルハ毫モ不法ニアラス(大正五年五月十八日、大審院第二民事部判決、四年(オ)第八一一號)

II(9)手形ハ所謂設權證券ニシテ手形上ノ權利ハ手形ト離レテ成立スルコトヲ得ス、故ニ手形ノ裏書讓渡ヲ爲スニハ裏書人カ手形ヲ被裏書人ニ讓渡スル意思ヲ以テ之ニ裏書ノ記載ヲ爲スコトヲ要スルハ勿論、尙ホ讓渡ノ意思ヲ以テ手形ヲ被裏書人ニ交付スルコトヲ要スルモノト解セサル可ラス、例之ハ裏書人カ手形ヲ讓渡スル意思ヲ以テ手形ニ被裏書人ノ名稱ヲ記載シ且裏書人ノ署名ヲ爲スモ、手形ヲ被裏書人ニ交付セスシテ自己ニ於テ保管スルトキハ未タ裏書讓渡アリタリト謂フコトヲ得スト雖モ、手形ヲ被裏書人ニ交付スルトキハ裏書讓渡アリト謂フコトヲ得ルカ如シ。

第三 指圖禁止(本條第二項) (1)前項ニ於テ説明セルカ如ク手形ハ指圖式ナルト記名式ナルトニ拘ラス裏書ニ依リ之ヲ讓渡スコトヲ得ルヲ原則トス、然レトモ振出人カ手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ其ノ證券ハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ニ讓渡スコトヲ得ルモ、例外トシテ裏書ニ依リ之ヲ讓渡スコトヲ許サス、蓋シ手形ハ流通證券ナルヲ以テ裏書ヲ禁止シ其ノ流通ヲ止ムルハ手形ノ性質ニ反スルカ如キモ、手形トシテ振出サレタルトキハ其ノ受取人ハ手形上ノ便益ヲ受クヘク、又タ手形ノ創造者タル振出人ニ裏書禁止ヲ許スモ別ニ弊害ナケレハナリ、故ニ手形ニ指圖禁止又ハ裏書禁止ノ文言アル場合ニ於テ之ニ裏書ヲ爲スモ其ノ裏書ハ無効ニシテ手形上ノ效力ヲ生セス、即チ指圖債權トシテ讓渡ノ效力ヲ發生セスII(2)然レトモ其ノ證券ハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スコトヲ得ルカ故ニ、讓渡人ハ其ノ證券ノ讓渡ヲ債權者ニ通知スルカ又ハ債權者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債權者其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス、而シテ證券ノ讓渡ノ通知又ハ債權者ノ承諾ハ確定日附アル證券ヲ以テスルニ非レハ之ヲ以テ債權者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(民法第四六七條參照)債權者カ

異議ヲ留メスシテ證券ノ讓渡ノ承諾ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由アルモ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス、但シ債權者カ其ノ債務ヲ消滅セシムル爲メ讓渡人ニ拂渡シタルモノアルトキハ之ヲ取返シ、又讓渡人ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ之ヲ成立セサルモノト看做スコトヲ得、又タ讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止マルトキハ債權者ハ其ノ通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得(民第四六八條參照)II(3)指圖禁止即チ裏書禁止ノ記載ニ依リ裏書ヲ爲スコトヲ得サルハ讓渡裏書ノ場合ニ限ラルルヲ以テ縱令ヒ指圖禁止又ハ裏書禁止ノ記載アルモ取立委任裏書及ヒ質入裏書ヲ爲スコトヲ妨クルモノニアラス(第十八條、第十九條ノ說明參看)II(4)本條第二項ノ指圖禁止即チ裏書禁止ハ振出人ニ於テ之ヲ爲スモノナレトモ、裏書人モ亦タ新ナル裏書ヲ禁止スル旨ヲ記載スルコトヲ得(第十五條第二項ノ說明及ヒ本館發行「手形法書式」七、八、五六)ノ書式參看)然レトモ裏書人ノ爲ス裏書禁止ハ自己ノ直接ノ被裏書人ヲ除ク外其ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負ハサルニ止マリ、自己ノ被裏書人及ヒ其ノ後者ノ裏書ヲ禁止スルコトヲ得ス、然ルニ本條第二項ノ指圖禁止ノ記載ハ手形ノ受取人及ヒ其ノ後者全員ノ裏書ヲ禁止スルモノナリ、換言スレハ振出人ノ爲ス指圖禁止ノ記載ハ指圖證券タル手形ヲ指名債權ト爲ス效力ヲ有スルモノナレトモ、裏書人ノ爲ス裏書禁止ノ記載ハ唯其ノ被裏書人以外ノ者ニ對シ裏書人カ手形上ノ責任ヲ負ハサルニ過キスシテ手形ヲ指名債權ト爲ス效力ヲ有セス、是レ兩者ノ異ナル根本的ノ觀念ナリ。

第四 裏書(逆裏書)(本條第三項) (1)戻裏書即チ逆裏書トハ引受人、支拂人又ハ振出人其ノ他ノ手形債權者ニ對シテ爲ス裏書ヲ謂フ、抑モ手形ハ本條第二項ニ依リ振出人カ指圖禁止ノ記載ヲ爲ササル限り何人ニ對シテモ之ヲ裏書ニ依リ讓渡スコトヲ得ルカ故ニ、支拂人又ハ豫備支拂人ノ如ク未タ手形上ノ債務者ト爲ラサル者

ニ對シ之ヲ讓渡シ得ルハ勿論ナレトモ、手形上ノ債務者タル引受人、振出人、參加引受人及ヒ保證人等ニ對シテモ之ヲ讓渡スルコトヲ得ルカ、蓋シ是等ノ者ハ手形上ノ債務者ナルニ因リ其ノ手形ヲ再ヒ取得スルトキハ民法ノ混同ノ法則ニ因リ其ノ債權及ヒ債務ハ消滅ニ歸スヘキヲ以テ、純理上ヨリ解スルトキハ是等ノ者カ裏書ニ依リ其ノ手形ヲ取得シ又ハ其ノ取得シタル手形ヲ他人ニ裏書スルコトヲ得サルヘシ、然レトモ手形上ノ債務ハ各獨立性ヲ有シ一ノ債務ハ他ノ債務ニ對シテ何等ノ影響ヲ及ホスコトナキヲ原則トスルカ故ニ、手形上ノ債務者カ其ノ手形ヲ取得シ更ニ之ヲ他人ニ裏書シテ新ナル債務ヲ負擔スルコトハ之ヲ禁止スヘキ理由ナシ、是レ本條第三項ニ於テ裏書ハ引受ヲ爲シタル若クハ爲ササル支拂人又ハ振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得(本館發行「手形法書式」(五五)ノ書式參看)ト規定シ所謂戻裏書即チ逆裏書ヲ認メタル所以ナリ(2)引受人ハ手形ノ主タル債務者ナルヲ以テ戻裏書ニ依リ手形ヲ取得スルモ、何人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ス、然レトモ更ニ之ヲ裏書シタルトキハ被裏書人ハ手形上ノ權利ヲ取得スルコトハ勿論ナリ、而シテ引受人カ滿期又ハ其ノ以後ニ於テ手形ヲ取得シ、若クハ引受人カ手形ノ所持人タル間ニ滿期ニ到リタルトキハ手形上ノ權利ハ混同ニ因リテ消滅スヘキカ、或ハ混同ニ因リ手形上ノ權利ハ消滅スルモノト解スル者アルヘキモ、滿期後ノ裏書ハ滿期前ノ裏書ト同一ノ效力ヲ有スルヲ以テ、支拂拒絶證書作成前又ハ支拂拒絶證書作成期間經過前ニハ引受人ト雖モ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス(第二十條ノ說明參看) (3)支拂人ハ手形上ノ債務者ニ非サルヲ以テ戻裏書ニ依リ手形ヲ取得スルモ真正ノ戻裏書ト謂フコトヲ得ス、故ニ支拂人ハ完全ナル手形上ノ權利者ト爲ル、而シテ支拂人カ手形ノ所持人タル間ニ滿期カ到來シタルトキハ支拂人ハ自己ニ對シ支拂拒絶證書ヲ作成セシメ要求權ヲ行使スルヲ妨ケス(4)振出人カ裏書ニ依リ手形ノ所持人ト爲リタルトキハ手形上ノ權利

ヲ取得ス、故ニ爲替手形ノ振出人ハ支拂人ニ對シテ引受ヲ求ムルコトヲ得ヘク、又タ支拂人カ既ニ引受ヲ爲シタルトキハ其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得、然レトモ振出人ハ其ノ振出人トシテ自己ノ後者ニ對シ手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得スト雖モ、手形カ振出人ヨリ更ニ裏書ニ依リ讓渡セラレタルトキハ其ノ被裏書人ハ總テノ前者ニ對シテ手形上ノ權利ヲ取得スヘシ、支拂拒絶證書作成後又ハ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書ハ裏書タル效力ナク、單ニ指名債權ノ讓渡ノ效力ヲ有スルニ過キサラヲ以テ、此ノ場合ニ振出人ニ對シテ爲シタル裏書ニ依リ手形上ノ權利ハ當然消滅スルモノト解セサル可カラス、然レトモ既ニ支拂人ノ引受アリタルトキハ引受人ノ義務ハ時効ニ因リ消滅セサル限り存続スルカ故ニ、振出人ハ引受人ニ對シテ支拂ヲ請求スルコトヲ得(5)裏書人カ戻裏書ニ依リ再ヒ手形ヲ取得スルトキハ引受人及ヒ振出人其ノ他前裏書ニ於ケル前者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ有スモ、其ノ後者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ有スルコトナシ、然レトモ更ニ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ手形上ノ權利ヲ取得スルコトハ説明ヲ俟タス(6)保證人カ戻裏書ニ依リ手形ヲ取得シタルトキハ自己ニ對スル主タル債務者ノ後者ニ對シ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得スト雖モ、更ニ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ完全ナル手形上ノ權利ヲ取得スヘシ(7)參加引受人カ戻裏書ニ依リ手形ヲ取得シタルトキハ被參加人ノ後者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得サルモ、更ニ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ完全ナル手形上ノ權利ヲ取得ス。

第十二條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

2 一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス

3 持參人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有ス

本條ニ於テハ裏書ノ單純ナルヘキ原則ヲ示スト共ニ裏書ニ條件ヲ附シタルトキハ其ノ條件ヲ記載セサルモノト看做シ、又タ一部ノ裏書ノ無効ナルコトヲ明ニシ、持參人拂ノ裏書ヲ認メ其ノ效力ヲ規定セリ。

第一 裏書ノ單純(第一項) (1)裏書ハ一定ノ金額ヲ支拂フヘキ旨ノ單純ナル委託ヲ記載シタル手形ヲ讓渡スルコトヲ目的ト爲スモノナリ、故ニ其ノ裏書ハ單純ナルコトヲ必要トス、從テ裏書ニ條件ヲ附シ又ハ被裏書人ニ或ル義務ヲ負ハシムルカ如キ文言ヲ記載スルコトヲ得ス、例之ハ「表記ノ金額資金到着ノ上甲殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也」ト謂フカ如ク、又タ「表記ノ金額何々物品ト引換ニ御支拂被下度候也」ト謂フカ如ク、裏書ニ條件ヲ附シ又ハ被裏書人ニ或ル義務ヲ負擔セシムル記載ヲ爲スコトヲ得ス、故ニ裏書ニ條件ヲ記載シタルトキハ裏書ノ性質ニ反スルヲ以テ、純理上其ノ裏書ヲ無効ト爲スヘキモノナレトモ、手形取引ノ圓滑ヲ圖ル爲メ裏書ヲ有效ト爲シ、條件ハ之ヲ記載セサルモノト看做シ條件ノミヲ無効ト爲セリ(2)裏書ハ單純ニシテ之ニ條件ヲ附スルコトヲ得サルヲ以テ手形金額ノ一部ノミニ付キ他人ヲ被裏書人トスル一部裏書ヲ爲スコトヲ得ス(第二項ノ説明參看)然レトモ第三項ニ於テ認ムル持參人拂ノ裏書ハ所持人ノ何人タルヲ問ハス其ノ手形ヲ所持スル者ニ支拂フヘキ旨ヲ記載シテ爲ス裏書ニシテ、裏書ニ條件ヲ附スルモノニアラス、又タ被裏書人ニ對シテ或ル義務ヲ負ハシムルモノニモ非サルヲ以テ其ノ記載ノ有效ナルコト勿論ナリ(第三項ノ説明及ヒ本館發行「手形法書式」(五四)ノ書式參看) (3)裏書人ハ無擔保ノ裏書ヲ爲スコトヲ得、即チ裏書人ハ被裏書人及ヒ其ノ後者ニ對シ引受及ヒ支拂ヲ擔保セサル旨ヲ記載シテ裏書人ノ手形上ノ義務ヲ免カルコトヲ得、又タ裏書人ハ新ナル裏書ヲ禁止シテ其ノ被裏書人以外ノ後者ニ對シテ擔保義務ヲ負ハサルコトヲ得(第十五條ノ説明參看)。

第二 一部裏書ノ無効(第二項) (1)一部裏書トハ手形金額ノ一部ニ付キ裏書人カ他人ヲ被裏書人トスル裏

書ヲ謂フ、故ニ支拂人カ手形金額ノ一部ノ支拂ヲ爲シタル後ニ於テ其ノ殘額ニ付キ裏書ヲ爲スハ茲ニ所謂一部ノ裏書ニアラサルコトニ注意スルコトヲ要ス(2)手形ハ設權的有價證券ナルヲ以テ手形上ノ權利ハ手形ト離レテ存在スルコトヲ得サルニ因リ、手形上ノ權利ヲ行使スルニハ手形ノ所持ヲ必要トス、從テ手形金額ヲ分割シテ讓渡スコトハ之ヲ認ムルコトヲ得ス、是レ本條第二項ニ於テ一部ノ裏書ハ之ヲ無効トスル旨ヲ規定シタル所以ナリ、然レトモ手形金額ノ一部ノ引受及ヒ一部ノ支拂ハ明文ニ依リ之ヲ認ムルコトハ舊手形法即チ商法ト異ナル所ナシ(第二十六條及ヒ第三十九條ノ説明參看)。

第三 持參人拂ノ裏書(第三項) (1)改正手形法ハ本條第三項ニ於テ持參人拂ノ裏書ヲ認メ、其ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有スルコトヲ規定セリト雖モ、本條ハ前述ノ如ク裏書ノ單純ナルコトヲ要スル原則ヲ定メタルモノニシテ裏書ノ方式ヲ定メタルモノニアラス、故ニ裏書ノ方式ノ一種トモ認ムルコトヲ得ル持參人拂ノ裏書ハ之ヲ本條ニ規定セシメテ裏書ノ方式ヲ規定スル第十三條ニ規定スルヲ相當トス、蓋シ持參人拂ノ裏書ハ單ニ手形ノ所持人ニ支拂アリ度キ旨ヲ記載スル裏書ナルカ故ニ裏書ニ條件ヲ附シタルモノト解スルコトヲ得サルト共ニ被裏書人ニ義務ヲ負ハシメタルモノトモ解スルコトヲ得サルヲ以テナリ(2)持參人拂ノ裏書トハ裏書人カ單ニ手形ノ所持人ニ對シテ支拂アリ度キ旨ヲ記載スルモノヲ謂フ、例之ハ「表記ノ金額此手形持參人へ御支拂被下度候也」ト記載シ、又ハ「表記ノ金額此手形引換ニ持參人へ御支拂被下度候也」ト記載スルカ如シ、然レトモ必シモ「持參人」ノ文字ヲ記載スルコトヲ要セス、單ニ「表記ノ金額御支拂被下度候也」ト記シ又ハ「表記ノ金額此ノ手形引換ニ御支拂被下度候也」ト記載スルモ持參人拂ノ裏書トシテ有效ナリ、蓋シ改正手形法ニ於テハ持參人拂ノ裏書ヲ認ムルモ其ノ方式ニ關シテ特別ノ規定ヲ爲ササルニ因リ、裏書ノ記載ニ依リ持參人拂ノ裏書ナル

コトヲ知り得ル程度ニ之ヲ記載スルヲ以テ足り、特ニ「持参人」ナル文字ヲ記載セサルモ他ノ文言ニ依リテ持参人拂ノ裏書ナルコトヲ知り得レハ足ル(3)持参人拂ノ裏書ハ被裏書人ヲ指定セサル點ニ於テハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲ス白地式裏書(第十三條第二項ノ説明參看)ト同一ナルカ故ニ本項ニ於テハ持参人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有スル旨ヲ規定セリ、從テ裏書カ持参人拂ナルトキハ(一)所持人ハ自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ被裏書人ト爲スコトヲ得、例之ハ前例ノ「表記ノ金額甲殿へ御支拂被下度候也」又ハ「表記ノ金額御支拂被下度候也」ト在ルトキ之ヲ「表記ノ金額甲殿へ御支拂被下度候也」ト爲スコトヲ得ルカ如シ(二)所持人ハ持参人拂式ニ依リ又ハ他人ヲ被裏書人トシテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得、例之ハ所持人ハ被裏書ヲ記載セスシテ自己ノ署名ノミヲ以テ之ヲ裏書シ又タ自己ノ署名ヲ爲スト共ニ他人ヲ被裏書人トシテ記載シテ之ヲ讓渡スカ如シ(三)所持人ハ持参人拂ノマ、裏書ヲ爲サスシテ手形ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得、例之ハ所持人カ手形ニ署名ヲ爲サス又タ被裏書人モ之ヲ表示セスシテ唯タ手形其ノ物ヲ第三者ニ交付スルカ如シ。

第十三條 裏書ハ爲替手形又ハ之ト結合シタル紙片(補箋)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス

2 裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ爲替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

本條ニ於テハ裏書ノ方式ヲ定メ其ノ要件ヲ規定セリ、裏書ハ其ノ方式ヨリ區別スレハ記名式裏書、白地式裏書及ヒ持参人拂式裏書ノ三種ト爲スコトヲ得、而シテ本條ノ規定ハ單ニ讓渡裏書ノミナラス取立裏書及ヒ質入裏書

ニモ適用セラルルモノナリ、以下項ヲ分チテ説明スヘシ。

第一 記名式裏書(第一項)

(1)本項ニ於テハ舊手形法即チ商法第四百五十七條第一項ノ如ク「被裏書人ノ氏名……ヲ記載シ云々」ノ文字ナキモ裏書ハ其ノ性質上特別ノ明文ナキトキハ總テ記名式裏書即チ正式裏書ヲ爲スヘキモノナルコトハ第二項ニ於テ白地式裏書ヲ規定シタル點ヨリ解シ本項ニ於テハ「被裏書人」ヲ表示スヘキ記名式裏書ヲ規定シタルコト明カナリ(2)記名式裏書トハ裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ手形ニ被裏書人ノ名稱ヲ記載スルコトヲ謂フ、即チ被裏書人ヲ指定スル裏書ナリ、例之ハ「表記ノ金額甲殿へ御支拂被下度候也」ト記載スルカ如シ、文言中「甲殿」トアルハ被裏書人ヲ指スモノニシテ此ノ記名アルヲ以テ之ヲ記名式裏書ト謂フ(3)記名式裏書ヲ爲スニハ爲替手形又ハ之ト結合シタル補箋ニ(一)被裏書人ノ名稱ヲ記載シ(二)裏書人ノ署名スルコトヲ要ス、舊手形法即チ商法ニ於テハ裏書ノ年月日ヲ記載スルヲ要件トセシモ改正手形法ハ之ヲ其ノ要件ト爲サス、然レトモ之ヲ記載スルモ妨ケナク且裏書ノ年月日ヲ記載スルヲ通例トスルノミナラス能力ヲ定ムルニ付キ之ヲ記載スル必要アリ(4)賸本ハ手形ノ寫本ナルカ故ニ賸本ニ裏書ヲ爲スニハ原本ト同一ノ方法ニ從ヒ且同一ノ效力ヲ以テ爲スコトヲ得(第六十七條第三項ノ説明參看)而シテ賸本ノ作成前ニ爲シタル最後ノ裏書ノ後ニ「爾後裏書ハ賸本ニ爲シタルモノノミ効力ヲ有ス」ノ文句其ノ他ト同一ノ意義ヲ有スル文言カ原本ニ存スルトキハ原本ニ爲シタル其ノ後ノ裏書ハ之ヲ無効トス(第六十八條第三項ノ説明參看)ルニ因リ、此ノ場合ニハ手形又ハ補箋ニ裏書ヲ爲スコトヲ得ス必ス賸本ニ之ヲ爲ササル可カラス、左ニ本項ヲ分チテ解説スヘシ。

(A) 被裏書人ノ名稱

(1)被裏書人トハ裏書ニ依リテ裏書人ヨリ手形ヲ讓受クル者、手形金額ノ取立委任ヲ受クル者、手形ノ質權者トシテ之ヲ取得スル者ヲ謂フ、而シテ被裏書人ノ名稱ヲ表示スルニハ其ノ氏名又ハ商

號ヲ記載スルヲ通例ト爲スモ必シモ氏名又ハ商號ニ限ラルルモノニアラス、單ニ其ノ氏又ハ名若クハ通稱、雅號ト雖モ廣ク取引上用ヒラレ一般ニ知ラレタルモノハ被裏書人ヲ示スニ足ルヲ以テ、之ヲ記載スルモ妨ケナキコトハ夙ニ判例ノ示ス所ナリ(第一條)「三支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱」ノ説明參看) Ⅱ(2)被裏書人ヲ記載スルニハ必シモ「表記ノ金額甲殿ニ御支拂被下度候也」ト謂フカ如ク文言ヲ以テセス單ニ「被裏書人某」ト記スモ妨ケナシ、然レトモ通例ノ裏書ニハ「表記ノ金額甲殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也」ト記載スルモ、被裏書人ノ記載アルトキハ「又ハ其ノ指圖人」ナル文言ヲ必要トセス、蓋シ此ノ文言ナキモ當然更ニ裏書ヲ爲シ得ルコトハ第十一條ニ依リテ明カナルヲ以テナリ(同條ノ説明參看) Ⅱ(3)被裏書人其ノ他裏書ヲ爲スヘキ記載ノ位置ハ「裏書」ナル文字ヨリ見レハ必ラス手形ノ裏面ニ記載スヘキモノノ如シト雖モ、是レ實際ニ於テ裏書ヲ手形ノ裏面ニ記載シ來リシ沿革ニ基因スルモノニシテ、其ノ記載ノ裏書ナルコトヲ認ムルニ足ル以上ハ必シモ手形ノ裏面ニ記載スルコトヲ要セス、表面ニ記載スルモ妨ケナキコトハ第二項ニ裏書人カ署名ノミヲ以テ爲ス白地式裏書ハ手形ノ裏面又ハ補筆ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セスト爲シタル點ニ徴シ明ナリ Ⅱ(4)被裏書人ノ記載ハ記名式裏書ノ要件ナルカ故ニ、其ノ記載ヲ缺クトキハ記名式裏書トシテ其ノ效力ナキコトハ勿論ナリト雖モ、裏書人ノ署名アルトキハ場合ニ依リ白地式裏書トシテ其ノ效力ヲ有スルコトアルヘキハ本條第二項ニ於テ説明スルカ如シ(以上(本館發行「手形書式」裏書ノ書式參看))

(B) 裏書人ノ署名 (1)裏書人ノ署名ハ裏書ノ要件ナルヲ以テ裏書人ノ署名ナキトキハ之ヲ裏書ト謂フコトヲ得ス、從テ其ノ無効ナルコトハ言フヲ俟タス、署名ハ裏書人ノ氏名ヲ自記(自署)スルトキハ捺印ヲ必要トセザルモ、自記(自署)セザル場合ハ捺印スルコトヲ要ス Ⅱ(2)代理人カ本人ノ爲ニ裏書ヲ爲スニハ手形ニ代理

關係ヲ認識シ得ル程度ニ記載スルヲ以テ足ル、例之ハ「何某代理人何某」ト記載シ又ハ「何々株式會社取締役何某」ト記載スルカ如シ(判例一〇及ヒ本館發行「手形法書式」(五八)ノ書式參看)又タ法人以外ノ代理人ハ手形ニ自己ノ署名ヲ爲サシテ直接ニ本人ノ署名ヲ爲シ又ハ本人ノ記名捺印ヲ爲シテ裏書ヲ爲スコトヲ得ルハ振出ノ場合ト同一ナリ(判例一一及ヒ一二參看) Ⅱ(3)手形ノ所持人カ數人ナルトキハ其ノ數人カ裏書人トシテ署名ヲ爲ササル可カラサルカ、判例ハ共同シテ裏書ヲ爲スヘキモノト解シ左ノ如ク判示セリ。

◎(判例一四九) 共同受取人ノ一人カ單獨ニテ爲シタル裏書ハ法律上無効ナルモノト解セサル可カラス

取人ハ之ヲ數人ト爲スコトヲ妨ケスト雖モ、此ノ場合ニ於テ共同受取人ハ共同ノ權利ヲ取得シ各自權利ヲ取得スルモノニ非サルヲ以テ、共同シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ單獨ニ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス、從テ共同受取人ハ共同シテノ裏書ヲ爲スコトヲ得ルモノナルヲ以テ、共同受取人ノ一人カ單獨ニテ爲シタル裏書ハ法律上無効ナルモノト解セサルヘカラス、蓋シ民法ハ多數當事者ノ債權關係ニ付キ分割債權關係ヲ以テ原則トシ、各當事者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有スルモノト爲スト雖モ、手形ノ共同受取人ノ權利關係ニ付キ民法ノ原則ニ準據シ、各受取人カ各自權利ヲ有シ各別ニ手形行爲ヲ爲シ得ルモノト爲スカ如キハ流通證券タル手形ノ本質ニ背反スルモノト謂ハサルヘカラサレハナリ、果シテ然ラハ原告カ上告人ハ第一審相被告加藤久之助ハ重慶萬次郎ト共ニ被上告人及訴外宮川雄三ヲ受取人トシテ大正十一年四月七日金額七百圓、振出地盛岡市、支拂期日大正十一年五月二十五日、支拂場所盛岡市本町沼宮内源太郎方ト定メタル約束手形ヲ振出シ、被上告人ハ同年六月七日右雄三ヨリ之カ裏書讓渡ヲ受ケタル事實ヲ確定シタルニ拘ハラズ、共同受取人ノ一人カ單獨ニテ爲シタル裏書ヲ以テ有效ナルモノト爲シ、被上告人ノ請求ヲ認容スルニ至リタルハ失當ニシテ本論旨理由アリ(大正十五年十二月十七日、大審院第二民事部判決、一五年(オ)第五六六號)

手形ノ流通證券タル性質ヨリ共同受取人ハ共同シテノ裏書ヲ爲スコトヲ得ヘク、共同セスシテ各別ニ裏書ヲ爲スコトヲ得サルモノト爲シタル前掲判例ノ見解ハ至當ナリ。

第二 白地式裏書(第二項) (一)白地式裏書トハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲シ被裏書人ヲ記載セサル裏書ヲ謂フ、而シテ改正手形法ハ白地式裏書ノ方式ヲ二種ニ區別シテ規定セリ、即チ本條第二項ニ於テ「裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ爲替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ」ト規定スルニ依リテ明ナリ(2)故ニ白地式裏書ニハ(一)手形ノ表面又ハ裏面若ハ補箋ニ被裏書人ヲ指定セスシテ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲スコトヲ得ルモノアリ、又タ(二)手形ノ裏面又ハ補箋ニ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲スコトヲ得ルモノトアリ(一)ノ白地式裏書トハ例之ハ手形ノ表面又ハ補箋ニ「手形金額 殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也」ト記載シ裏書人カ「何某」ト署名ヲ爲スカ如ク、又手形ノ裏面ニ「表記ノ金額 殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也」ト記載シ裏書人カ「何某」ト署名ヲ爲スカ如シ、而シテ此ノ裏書ハ手形ノ表面ニ爲スト又裏面ニ爲スト將又補箋ニ爲ストヲ問ハス白地式裏書トシテ有效ナリ(二)ノ白地式裏書トハ例之ハ手形ノ裏面又ハ補箋ニ何等ノ文言ヲモ記載セスシテ單ニ裏書人カ「何某」ト署名ヲ爲スカ如シ、此ノ裏書ハ必ラス手形ノ裏面又ハ補箋ニ爲スコトヲ要ス、故ニ裏書人カ白地式裏書ヲ爲ス意思ヲ以テ、手形ノ表面ニ單ニ其ノ署名ヲ爲スコトヲ得シテ裏書ノ效力ヲ生セス、又タ手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スコトヲ得シテ裏書人ノ署名以外ニ指圖文言ヲ記載シタルトキハ(一)ノ白地式裏書ト爲ルヘキモ(二)ノ白地式裏書ト謂フコトヲ得ス、蓋シ手形ノ表面ニ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テスル裏書ヲ許ストキハ其ノ署名ハ振出人ノ署名ナルカ、引受人ノ署名ナルカ又ハ保證人ノ署名ナルカヲ判斷スルニ困難ナル場合アルヘキヲ以テナリ(3)白地式裏書ニ裏書ノ年月日又ハ裏書人ノ住所等ヲ記載スルモ是等ノ記載ハ白地式裏書ノ效力ヲ妨クルモノニアラサルコト勿論ナリ(4)白地式裏書ハ前述ノ如ク裏書人ノ署名ノミヲ

以テ爲スモノナルカ故ニ手形ノ讓受人即チ所持人ハ其ノ手形ニ(一)自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充シ被裏書人ト爲スコトヲ得ヘク(二)白地式ニ依リ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得ルハ勿論、他人ヲ表示シテ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得、又タ(三)白地ヲ補充セス且裏書ヲモ爲サスシテ手形ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得(第十四條第二項ノ説明參看)白地式裏書及ヒ其補充ノ書式ハ本館發行「手形法書式」ニ詳細ノ記載例ヲ示セリ參看ヲ要ス。

第十四條 裏書ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス

2 裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ

- 一 自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得
- 二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得
- 三 白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ手形ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得

本條ニ於テハ裏書ヨリ當然發生スヘキ權利ノ移轉力及ヒ資格授與力ヲ規定セリ、即チ第一項ハ裏書ニ依リ手形ヨリ生ズル一切ノ權利ハ裏書人ヨリ被裏書人ニ移轉スルコトヲ定メ、第二項ハ被裏書人カ手形上ノ權利ヲ行使スル資格ヲ取得スル結果トシテ白地式ノ裏書アル手形ヲ補充シ又ハ裏書ヲ爲シ若ハ單ニ交付シテ讓渡スコトヲ得ルモノト爲シタリ、以下項ヲ分チテ説明ス。

第一 手形上ノ權利ノ移轉(第一項) 裏書ハ手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ裏書人ヨリ被裏書人ニ移轉スルコトハ裏書ノ性質上當然發生スヘキ效果ナリ、本條第一項ニ於テハ此ノ權利ノ移轉力ヲ規定セリ、故ニ本項ニ於テ説明ヲ要スル事項ハ(A)手形上ノ權利(B)手形上ノ權利ト手形所有權トノ關係是レナリ、即チ

(A) 手形上ノ權利 (一)手形ヨリ生ズル一切ノ權利即チ手形上ノ權利トハ手形行爲ノ意思表示ノ效力トシ

テ直接ニ發生スル手形上ノ義務ニ對スル權利ヲ謂フ、手形法ハ權利者ノ方面ヨリ觀察シテ手形上ノ權利ト謂フコトアリ、又タ義務者ノ方面ヨリ觀察シテ手形上ノ責任又ハ義務ト謂フコトアリ(2)手形上ノ權利ハ手形金額ノ支拂請求權ナリ、而シテ其ノ請求權ハ或ハ手形ノ主タル債務者タル引受人ニ對スル手形金額ノ支拂請求權ナルコトアリ、又タ前者即チ裏書人或ハ振出人ニ對スル遡求權ナルコトアルモ、共ニ手形金額ノ支拂ヲ請求スル點ニ於テ異ナル所ナシ、本項ニ爲替手形ヨリ生スル一切ノ權利トハ即チ手形上ノ權利ヲ謂フ(3)故ニ手形法ニ於テ規定スル權利即チ手形法上ノ權利ハ總テ之ヲ手形上ノ權利ト爲スコトヲ得ス、例之ハ惡意ノ取得者ニ對スル手形返還請求權(第十六條第二項ノ說明參看)爲替手形ノ複本交付請求權(第六十四條ノ說明參看)利得價還請求權(第八十五條ノ說明參看)等ハ手形法上ノ權利ナルコト勿論ナリト雖モ手形上ノ權利ニアラス、蓋シ是等ノ權利ハ手形行爲ノ意思表示ノ直接ノ効力トシテ發生スルモノニ非スシテ法律ノ規定ニ依リテ直接ニ與ヘラレタル特別ノ權利ナルヲ以テナリ。

(B) 手形上ノ權利ト手形所有權トノ關係 (1)手形ハ典型的ノ有價證券ニシテ手形上ノ權利ハ手形ト分離シテ存在スルモノト觀察スルコト能ハス、故ニ手形上ノ權利ハ手形ノ所有權ト合一シテノミ存在スルモノト解スヘク、從テ本條ニ所謂權利ノ移轉ハ被裏書人カ手形ノ所有權ヲ取得スルト共ニ手形上ノ權利モ亦タ移轉スルモノト爲ササル可カラス、換言スレハ手形上ノ權利ノ移轉ハ必然的ニ手形ノ所有權ノ取得ヲ前提トスルモノニシテ手形上ノ權利ノ移轉ハ手形ノ所有權取得ノ結果ニ外ナラス(2)故ニ裏書ニ依リ手形ヲ讓渡ストキハ讓受人ハ手形ノ所有權ヲ取得スルト共ニ手形上ノ權利ヲ取得ス、即チ爲替手形ヨリ生スル一切ノ權利ヲ移轉ス、蓋シ手形行爲者ハ手形法ノ認ムル方法ニ依リ手形ヲ取得スル者ニ對シテ手形上ノ義務ヲ負擔スヘキ意思表示ヲ爲シタルモノナ

ルヲ以テナリ(3)裏書ハ手形上ノ權利ヲ移轉スルモノナレトモ裏書人ハ手形ヲ裏書シテ讓渡シタル以後ニ於テモ全ク手形上ノ權利ヲ失フモノニアラス、適法ニ遡求權ノ行使ニ應ジ償還ヲ爲シタルトキハ再ヒ手形ヲ取得シテ手形上ノ權利ヲ回復スルコトヲ得(4)裏書ハ手形上ノ權利ヲ移轉スル効力ヲ生スルモノナレトモ、手形上ノ權利ニ附屬スル抵當權、質權又ハ其ノ他ノ擔保權等ハ裏書ニ依リ當然被裏書人ニ移轉スルコトナシ、然レトモ特別ノ意思表示ヲ以テ是等ノ權利ヲ讓渡スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ、并ハ民事上ノ問題ニシテ手形法上ノ問題ニアラサルニ因リ其ノ說明ヲ省略ス。

第二 權利行使ノ資格授與(第二項) 權利行使ノ資格授與トハ裏書人ノ裏書ニ依リ被裏書人カ手形上ノ權利ヲ行使スル資格ヲ取得スルコトヲ謂フ、即チ被裏書人ハ手形上ノ記載ニ依リ自己ニ至ルマテ裏書カ連續スルコトヲ證明スルトキハ適法ナル手形ノ所持人トシテ手形上ノ權利ヲ行使シ得ルコトヲ謂フ、故ニ裏書カ白地式ナルトキ即チ裏書ニ被裏書人ヲ記載セスシテ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲シタル場合ト雖モ(第十三條ノ說明參看)其ノ手形ノ所持人ハ白地ヲ補充スルコトナク、其ノ儘ニテ直チニ手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ルハ言フヲ俟タス蓋シ最後ノ裏書カ白地式ナル場合ト雖モ裏書連續ノ原則ニ反スルコトナキヲ以テナリ(第十六條ノ說明參看)尙ホ所持人カ白地式裏書ノ儘ニテ手形上ノ權利ノ行使ヲ爲サスシテ次ニ説明スルカ如ク手形ヲ補充、裏書又ハ讓渡スルコトヲ得。

(A) 白地式裏書ノ補充 (1)白地式裏書ノ補充ハ所持人カ自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ記載シテ之ヲ爲スコトヲ得、即チ被裏書人ノ名稱ノ記載ナキ白地式裏書ノ手形ノ所持人ハ其ノ手形ニ自己ノ名稱ヲ補充シテ其ノ被裏書人ト爲ルコトヲ得ヘク、又タ他人ノ名稱ヲ補充シテ其ノ者ヲ被裏書人ト爲スコトヲ得(2)自己ノ名稱ヲ以

テ白地ヲ補充スルトハ例之ハ裏書人甲カ手形ノ表面、裏面又ハ補箋ニ

「手形金額 殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也 甲某㊦」

ト記載シタル白地式裏書アル手形ヲ取得シタル所持人乙ハ其ノ「金額ノ下ノ白地(空白)」ニ自己ノ名稱ヲ記載(補充)シテ之ヲ

「手形金額乙某殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也 甲某㊦」

ト爲スコトヲ得(本館發行「手形法書式」(四五)ノ書式中一參看)又タ他人ノ名稱ヲ以テ補充スルトハ所持人乙ハ自己ノ名稱ヲ記載セスシテ、手形ニ直チニ他人ナル丙ノ名稱ヲ記載シ其ノ者ヲ被裏書人ト爲スコトヲ謂フ、例之ハ前例ノ手形ノ白地(空白)ニ所持人乙ハ丙ノ名稱ヲ記載シ之ヲ

「手形金額丙某殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也 甲某㊦」

ト爲スコトヲ得ルカ如シ(同上(四五)中ノ二ノ書式參看)此ノ場合ニ於テ實際上乙ハ丙ニ手形ヲ讓渡スル爲メ丙ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充シ丙ニ手形ヲ交付スヘシト雖モ、手形上乙ヲ裏書人ト爲スヘキ記載ヲ要セス、直チニ白地ニ丙ノ名稱ヲ記載シテ之ヲ其ノ所持人ト爲スコトヲ得ルモノナリ(3)又タ甲カ手形ノ裏面又ハ補箋ニ單ニ其ノ署名ノミヲ以テ

「裏書人 甲某㊦」

ト爲セル白地式裏書アル手形ヲ取得シタル所持人乙ハ其ノ白地ニ裏書ノ文言ヲ記載シ又ハ之ヲ記載セスシテ自己又ハ他人ノ名稱ヲ記載シテ之ヲ補充スルコトヲ得、例之ハ左ノ文言ヲ記載シ所持人自己ノ名稱ヲ表示シテ之ヲ

「表記ノ金額乙某殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也 甲某㊦」

ト補充スルコトヲ得ルハ勿論、裏書ノ文言ヲ記載セスシテ自己ノ名稱ノミヲ補充シテ之ヲ

「裏書人 甲 某㊦」

被裏書人 乙 某

ト爲スコトヲ得ヘク、又タ所持人乙ハ自己ノ名稱ヲ補充セスシテ直チニ他人ナル丙ノ名稱ヲ記載シ之ヲ

「表記金額丙某殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也 甲某㊦」

ト爲シ又ハ裏書ノ文言ヲ記載セスシテ丙ノ名稱ノミヲ記載シテ之ヲ

「裏書人 甲 某㊦」

被裏書人 丙 某

ト爲スコトヲ得ルカ如シ。

二 白地式裏書アル手形ノ裏書

(1) 裏書カ白地式ナルトキハ所持人ハ白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得、即チ所持人ハ其ノ手形ニ被裏書人ヲ記載セス自己ノ署名ノミヲ以テ更ニ裏書スルコトヲ得ヘク、亦タ記名式ニ依リ更ニ裏書スルコトヲ得(2) 白地式ニ依リ更ニ手形ヲ裏書スルトハ例之ハ爲替手形ノ所持人乙カ手形ヲ丙ニ裏書スルニ當リ、手形ノ裏面又ハ補箋ニ裏書ノ文言ヲ記載シ甲ノ署名ノミヲ以テ

「表記金額 殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也 甲某㊦」

ト爲シタル手形ヲ讓受ケタル所持人乙カ更ニ之ヲ丙ニ裏書スルニ當リ、前例ノ場合ト同シク被裏書人ヲ記載スルコトナク自己ノ署名ノミヲ以テ

「表記金額 殿又ハ其ノ指圖人へ御支拂被下度候也 乙某㊦」